

IBM Content Manager OnDemand for iSeries



管理ガイド

バージョン 5 リリース 3

IBM Content Manager OnDemand for iSeries



管理ガイド

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、353 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Content Manager OnDemand for iSeries のバージョン 5、リリース 3 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。本書は SD88-5029-06 の改訂版です。本書は RISC システムにのみ適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。
<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは
<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SC41-5325-07
IBM Content Manager OnDemand for iSeries
Administration Guide
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1997, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理の手引き (SD88-5029) について

本書の対象読者	vii
前提条件および関連情報	vii
iSeries ナビゲーター	viii

I 変更の要約 ix

第 1 章 OnDemand スプール・ファイル

保存機能の使用法	1
報告書定義時に行うべきステップ	1
OnDemand 管理グラフィカル・ユーザー・インターフェース	3
報告書管理メニュー	4
オプション 1. 報告書の検索	6
オプション 2. 報告書ポリシーの処理	6
ポリシーの作成	7
報告書ポリシーの変更	8
報告ポリシーの削除	9
報告書ポリシーの表示	11
オプション 3. 報告書オーバーレイの処理	12
報告書オーバーレイ行の作成	14
報告書オーバーレイ行の変更	16
報告書オーバーレイ行の削除	17
報告書オーバーレイ行の表示	18
オプション 4. 報告書定義の処理	19
報告書定義の作成	22
報告書定義の変更	30
報告書定義のコピー	37
報告書定義の削除	39
報告書定義の表示	41
オプション 5. 報告書グループの処理	46
報告書グループの作成	47
報告書グループの変更	50
報告書グループのコピー	54
報告書グループの削除	55
報告書グループの表示	56
オプション 10. OnDemand ユーザーの編集/認可	59
オプション 11. OnDemand 報告書ユーザーの編集/認可	61
オプション 12. OnDemand 報告書グループ・ユーザーの編集/認可	64
オプション 13. キーの機密保護の処理	68
キー権限の認可	69
キー権限の変更	71
キー権限の削除	72
オプション 20. 報告書定義メニュー	74
オプション 1. 報告書の検索	75
オプション 2. 報告書の記憶	75

オプション 3. 報告書の削除	76
オプション 4. 物理ファイル作成	77
オプション 5. スプール・ファイルのコピー	78
オプション 6. 物理ファイル・メンバーの表示	81
オプション 7. 報告書定義の処理	82
オプション 8. スプール・ファイルの処理	83
オプション 9. 出力待ち行列の処理	83
オプション 10. 報告書定義の AFP テキスト・データの印刷	83
オプション 21. 報告書ユーティリティ・メニュー	84
オプション 1. 報告書の記憶	85
オプション 2. 報告書の削除	85
オプション 3. 報告書の印刷	85
オプション 4. 報告書管理サイクルの開始	86
オプション 5. 出力待ち行列モニターの開始	87
オプション 6. 出力待ち行列モニターの終了	90
オプション 22. OnDemand メイン・メニュー	91
オプション 30. OnDemand 共通報告書オプションの変更	91
ビューアー・オプション	92
組み合わせオプション	93
オプション 31. ユーザーの OnDemand 報告書オプションの変更	94
印刷オプション	94
ファクシミリ・オプション	95
バイパス・オプション	96
ビューアー・オプション	96
組み合わせオプション	97
オプション 32. OnDemand 報告書オプションの変更	97
オプション 40. 報告書定義のエクスポート/インポート	97
ステップ 1. 起動システム上の報告書定義のエクスポート	99
ステップ 2. 転送ファイル内の報告書定義ファイルをリストする	102
ステップ 3. 転送ファイルを受動システムへ移動する	103
ステップ 4. 受動システム上の報告書定義をインポートする	103
報告書定義の作成 - 環境ワークシート	105
報告書定義の作成 - セグメンテーション・ワークシート	107
報告書定義の作成 - キー・ワークシート	108
報告書のタイプの例	110
PAGE 報告書の定義	110
NODX 報告書の定義	118
UBND (アンバンドル) 報告書の定義	124
ANY (AnyStore) 報告書の定義	129
スプール・ファイル保存の機密保護の詳細	132
OnDemand 機密保護の機能	133
OnDemand 機密保護のセットアップ方法	136

スプール・ファイル保存環境のカスタマイズ	144
スプール・ファイル保存のその他の考慮事項	144
行番号の計算	144
結合表示/印刷/ファクシミリ送信	146
使用統計報告書	147
監査ファイルのアクション・コード	148
OnDemand および OS/400 グラフィカル・アクセス	148
OnDemand および iSeries Access AFP ビューア	148
*SCS の完全なサポート	149
スプール・ファイル保存についてのヒント	150

第 2 章 OnDemand オブジェクト保存機能の使用法 153

オブジェクト管理メニュー	153
オプション 1. オブジェクト・ポリシーの処理	154
オブジェクト・ポリシーの作成	155
オブジェクト・ポリシーの変更	156
オブジェクト・ポリシーの削除	157
オブジェクト・ポリシーの表示	159
オプション 2. オブジェクト管理テーブルの処理	160
オブジェクト制御レコードの作成	161
オブジェクト制御レコードの変更	162
オブジェクト制御レコードの削除	164
オプション 10. OnDemand ユーザーの編集/認可	166
オプション 20. オブジェクト保存の開始	166
オプション 21. オブジェクト検索の開始	168
オプション 30. オブジェクト管理サイクルの開始	169
オプション 40. OnDemand メイン・メニュー	169
オブジェクト保存のその他の考慮事項	169
保存を行うために OnDemand が OCT からレコードを選択する方法	169
オブジェクト保存からのオブジェクトのセットの削除	171
監査ファイルの詳細	172
オブジェクト保存についてのヒント	173

第 3 章 OnDemand レコード保存機能の使用法 175

第 4 章 OnDemand AnyStore 機能の使用 177

AnyStore の特性	177
AnyStore 報告書の定義	178
AnyStore 報告書の削除	178
AnyStore の使用	178
OnDemand AnyStore API	179
エラー・コード・パラメーター	179
AnyStore オブジェクトのクローズ (QrlsCloseAnyStoreObject) API	182
AnyStore オブジェクトのオープン (QrlsOpenAnyStoreObject) API	183
AnyStore リストの検索 (QrlsRetrieveAnyStoreList) API	185

AnyStore セグメントの検索 (QrlsRetrieveAnyStoreSegment) API	191
AnyStore セグメントの記憶 (QrlsStoreAnyStoreSegment) API	198
OnDemand クライアントによる検索で使用するユーザー定義データ型の保存	203
PC アプリケーションを立ち上げるための PC ファイル拡張子の設定	204
ユーザー定義データを保存するための AnyStore API の使用	205
AnyStore についてのヒント	205

第 5 章 OnDemand クライアント/サーバー機能の使用法 207

OnDemand サーバーの構成	207
システム値の検討	207
サーバー・ジョブの実行優先順位の制御	208
サーバー・ジョブが使用するポートの変更	208
事前開始されるサーバー・ジョブ数の変更	208
サーバー・ジョブの開始	209
サーバー・ジョブの終了	209
ホスト印刷の概説	209
ホスト印刷の構成	210
ホスト印刷の使用	212
ホスト印刷の使用不可	217
追加技術情報	218
問題判別	221

第 6 章 OnDemand 媒体管理メニューの使用法 225

光ディスクおよびテープ媒体の管理	225
オプション 1. テープ装置の処理	227
テープ装置の追加	227
テープ装置特性の変更	230
テープ装置の除去	232
テープ装置の表示	234
オプション 2. テープ・ボリュームの処理	235
テープ・ボリュームの追加	236
テープ・ボリューム特性の変更	238
テープ・ボリュームの除去	240
テープ・ボリュームの表示	242
オプション 10. 記憶グループの処理	243
記憶グループの作成	244
記憶グループの変更	245
記憶グループの削除	247
記憶グループの表示	250
オプション 11. 光ディスク・ボリュームの処理	251
光ディスク・ボリュームの追加	252
光ディスク・ボリュームの特性の変更	254
光ディスク・ボリュームの除去	256
光ディスク・ボリュームの表示	258
オプション 20. 光ディスク・サポート・メニュー	259
オプション 21. 通信サイド情報の処理 (LAN 接続の光ディスク専用)	260
オプション 40. メイン・メニュー	261
オプション 51. 光ディスクのリセット	261

オプション 52. テープのリセット 262

第 7 章 OnDemand と Content Manager の統合 263

OnDemand と Content Manager の統合の概要 263
Content Manager 外部参照サポート 263
OnDemand が Content Manager 外部データ参照
を使用する仕組み 264
OnDemand 外部参照を Content Manager から削
除する仕組み 265
Content Manager 統合での“報告書オカレンスの
結合”機能の使用 265
統合ソフトウェアの導入 266
ステップ 1. 前提ソフトウェアの確認 266
ステップ 2. Content Manager 外部参照ファイル
に対する権限の認可 267
ステップ 3. Content Manager ジョブ記述の更新 267
ステップ 4. QRDARS400 ジョブ記述の更新 267
ステップ 5. AFP ビューアーを始動するための
Content Manager クライアントの構成 268
導入検査 268
ステップ 1. OnDemand 報告書定義の作成 268
ステップ 2. Content Manager 索引クラスの設定 274
ステップ 3. OnDemand 報告書定義拡張機能の作
成 277
ステップ 4. 報告書記憶処理の開始 281
ステップ 5. Content Manager 外部参照ロード・
プログラム (QVIXRFINX) の実行 281
ステップ 6. Content Manager クライアントから
の OnDemand 報告書セグメントの検索 282
OnDemand および Content Manager の統合コマンド 282
OnDemand での CM への追加 (ADDVIRDAR)
コマンド 282
OnDemand での Content Manager からの除去
(RMVVIRDAR) コマンド 283
OnDemand の管理の処理 (WRKADMRDAR) コ
マンド 284
Content Manager 外部参照索引 (QVIXRFINX) の
ロード 287
Content Manager 外部参照索引の削除
(QVIXRFDEL) 288
索引出口 (QRLWEXITV) 288
索引出口 (QRLWEXITVM) - マルチ・キー 288
索引出口 - 追加情報 289
2 次レベル索引出口 289
問題判別 290
Content Manager クライアント・メッセージ 290
OS/400 メッセージ 291

**第 8 章 OnDemand スプール・ファイ
ル保存エンド・ユーザーとしての作業 293**

はじめに 293
報告書の検索 294
検索の特定化 296
文書の表示 300
印刷、ファクシミリの送信、または注釈の処理 300

文書の印刷 301
文書のファクシミリ送信 302
注釈の処理 303
検索基準の変更 304
OnDemand の終了 305

**付録 A. OnDemand スプール・ファイ
ル保存ユーザー出口プログラムおよび
API 307**

基本ユーザー出口 307
入力出口 307
索引出口 (複数キー・フィールドを持たない報告
書の場合) 308
索引出口 (複数キー・フィールドを持つ報告書の
場合) 309
アンバンドル出口 309
出力待ち行列モニター出口 310
出力待ち行列日付モニター出口 311
ファクシミリ出口 311
拡張ユーザー出口 312
OnDemand ビューアー出口 312
基本 API 318
FNDRPTRDAR アプリケーション・プログラミ
ング・インターフェース 318
FNDKEYRDAR アプリケーション・プログラミ
ング・インターフェース 319
拡張 API 321
エラー・コード・パラメーター 322
キー・リストの検索 (QrlrRetrieveReportKeyList)
API 324
セグメントの検索 (QrlrRetrieveReportSegment)
API 330
保存索引の検索 (QrlrRetrieveArchivedIndexes)
API 335
保存資源の検索 (QrlrRetrieveArchivedResource)
API 337
OnDemand クライアント・ドライバー API 339

付録 B. OnDemand コマンド 347

コマンド構文図の削除に関する注意事項 347
OnDemand コマンドに関する記述の印刷 347

**付録 C. OnDemand のバックアップと
回復 349**

バックアップの考慮事項 349
基本機能 349
スプール・ファイル保存機能 350
オブジェクト保存機能 350
レコード保存機能 350
AnyStore の機能 351
クライアント/サーバー機能 351
回復の考慮事項 351

特記事項 353

プログラミング・インターフェース情報 355

商標	355
索引	357

IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理の手引き (SD88-5029) について

本書は、IBM® Content Manager OnDemand for iSeries™ (OnDemand) ライセンス・プログラム使用と管理の方法を説明しています。OnDemand (前のリリースではデータ保管/管理プログラムまたは R/DARS と呼んでいました) により、大量の履歴データをディスク、大容量の光ディスク・ボリュウム、またはテープに記憶することができます。

本書で示している手順や例を使用して、以下のタスクを行うことができます。

- 保存データの定義および作成
- データに対するアクセスの認可および認可の取り消し
- 文書の表示、印刷、またはファクシミリ送信

本書を使用することにより、ディスク、光ディスク、およびテープ媒体を組み合わせ、媒体の使用量を最適化することができます。

本書の対象読者

本書は、情報の保存および検索を行うために、OnDemand の作成、保守、および使用を担当するプログラマー、OnDemand 管理担当者、およびエンド・ユーザーの方々を対象にしています。

前提条件および関連情報

IBM iSeries 技術情報を探す手始めとして iSeries Information Center を利用してください。

Information Center には、次の 2 とおりの方法でアクセスすることができます。

- Web サイト <http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter> よりアクセスする
- お客様の OS/400® に同梱されている CD-ROM よりアクセスする

iSeries V5R3 Information Center, SK88-8055-03. このパッケージには、iSeries マニュアルの PDF 版である「*iSeries V5R2 Information Center : 補足資料, SK88-8056-01*」も含まれています。これは、従来のソフトコピー・ライブラリー CD-ROM に代わるものです。

Information Center には、Java™、TCP/IP、Web サービス、保護されたネットワーク、論理区画、クラスター化、CL コマンド、およびシステム・アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) などに関するアドバイザーや重要なトピックが含まれています。また、関連する IBM Redbooks™ へのリンク、および IBM ホーム・ページなどの他の IBM Web サイトへのインターネット・リンクも含まれています。

iSeries ナビゲーター

IBM iSeries ナビゲーターは、iSeries サーバーを管理するための強力なグラフィカル・インターフェースです。iSeries ナビゲーターの機能には、ユーザーのタスクを進めやすくするためのシステム・ナビゲーション、構成、計画機能、およびオンライン・ヘルプが含まれています。iSeries ナビゲーターは、サーバーの運用と管理を容易にし、その生産性を向上させる能力を備えており、OS/400® の新しい拡張機能への唯一のユーザー・インターフェースとなっています。また、複数のサーバーを中央のシステムから管理するための、マネージメント・セントラルも組み込まれています。

iSeries ナビゲーターの詳細については、iSeries Information Center、および Web サイト <http://www.ibm.com/eserver/series/navigator/> を参照してください。

変更の要約

「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」のこの版では、新規の技術情報が含まれています。変更が行われたにもかかわらず、変更バーが付いていない箇所もある可能性があります。重要な変更内容は以下のとおりです。

- Content Manager OnDemand for iSeries (OnDemand) では、バージョン 5 リリース 1 において、OnDemand Common Server と呼ばれるサーバーが新たに実装されました。Common Server では、OnDemand のユーザーと管理者に対し、強化された索引付け、検索、表示、セキュリティー、PDF、および Web 対応機能を提供します。スプール・ファイル保存を実装した現行の OnDemand をご使用のお客様は、AnyStore 機能または既存の Server 機能の有無に関わらず、「Content Manager OnDemand for iSeries Common Server 計画とインストール」の付録 A に記載されている手順に従って、新しい Common Server に移行できるようになりました。本書の全体を通じて、スプール・ファイル保存のデータの移行について言及している箇所では、AnyStore がインストールされている場合には AnyStore データも含まれることに注意してください。
- 「Content Manager OnDemand for iSeries Common Server 索引付けリファレンス」資料には、OS/400 Indexer のサポートする機能に関連する内容が大幅に追加されました。これらの追加された内容には、複数キー索引、トランザクション・フィールド、テキスト検索フィールド、AFP オーバーレイ付きの SCS スプール・ファイル、およびアプリケーション・フィールドのマスクの定義に関するトピックが含まれています。
- Content Manager OnDemand for iSeries は、新たに iSeries のサポートする Plasmon 光ディスク・ライブラリーに対応しました。
- OnDemand 保存記憶域の開始 (STRASMOND) コマンドでは、コマンドの使用を簡素化するために、2 つのコマンド・パラメーターが除去されました。詳しくは、「Content Manager OnDemand for iSeries Common Server 管理ガイド」の付録 A を参照してください。
- OS/400 では、オリジナルの HTTP サーバーのサポートを終了しました。これに伴い、Content Manager OnDemand Web Enablement Kit (ODWEK) でも、オリジナルの HTTP サーバーのサポートを終了しました。現在、ODWEK では Apache HTTP サーバーのみを、HTTP サーバーとしてサポートしています。

第 1 章 OnDemand スプール・ファイル保存機能の使用法

OnDemand スプール・ファイル保存機能により、印刷 (スプール) データに関する報告書収集、セグメンテーション、索引付け、圧縮、記憶、検索、および印刷/ファクシミリ送信の各機能が提供されます。

システム管理者は、OnDemand へのデータの移行と、ユーザー用の標準プロシージャの作成を担当します。現行の方式から最新の保存および検索方式への円滑な移行を確実に行うためには、入念な計画が必要です。開始に先立って、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 導入の手引き*」の第 4 章を熟読することをお勧めします。

スプール・ファイル保存機能を (メニュー・オプションとして、または既存の機能に統合することにより) 既存のアプリケーションへ追加する場合は、307 ページの『付録 A. OnDemand スプール・ファイル保存ユーザー出口プログラムおよび API』を参照してください。

報告書定義時に行うべきステップ

以下に、OnDemand に対して報告書を定義する場合に従うステップの要約を挙げます。

1. 印刷された報告書に関して以下のことを調べる。
 - 報告書をディスク/光ディスク/テープに保持しておきたい期間。(言い換えると、どの報告書定義がどの報告書ポリシーを使用するかということ。) ユーザーの要求に合致する記憶域グループおよびポリシーがまだ存在しない場合には、それを作成します。
 - 報告書の種類。
 - **DOC** - 論理的なセグメントを持っている。
 - **PAGE** - 昇順の順次のキー値を持っている。
 - **NODX** - 順序がない、またはキーを定義する必要がない。
 - **UBND** - 無関係の報告書の組み合わせがすべて 1 つのスプール・ファイルに入っている。
 - 報告書のセグメント化方法。
 - **DOC** - セグメント間の論理的な切れ目は何か。
 - **PAGE** または **NODX** - 最初のページには常にどのようなテラルがあるのか。(報告書の開始位置およびセグメント当たりのページ数を指定します。セグメントは、OnDemand が自動的に作成します。)
 - **UBND** - 各報告書はそれぞれ独自の定義を受け取り、セグメンテーションを判別する。
 - セグメントに対するキー。
 - **DOC** - 最大 5 つのキーおよび表示フィールド。
 - **PAGE** - キー 1 とキー 2 は同じ (昇順のフィールド)。
 - **NODX** - ユーザー定義のキーではない。

- **UBND** - 各報告書は、キーを判別する定義をそれぞれ独自に受け取る。
 - 使用したい報告書日付 (ジョブ日付または報告書に印刷された日付)。
2. OnDemand メニューから作業するために、コマンド行から **GO ONDEMAND** または **GO RDARS** を入力する。次に、オプション 1「報告書管理」を、さらにオプション 20「報告書定義」を選択する。
 3. 定義したい報告書が入っている出力待ち行列を処理する。**F11** を押してスプール・ファイルの属性を表示させ、画面を書き写したり印刷したりして以下の情報を記録します。
 - スプール・ファイル名
 - ジョブ名
 - ユーザー
 - ジョブ番号
 - スプール・ファイル番号
 4. 印刷やファクシミリ送信の要件が、OnDemand のデフォルト印刷装置ファイルの標準印刷装置属性 (**QRDARS** ライブラリーの **QPLR133** にある) と異なる場合は、印刷ファイルを作成する。以下の点を考慮してください。
 - 用紙タイプ
 - ユーザー・データ
 - 前面オーバーレイ名および背面オーバーレイ名
 - オーバーレイ・オフセット
 - 1 インチ当たりの文字数または行数 (CPI または LPI)
 - ページ・サイズ (長さと幅)
 5. スプール・ファイルを物理ファイルへコピーするか、iSeries ナビゲーターを使用してスプール・ファイルのデータをグラフィカルに処理する。また、スプール・ファイルが AFPDS の場合は、OnDemand Advanced Function Presentation™ データ・ストリーム (AFPDS) テキスト印刷機能を使用できます。
 - 報告書のフィールドの場所。
 - 絶対行番号および桁番号
 - ピボット処理
 - 印刷制御の変換 (この方式を使用する場合は、報告書定義内のすべてのフィールドに対して使用する必要があります。)
 6. 報告書定義ワークシート (オプション) に情報を書き込み、それを OnDemand に入力する。または、iSeries ナビゲーターのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して報告書を定義できます。
 7. 報告書を記憶する。
 8. 報告書記憶完了報告書を検査して、報告書が正常に記憶されたかどうか、およびセグメント数、圧縮、記憶の経過時間などを検査する。
 9. 報告書の検索をテストして、索引 (キー) 値が予期したとおりに抽出されたかどうかを確認する。
 10. 必要ならば、表示するための報告書オーバーレイを作成する (そして、必要に応じて印刷またはファクシミリ送信する)。
 11. 報告書を保護するために適切な権限を設定する。

これらすべての機能に関する詳細は、本章に含まれています。

OnDemand 管理グラフィカル・ユーザー・インターフェース

OnDemand は、Windows® ワークステーション・ユーザーに、報告書定義の処理用 5250 データ入力画面の代替手段（およびその他の多くの OnDemand 管理機能）を提供します。これについては、本章で説明します。iSeries ナビゲーターは、図 1 に示すインターフェースを備えています。

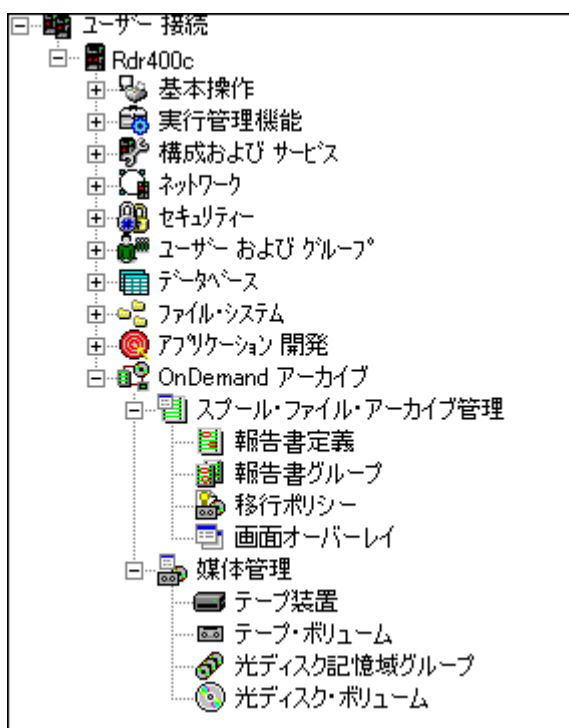


図 1. iSeries ナビゲーターのインターフェース画面

iSeries ナビゲーターの最も強力な機能の 1 つに、報告書管理者がグラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して報告書定義およびスプール・ファイル・データを処理できることがあります。OS/400 スプール・ファイルのデータが、ワークステーションのウィンドウに表示され、報告書管理者は、これをクリックすることにより分割基準、報告書の日付およびキー・フィールドを識別できます。プルダウン選択ボックスを使用すれば、報告書の形式、データ型および移行ポリシー情報のような他の定義属性を選択できます。グラフィカル・インターフェースは、報告書定義を処理したり、他の OnDemand 管理用タスクを行う際に生産性を高める手段の 1 つです。オンライン・ヘルプ情報は、すべてのワークステーション・パネルで使用できます。このツールを使用する前に、本章を読んで OnDemand の概念を理解することをお勧めします。

報告書管理メニュー

報告書管理メニューにアクセスするには、次のように入力してください。

- OnDemand for iSeries のメイン・メニューのコマンド行で **1** を入力する (図 2)。
- または、**高速パス・コマンド**

GO RDARSRPT

を OS/400 コマンド行に入力し、 5 ページの図 3 に直接アクセスする。

- あるいは、iSeries ナビゲーターの、本章で記載されている多くの機能に対するグラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用する。

OnDemand メイン・メニュー (図 2) にアクセスします。

ONDEMAND ONDEMAND FOR ISERIES システム: ONDMD400

次の 1 つを選択してください。

- 1. 報告書管理メニュー
- 2. オブジェクト管理メニュー
- 3. レコード保存メニュー
- 4. 媒体管理メニュー

90. サインオフ

選択項目またはコマンド
====>1_____

F3= 終了 F4= プロンプト F9= コマンドの複写 F12= 取り消し F13= 情報援助
F16= システム・メイン・メニュー
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1992, 2000. ALL RIGHTS RESERVED.

図 2. OnDemand iSeries 用のメイン・メニュー

オプション 1「報告書管理メニュー」を選択すると、5 ページの図 3 の画面が表示されます。

ONDEMAND 報告書管理メニュー

システム: ONDMD400

次の1つを選択してください。

1. 報告書の検索
2. 報告書ポリシーの処理
3. 報告書オーバーレイの処理
4. 報告書定義の処理
5. 報告書グループの処理
6. 報告書定義拡張部分の処理

10. ONDEMAND ユーザーの編集/認可
11. ONDEMAND 報告書ユーザーの編集/認可
12. ONDEMAND 報告書グループ・ユーザーの編集/認可
13. キーの機密保護の処理

20. 報告書定義メニュー

続く...

選択項目またはコマンド

===>

F3= 終了 F4= プロンプト F9= コマンドの複写 F12= 取り消し F13= 情報援助
 F16= システム・メイン・メニュー
 (C) Copyright IBM Corp. 1992, 2000. All Rights Reserved.

図3. OnDemand 報告書管理メニュー

オプションの続きについては、この画面から次ページ・キー (**Page Down**) を押して、図4に示す画面に進みます。

ONDEMAND 報告書管理メニュー

システム: ONDEMD400

次の1つを選択してください。

21. 報告書ユーティリティ・メニュー
22. ONDEMAND メイン・メニュー

30. ONDEMAND 共通報告書オプションの変更
31. ユーザーの ONDEMAND 報告書オプションの変更
32. ONDEMAND 報告書オプションの変更

40. 報告書定義のエクスポート/インポート

終わり

選択項目またはコマンド

===>

F3= 終了 F4= プロンプト F9= コマンドの複写 F12= 取り消し F13= 情報援助
 F16= システム・メイン・メニュー
 (C) Copyright IBM Corp. 1992, 2000. All Rights Reserved.

図4. OnDemand 報告書管理メニュー (続き)

これら2つの画面には、この章で説明するオプションのすべてが示されます。なお、この画面は本文では繰り返し示してはなりません。

オプション 1. 報告書の検索

報告書の検索は、エンド・ユーザー向けの機能であり、これについては 293 ページの『第 8 章 OnDemand スプール・ファイル保存エンド・ユーザーとしての作業』で説明しています。

オプション 2. 報告書ポリシーの処理

各報告書に報告書ポリシーを割り当てる必要があります。報告書ポリシーは、報告書管理サイクルの過程で入力として使用され、システムにより、どの媒体にどの程度の期間報告書を記憶するかを決定するために用いられます。複数の報告書で、同じ報告書ポリシーを使用することができます。

ディスク上で使用可能な日数、テープ上で使用可能な日数 および光ディスク上で使用可能な日数 についての当初の見積もりは、報告書の実際の使用状況の統計に関連する履歴データを OnDemand が収集した後でも、修正できます。報告書の実際の使用状況を示す報告書の生成に関する詳細は、147 ページの『使用統計報告書』を参照してください。

報告書ポリシーを定義するには、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面（5 ページの図 3）からオプション 2「報告書ポリシーの処理」を選択するか、iSeries ナビゲーターの、この機能に対するグラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用します。

「ONDEMAND の管理の処理 (WRKADMRDAR)」画面（図 5）が表示されます。

ONDEMAND の管理の処理 (WRKADMRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

管理担当者機能	>*RPTPCY	*REPORT, *RPTGRP, *RPTOVL...
報告書ポリシー	*ALL_____	名前, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し
F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 5. OnDemand の管理の処理 (WRKADMRDAR)

実行キーを押して、「報告書ポリシーの処理」画面（7 ページの図 6）に進みます。その画面を使用して、報告書ポリシーの作成、変更、削除または表示を行います。

ポリシーの作成

ポリシー名レコードを追加するには、図 6 の画面を使用します。

報告書ポリシーの処理			ONDMD400
オプションを入力して、実行キーを押してください。			98/01/31 15:08:54
1=作成 2=変更 4=削除 5=表示			
オプション	ポリシー	テキスト	
1	D30OPTICAL		
	BRMS	BRMS/400 テスト・ポリシー	
	DISKONLY	ディスク上でのみの報告書	
	D0OPTICAL	すぐに光ディスクへの移動	
	D0OPTICALB	ディスク上で 0 日、次の記憶グループを使用する	
	D0OPTTAPBK	テープ・バックアップで光ディスクへ高速に移行	
	D0TAPE	ディスク 0 日およびテープ	
	D0TAPEBIG	tap06 を使用	
	D0TAPEJLS		
	D90OPTICAL	光ディスクから 90 日の DASD (ONDEMAND サンプル)	
	D90TAPE	テープから 90 日の DASD (ONDEMAND サンプル)	
	EXPIRE	テスト・ポリシーの満了	
	LAN3995	LAN テストのポリシー	
			続く...
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し			

図 6. 報告書ポリシーの処理

実行キーを押すと、図 7 の画面が表示されます。

報告書ポリシーの作成			ONDMD400
選択項目を入力して、実行キーを押してください。			98/01/31 15:09:43
ポリシー	D30OPTICAL	名前	
ディスク上で使用可能な日数	30	0-9999999	
テープ上で使用可能な日数	0	0-9999999	
光ディスク上で使用可能な日数	3620	0-9999999	
満了までの日数	3650	1-9999999	
再呼び出し保存期間	5	0-999	
テープ媒体タイプ			
光ディスク記憶グループ	RDAROPT	名前	
ディスク上での索引日数	365	1-9999999	
索引再呼び出し保存期間	5	0-999	
索引付帯の強制	Y	Y=YES, N=NO	
テープ・バックアップ要求	N	Y=YES, N=NO	
光ディスク・バックアップ要求	N	Y=YES, N=NO	
テキスト	30 日のディスクで保存、10 年後に満了		
F3=終了 F12=取り消し			

図 7. 報告書ポリシーの作成

注: ディスク上の索引日数 フィールドには、報告書を保持したい日数よりも少ない数を入力しないでください。この方法を使用して索引レコードを光ディスクまたはテープに保存すると、それらの索引レコードに関連した報告書データが見えなくなってしまう可能性があります。

- OnDemand は、以下の条件に該当する場合、ディスクでは元の報告書日付と異なる日付の報告書の索引レコードのみを検索します。

- エンド・ユーザーが **FNDRPTRDAR** API を使用して報告書を検索する。
- 「文書検索の指定」画面の日付範囲が (検索キー値の入力後に) 拡大される。

これは仕様によるものです。これ以外の場合は、OnDemand が索引レコードを保管しているすべてのボリュームに、光ディスクまたはテープがマウントされる可能性があります。

- **FNDKEYRDAR** API を使用する場合、この API は、**ディスク上の索引レコードのみ**を検索します。これは仕様によるものです。これ以外の場合は、OnDemand が索引レコードを保管しているすべてのボリュームに、光ディスクまたはテープがマウントされてしまう可能性があります。
- OnDemand クライアントを使用する場合には、OnDemand サーバーは**ディスク上の索引レコードのみ**を検索します。これは仕様によるものです。これ以外の場合は、OnDemand が索引レコードを保管しているすべてのボリュームに、光ディスクまたはテープがマウントされてしまう可能性があります。

これらの理由から、エンド・ユーザーが前述の環境下で報告書データにアクセスする必要がない場合には、索引レコードを長期保管のために光ディスクまたはテープに移行するように計画する必要があります。

実行キーを押すと、各項目が保管され、図 8 の画面に進みます。

報告書ポリシーの処理 ONDMD400

98/01/31 15:11:54

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=作成 2=変更 4=削除 5=表示

オプション	ポリシー	テキスト
	BRMS	BRMS/400 テスト・ポリシー
	DISKONLY	ディスク上でのみの報告書
	D0OPTICAL	すぐに光ディスクへの移動
	D0OPTICALB	ディスク上で 0 日、別の記憶グループを使用する
	D0OPTTAPBK	テープ・バックアップで光ディスクへ高速に移行
	D0TAPE	ディスク 0 日およびテープ
	D0TAPEBIG	tap06 を使用
	D0TAPEJLS	
	D90OPTICAL	光ディスクから 90 日の DASD (ONDEMAND サンプル)
	D90TAPE	テープから 90 日の DASD (ONDEMAND サンプル)
	EXPIRE	テスト・ポリシーの満了
	LAN3995	LAN テストのポリシー

続く...

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し
ポリシーが作成された - 最新表示には F5 キー。

図 8. 報告書ポリシーの処理

この画面で、報告書ポリシーが追加されたことを確認します。

F5 を押すと、追加した内容が表示されます。

報告書ポリシーの変更

9 ページの図 9 の画面を使用して、既存の報告書ポリシーの属性を変更します。

報告書ポリシーの処理 ONDMD400

98/01/31 15:12:01

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=作成 2=変更 4=削除 5=表示

オプション	ポリシー	テキスト
	BRMS	BRMS/400 テスト・ポリシー
	DISKONLY	ディスク上でのみの報告書
	D0OPTICAL	すぐに光ディスクへの移動
	D0OPTICALB	ディスク上で 0 日、別の記憶グループを使用する
	D0OPTTAPBK	テープ・バックアップで光ディスクへ高速に移行
	D0TAPE	ディスク 0 日およびテープ
	D0TAPEBIG	tap06 を使用
	D0TAPEJLS	
2	D30OPTICAL	30 日のディスクで保存、10 年後に満了
	D90OPTICAL	光ディスクから 90 日の DASD (ONDEMAND サンプル)
	D90TAPE	テープから 90 日の DASD (ONDEMAND サンプル)
	EXPIRE	テスト・ポリシーの満了

続く...

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 9. 報告書ポリシーの処理

実行キーを押すと、図 10 の画面が表示されます。

報告書ポリシーの変更 ONDMD400

98/01/31 15:12:32

ポリシー : D30OPTICAL

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ディスク上で使用可能な日数	30	0-9999999
テープ上で使用可能な日数	0	0-9999999
光ディスク上で使用可能な日数	3623	0-9999999
満了までの日数	3653	1-9999999
再呼び出し保存期間	5	0-999
テープ媒体タイプ		
光ディスク記憶グループ	RDARSOPT	名前
ディスク上での索引日数	365	1-9999999
索引再呼び出し保存期間	5	0-999
索引付帯の強制	Y	Y=YES, N=NO
テープ・バックアップ要求	N	Y=YES, N=NO
光ディスク・バックアップ要求	N	Y=YES, N=NO
テキスト	30 日のディスクで保存、 10 年後に満了	

F3=終了 F12=取り消し

図 10. 報告書ポリシーの変更

フィールドの現行値に変更内容を上書き入力します。実行キーを押すと、12 ページの図 14 の画面が表示されます。この画面で、変更内容を確認します。

報告ポリシーの削除

報告書ポリシーを削除するには、10 ページの図 11 の画面を使用します。

報告書ポリシーの処理

ONDMD400
98/01/31 15:13:51

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=作成 2=変更 4=削除 5=表示

オプション	ポリシー	テキスト
	BRMS	BRMS/400 テスト・ポリシー
	DISKONLY	ディスク上でのみの報告書
	D0OPTICAL	すぐに光ディスクへの移動
	D0OPTICALB	ディスク上で 0 日、別の記憶グループを使用する
	D0OPTTAPBK	テープ・バックアップで光ディスクへ高速に移行
	D0TAPE	ディスク 0 日およびテープ
	D0TAPEBIG	tap06 を使用
	D0TAPEJLS	
4	D30OPTICAL	30 日のディスクで保存、10 年後に満了
	D90OPTICAL	光ディスクから 90 日の DASD (ONDEMAND サンプル)
	D90TAPE	テープから 90 日の DASD (ONDEMAND サンプル)
	EXPIRE	テスト・ポリシーの満了

続く...

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 11. 報告書ポリシーの処理

実行キーを押して、図 12 の画面に進みます。

報告書ポリシーの削除の確認

ONDMD400
98/01/31 15:34:53

「4=削除」の選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。
「4=削除」の選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。

ポリシー	D300OPTICAL	
ディスク上で使用可能な日数	30	
テープ上で使用可能な日数	0	
光ディスク上で使用可能な日数	3623	
満了までの日数	3653	
再呼び出し保存期間	5	
テープ媒体タイプ		
光ディスク記憶グループ	RDARSOPT	
ディスク上での索引日数	365	
索引再呼び出し保存期間	5	
索引付帯の強制	Y	Y=YES, N=NO
テープ・バックアップ要求	N	Y=YES, N=NO
光ディスク・バックアップ要求	N	Y=YES, N=NO
テキスト	30 日のディスクで保存、 10 年後に満了	

F12=取り消し

図 12. 報告書ポリシーの削除の確認

実行キーを押して該当の報告書ポリシーを削除し、11 ページの図 13 の画面に進むか、または F12 によってその要求を取り消します。

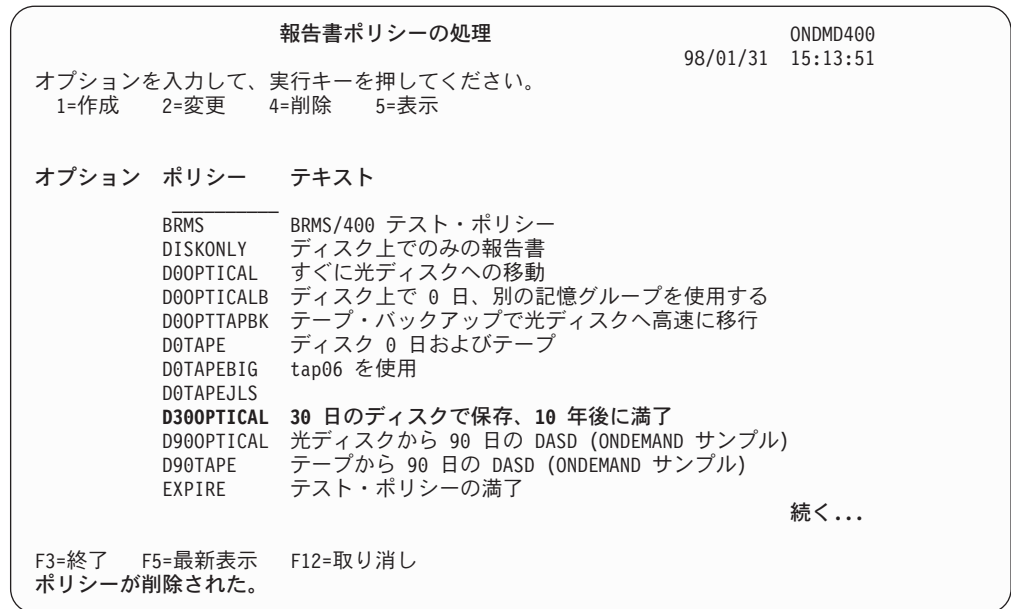


図 13. 報告書ポリシーの処理

画面の下部のメッセージにより、削除を確認します。

特定のポリシー名を使用するように定義されている場合、OnDemand は、そのポリシーが削除されるのを防止します。OnDemand は、1 つ以上の報告書定義がそのポリシーを参照しているために、そのポリシーを削除することができないことを示すメッセージを表示します。

残りのポリシーのリストを表示したい場合には **F5** を押します。

報告書ポリシーの表示

報告書ポリシーを表示するには、12 ページの図 14 の画面を使用します。

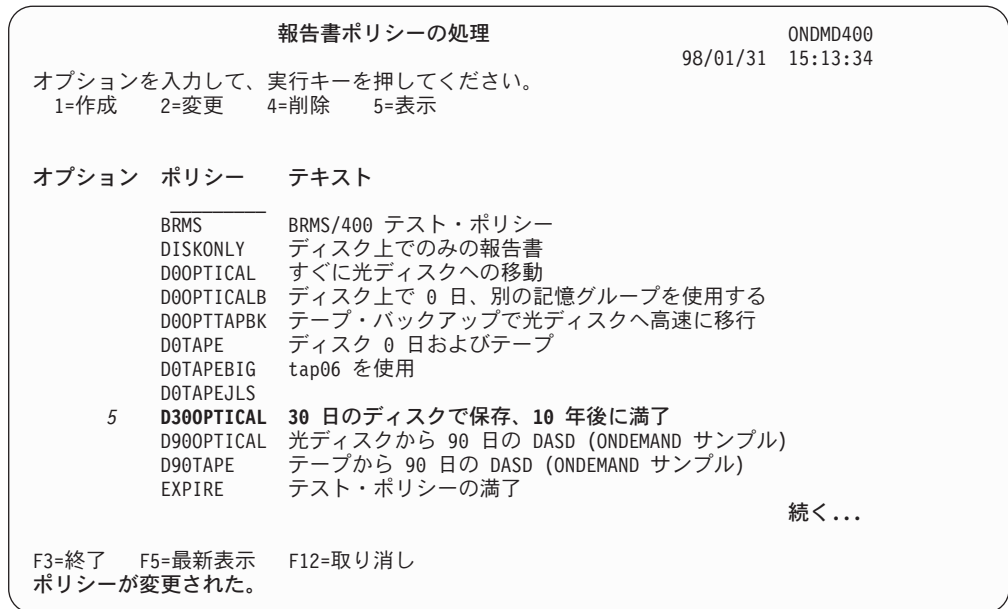


図 14. 報告書ポリシーの処理

実行キーを押すと、図 15 の画面が表示されます。

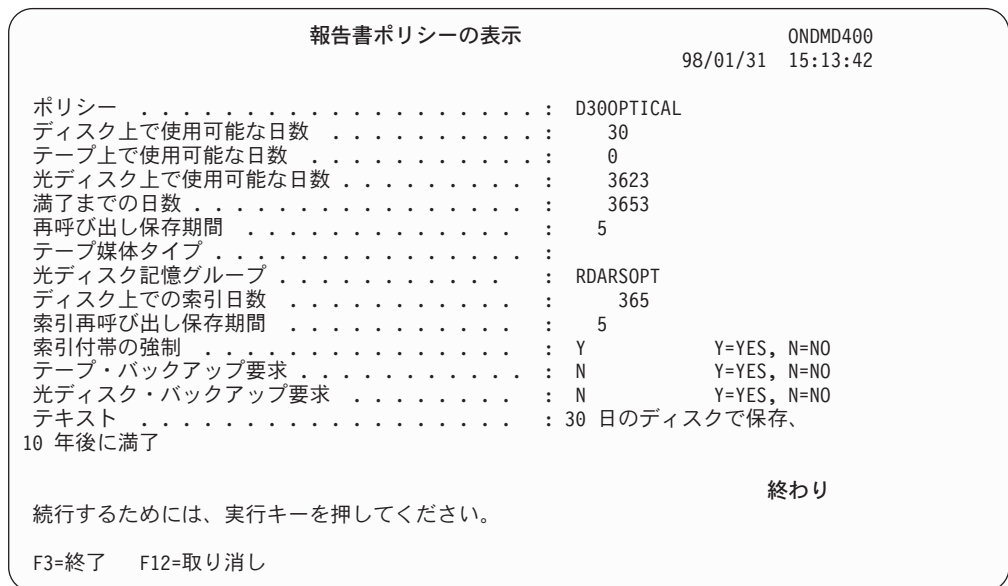


図 15. 報告書ポリシーの表示

この画面には、選択した報告書ポリシーの属性が表示されます。

オプション 3. 報告書オーバーレイの処理

ユーザーは、文字ベースの報告書オーバーレイを作成して、表示する時点でスプールされたデータと組み合わせることができます。データの印刷またはファクシミリの送信時に報告書オーバーレイを組み込むこともできます。

ユーザーは、報告書オーバーレイを使用して、事前印刷用紙をシミュレートすることができます。たとえば、出荷先の住所を、ダッシュによる枠で囲んで表示される

よう設計し、そのダッシュ枠に**出荷先住所**を示す情報を追加することができます。ユーザーが該当の報告書を表示すると、スプール・ファイルのデータ、該当のページの住所を囲むダッシュの枠、および**出荷先住所**が表示されます。

OnDemand の文字ベースの オーバーレイと *Advanced Function Presentation (AFP™)* のオーバーレイの違いを理解しておくことは重要です。

- OnDemand の文字ベースのオーバーレイは、OnDemand 内で作成されます。このオーバーレイには、5250 ディスプレイで報告書データを表示する際に報告書データと組み合わされる文字データも含まれます。(文字ベースのオーバーレイを印刷またはファクシミリ送信することもできます。)
- AFP オーバーレイは、OnDemand の外部で定義され、企業のロゴ、陰影付け、特殊フォントなどを含めることができます。報告書定義で識別する印刷装置ファイルでこのようなオーバーレイの名前を付ける際に、OnDemand の報告書に関連付けられます。AFP オーバーレイは、OnDemand クライアントを使用して報告書データを見る際に表示されます。

このセクションでは、文字ベースのオーバーレイについて説明します。印刷装置ファイル・フィールドについては、19 ページの『オプション 4. 報告書定義の処理』を参照してください。

AFPDS スプール・データには、OnDemand の文字ベースの報告書オーバーレイを定義することはできません。

報告書オーバーレイ行の作成、変更、削除または表示を行うには、「ONDEMAND 報告管理メニュー」画面 (5 ページの図 3) からオプション 3「報告書オーバーレイの処理」を選択します。または、iSeries ナビゲーターの、この機能に対するグラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用できます。**実行キー**を押して、「ONDEMAND の管理の処理 (WRKADMRDAR)」画面 (図 16) に進みます。

ONDEMAND の管理の処理 (WRKADMRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

管理担当者機能	>*RPTOVL	*REPORT, *RPTGRP, *RPTOVL...
報告書オーバーレイ	*ALL_____	名前, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 16. OnDemand の管理の処理 (WRKADMRDAR)

実行キーを押すと、「報告書オーバーレイの処理」画面 (図 17) が表示されます。この画面を使用して、オーバーレイ行の作成、変更、削除、または表示を行うことができます。

報告書オーバーレイ行の作成

報告書オーバーレイにより、表示、印刷、またはファクシミリ送信を行うスプール・データに文字データを一時的に追加することができます。オーバーレイ行を作成するには、図 17 の画面を使用します。

報告書オーバーレイの処理				ONDMD400
				98/01/31 15:31:36
オプションを入力して、実行キーを押してください。				
1=作成 2=変更 4=削除 5=表示				
OPT	オーバーレイ	処置	行	オーバーレイ・データ
1	STMT			
	ABC	IL	001	
				終わり
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し				

図 17. 報告書オーバーレイの処理

「報告書オーバーレイの処理」画面には、OnDemand におけるオーバーレイ行のすべてがリストされます。

実行キーを押すと、「報告書オーバーレイ行の作成」画面 (15 ページの図 18) が表示されます。

報告書オーバーレイ行の作成		ONDMD400
		98/01/31 15:31:54
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
オーバーレイ STMT _____ 処置 CD 行 8 開始桁 11 オーバーレイ・データ 名前:		名前 IL=行の挿入 CD=データの変更 1-256 1-255 日付:
<hr/>		
<hr/>		
<hr/>		
F3=終了 F12=取り消し		

図 18. 報告書オーバーレイ行の作成

実行キーを押すと、図 19 の画面が表示されます。

報告書オーバーレイの処理		ONDMD400
		98/01/31 15:33:08
オプションを入力して、実行キーを押してください。		
1=作成 2=変更 4=削除 5=表示		
OPT	オーバーレイ	処置 行 オーバーレイ・データ

	- ABC	IL 001
終わり		
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し		
報告書オーバーレイ行が作成された - 最新表示には F5		

図 19. 報告書オーバーレイの処理

この画面で、報告書オーバーレイ行が追加されたことを確認します。

F5 を押すと、追加した内容が表示されます。報告書定義の報告書オーバーレイ・フィールドを更新するには、19 ページの『オプション 4. 報告書定義の処理』を使用することを忘れないでください。この最後のステップを行わないと、ユーザーがオーバーレイを設計した報告書に対して、OnDemand は、そのオーバーレイを使用する必要があることを認識しません。

報告書オーバーレイ行の変更

既存の報告書オーバーレイ行を変更するには、図 20 の画面を使用します。

報告書オーバーレイの処理				ONDMD400
				98/01/31 15:33:12
オプションを入力して、実行キーを押してください。				
1=作成 2=変更 4=削除 5=表示				
OPT	オーバーレイ	処置	行	オーバーレイ・データ
-	ABC	IL	001	
2	STMT	CD	008	名前: 日付:
				終わり
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し				

図 20. 報告書オーバーレイの処理

実行キーを押して、図 21 の画面に進みます。

報告書オーバーレイ行の変更				ONDMD400
				98/01/31 15:33:26
オーバーレイ : STMT				
選択項目を入力して、実行キーを押してください。				
処置	CD		IL=行の挿入
行	8		CD=データの変更
開始桁	11		1-256
オーバーレイ・データ	名前:		1-255
				日付:
F3=終了 F12=取り消し				

図 21. 報告書オーバーレイ行の変更

既存の行に変更内容を上書き入力します。実行キーを押すと、17 ページの図 22 の画面が表示されます。

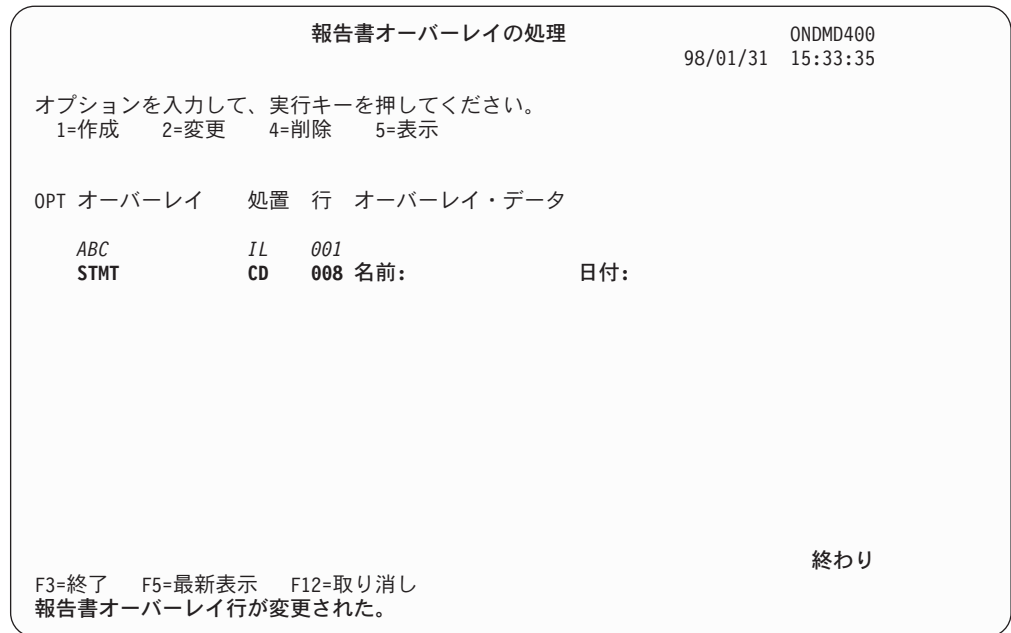


図 22. 報告書オーバーレイの処理

この画面の下部のメッセージにより、変更を確認します。

報告書オーバーレイ行の削除

既存の報告書オーバーレイ行を削除するには、図 23 の画面を使用します。

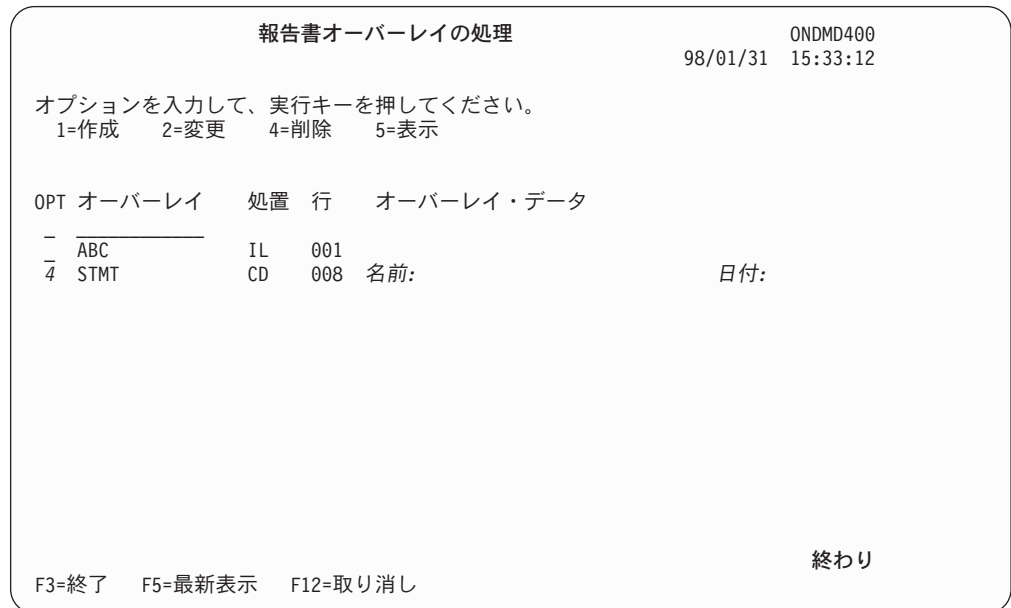


図 23. 報告書オーバーレイの処理

実行キーを押して、18 ページの図 24 の画面に進みます。

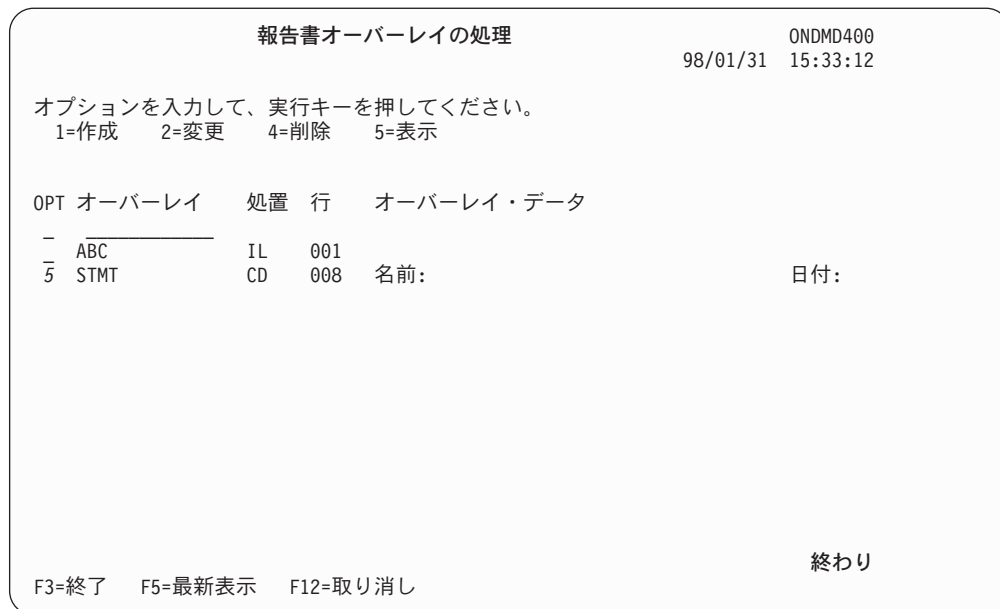


図 26. 報告書オーバーレイの処理

実行キーを押して、図 27 の画面に進みます。

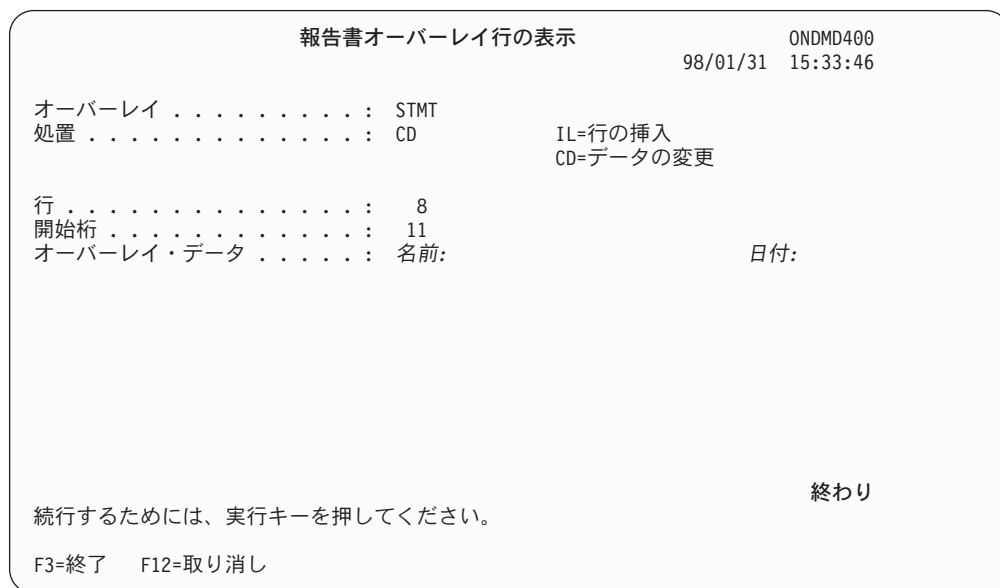


図 27. 報告書オーバーレイ行の表示

この画面で、選択したオーバーレイ行を見ることができます。

オプション 4. 報告書定義の処理

OnDemand で記憶される各報告書は、定義を必要とします。この定義には、セグメンテーション制御文字の位置、報告書日付、キー (索引)、および表示フィールドに関する情報が含まれます。また、この定義には、OnDemand が報告書を光ディスクまたはテープに移行する場合に使用するポリシー名が含まれます。

注: このオプションは通常、74 ページの『オプション 20. 報告書定義メニュー』で説明する他のオプションに関連して使用されますが、便宜上ここで説明しています。報告書定義の処理には、OnDemand の報告書定義メニューまたは iSeries ナビゲーターを使用することをお勧めします。

報告書定義の作成に先立ち、後に報告書セグメントを検索するために使用するキーを決定します。絶対処理またはピボット処理のいずれかを使用し、スプール・ファイル内にあるこれらのキーを見つけます。スプール・ファイルの情報が、各報告書セグメントで同一の行および桁に一貫して位置づけられている場合には、絶対処理を使用します。その情報が常に同じ桁にあるが、行番号に一貫性がない場合には、ピボット処理により、取り出される情報の行位置を計算するためのストリングを定義することができます。

OnDemand に定義できる報告書には、5 つのタイプがあります。(本書におけるすべての例では **DOC** 報告書を使用しています。他のタイプについての詳細は、110 ページの『報告書のタイプの例』で説明しています。)

文書報告書 (DOC)

これらの報告書は、多くの独立した項目 (たとえば、送り状や計算書など) から構成されます。各項目 (OnDemand にはセグメントとして認識される) は、別個に索引付けおよび検索を行うことができます。通常使用される索引は、得意先番号、記憶 ID、社会保障番号などです。

導入検査のテストの過程で記憶された **CHECKSTMTS** 報告書と **TSTINV** 報告書は、いずれも **DOC** 報告書です。これらの報告書の定義は、OnDemand ソフトウェアに組み込まれています。19 ページの『オプション 4. 報告書定義の処理』から、それらの報告書定義を表示することができます。

ページ報告書 (PAGE)

これらの報告書は固有のキーを持ちませんが、これらの報告書は一連の値によって論理的に索引付けをすることができます。報告書は分割 (セグメンテーション) され (1 セグメント当たり 100 ページまで)、各セグメントの開始値と終了値によって索引付けされます。ページ番号によってセグメントを見つけることができます。

たとえば、OnDemand は、1 000 ページの総勘定元帳報告書 (勘定番号の昇順に分類されている) を 10 個の 100 ページのセグメントに分割できます。OnDemand は、100 ページの各セグメントの最初のページの先頭の最初の勘定番号および最後のページの最後の勘定番号をモニターします。報告書のいずれかの勘定番号が要求されると、OnDemand は各セグメントの範囲を検索し、該当する勘定番号を見つけます。

導入検査のテストの過程で記憶された **TSTSEQ** 報告書は、**PAGE** 報告書です。その報告書定義は、OnDemand ソフトウェアに組み込まれています。その報告書定義を表示するには、19 ページの『オプション 4. 報告書定義の処理』を参照してください。

無索引報告書 (NODX)

これらの報告書には、固有のキーも論理的な範囲の値による索引もありません。キー 1 の索引は、常にセグメント番号 (最初の **x** ページ、2 番目の **x** ページなどで、ここで **x** はセグメント・サイズとして定義したページの数)

です。キー 2 の索引は常に、報告書の日付 (ジョブに指定された日付形式や日付区切り記号に関係なく MM/DD/YY の形式) です。キー 3 の索引は常に、セグメントを見つけるために使用されるページ番号です。

分割報告書 (UBND)

同一のスパール・ファイルに、複数の異なる報告書が含まれている場合に、この定義を使用します。報告書定義テーブルに一致する報告書定義がある場合には、OnDemand は自動的に、そのスパール・ファイルを複数の個々の報告書に分割します。分割 (セグメンテーション) 特性を用いて **UBND** 報告書を定義します。これにより、報告書収集プログラムは、スパール・ファイル内での新しい報告書の始まりと終わりを検出することができます。

分割するためには、常に、新しい報告書ごとに報告書名を各報告書のページの同じ位置に入れます。

AnyStore 報告書 (ANYS)

AnyStore 報告書 (ANYS) は、AnyStore API でのみ使用される特殊な報告書タイプです。AnyStore 報告書には、AnyStore API を使用して記憶および索引付けされるデータが含まれます。AnyStore 報告書の例としては、ファイル・メンバー、スパール・ファイル全体、統合ファイル・システム・オブジェクト、プログラム・バッファ内のデータ・ストリームなどが挙げられます。AnyStore 報告書は、必ず 1 つの報告書グループに属します。

定義を開始する際には、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面 (5 ページの図 3 を参照) からオプション 4「報告書定義の処理」を選択するか、iSeries ナビゲーターの、この機能に対するグラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用します。非グラフィカル・インターフェースを使用するように選択した場合、図 28 が表示されます。

ONDEMAND の管理の処理 (WRKADMRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

管理担当者機能	>*REPORT	*REPORT, *RPTGRP, *RPTOVL...
報告書名	*All_____	名前, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し
F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 28. OnDemand の管理の処理 (WRKADMRDAR)

続行するには、**実行キー**を押します。

報告書定義の作成

報告書定義を作成する場合には、23 ページの図 30 から 24 ページの図 33 までの画面を使用します。

これから紹介する例では、図 29 に示すサンプル・データを使用します。

スプール・ファイルは、ライブラリー MYLIB の物理ファイル BILLS にコピーされています。

81 ページの『オプション 6. 物理ファイル・メンバーの表示』の「オプション 6. 物理ファイル・メンバーの表示」を使用して、BILLS 報告書データを含む物理ファイル (図 29) を表示します。

```
物理ファイル・メンバー表示
ファイル . . . . : BILLS          ライブラリー . . : MYLIB
メンバー . . . . : BILLS          レコード . . . . : 1
制御 . . . . . : _____      桁 . . . . . : 1
検索 . . . . . : _____
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...+...
01/31/99
          P. O. BOX 45222
          GREENVILLE, S.C. 29500

          CANDYMAKERS, INC
          1438 EAST BAY DR.
          DAYTONA BEACH FL 32174

PAGE 1   OF 2
F3= 終了   F12= 取消し   F19= 左   F20= 右   F24= キーの続き      続く ...
```

図 29. 物理ファイル・メンバー表示 - DOC Report

日付や会社名などの強調表示されたフィールド (セグメンテーション用および最初のキーとして使用) は、以下に示した例のように、報告書を定義する際に使用する値です。

報告書定義の処理 ONDMD400
98/01/08 14:49:34

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=作成 2=変更 3=コピー 4=削除 5=表示

OPT	報告書	バージョン	タイプ	テキスト
1	BILLS	01		
	AGEDOC	01	DOC	経過日数 DOC
	AGEOPN	01	PAGE	経過売掛金報告
	AIC250	01	PAGE	倉庫報告書
	ANNOUNCE	01	NODX	製品リスト
	APCHK	01	DOC	A/P 検査
	AP437	01	PAGE	A/P 会計リスト
	BEL3549	01	DOC	銀行編集
	BRMS50	01	DOC	テープ処理 RPT
	BUDGET	01	DOC	予算報告書
	CHECKSTMTS	01	DOC	ステートメントの検査 (ONDEMAND サンプル)
	GLDAILY	01	PAGE	会計による G/L 日次
	GLTRANS	01	PAGE	G/L トランザクション報告書

続く...

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 30. 報告書定義の処理 (作成)

実行キーを押して、図 31 の画面に進みます。

サンプル・ワークシート

この画面へのデータの入力に先立って、105 ページの『報告書定義の作成 - 環境ワークシート』をコピーし、それらに記入して使用することができます。フィールドによっては、特定の条件に該当する場合にのみ画面に表示されます。

報告書定義の作成 - 環境 ONDMD400
98/01/08 14:49:43

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

報告書	BILLS	名前
バージョン	01	01-99
報告書タイプ	DOC	DOC, PAGE NODX, UBND
入力レコード長	133	20-256
ポリシー名	D90OPTICAL	名前
報告書オーバーレイ		名前
報告書データ・タイプ	*OTHER	*LINE, *AFPDS *OTHER...
報告書グループ		名前
印刷制御の変換	N	Y=YES, N=NO
印刷装置ファイル		名前
ライブラリー		
テキスト		請求ステートメント
圧縮	Y	Y=YES, N=NO
記入日付タイプ	1	

続く...

F3=終了 F12=取り消し

図 31. 報告書定義の作成 - 環境 (3 の 1)

定義を作成する前に、報告書ポリシーが 6 ページの『オプション 2. 報告書ポリシーの処理』で入力されていることを確認してください。

次ページ・キー (Page Down) を押すと、記入日付タイプ に対する入力に基づいて、図 32 または 図 33 の画面が表示されます。

報告書定義の作成 - 環境		ONDMD400
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		98/01/08 14:50:49
記入日付:		
タイプ	1	
長さ	8	0-25
桁	120	0-255
行	2	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ	0	1-16
桁	0	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
F3=終了 F12=取り消し		続く...

図 32. 報告書定義の作成 - 環境 (3 の 2)

次ページ・キー (Page Down) を押すと、図 33 の画面が表示されます。

報告書定義の作成 - 環境		ONDMD400
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		98/01/08 14:51:26
報告書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
文書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
すべての順序番号の検索	Y	Y=YES, N=NO
入力出口		名前
ライブラリー		*LIBL
索引出口		名前
ライブラリー		*LIBL
ビューアー出口		名前
ライブラリー		*LIBL
AFP 組込み索引の使用	N	Y=YES, N=NO
F3= 終了 F12= 取り消し		終わり

図 33. 報告書定義の作成 - 環境 (3 の 3)

AFP 組み込み索引の使用

*AFPDS の報告書データ・タイプに対してのみ有効です。次のいずれかを入力します。

- 標準の OnDemand 索引付けを使用する場合は、**N**。この場合には、報告書定義で OnDemand に対しすべての索引付け情報を定義する必要があります。

- 組み込み AFP 索引付けおよびグループ・タグを使用する場合は、**Y**。
OnDemand は、入力データからこれらのタグを抽出して使用します。正しく動作するように、これらのキーのキー名および長さも定義する必要があります。

注: このフラグを **Y** に設定すると **OnDemand** は、この索引付け方式を報告書全体に適用します。(セグメンテーション、キーなどの行および列またはピボットの値を定義する代わりに、システムがこれを行います。)つまり、1 つの報告書定義内で、組み込みセグメンテーションおよび索引と明示的に定義されたセグメンテーションおよび索引とを混在させることはできません。組み込み AFP 索引を使用する場合、各セグメントを **STRPAGGRP** および **ENDPAGGRP** でフレーム付けします。**STRPAGGRP** と **ENDPAGGRP** の間のセグメントとして、(キー値を識別するために) **DOCIDXTAG** を入れ、レベルとして **GROUP** を指定します。(OnDemand は PAGE 索引を処理しません。) IBM 製品 ACIF を使用すると、他の IBM システムでこれらのグループおよび索引を作成できます。

実行キーを押して、各項目を保管し、報告書定義の作成を続行するために、26 ページの図 34 の画面に進みます。

26 ページの図 34 の画面を使用して、この報告書のスプール・ファイルから必要なセグメントを定義します。スプール・ファイルには通常、報告書の複数の文書またはセクション (たとえば、送り状または部門別セクション) が含まれます。セグメンテーションにより、**OnDemand** は、スプール・ファイルであるセクションの終わりおよび次のセクションの始めを見つけることができます。

サンプル・ワークシート

この画面へのデータの入力に先立って、107 ページの『報告書定義の作成 - セグメンテーション・ワークシート』をコピーし、それらに記入して使用することができます。フィールドによっては、特定の条件に該当する場合にのみ画面に表示されます。

報告書定義の作成 - セグメンテーション		ONDM400
報告書/バージョン	BILLS / 01	98/01/08 14:51:39
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
セグメント・サイズ	100	1-100
セグメンテーション条件 1:		
変化/一致	1	1=変化, 2=一致
値		
長さ	8	0-25
桁	5	0-255
行	4	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ	0	0-16
桁	0	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
条件の組み合わせ	0	0=なし, 1=AND, 2=OR
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 34. 報告書定義の作成 - セグメンテーション

セグメンテーション条件 1 の見出しは、**PAGE** および **NODX** の報告書定義の場合には、セグメンテーション条件 として表示されます。

実行キーを押して、27 ページの図 35 の画面に進みます。

サンプル・ワークシート

この画面へのデータの入力に先立って、108 ページの『報告書定義の作成 - キー・ワークシート』をコピーし、それらに記入して使用することができます。フィールドによっては、特定の条件に該当する場合にのみ画面に表示されます。

報告書のセグメントの記憶や検索に必要なキーを定義するには、27 ページの図 35 から 29 ページの図 39 の画面を使用します。文字と数字を組み合わせ、キーを定義することができます。

- キー 1 - 最大 25 文字
- キー 2、3、4 - 最大 20 文字
- キー 5 - 最大 15 文字

これらのキーを単独でまたは組み合わせて使用することができます。

報告書に索引の階層 (たとえば、ある都道府県のある市の店舗番号) がある場合には、次のようにキーを定義することができます。

- キー 1 = 都道府県コード
- キー 2 = 市コード
- キー 3 = 店舗番号

これにより、ある都道府県のある市の店舗番号に関するすべての報告書を表示することができ、さらに検索値に合致する項目の数を減らすことができます。

キー全体の一部分を記述する部分キーも使用することができます。たとえば、部分キーを使用して、111 で始まる顧客番号のすべての請求書を見つけることができま

す。探索キーに対して **111*** を入力することによりこれを行います。キー全体の長さ (たとえば、111-2278) を使用すると、検索は特定の得意先番号に限定することができます。(キー構造の特殊な性質により、部分キーは、**PAGE** タイプの報告書ではサポートされません。)

キーおよび表示フィールドに対して定義するフィールド長も重要です。「文書の処理」画面では、列の幅は以下のいずれか大きいほうにより決定されます。

1. 報告書定義で定義されたキーまたは表示フィールドの長さ (サイズ)、または
 2. 報告書定義で定義されているキー または表示フィールド名 の文字数 (サイズ)。
- 画面にすべてを収めることができないような長いフィールド、またはフィールド名を定義した場合、OnDemand は画面の下部に別の機能キー (**F11 = 表示の変更**) を表示し、画面を切り替えてすべてのデータを見ることができるようになります。

特定のキー定義 (2 から 5 までのキー) で最小検索文字数 フィールドを **0** に設定すると、それは表示フィールドになります。これは、「文書の処理」画面の選択リストに現れますが、エンド・ユーザーは、このフィールドによる検索を行うことはできません。

報告書定義の作成 - キー		ONDM400
報告書/バージョン	BILLS	98/01/08 14:52:24 / 01
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 1 の名前	名前	
長さ	25	1-25
最小検索文字数	3	1-長さ
位置:		
桁	5	0-255
行	6	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ	0	0-16
桁	0	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
小文字キー	Y	Y=YES, N=NO
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
複数キー	N	Y=YES, N=NO
F3=終了 F12=取り消し		続く...

図 35. 報告書定義の作成 - キー (5 の 1)

特定の報告書タイプの場合、フィールドによっては画面に表示されない場合があります。

以下の画面により、キー 1 の説明に従って、キー 2 からキー 5 までに対する要件を入力することができます。それぞれのキーの定義が終了した時点で、**次ページ・キー (Page Down)** を押します。(キー 2、3、および 4 にはそれぞれ最大 20 文字を、キー 5 には最大 15 文字を入力することができます。)

次ページ・キー (Page Down) を押して、28 ページの図 36 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - キー		ONDM400
報告書/バージョン : BILLS	98/01/08 14:53:00 / 01
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 2 の名前 会計番号	
長さ 8	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数 4	0-長さ
位置:		
桁 5	0-255
行 4	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ 0	0-16
桁 0	0-255
+ 行オフセット 0	-255-256
小文字キー N	Y=YES, N=NO
キーの機密保護 N	Y=YES, N=NO
複数キー N	Y=YES, N=NO
F3=終了 F12=取り消し		続く...

図 36. 報告書定義の作成 - キー (5 の 2)

次ページ・キー (Page Down) を押して、図 37 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - キー		ONDM400
報告書/バージョン : BILLS	98/01/08 14:53:28 / 01
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 3 の名前	
長さ 0	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数 1	0-長さ
位置:		
桁 0	0-255
行 0	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ 0	0-16
桁 0	0-255
+ 行オフセット 0	-255-256
小文字キー N	Y=YES, N=NO
キーの機密保護 N	Y=YES, N=NO
複数キー N	Y=YES, N=NO
F3=終了 F12=取り消し		続く...

図 37. 報告書定義の作成 - キー (5 の 3)

次ページ・キー (Page Down) を押すと、29 ページの図 38 の画面が表示されます。

27 ページの図 35 の画面についての説明に従って、各フィールドに値を入力します。

ピボット値、Length、Column、および +- line offset の各フィールドを使用して合計値を確認する際には注意が必要です。合計値は、各請求に関する詳細がどの程度表示されているかに応じて、表示される行が変わります。

報告書定義の作成 - キー		ONDMD400
報告書/バージョン	: BILLS	98/01/08 14:53:42 / 01
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 4 の名前	金額	
長さ	8	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数	0	0-長さ
位置:		
桁	126	0-255
行	0	0-256
-または-		
ピボット値	Total	
長さ	6	0-16
桁	120	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
小文字キー	N	Y=YES, N=NO
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
複数キー	N	Y=YES, N=NO
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 38. 報告書定義の作成 - キー (5 の 4)

次ページ・キー (**Page Down**) を押すと、図 39 の画面が表示されます。

報告書定義の作成 - キー		ONDMD400
報告書/バージョン	: BILLS	98/01/08 14:54:31 / 01
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 5 の名前		
長さ	0	1-15, 0=使用しない
最小検索文字数	0	0-長さ
位置:		
桁	0	0-255
行	0	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ	0	0-16
桁	0	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
小文字キー	N	Y=YES, N=NO
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
複数キー	N	Y=YES, N=NO
		終わり
F3=終了 F12=取り消し		

図 39. 報告書定義の作成 - キー (5 の 5)

すべてが終了した時点で**実行キー**を押して、報告書定義の作成を完了します。 30 ページの図 40 の画面が表示されます。

報告書定義の処理

ONDMD400
98/01/08 14:54:35

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=作成 2=変更 3=コピー 4=削除 5=表示

OPT	報告書	バージョン	タイプ	テキスト
	AGEDOC	01	DOC	経過日数 DOC
	AGEOPN	01	PAGE	経過売掛金報告
	AIC250	01	PAGE	倉庫報告書
	ANNOUNCE	01	NODX	製品リスト
	APCHK	01	DOC	A/P 検査
	AP437	01	PAGE	A/P 会計リスト
	BEL3549	01	DOC	銀行編集
	BRMS50	01	DOC	テープ処理 RPT
	BUDGET	01	DOC	予算報告書
	CHECKSTMTS	01	DOC	ステートメントの検査 (ONDEMAND サンプル)
	GLDAILY	01	PAGE	会計による G/L 日次
	GLTRANS	01	PAGE	G/L トランザクション報告書

続く...

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し
報告書定義が作成された - 最新表示には F5 キー。

図 40. 報告書定義の作成 - キー (確認画面)

F5 を押して最新表示します。

この画面で、報告書定義が OnDemand に追加されたことを確認します。実行キーを押すと、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面 (5 ページの図 3) に戻ります。

報告書定義の変更

報告書定義 (たとえば、そのキーなど) を変更したい場合には、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面からオプション 4「報告書定義の処理」を選択します。(5 ページの図 3 を参照してください。) 図 41 の画面が表示されます。

報告書定義の処理

ONDMD400
98/01/08 14:55:24

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=作成 2=変更 3=コピー 4=削除 5=表示

OPT	報告書	バージョン	タイプ	テキスト
	AGEDOC	01	DOC	経過日数 DOC
	AGEOPN	01	PAGE	経過売掛金報告
	AIC250	01	PAGE	倉庫報告書
	ANNOUNCE	01	NODX	製品リスト
	APCHK	01	DOC	A/P 検査
	AP437	01	PAGE	A/P 会計リスト
	BEL3549	01	DOC	銀行編集
2	BILLS	01	DOC	請求ステートメント
	BRMS50	01	DOC	テープ処理 RPT
	BUDGET	01	DOC	予算報告書
	CHECKSTMTS	01	DOC	ステートメントの検査 (ONDEMAND サンプル)
	GLDAILY	01	PAGE	会計による G/L 日次

続く...

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 41. 報告書定義の処理 (変更)

実行キーを押して、図 42 の画面に進みます。

変更する報告書セクションの選択		ONDMD400
		98/01/08 14:55:39
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
1=選択		
セクションの選択		
環境		
セグメンテーション		
キー		
1	すべてのセクション	
F3=終了 F12=取り消し		

図 42. 変更する報告書セクションの選択

報告書定義の以下のフィールドのいずれかに直接進むことができます。該当するフィールドの前に **1** を入力します。

環境 報告書定義の環境のみを変更したい場合。

実行キーを押して、「報告書定義の作成 - 環境」画面（32 ページの図 43）に進みます。

セグメンテーション

報告書定義のセグメンテーションのみを変更したい場合。

実行キーを押して、「報告書定義の作成 - セグメンテーション」画面（33 ページの図 46）に進みます。

キー 報告書定義のキーのみを変更したい場合。

実行キーを押して、「報告書定義の作成 - キー」画面（34 ページの図 48）に進みます。

報告書定義全体の属性を変更することができます。

すべてのセクション

すべての変更画面を順番に表示するには、このフィールドに **1** を入力します。

実行キーを押すと、32 ページの図 43 の画面が表示されます。

報告書定義の変更 - 環境		98/01/08	14:55:51
報告書/バージョン	BILLS	/ 01	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。			
報告書タイプ	DOC		DOC, PAGE
		NODX, UBND	
入力レコード長	133		20-256
ポリシー名	D90OPTICAL		名前
報告書オーバーレイ			名前
報告書データ・タイプ	*OTHER		*LINE, *AFPDS
		*OTHER...	
報告書グループ			名前
印刷制御の変換	N		Y=YES, N=NO
印刷装置ファイル			名前
ライブラリー			
テキスト			請求ステートメント
圧縮	Y		Y=YES, N=NO
記入日付タイプ	1		
			続く...
F3=終了 F12=取り消し			

図 43. 報告書定義の変更 - 環境 (3 の 1)

変更したいフィールド情報に新たな値を上書き入力して、**次ページ・キー (Page Down)** を押します。記入日付タイプ・フィールドに値を入力した場合には 図 44 の画面が表示され、記入日付タイプ・フィールドをブランクのままにした場合には 33 ページの図 45 の画面が表示されます。

報告書定義の変更 - 環境		98/01/08	14:56:01
報告書/バージョン	BILLS	/ 01	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。			
記入日付:			
タイプ	1		
長さ	8		0-25
桁	120		0-255
行	2		0-256
-または-			
ピボット値			
長さ	0		1-16
桁	0		0-255
+ 行オフセット	0		-255-256
			続く...
F3=終了 F12=取り消し			

図 44. 報告書定義の変更 - 環境 (3 の 2)

変更したいフィールド情報に新たな値を上書き入力して、**次ページ・キー (Page Down)** を押すと、33 ページの図 45 の画面が表示されます。

報告書定義の変更 - 環境		ONDMD400
報告書/バージョン	BILLS	98/01/08 14:56:05 / 01
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
報告書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
文書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
すべての順序番号の検索	Y	Y=YES, N=NO
入力出口		名前
ライブラリー		*LIBL
索引出口		名前
ライブラリー		*LIBL
ビューアー出口		名前
ライブラリー		*LIBL
終わり		
F3= 終了 F12= 取り消し		

図 45. 報告書定義の変更 - 環境 (3 の 3)

変更したいフィールド情報に必要な情報を書き入力します。実行キーを押して、図 46 の画面に進みます。

報告書定義の変更 - セグメンテーション		ONDMD400
報告書/バージョン	BILLS	98/01/08 14:56:09 / 01
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
セグメント・サイズ	100	1-100
セグメンテーション条件 1:		
変化/一致	1	1=変化, 2=一致
値		
長さ	8	0-25
桁	5	0-255
行	4	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ	0	0-16
桁	0	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
条件の組み合わせ	0	0=なし, 1=AND, 2=OR 続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 46. 報告書定義の変更 - セグメンテーション (2 の 1)

変更したいフィールド情報に必要な情報を書き入力します。(セグメンテーション条件 1 の見出しは、PAGE および NODX の報告書定義の場合には、セグメンテーション条件 として表示されます。) 2 番目のセグメンテーションの要件があり、条件の組み合わせ フィールドに値を入力した場合、次ページ・キー (Page Down) を押すと次の画面 (下図) に進みます。条件の組み合わせ フィールドに 0 を入力した場合には、実行キーを押すと 34 ページの図 48 の画面に進みます。

報告書定義の変更 - セグメンテーション		ONDMD400
		98/01/08 14:56:09
報告書/バージョン	BILLS / 01	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
セグメンテーション条件 2:		
変化/一致	1	1=変化, 2=一致
値		
長さ	8	0-25
桁	5	0-255
行	4	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ	0	0-16
桁	0	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
続く...		
F3=終了 F12=取り消し		

図 47. 報告書定義の変更 - セグメンテーション (2 の 2)

変更したいフィールド情報に必要な情報を書き入力します。(セグメンテーション条件 1 の見出しは、**PAGE** および **NODX** の報告書定義の場合には、セグメンテーション条件 として表示されます。) **実行キー**を押して、図 48 の画面に進みます。

報告書定義の変更 - キー		ONDMD400
		98/01/08 14:56:19
報告書/バージョン	BILLS / 01	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 1 の名前	名前	
長さ	25	1-25
最小検索文字数	3	1-長さ
位置:		
桁	5	0-255
行	6	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ	0	0-16
桁	0	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
小文字キー	Y	Y=YES, N=NO
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
複数キー	N	Y=YES, N=NO
続く...		
F3=終了 F12=取り消し		

図 48. 報告書定義の変更 - キー (キー 1)

変更したいフィールド情報に必要な情報を書き入力します。**次ページ・キー (Page Down)** を押すと、35 ページの図 49 の画面が表示されます。

報告書定義の変更 - キー		ONDMD400
報告書/バージョン	BILLS	98/01/08 14:56:22 / 01
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 2 の名前	会計番号_	
長さ	8	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数	4	0-長さ
位置:		
桁	5	0-255
行	4	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ	0	0-16
桁	0	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
小文字キー	N	Y=YES, N=NO
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
複数キー	N	Y=YES, N=NO
続く...		
F3=終了 F12=取り消し		

図 49. 報告書定義の変更 - キー (キー 2)

変更したいフィールド情報に必要な情報を書き入力します。次ページ・キー (Page Down) を押すと、図 50 の画面が表示されます。

報告書定義の変更 - キー		ONDMD400
報告書/バージョン	BILLS	98/01/08 14:56:22 / 01
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 3 の名前		
長さ	0	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数	1	0-長さ
位置:		
桁	0	0-255
行	0	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ	0	0-16
桁	0	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
小文字キー	N	Y=YES, N=NO
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
複数キー	N	Y=YES, N=NO
続く...		
F3=終了 F12=取り消し		

図 50. 報告書定義の変更 - キー (キー 3)

変更したいフィールド情報に必要な情報を書き入力します。次ページ・キー (Page Down) を押すと、36 ページの図 51 の画面が表示されます。

報告書定義の変更 - キー		ONDMD400	
報告書/バージョン	BILLS	98/01/08	14:56:28
		/ 01	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。			
キー 4 の名前	金額		
長さ	8	1-20, 0=使用しない	
最小検索文字数	0	0-長さ	
位置:			
桁	126	0-255	
行	0	0-256	
-または-			
ピボット値	Total		
長さ	6	0-16	
桁	120	0-255	
+ 行オフセット	0	-255-256	
小文字キー	N	Y=YES, N=NO	
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO	
複数キー	N	Y=YES, N=NO	
			続く...
F3=終了 F12=取り消し			

図 51. 報告書定義の変更 - キー (キー 4)

変更したいフィールド情報に必要な情報を書き入力します。次ページ・キー (Page Down) を押すと、図 52 の画面が表示されます。

報告書定義の変更 - キー		ONDMD400	
報告書/バージョン	BILLS	98/01/08	14:56:30
		/ 01	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。			
キー 5 の名前			
長さ	0	1-15, 0=使用しない	
最小検索文字数	0	0-長さ	
位置:			
桁	0	0-255	
行	0	0-256	
-または-			
ピボット値			
長さ	0	0-16	
桁	0	0-255	
+ 行オフセット	0	-255-256	
小文字キー	N	Y=YES, N=NO	
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO	
複数キー	N	Y=YES, N=NO	
			終わり
F3=終了 F12=取り消し			

図 52. 報告書定義の変更 - キー (キー 5)

変更したいフィールド情報に必要な情報を書き入力します。実行キーを押して、37 ページの図 53 の画面に進みます。

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

1=選択

セクションの選択

環境

セグメンテーション

キー

すべてのセクション

F3=終了 F12=取り消し
報告書定義が変更された。

図 53. 変更する報告書セクションの選択

この画面で、変更を確認します。

実行キーを押すと、「ONDemand 報告書管理メニュー」画面（5 ページの図 3）に戻ります。

報告書定義のコピー

既存の報告書定義をコピーして、そのコピーに新しい名前、またはバージョン番号、あるいはその両方を割り当てることができます。

たとえば、次の画面には、名前が **BILLS**、バージョン番号 **01** の報告書定義が表示されています。この報告書定義をコピーして、同じ名前で、新しいバージョン番号を割り当てるとします。

これを行うには、「ONDemand 報告書管理メニュー」画面からオプション 4「報告書定義の処理」を選択します（5 ページの図 3 を参照）。「ONDemand の管理の処理 (WRKADMRDAR)」画面（21 ページの図 28）が表示されます。必要な入力を行い、実行キーを押して、38 ページの図 54 の画面に進みます。

報告書定義の処理

ONDMD400
98/01/08 14:56:56

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=作成 2=変更 3=コピー 4=削除 5=表示

OPT	報告書	バージョン	タイプ	テキスト
	AGEDOC	01	DOC	経過日数 DOC
	AGEOPN	01	PAGE	経過売掛金報告
	AIC250	01	PAGE	倉庫報告書
	ANNOUNCE	01	NODX	製品リスト
	APCHK	01	DOC	A/P 検査
	AP437	01	PAGE	A/P 会計リスト
	BEL3549	01	DOC	銀行編集
3	BILLS	01	DOC	請求ステートメント
	BRMS50	01	DOC	テープ処理 RPT
	BUDGET	01	DOC	予算報告書
	CHECKSTMTS	01	DOC	ステートメントの検査 (ONDEMAND サンプル)
	GLDAILY	01	PAGE	会計による G/L 日次

続く...

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 54. 報告書定義の処理 (コピー)

実行キーを押して、図 55 の画面に進みます。

報告書定義のコピー

ONDMD400
98/01/08 14:57:24

コピー済み報告書の名前変更には、新しい報告書を入力し実行キーを押します。

報告書	バージョン	新報告書	新バージョン
BILLS	01	BILLS	02

F3=終了 F12=取り消し

図 55. 報告書定義のコピー

実行キーを押して、39 ページの図 56 の画面に進みます。

報告書定義の処理

ONDMD400
98/01/08 14:56:56

オプションを入力して、実行キーを押してください。

1=作成 2=変更 3=コピー 4=削除 5=表示

OPT	報告書	バージョン	タイプ	テキスト
	AGEDOC	01	DOC	経過日数 DOC
	AGEOPN	01	PAGE	経過売掛金報告
	AIC250	01	PAGE	倉庫報告書
	ANNOUNCE	01	NODX	製品リスト
	APCHK	01	DOC	A/P 検査
	AP437	01	PAGE	A/P 会計リスト
	BILLS	01	DOC	請求ステートメント
	BEL3549	01	DOC	銀行編集
	BRMS50	01	DOC	テープ処理 RPT
	BUDGET	01	DOC	予算報告書
	CHECKSTMTS	01	DOC	ステートメントの検査 (ONDEMAND サンプル)
	GLDAILY	01	PAGE	会計による G/L 日次

続く...

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し
報告書定義がコピーされた - 最新表示には F5 キー。

図 56. OnDemand 報告書定義の処理

F5 (最新表示) を押して画面を再表示すると、コピーされた新しい報告書定義が表示されます。

実行キーを押すと、「ONDemand 報告書管理メニュー」画面 (5 ページの図 3) に戻ります。

報告書定義の削除

報告書定義を削除するには、「報告書定義の処理」画面からオプション 4 を選択します。その時点で、該当する名前で保存されている報告書が存在しない場合には、OnDemand はその定義を削除します。

40 ページの図 57 の画面が表示されます。

報告書定義の処理

ONDMD400
98/01/08 14:58:53

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=作成 2=変更 3=コピー 4=削除 5=表示

OPT	報告書	バージョン	タイプ	テキスト
	AGEDOC	01	DOC	経過日数 DOC
	AGEOPN	01	PAGE	経過売掛金報告
	AIC250	01	PAGE	倉庫報告書
	ANNOUNCE	01	NODX	製品リスト
	APCHK	01	DOC	A/P 検査
	AP437	01	PAGE	A/P 会計リスト
	BEL3549	01	DOC	銀行編集
4	BILLS	01	DOC	請求ステートメント
	BRMS50	01	DOC	テープ処理 RPT
	BUDGET	01	DOC	予算報告書
	CHECKSTMTS	01	DOC	ステートメントの検査 (ONDEMAND サンプル)
	GLDAILY	01	PAGE	会計による G/L 日次表示

続く...

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 57. 報告書定義の処理 (削除)

実行キーを押して、その定義を削除します。 図 58 の画面が確認の目的で表示されます。

報告書定義の削除の確認

ONDMD400
98/01/08 14:59:09

「4=削除」の選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。
選択項目を変更するためには「F12=取り消し」キーを押して戻ってください。

報告書 : **BILLS**
バージョン : 01
タイプ : DOC
テキスト : 請求ステートメント

F12=取り消し

図 58. 報告書定義の削除の確認

報告書定義の削除を確認するには**実行キー**を押します。

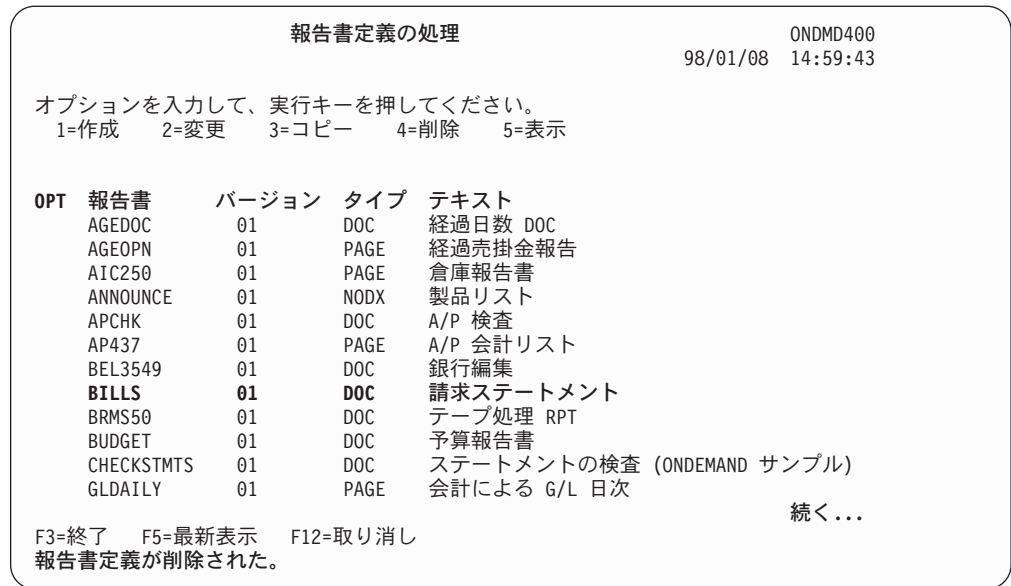


図 59. 報告書定義の処理 (確認画面)

図 59 の画面に示されているメッセージにより、削除が行われたことを確認します。
F5 を押すと、残りの定義を見ることができます。

報告書定義の表示

図 60 の画面を使用して、報告書定義の表示を開始することができます。

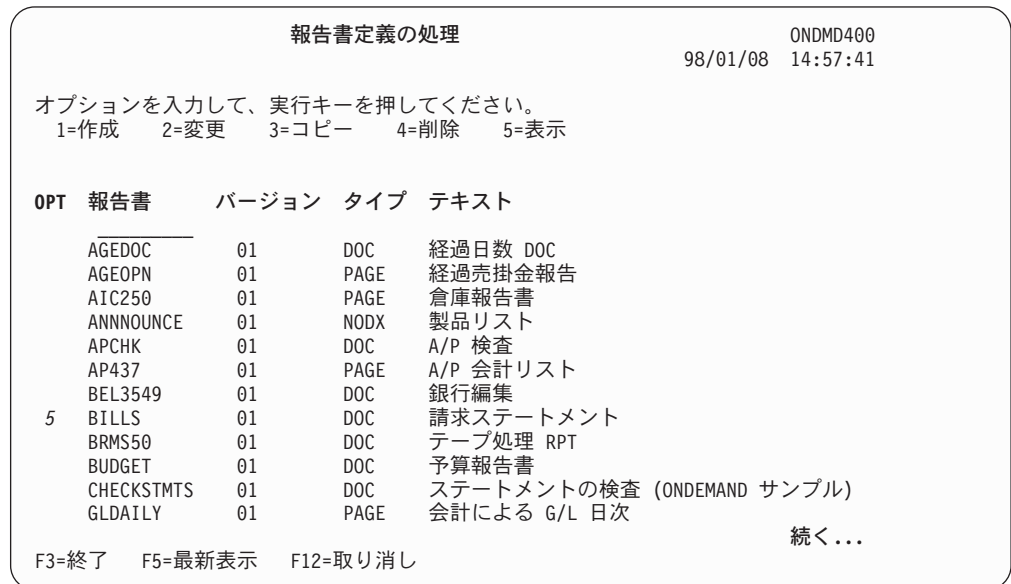


図 60. 報告書定義の処理 (表示)

実行キーを押して、42 ページの図 61 の画面に進みます。

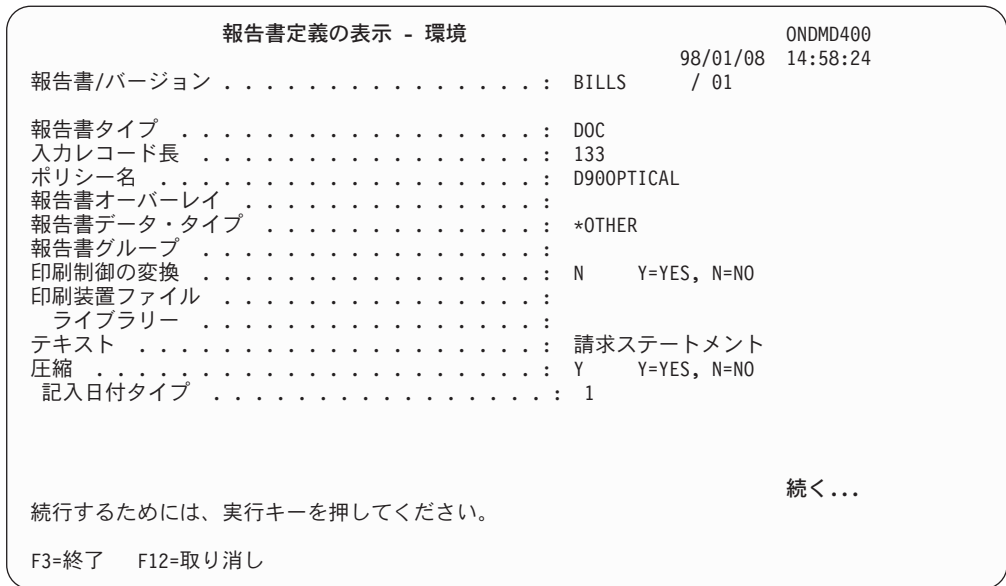


図 61. 報告書定義の表示 - 環境 (3 の 1)

次ページ・キー (Page Down) を押すと、図 62 の画面が表示されます。

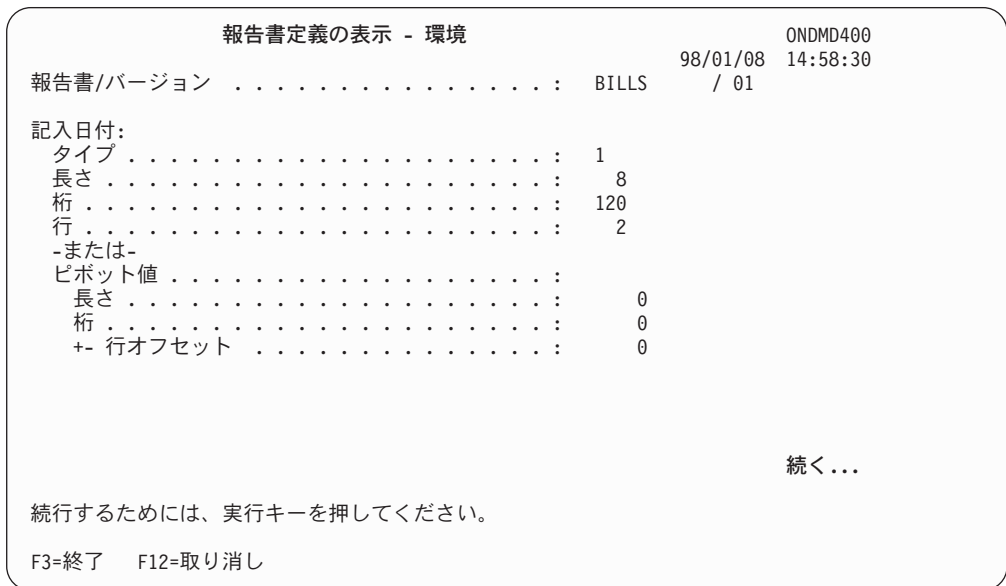


図 62. 報告書定義の表示 - 環境 (3 の 2)

次ページ・キー (Page Down) を押すと、43 ページの図 63 の画面が表示されます。

報告書定義の表示 - 環境		98/01/08	ONDMD400 14:58:32
報告書/バージョン	BILLS	/ 01
報告書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
文書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
すべての順序番号の検索	Y	Y=YES, N=NO
入力出口		
ライブラリー		*LIBL
索引出口		
ライブラリー		*LIBL
ビューアー出口		
ライブラリー		*LIBL

終わり

続行するためには、実行キーを押してください。

F3= 終了 F12= 取り消し

図 63. 報告書定義の表示 - 環境 (3 の 3)

実行キーを押して、図 64 の画面に進みます。

報告書定義の表示 - セグメンテーション		98/01/08	ONDMD400 14:58:35
報告書/バージョン	BILLS	/ 01
セグメント・サイズ	100	
セグメンテーション条件 1:			
変化/一致	1	1=変化, 2=一致
値		
長さ	8	
桁	5	
行	4	
-または-			
ピボット値		
長さ	0	
桁	0	
+ 行オフセット	0	
条件の組み合わせ	1	0=なし, 1=AND, 2=OR

続く...

続行するためには、実行キーを押してください。

F3=終了 F12=取り消し

図 64. 報告書定義の表示 - セグメンテーション (2 の 1)

実行キー、または次ページ・キー (**Page Down**) (条件の組み合わせ に対する入力に基づく) を押して、44 ページの図 65 の画面に進みます。(両方のセグメンテーション画面のセグメンテーション条件 の見出しは、**PAGE** および **NODX** 報告書定義では報告書の開始条件 として現れます。)

報告書定義の表示 - セグメンテーション		ONDMD400
		98/01/08 14:58:35
報告書/バージョン	BILLS / 01	
セグメンテーション条件 2:		
変化/一致	1	1=変化, 2=一致
値		
長さ	4	
桁	72	
行	5	
-または-		
ピボット値		
長さ	0	
桁	0	
+ 行オフセット	0	

終わり

続行するためには、実行キーを押してください。

F3=終了 F12=取り消し

図 65. 報告書定義の表示 - セグメンテーション (2 の 2)

実行キーを押して、図 66 の画面に進みます。

報告書定義の表示 - キー		ONDMD400
		98/01/08 14:58:39
報告書/バージョン	BILLS / 01	
キー 1 の名前	名前	
長さ	25	
最小検索文字数	3	
位置:		
桁	5	
行	6	
-または-		
ピボット値		
長さ	0	
桁	0	
+ 行オフセット	0	
小文字キー	Y	Y=YES, N=NO
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
複数キー	N	Y=YES, N=NO

続く...

続行するためには、実行キーを押してください。

F3=終了 F12=取り消し

図 66. 報告書定義の表示 - キー (キー 1)

キーの定義がこれで終了した場合には**実行キー**、45 ページの図 67 の画面に進みたい場合には**次ページ・キー (Page Down)** を押します。

報告書定義の表示 - キー		98/01/08	ONDMD400
報告書/バージョン	BILLS	/ 01	14:58:43
キー 2 の名前	会計番号		
長さ	8		
最小検索文字数	4		
位置:			
桁	5		
行	4		
-または-			
ピボット値			
長さ	0		
桁	0		
+ 行オフセット	0		
小文字キー	N	Y=YES, N=NO	
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO	
複数キー	N	Y=YES, N=NO	

続行するためには、実行キーを押してください。

F3=終了 F12=取り消し

続く...

図 67. 報告書定義の表示 - キー (キー 2)

キーの定義がこれで終了した場合には**実行キー**、図 68 の画面に進みたい場合には**次ページ・キー (Page Down)** を押します。

報告書定義の表示 - キー		98/01/08	ONDMD400
報告書/バージョン	BILLS	/ 01	14:58:45
キー 3 の名前			
長さ	0		
最小検索文字数	1		
位置:			
桁	0		
行	0		
-または-			
ピボット値			
長さ	0		
桁	0		
+ 行オフセット	0		
小文字キー	N	Y=YES, N=NO	
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO	
複数キー	N	Y=YES, N=NO	

続行するためには、実行キーを押してください。

F3=終了 F12=取り消し

続く...

図 68. 報告書定義の表示 - キー (キー 3)

キーの定義がこれで終了した場合には**実行キー**、46 ページの図 69 の画面に進みたい場合には**次ページ・キー (Page Down)** を押します。

報告書定義の表示 - キー		ONDM400
報告書/バージョン	BILLS	98/01/08 14:58:48 / 01
キー 4 の名前	金額	
長さ	8	
最小検索文字数	0	
位置:		
桁	126	
行	0	
-または-		
ピボット値	合計	
長さ	6	
桁	120	
+ 行オフセット	0	
小文字キー	N	Y=YES, N=NO
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
複数キー	N	Y=YES, N=NO
		続く...
続行するためには、実行キーを押してください。		
F3=終了 F12=取り消し		

図 69. 報告書定義の表示 - キー (キー 4)

キーの定義がこれで終了した場合には**実行キー**、図 70 の画面に進みたい場合には**次ページ・キー (Page Down)** を押します。

報告書定義の表示 - キー		ONDM400
報告書/バージョン	BILLS	98/1/08 14:58:50 / 01
キー 5 の名前		
長さ	0	
最小検索文字数	0	
位置:		
桁	0	
行	0	
-または-		
ピボット値		
長さ	0	
桁	0	
+ 行オフセット	0	
小文字キー	N	Y=YES, N=NO
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
複数キー	N	Y=YES, N=NO
		終わり
続行するためには、実行キーを押してください。		
F3=終了 F12=取り消し		

図 70. 報告書定義の表示 - キー (キー 5)

実行キーを押すと、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面 (5 ページの図 3) に戻ります。

オプション 5. 報告書グループの処理

このオプションの各画面を使用して、報告書グループ定義の作成、変更、コピー、削除、または表示を行うことができます。

報告書グループは、異なってはいるが関連のあるいくつかの報告書で構成されます。たとえば、送り状番号をキー 1 および得意先番号をキー 2 として、送り状、

遅延支払通知書、および月次送り状要約報告書を 1 つのグループに含めることができます。そのグループに **INVINFO** と名前を付け、得意先番号 12345678 または送り状番号 876543 によって **INVINFO** を検索すると、OnDemand は 3 つの異なる報告書からすべての関連項目をリストします。

注: 報告書のあるグループにいったん定義すると、まずその報告書名のすべての報告書を削除し、その報告書定義で指定された報告書グループを変更しない限り、その報告書を他のグループに含めることはできません。

報告書グループの処理を開始するには、「OnDemand 報告書管理メニュー」画面（5 ページの図 3）からオプション 5「報告書グループの処理」を選択するか、iSeries ナビゲーターの、この機能に対するグラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用します。非グラフィカル・インターフェースを使用するように選択した場合、図 71 が表示されます。

ONDEMAND の管理の処理 (WRKADMRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

管理担当者機能	>*RPTGRP	*REPORT, *RPTGRP, *RPTOVL...
報告書グループ	*ALL_____	名前, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 71. OnDemand の管理の処理 (WRKADMRDAR)

続行するには、**実行キー**を押します。

報告書グループの作成

48 ページの図 72 の画面を使用して、報告書グループ定義を作成します。

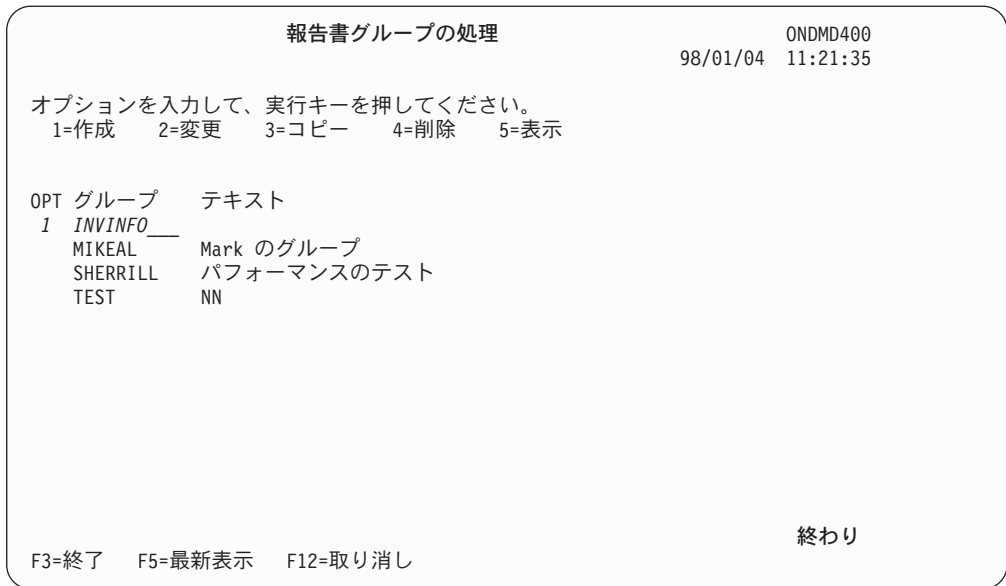


図 72. 報告書グループの処理

実行キーを押して、図 73 の画面に進みます。

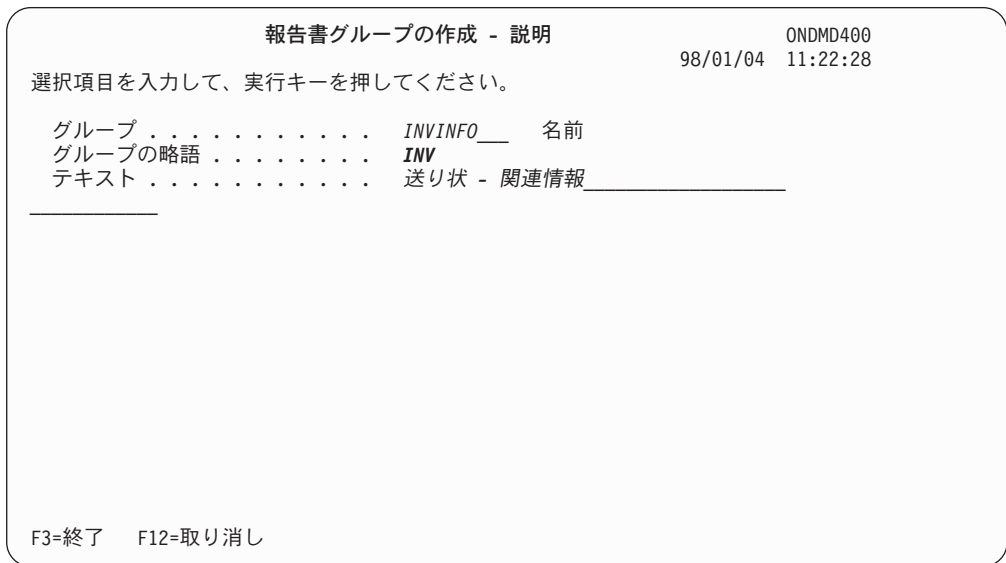


図 73. 報告書グループの作成 - 説明

実行キーを押して、49 ページの図 74 の画面に進みます。

次の 2 つの画面を使用して、報告書グループのすべての報告書に共通するキー・フィールドを定義することができます。

報告書グループを使用する場合、そのグループのすべての報告書は、同じデータ要素を表すキー・フィールドおよび表示フィールドが定義されていなければなりません。さらに、これらの共通のキーおよび表示フィールドは報告書グループ定義で同じ方法で定義されていなければなりません。

この理由は重要です。エンド・ユーザーが (グループ内のすべての報告書について) グループ検索を行いたい場合には、検索 (キー) 値を入力してから **F6** を押しま

す。「文書の処理」画面は、1つの報告書検索により表示される画面と同じです。唯一の相違点は、結果として表示される、検索値に一致する項目の選択リストは、多くの異なる報告書に属する可能性があることです。画面上のデータの相違点は1つのみです。この相違点は、画面の5番目の欄(キー5)に入力されている、特定のセグメントが属する報告書名です。その他のすべての欄には、キー1、キー2、キー3、およびキー4の値が表示されます。データは、各種の報告書のデータから抜き出されます。したがって、欄の見出しは、各欄に表示されるデータについての記述を反映したものでなければなりません。キー3に送り状の得意先名が入っていて、かつ注文の注文番号も入っていると、ユーザーは何が表示されているのかを正しく解釈することができません。ここで重要なのが「文書検索の指定」画面です。この画面では、検索対象であるキー値を入力することができます。この画面には、フィールド名が、ユーザーが検索している正しいフィールド名ではない可能性があることを示すプロンプトが表示されます。

この例で作成する **INVINFO** では、3つのすべての報告書定義(および、報告書グループ定義)が、送り状番号をキー1、得意先番号をキー2として使用します。キー2として12345を入力し、**F6**を押してグループ検索を行うと、3つの報告書すべてから項目が現れます(12345の検索基準に合致した場合)。

報告書グループの作成 - キー		ONDMD400
		98/01/04 11:22:57
グループ	:	INVINFO
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー1のグループ名	送り状 #	
長さ	10	1-25
最小検索文字数	3	1-25
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
キー2のグループ名	得意先 #	
長さ	9	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数	5	0-20
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
キー3のグループ名		
長さ	0	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数	0	0-20
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 74. 報告書グループの作成 - キー (1, 2, および 3)

次ページ・キー (**Page Down**) を押して、50 ページの図 75 の画面に進みます。

報告書グループの作成 - キー		ONDM400
グループ	: INVINFO	98/01/04 11:24:12
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 4 のグループ名		
長さ	0	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数	0	1-20
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
キー 5 のグループ名		
長さ	0	1-15, 0=使用しない
最小検索文字数	0	1-15
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
F3=終了 F12=取り消し		終わり

図 75. 報告書グループの作成 - キー (4 および 5)

このグループに属する各報告書の報告書定義に、この報告書グループの名前を指定してください。これにより、エンド・ユーザーは、送り状番号または得意先番号を 1 回入力するのみで、それらの報告書を同時に検索することができます。

実行キーを押すと、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面 (5 ページの図 3) に戻ります。

報告書グループの変更

報告書グループを変更したい場合には (たとえば、名前やキーなど)、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面からオプション 5「報告書グループの処理」を選択します。(5 ページの図 3 を参照してください。)
「ONDEMAND の管理の処理 (WRKADMRDAR)」画面 (47 ページの図 71) が表示されます。必要な入力を行い、実行キーを押して、51 ページの図 76 の画面に進みます。

報告書グループの処理		ONDMD400
		98/01/04 11:25:59
オプションを入力して、実行キーを押してください。		
1=作成 2=変更 3=コピー 4=削除 5=表示		
OPT	グループ	テキスト
	ACCTG	会計報告書
2	INVINFO	送り状 - 関連情報
	INVENT	在庫報告書
	IS	情報システム報告書
		終わり
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し		

図 76. 報告書グループの処理

実行キーを押して、図 77 の画面に進みます。

変更する報告書グループ・セクションの選択		ONDMD400
		98/01/04 11:26:11
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
1=選択		
セクションの選択		
	説明	
	キー	
1	すべてのセクション	
		F3=終了 F12=取り消し

図 77. 変更する報告書グループ・セクションの選択

報告書グループの以下の部分のいずれかの前に **1** を入力することにより、該当の部分を変更することができます。

説明 報告書グループについての記述 (説明) を変更する場合。

実行キーを押すと、「報告書グループの変更 - 説明」画面 (52 ページの図 78) に進みます。

キー 報告書グループのキーを変更したい場合。

実行キーを押すと、「報告書グループの変更 - キー」画面 (52 ページの図 79) に進みます。

報告書グループ全体の属性を変更することができます。

すべてのセクション

すべての変更画面を順番に表示するには、このフィールドに **1** を入力します。**実行キー**を押すと、図 78 の画面に進みます。

報告書グループの変更 - 説明		ONDMD400
		98/01/04 11:26:16
グループ	: INVINFO	
グループの略語	: INV	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
テキスト	送り状 - 関連報告書	_____

F3=終了 F12=取り消し		

図 78. 報告書グループの変更 - 説明

各フィールドを変更するには、既存の情報に重ねて新しい値を入力します。**実行キー**を押します。

説明のみを変更する場合には、53 ページの図 81 の画面が表示されます。その画面で、変更内容を確認します。

すべての画面のフィールドを変更する場合には、図 79 の画面が表示されます。

報告書グループの変更 - キー		ONDMD400
		98/01/04 11:26:52
グループ	: INVINFO	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 1 のグループ名	送り状 #	_____
長さ	10	1-25
最小検索文字数	3	1-25
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
キー 2 のグループ名	得意先 #	_____
長さ	9	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数	3	0-20
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
キー 3 のグループ名	_____	
長さ	0	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数	0	0-20
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
F3=終了 F12=取り消し		
続く...		

図 79. 報告書グループの変更 - キー (1、2、および 3)

既存の情報に重ねて変更内容を入力します。キー 4 またはキー 5 を変更する必要がない場合は、**実行キー**を押します。それ以外の場合は、**次ページ・キー (Page Down)** を押して、図 80 に進んでください。

報告書グループの変更 - キー		ONDM400
グループ	: INVINFO	98/01/04 11:27:02
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 4 のグループ名		
長さ	0	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数	0	1-20
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
キー 5 のグループ名		
長さ	0	1-15, 0=使用しない
最小検索文字数	0	1-15
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
F3=終了 F12=取り消し		終わり

図 80. 報告書グループの変更 - キー (4 および 5)

既存の情報に重ねて変更内容を入力します。**実行キー**を押します。図 81 の画面で、変更内容を確認します。

変更する報告書グループ・セクションの選択		ONDM400
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		98/01/04 11:27:04
1=選択		
セクションの選択		
説明		
キー		
すべてのセクション		
F3=終了 F12=取り消し		
報告書グループが変更された。		

図 81. 変更する報告書グループ・セクションの選択

実行キーを押すと、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面 (5 ページの図 3) に戻ります。

報告書グループのコピー

既存の報告書グループの定義をコピーして、そのコピーに新しい名前を割り当てる
ことができます。

この例では、画面に、送り状情報に関連する報告書を含む報告書グループ **INVINFO**
が表示されています。購買情報に関する報告書グループ (同様のキーを使用) を作成
するには、報告書グループ **INVINFO** をコピーして、コピーされた新しい報告書グ
ループに **POINFO** という名前を与えます。

「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面から、オプション 5「報告書グループの処
理」を選択します (5 ページの図 3 を参照)。「ONDEMAND の管理の処理
(WRKADMRDAR)」画面 (47 ページの図 71) が表示されます。必要な入力を行い、
実行キーを押して、図 82 の画面に進みます。

報告書グループの処理		ONDMD400
		98/01/04 11:27:08
オプションを入力して、実行キーを押してください。		
1=作成 2=変更 3=コピー 4=削除 5=表示		
OPT	グループ	テキスト
3	INVINFO	送り状 - 関連報告書
	MIKEAL	Mark のグループ
	SHERRILL	パフォーマンスのテスト
	TEST	NN
		終わり
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し		

図 82. 報告書グループの処理

実行キーを押して、55 ページの図 83 の画面に進みます。

報告書グループのコピー				ONDM400
				98/01/04 11:27:18
新しいグループと新しい略語を入力して、実行キーを押してください。				
グループ	略語	新グループ	新略語	
INVINFO	INV	POINFO__	POI	
F3=終了 F12=取り消し				

図 83. 報告書グループのコピー

実行キーを押して、コピーを保管し「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面（5 ページの図 3）に戻ります。

報告書グループの削除

報告書グループを削除したい場合には、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面（5 ページの図 3）からオプション 5「報告書グループの処理」を選択します。

「ONDEMAND の管理の処理 (WRKADMRDAR)」画面（47 ページの図 71）が表示されます。必要な入力を行い、実行キーを押して、図 84 の画面に進みます。

報告書グループの処理		ONDM400
		98/01/04 11:27:48
オプションを入力して、実行キーを押してください。		
1=作成 2=変更 3=コピー 4=削除 5=表示		
OPT	グループ	テキスト
4	<u>INVINFO</u>	送り状 - 関連報告書
	MIKEAL	Mark のグループ
	SHERRILL	パフォーマンスのテスト
	TEST	NN
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し		終わり

図 84. 報告書グループの処理

報告書グループを削除するには**実行キー**、要求を取り消すには F12 を押します。そのグループ名を用いて保存された報告書が存在する場合には、OnDemand は、グループ定義の削除を許可しません。削除の確認を求める確認画面が表示されます。

報告書グループの表示

報告書グループの定義を表示するには、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面（5 ページの図 3）からオプション 5「報告書グループの処理」（47 ページの図 71）を選択します。

「ONDEMAND の管理の処理 (WRKADMRDAR)」画面（47 ページの図 71）が表示されます。必要な入力を行い、**実行キー**を押して、図 85 の画面に進みます。

報告書グループの処理		ONDM400
		98/01/04 11:27:48
オプションを入力して、実行キーを押してください。		
1=作成 2=変更 3=コピー 4=削除 5=表示		
OPT	グループ	テキスト
5	<u>INVINFO</u>	送り状 - 関連報告書
	MIKEAL	Mark のグループ
	SHERRILL	パフォーマンスのテスト
	TEST	NN
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し		終わり

図 85. 報告書グループの処理

実行キーを押すと、57 ページの図 86 の画面が表示されます。

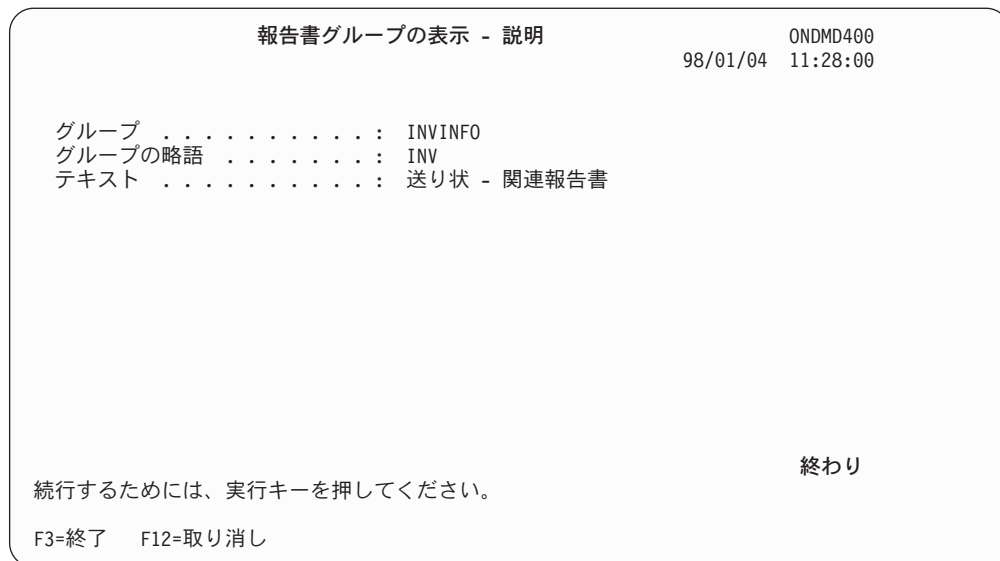


図 86. 報告書グループの表示 - 説明

実行キーを押して、図 87 の画面に進みます。

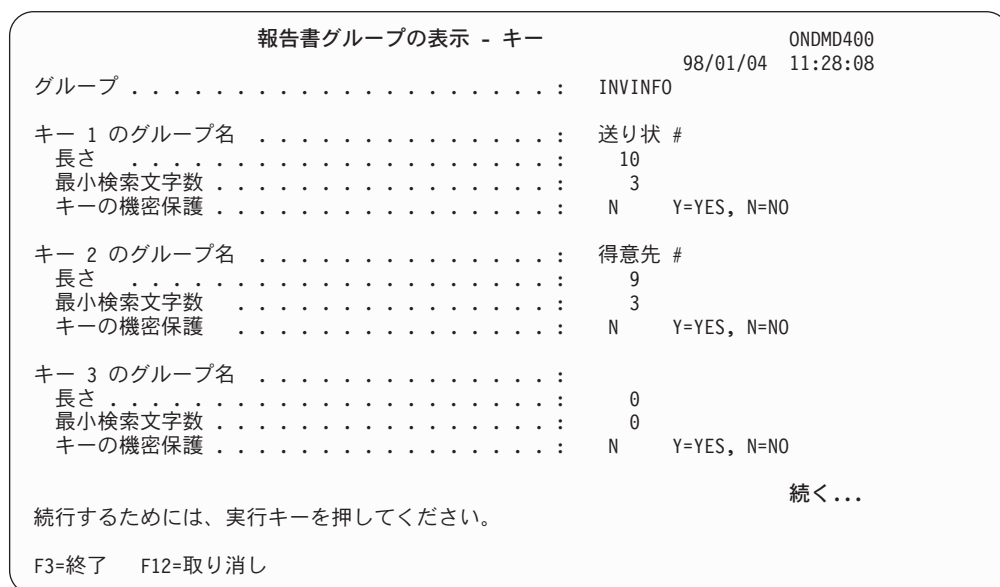


図 87. 報告書グループの表示 - キー (1、2、および 3)

次ページ・キー (**Page Down**) を押すと、58 ページの図 88 の画面が表示されます。

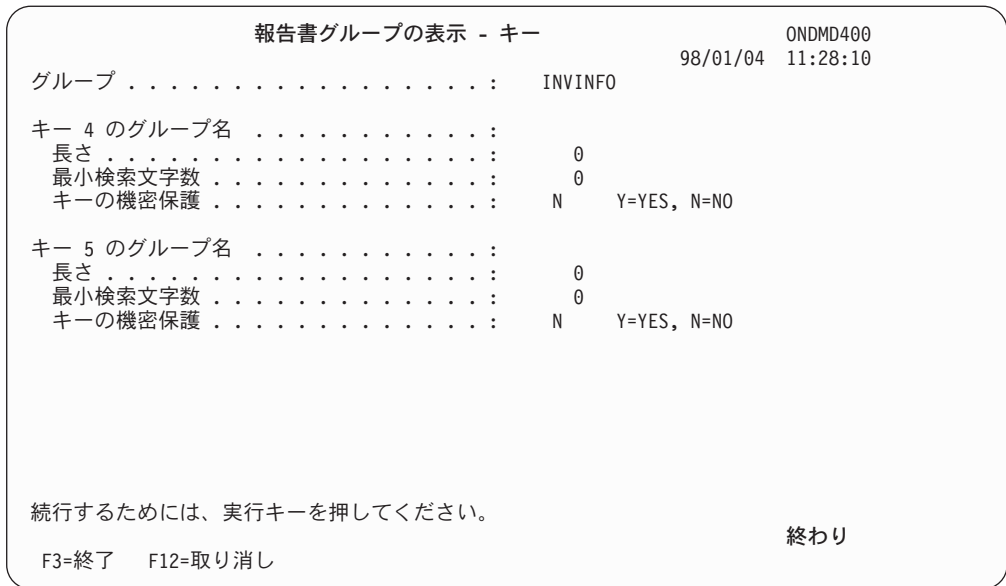


図 88. 報告書グループの表示 - キー (4 および 5)

報告書グループ定義の表示を終了したら、**実行キー**を押して、図 89 の画面に進むことができます。

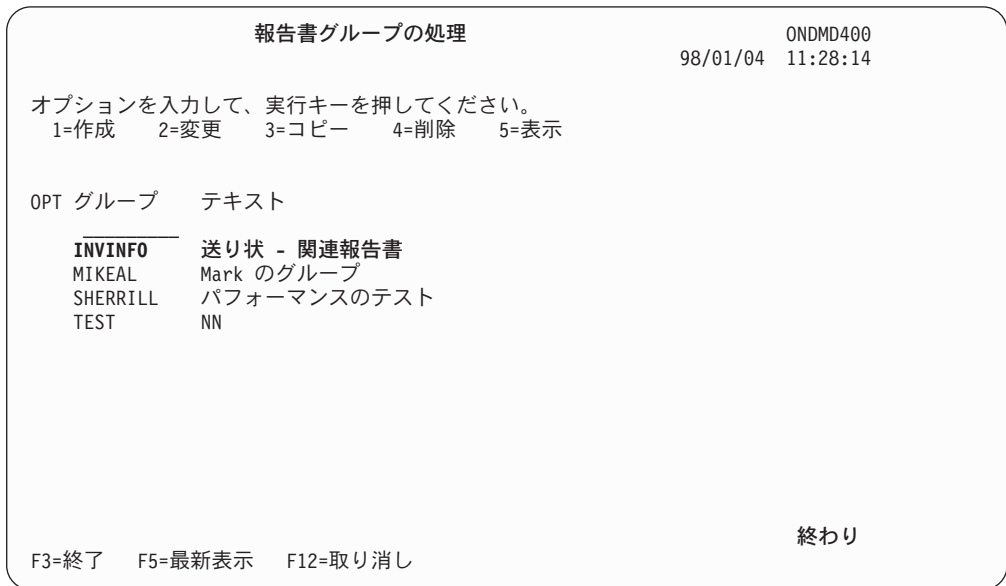


図 89. 報告書グループの処理

他の報告書グループを選択するか、あるいは**実行キー**を押して、「ONDemand 報告書管理メニュー」画面 (5 ページの図 3) に戻ることができます。

オプション 10. OnDemand ユーザーの編集/認可

OnDemand ユーザーには、エンド・ユーザーとシステム管理者の 2 つのタイプがあります。エンド・ユーザーは、保存先からデータを検索してデータに応じて処理を行うのみですが、システム管理者は、報告書定義の作成、光ディスク環境やテープ環境のセットアップ、ある媒体から他の媒体にデータが正しく移行されたかどうかの確認、およびエンド・ユーザーへのアクセス権限の認可など、多くの処理に対する責任があります。

QRDARSADM というグループ・プロファイルについては、132 ページの『スプール・ファイル保存の機密保護の詳細』を参照してください。これにより、OnDemand は、そのユーザーがシステム管理者であることを識別し、高度な管理機能を実行するための適切な権限を認可することができます。

システム管理者として認識されていると、個々の OS/400 ユーザー・プロファイルまたは OS/400 グループ・プロファイルを使用して、エンド・ユーザーに保存データへのアクセスを認可することができます。

権限の認可を開始するには、「OnDemand 報告書管理メニュー」画面（5 ページの図 3）から、オプション 10「OnDemand ユーザーの編集/認可」を選択します。

図 90 の画面が表示されます。

ONDEMAND の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

機密保護機能 >*USER *USER, *RPTGRP, *REPORT, *KEY

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 90. OnDemand の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)

実行キーを押して、60 ページの図 91 の画面に進みます。

権限リスト編集

オブジェクト : QRDARS400 所有者 : QRDARS400
 ライブラリー : QSYS 1 次グループ : *NONE

現行権限に対する変更を入力するには、実行キーを押してください。

ユーザー	オブジェクト 権限	リスト MGT
QRDARS400	*ALL__	X
QRDARSADM	*ALL__	X
TESTID	*CHANGE_	
TBROWN2	*CHANGE_	
*PUBLIC	*EXCLUDE	

終わリ

F3=終了 F5=最新表示 F6=新ユーザーの追加 F11=詳細オブジェクト権限の表示
 F12=取り消し F15=権限リストのオブジェクト表示 F17=最上部 F18=最下部

図 91. 権限リスト編集

この画面には、権限を認可されたユーザーが表示されます。**F6** を押して、図 92 の画面に進みます。

新しいユーザーの追加

オブジェクト : QRDARS400 所有者 : QRDARS400
 ライブラリー : QSYS 1 次グループ : *NONE

新しいユーザーを入力して、実行キーを押してください。

ユーザー	オブジェクト 権限	リスト MGT
TBROWN__	*CHANGE_	
_____	_____	
_____	_____	
_____	_____	
_____	_____	
_____	_____	
_____	_____	
_____	_____	
_____	_____	
_____	_____	

続く...

F3=終了 F11=詳細オブジェクト権限の表示 F12=取り消し F17=最上部
 F18=最下部

図 92. 新しいユーザーの追加

実行キーを押して、61 ページの図 93 の画面に進みます。

ONDEMAND の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

機密保護機能 >*REPORT *USER, *RPTGRP, *REPORT, *KEY
 報告書名 _____ 名前, リストは F4

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
 F24=キーの続き

図 94. OnDemand の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)

使用可能な報告書名を表示するには、**F4** を押して、図 95 の画面に進みます。

パラメーターの値の指定 REPORT

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

タイプ : 名前
 報告書名 CHECKSTMTS

AGEDOC	BILLS
AGEOPN	BRMS50
AIC250	BUDGET
ANNOUNCE	CHECKSTMTS
APCHK	GLDAILY
AP437	GLTRANS
BEL3549	GLXXX

+

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 95. パラメーターの値の指定 REPORT

実行キーを押して、63 ページの図 96 の画面に進みます。

ONDEMAND の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

機密保護機能 >*REPORT *USER, *RPTGRP, *REPORT, *KEY
 報告書名 >CHECKSTMTS 名前, リストは F4

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
 F24=キーの続き

図 96. OnDemand の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)

この画面には、選択した報告書名が表示されます。

実行キーを押して、図 97 の画面に進みます。

権限リスト編集

オブジェクト : CHECKSTMTS 所有者 : QRDARS400
 ライブラリー : QSYS 1次グループ : *NONE

現行権限に対する変更を入力するには、実行キーを押してください。

ユーザー	オブジェクト 権限	リスト MGT
QRDARS4003	*ALL	X
QRDARS400	*ALL	X
QRDARSADM	*ALL	X
SUSAN	*USE	
*PUBLIC	*EXCLUDE	

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F6=新ユーザーの追加 F11=詳細オブジェクト権限の表示
 F12=取り消し F15=権限リストのオブジェクト表示 F17=最上部 F18=最下部

図 97. 権限リスト編集

この画面は、iSeries システムからの情報を収集して、報告書 **CHECKSTMTS** に関する現在の権限状況を表示します。

F6 (F6= 新ユーザーの追加) を押して、64 ページの図 98 の画面に進みます。

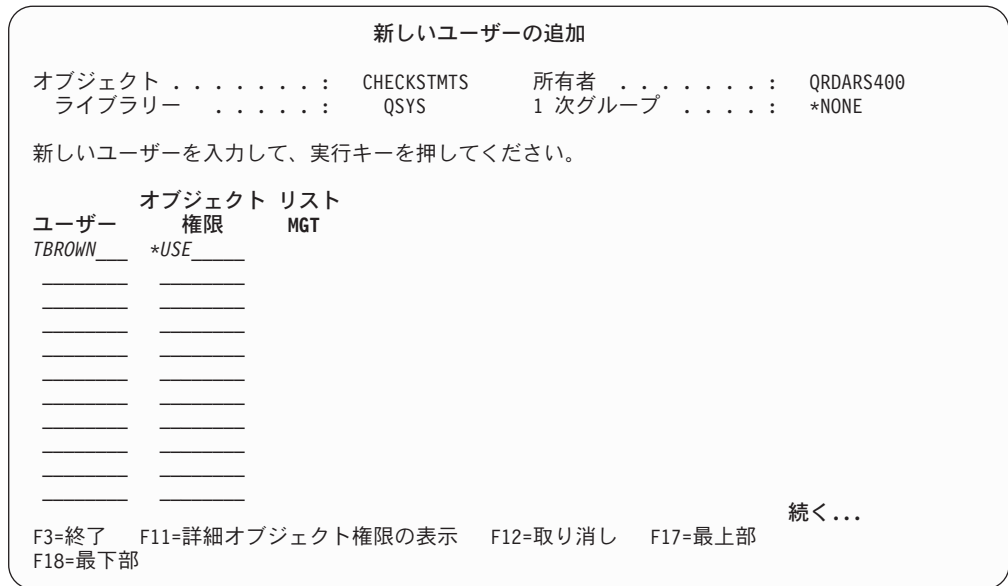


図 98. 新しいユーザーの追加

実行キーを押して、図 99 の画面に進みます。

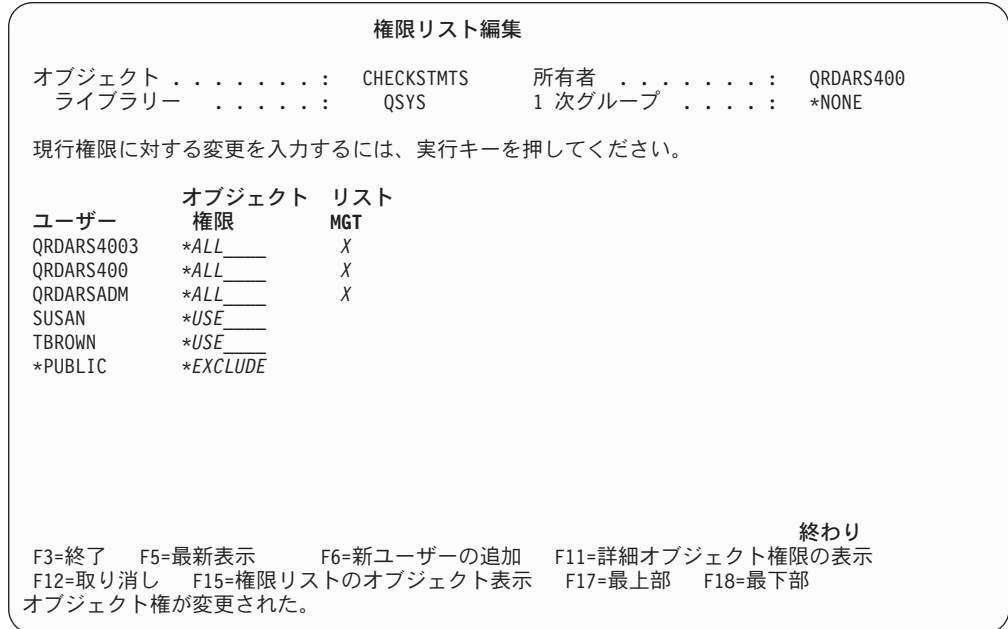


図 99. 権限リスト編集

この画面で、追加した内容を確認します。

実行キーを押すと、「OnDemand 報告書管理メニュー」画面（5 ページの図 3）に戻ります。

オプション 12. OnDemand 報告書グループ・ユーザーの編集/認可

OnDemand システム管理者は、報告書グループへのアクセス権限を各ユーザーに認可する必要があります。

これを行うには、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面（5 ページの図 3）から、オプション 12「OnDemand 報告書グループ・ユーザーの編集/許可」を選択します。**実行キー**を押して、「ONDEMAND の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)」画面（図 100）に進みます。

ONDEMAND の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

機密保護機能 >*RPTGRP *USER, *RPTGRP, *REPORT, *KEY
 報告書グループ _____ 名前, リストは F4

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
 F24=キーの続き

図 100. OnDemand の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)

パラメーターの値の指定 RPTGRP

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

タイプ : 名前
 報告書グループ INVINFO__

INVINFO
 MIKEAL
 SHERRILL
 TEST

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 101. パラメーターの値の指定 RPTGRP

報告書グループのリストが表示されます。

実行キーを押して、「ONDEMAND の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)」画面（66 ページの図 102）に進みます。

ONDEMAND の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

機密保護機能 >*RPTGRP *USER, *RPTGRP, *REPORT, *KEY
 報告書グループ >INVINFO__ 名前、リストは F4

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
 F24=キーの続き

図 102. OnDemand の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)

選択した報告書グループが、この画面で検査されます。

実行キーを押して、「権限リスト編集」画面 (図 103) に進みます。

権限リスト編集

オブジェクト : INVINFO 所有者 : QRDARS4005
 ライブラリー : QSYS 1 次グループ : *NONE

現行権限に対する変更を入力するには、実行キーを押してください。

ユーザー	オブジェクト 権限	リスト MGT
QRDARS4005	*ALL__	X
QRDARS400	*ALL__	X
QRDARSADM	*ALL__	X
*PUBLIC	*EXCLUDE	

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F6=新ユーザーの追加 F11=詳細オブジェクト権限の表示
 F12=取り消し F15=権限リストのオブジェクト表示 F17=最上部 F18=最下部

図 103. 権限リスト編集

この画面は、iSeries システムからの情報を収集して、報告書グループ **INVINFO** に関する現在の権限状況を表示します。

F6 (F6= 新ユーザーの追加) を押して、「新しいユーザーの追加」画面 (67 ページの図 104) に進みます。

新しいユーザーの追加

オブジェクト : INVINFO 所有者 : QRDARS4005
 ライブラリー : QSYS 1 次グループ : *NONE

新しいユーザーを入力して、実行キーを押してください。

ユーザー	オブジェクト 権限	リスト MGT
TBROWN	*USE	
_____	_____	
_____	_____	
_____	_____	
_____	_____	
_____	_____	
_____	_____	
_____	_____	
_____	_____	

続く...

F3=終了 F11=詳細オブジェクト権限の表示 F12=取り消し F17=最上部
 F18=最下部

図 104. 新しいユーザーの追加

実行キーを押して、「権限リスト編集」画面 (図 105) に進みます。

権限リスト編集

オブジェクト : INVINFO 所有者 : QRDARS400
 ライブラリー : QSYS 1 次グループ : *NONE

現行権限に対する変更を入力するには、実行キーを押してください。

ユーザー	オブジェクト 権限	リスト MGT
QRDARS4003	*ALL	X
QRDARS400	*ALL	X
QRDARSADM	*ALL	X
TBROWN	*USE	
*PUBLIC	*EXCLUDE	

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F6=新ユーザーの追加 F11=詳細オブジェクト権限の表示
 F12=取り消し F15=権限リストのオブジェクト表示 F17=最上部 F18=最下部
 オブジェクト権が変更された。

図 105. 権限リスト編集

確認メッセージが表示されます。

実行キーを押すと、「OnDemand 報告書管理メニュー」画面 (5 ページの図 3) に戻ります。

オプション 13. キーの機密保護の処理

OnDemand システム管理者は、ユーザーのアクセス権限を報告書の特定の部分に限定することができます。このような権限の限定は、個々のユーザーに対して特定の範囲のキー値へアクセスできるよう認可することによって行われます。このようにすると、個々のユーザーはそのキー・フィールドを使用して報告書の該当セグメント以外のセグメントにはアクセスできなくなります。これを行うには、ユーザー・プロファイル、グループ・プロファイル、または総称プロファイル ***PUBLIC** を使用します。

報告書の各キーについて:

- ***ALL** のキー範囲を伴う ***PUBLIC** 項目は、すべてのユーザーに報告書のすべてのセグメントへのアクセスを許します (ただし、他の明示権限を与えていない場合)。

***ALL** のキー範囲を伴う ***PUBLIC** を定義し、特定のキー範囲で特定のユーザー (または、グループ) ・プロファイルを定義すると、そのユーザー (または、グループ) は許可されたキー範囲内にあるセグメントのみを表示することができます。このようなユーザー (またはグループ) は、報告書の他の部分にはアクセスできません。他のすべてのユーザーは、報告書のすべてのセグメントにアクセスすることができます。

***PUBLIC** を使用しない場合には、自分自身のユーザー・プロファイルまたはグループ・プロファイルが権限を持っている場合に限り、報告書の任意の個所を見ることができます。

OnDemand の機密保護に関する例および詳細な説明については、132 ページの『スプール・ファイル保存の機密保護の詳細』を参照してください。

キー値へのアクセスを認可するには、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面 (5 ページの図 3) から、オプション 13 「キーの機密保護の処理」を選択します。69 ページの図 106 の画面が表示されます。機密保護が定義される各キーの報告書定義において、キーの機密保護 フィールドに **Y** を指定する必要があることにも注意してください。

ONDEMAND の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

機密保護機能 >*KEY *USER, *RPTGRP, *REPORT, *KEY
 報告書名 CHECKSTMTS 名前, リストは F4
 バージョン 01_ 01-99

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
 F24=キーの続き

図 106. OnDemand の機密保護の処理 (WRKSECRDAR)

実行キーを押して、図 107 の画面に進みます。

機密保護キーの選択

ONDM400
98/01/31 17:32:22

報告書 : CHECKSTMTS
 バージョン : 01
 テキスト : Check Statements (OnDemand Sample)

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1=選択

オプション	キー	機密保護	
		Account Number	使用不可能
		SSN / Tax-ID	使用不可能
		Cust Name	使用不可能

終わり

F3=終了 F12=取り消し

図 107. 機密保護キーの選択

この画面には、指定の報告書に定義されているキーのリストが表示されます。

キー権限の認可

アクセスを認可するキーの前に **1** を入力します。この例では、**CHECKSTMTS** にキー **1** が定義されている**会計番号**を使用します。

実行キーを押すと、「機密保護キー 1 の処理」画面 (70 ページの図 108) が表示されます。

注: キー 2、3、4、および 5 を処理する際も、キー 1 に関する説明と同じ手順に従います。キー・フィールドを除き、画面レイアウトは同一です。

機密保護キー 1 の処理		ONDMD400
報告書 :	CHECKSTMTS	98/01/31 17:29:36
キー 1 :	Account Number	
オプションを入力して、実行キーを押してください。 1=作成 2=変更 4=削除		
オプション	最低値	最高値
1	000000000	299999999
_____ + _____	_____	_____
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し		終わり

図 108. 機密保護キー 1 の処理

機密保護キー範囲の作成		ONDMD400
報告書 :	CHECKSTMTS	98/01/31 17:30:06
キー 1 :	Account Number	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キーの範囲:		
最低値	000000000	_____
最高値	299999999	_____
プロファイル名	TBROWN	_____
	QRDARS400	_____
	MAMIKEAL	_____
	NOBRIEN	_____
	REPPLEY	_____
	CALLEN	_____
	_____	_____
	_____	_____
	_____	_____
F3=終了	F12=取り消し	

図 109. 機密保護キー範囲の作成

実行キーを押して、71 ページの図 110 の画面に進みます。

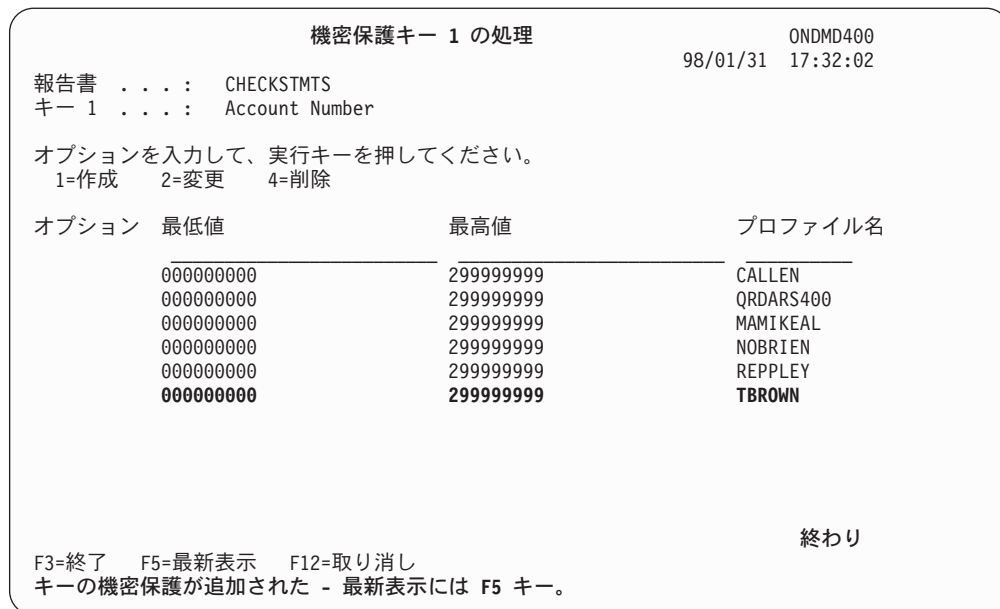


図 110. 機密保護キー 1 の処理

この画面で、追加した内容を確認します。

キー権限の変更

図 111 の画面を使用して、既存のキー 1 の機密保護権限を変更することができます。

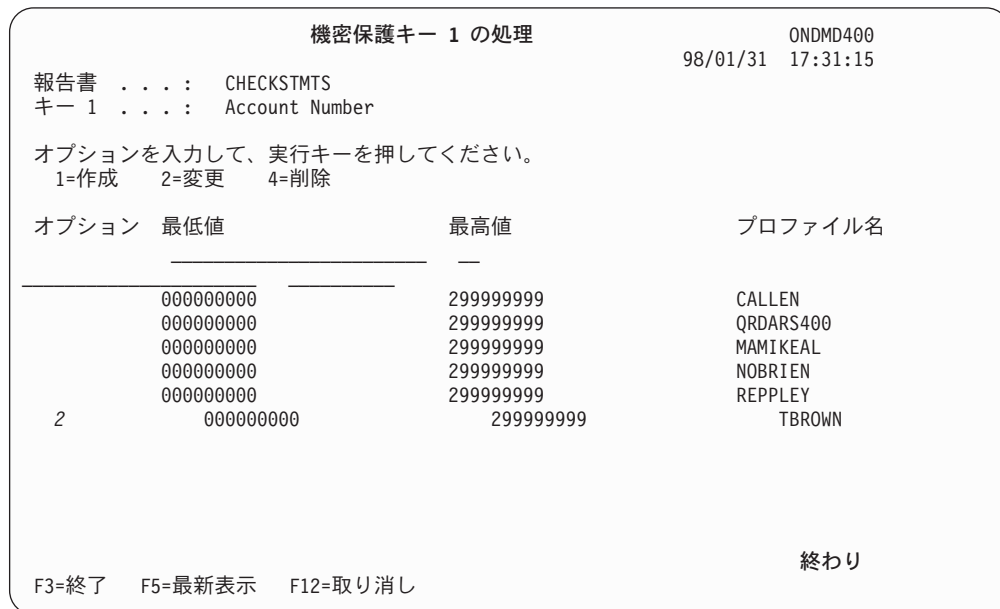


図 111. 機密保護キー 1 の処理

実行キーを押して、72 ページの図 112 の画面に進みます。

注: キー 2、3、4、および 5 を処理する際も、キー 1 に関する説明と同じ手順に従います。キー・フィールドを除き、画面レイアウトは同一です。

機密保護キー範囲の変更

ONDMD400
98/01/31 17:31:35

報告書 : CHECKSTMTS
キー 1 : Account Number

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

キーの範囲：
 最低値 500000000
 最高値 599999999
 プロファイル名 TBROWN

F3=終了 F12=取り消し

図 112. 機密保護キー範囲の変更

実行キーを押すと、図 113 の画面に変更内容が表示されます。

機密保護キー 1 の処理

ONDMD400
98/01/31 17:31:46

報告書 : CHECKSTMTS
キー 1 : Account Number

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=作成 2=変更 4=削除

オプション	最低値	最高値	プロファイル名
	000000000	299999999	CALLEN
	000000000	299999999	QRDARS400
	000000000	299999999	MAMIKEAL
	000000000	299999999	NOBRIEN
	000000000	299999999	REPPLEY
	500000000	599999999	
	TBROWN		

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 113. 機密保護キー 1 の処理

この画面には、変更内容が表示されます。

キー権限の削除

73 ページの図 114 の画面を使用して、ユーザー・プロファイルまたはグループ・プロファイルのキー・アクセス権限を削除することができます。

機密保護キー 1 の処理			ONDMD400
			98/01/31 17:32:04
報告書	CHECKSTMTS		
キー 1	Account Number		
オプションを入力して、実行キーを押してください。			
	1=作成 2=変更 4=削除		
オプション	最低値	最高値	プロファイル名
	_____	_____	
	000000000	299999999	CALLEN
	000000000	299999999	QRDARS400
	000000000	299999999	MAMIKEAL
	000000000	299999999	NOBRIEN
	000000000	299999999	REPPLEY
4	500000000	599999999	TBROWN
			終わり
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し			

図 114. 機密保護キー 1 の処理

実行キーを押して、図 115 の画面に進みます。

注: キー 2、3、4、および 5 を処理する際も、キー 1 に関する説明と同じ手順に従います。キー・フィールドを除き、画面レイアウトは同一です。

機密保護キーの削除の確認			ONDMD400
			98/01/31 17:32:12
報告書	CHECKSTMTS		
キー 1	Account Number		
「4=削除」の選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。			
選択項目を変更するためには「F12=取り消し」キーを押して戻ってください。			
キーの範囲:			
	最低値	500000000	
	最高値	599999999	
	プロファイル名	TBROWN	
F12=取り消し			

図 115. 機密保護キーの削除の確認

削除するデータを確実に選択したら、**実行キー**を押して、74 ページの図 116 の画面に進みます。

正しくないデータを選択した場合は、**F12** を押して、図 114 の画面に戻ります。

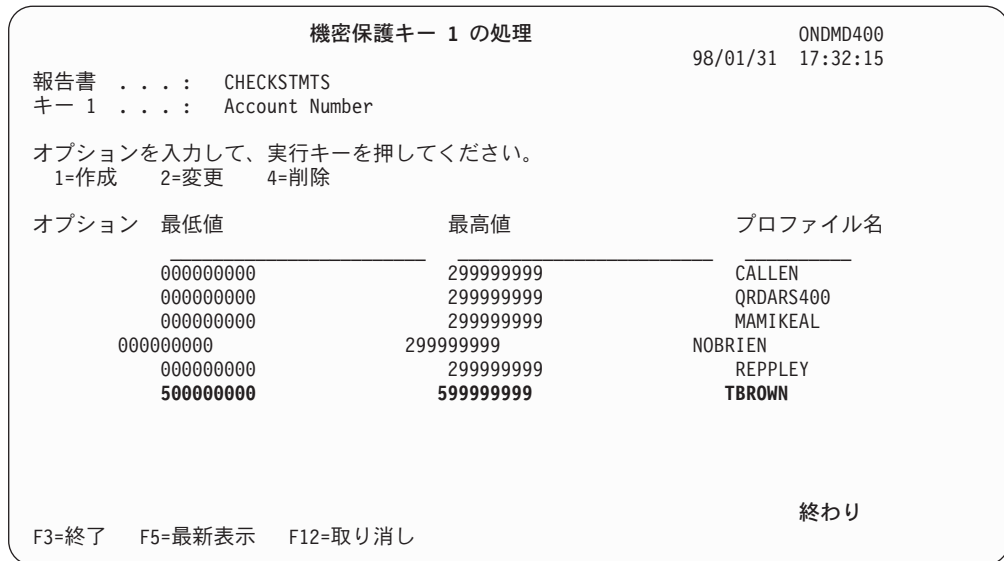


図 116. 機密保護キー 1 の処理

この画面で、データが削除されたことを確認します。

オプション 20. 報告書定義メニュー

報告書进行处理するには、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面（5 ページの図 3）にアクセスします。

オプション 20 を選択すると、図 117 の画面が表示されます。

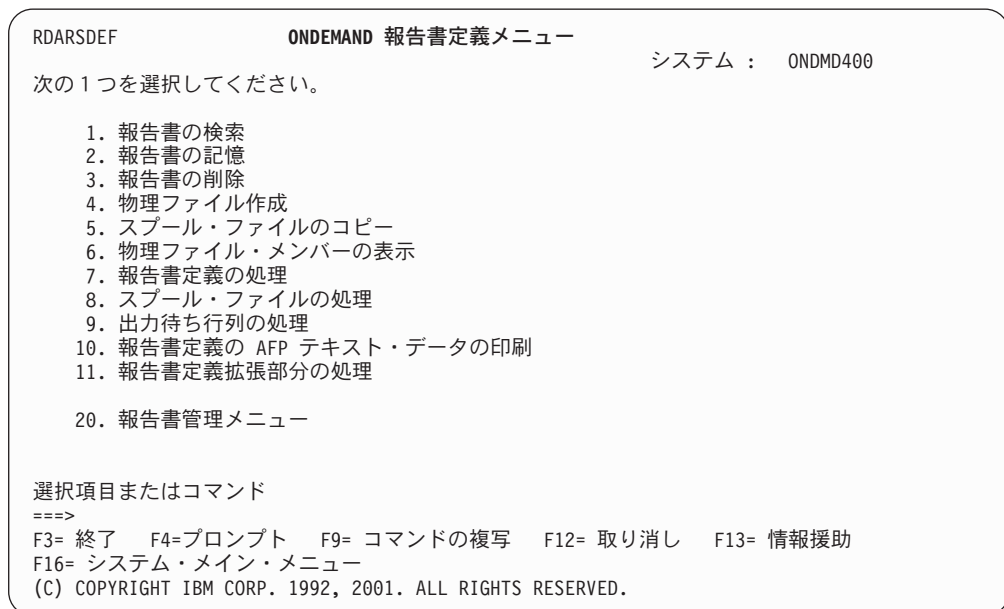


図 117. OnDemand 報告書定義メニュー

この画面のオプションは、このセクションですべて説明しているので、これ以降、繰り返し示しません。

オプション 1. 報告書の検索

報告書の検索は、エンド・ユーザー向けの機能であり、これについては 293 ページの『第 8 章 OnDemand スプール・ファイル保存エンド・ユーザーとしての作業』で説明しています。

オプション 2. 報告書の記憶

以下の画面は、定義された報告書の記憶 (収集) に使用されます。報告書の記憶を開始するには、「OnDemand 報告書定義メニュー」画面 (74 ページの図 117) から、オプション 2「報告書の記憶」を選択します。

「コード化データ記憶の開始 (STRCDSRDAR)」画面 (図 118) が表示されます。

コード化データ記憶の開始 (STRCDSRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

報告書名	CHECKSTMTS	名前, リストは F4
バージョン	01	01-99, *HIGHEST
テキスト	'記述'	*BLANK	_____
入力ファイル	*SPLF	名前, *SPLF
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F10=追加のパラメーター
F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 118. コード化データ記憶の開始 (STRCDSRDAR)

実行キーを押して、76 ページの図 119 の画面に進みます。

コード化データ記憶の開始 (STRCDSRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

報告書名	> CHECKSTMTS	名前, リストは F4
バージョン	01	01-99, *HIGHEST
テキスト '記述'	*BLANK	
<hr/>		
入力ファイル	*SPLF ____	名前, *SPLF
ライブラリー	____	名前, *LIBL, *CURLIB
スプール・ファイル	QSYSPRT ____	名前
ジョブ名	* ____	名前, *
ユーザー	____	名前
番号	____	000000-999999
スプール・ファイル番号	*ONLY_	0000-9999, *ONLY, *LAST
入力ファイルの削除	*NO_	*NO, *YES

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F10=追加のパラメーター
F12=取り消し F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 119. コード化データ記憶の開始 (STRCDSRDAR)

(前の画面で入力ファイル・フィールドに ***SPLF** を入力すると、追加されたフィールドがこの画面に表示されます。)

実行キーを押して報告書の収集を開始するか、または **F10** を押して追加パラメーターの確認または変更を行います。

報告書を収集すると、**QPRLRCDS** というスプール・ファイル名を持つ報告書に書き込まれます。この報告書を表示するには、「ONDEMAND 報告書定義メニュー」画面 (74 ページの図 117) から、83 ページの『オプション 8. スプール・ファイルの処理』を選択します。

オプション 3. 報告書の削除

記憶された報告書を削除するには、「ONDEMAND 報告書定義メニュー」画面 (74 ページの図 117) からこのオプションを選択します。77 ページの図 120 の画面が表示されます。

ONDEMAND の報告書の削除 (DLTRPTRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

報告書名	CHECKSTMTS	名前, リストは F4
バージョン	01	01-99
報告書日付	19950331	日付 (YYYYMMDD)
報告書順序番号	001	001-999

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F10=追加のパラメーター F12=取り消し
F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 120. OnDemand の報告書の削除 (DLTRPTRDAR)

入力が完了したら、**実行キー**を押すか、または **F10** を押して、追加のパラメーターの確認または変更を行います。

報告書を削除する過程でエラーが生じた場合、そのエラーは、スプール・ファイル名 **QPRLCERR** という報告書に書き込まれます。この報告書を表示するには、74 ページの図 117 の画面から 83 ページの『オプション 8. スプール・ファイルの処理』を選択します。

オプション 4. 物理ファイル作成

報告書のセグメンテーションの値およびキー情報を見つけるには、まずスプール出力データを物理ファイルにコピーする必要があります。こうしておくことにより、後で該当するデータの行と桁の位置を見つけることができます。これは、報告書を最初に OnDemand に定義する際、一度だけ行います。スプール・ファイル・データのコピーについては、オプション 5 で説明します。

注: スプール・ファイルに AFPDS が含まれている場合には、この処理を行うことはできません。代わりに、「報告書定義メニュー」画面から 83 ページの『オプション 10. 報告書定義の AFP テキスト・データの印刷』を選択し、AFPDS 報告書のデータ部分を示す印刷出力を作成します。これにより、同様の方法で行および桁の位置を識別することができます。

まず、データを入れる物理ファイルを作成します。オプション 4「物理ファイル作成」を選択すると、78 ページの図 121 の画面に進みます。

物理ファイル作成 (CRTPF)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ファイル	CHECKSTMTS	名前
ライブラリー	MYLIB _____	名前, *CURLIB
DDS がない場合のレコード長 . . . >	133 _____	番号
生成重大度レベル	20 _____	0-30
フラグづけ重大度レベル	0 _____	0-30
必要な場合にはメンバー	*FILE _____	名前, *FILE, *NONE
テキスト '記述'	*SRCMBRTXT _____	

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F10=追加のパラメーター
F12=取り消し F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 121. 物理ファイル作成 (CRTPF)

使用するフィールドは、ファイル、ライブラリー、および **DDS がない場合のレコード長**です。

通常、標準用紙の報告書用に対応する **133** を入力します。これは、132 桁の幅に紙送り制御文字の 1 桁を加えた長さを意味します。送り状などの他の報告書では、81 のレコード長 (報告書の 80 桁に紙送り制御用の 1 文字を加えた長さ) が必要になることがあります。

このフィールドに正しい値を設定するには、定義されている報告書のスプール・ファイル属性を表示して、ページ・サイズ・パラメーターの幅 フィールドを調べます。該当する値に、紙送り機構制御文字用の 1 を加えます。

- 残りの他のフィールドは、デフォルト値のままにします。
- **F10** (F10= 追加のパラメーター) を押します。
- 次ページ・キーを押して 2 番目の画面を表示して、初期レコード数フィールドに注意してください。ここには ***NOMAX**、または使用したい報告書の行数を入力します。

報告書のデータ行が 10 000 を超える場合には、それらのデータ行の 10% だけを用いてテストすることをお勧めします。報告書が正しく記憶されたら、少なくとも 1 回は、報告書全体を用いたテストを実行します。

実行キーを押して、該当する物理ファイルを作成します。

オプション 5. スプール・ファイルのコピー

報告書のセグメンテーションの値およびキー情報を検索するには、報告書スプール・ファイルを物理ファイルにコピーします。これは、先頭文字用紙制御 (*FCFC) パラメーターを指定した、スプール・ファイル・コピー (CPYSPLF) コマンドを使用して実行します。

この場合、その新しい物理ファイルには、データの各行の先頭文字として紙送り制御文字を含むスプール・データが入ります。その物理ファイルを表示し、そのファ

イルをページの先頭に位置づけると (用紙制御文字 1 が各行の先頭に入る)、セグメンテーション、索引、および表示の各データの位置を判別することができます。

物理ファイルの作成、およびその物理ファイルへのスプール・データのコピーは、最初に報告書定義の段階で 1 回だけ行う必要があります。これによりその後は、必要な報告書はスプール・ファイルから直接収集されます。

注: スプール・ファイルに AFPDS が含まれている場合には、この処理を行うことはできません。代わりに、「報告書定義メニュー」画面から 83 ページの『オプション 10. 報告書定義の AFP テキスト・データの印刷』を選択し、AFPDS 報告書のデータ部分を示す印刷出力を作成します。これにより、同様の方法で行および桁の位置を識別することができます。

スプール・ファイルの報告書データを物理ファイル (77 ページの『オプション 4. 物理ファイル作成』で作成) にコピーする場合に必要な、スプール・ファイルに関する情報を検索するには、以下のようにします。

- 「ONDEMAND 報告書定義メニュー」画面 (74 ページの図 117) から、オプション 9 「出力待ち行列の処理」を選択して、該当するスプール・ファイルを含む出力待ち行列の名前を入力します。

または

- OS/400 コマンド行で、次のように入力します。

WRKOUTQ <スプール・ファイルを含む待ち行列の名前>

たとえば、そのスプール・ファイルが待ち行列 **TESTQ** にある場合には、コマンドは次のようになります。

WRKOUTQ TESTQ

実行キーを押すと、図 122 の画面に進みます。

出力待ち行列処理

待ち行列: TESTQ ライブラリー: QUSRSYS 状況: RLS

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1=送信 2=変更 3=保留 4=削除 5=表示 6=解放 7=メッセージ
 8=属性 9=印刷状況の処理

OPT	ファイル	ユーザー	ユーザー・データ	STS	ページ	部数	用紙タイプ	PTY
	QSYSVRT	DAVE		RDY	2881*	1	*STD	5
	CHECKS	LOUISVIL	CHK01RPG	SAV	504	1	INV	5
	QSYSVRT	BOB	*PRINT*	HLD	4*	1	*STD	5
	QSYSVRT	DAVE	SAVE	HLD	4*	1	*STD	5
	QPQUPRFIL	SUE		SAV	2	1	*STD	5

オプション 1, 2, 3 のパラメーターまたはコマンド
 ==>
 F3=終了 F11=ビュー 2 F12=取り消し F20=書き出しプログラム F22=印刷装置
 F24=キーの続き

図 122. 出力待ち行列処理

使用したい報告書の前に 9 (9= 印刷状況の処理) を入力する必要があります。

実行キーを押すと、図 123 の画面に進みます。

印刷状況処理			
ジョブ	DSP05	ファイル	CHECKS
ユーザー	LOUISVIL	番号	4
番号	020389	ユーザー・データ	CHK01RPG
オプションを入力して、Enter キーを押してください。 2=状況の変更 5=詳細記述の表示			
OPT	状況記述	このファイルは、開始された印刷装置と対応していない。	
			終わり
コマンド			
====>			
F3=終了	F4=プロンプト	F5=最新表示	F9=コマンドの複写 F12=取り消し

図 123. 印刷状況処理

この画面には、選択したファイルに関する情報が表示されます。

キー位置やセグメンテーションなどを検索するためにスプール・ファイルを物理ファイルにコピーする際に使用する情報 (次画面参照) を記録します。

実行キーを押すと、「ONDEMAND 報告書定義メニュー」画面 (74 ページの図 117) に戻ります。

スプール・ファイルを新しい物理ファイルにコピーするには、「ONDEMAND 報告書定義メニュー」画面 (74 ページの図 117) から、オプション 5「スプール・ファイルのコピー」を選択します。

81 ページの図 124 の画面が表示されます。

スプール・ファイル・コピー (CPYSPLF)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

スプール・ファイル	<u>CHECKS</u> _____	名前
T0 データベース・ファイル	<u>CHECKSTMTS</u> _____	名前
ライブラリー	<u>MYLIB</u> _____	名前, *LIBL, *CURLIB
ジョブ名	<u>DSP05</u> _____	名前, *
ユーザー	<u>LOUISVIL</u> _____	名前
番号	<u>020389</u> _____	000000-999999
スプール・ファイル番号	<u>4</u> _____	1-9999, *ONLY, *LAST
T0 メンバー	<u>*FIRST</u> _____	名前, *FIRST
レコードの置き換えまたは追加	> <u>*REPLACE</u> _____	*REPLACE, *ADD

追加のパラメーター

制御文字	> <u>*FCFC</u> _____	*NONE, *FCFC, *PRTCTL...
----------------	----------------------	--------------------------

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F10=追加のパラメーター F12=取り消し
F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 124. スプール・ファイル・コピー (CPYSPLF)

実行キーを押すと、該当するスプール・ファイルが物理ファイルにコピーされます。

オプション 6. 物理ファイル・メンバーの表示

「報告書定義メニュー」画面 (74 ページの図 117) から、オプション 6「物理ファイル・メンバーの表示」を選択します。82 ページの図 125 の画面が表示されます。

注: スプール・ファイルに AFPDS が含まれている場合には、この処理を行うことはできません。代わりに、「報告書定義メニュー」画面から 83 ページの『オプション 10. 報告書定義の AFP テキスト・データの印刷』を選択し、AFPDS 報告書のデータ部分を示す印刷出力を作成します。これにより、同様の方法で行および桁の位置を識別することができます。

物理ファイル・メンバー表示 (DSPPFM)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ファイル	CHECKSTMTS	名前
ライブラリー	MYLIB _____	名前, *LIBL, *CURLIB
メンバー	*FIRST _____	名前, *FIRST, *LAST
開始レコード	1 _____	番号, *END

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 125. 物理ファイル・メンバー表示 (DSPPFM)

実行キーを押して、「物理ファイル・メンバー表示」画面 (図 126) に進みます。

物理ファイル・メンバー表示

ファイル	CHECKSTMTS	ライブラリー	MYLIB
メンバー	CHECKSTMTS	レコード	1
制御	_____	桁	1
検索	_____		

*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...+...
1

P. O. BOX 897
MYRTLE BEACH, S.C. 29578

LMW INC DBA LOCAL METALWORKERS
P O BOX 14664
SURFSIDE BEACH SC
SURFSIDE BEACH SC 29587

0
0PAGE 1 OF 2

続く...

F3=終了 F12=取り消し F19=左 F20=右 F24=キーの続き

図 126. 物理ファイル・メンバー表示

このファイルを表示することにより、報告書データ内のデータの位置 (行および桁) を判別することができます。

オプション 7. 報告書定義の処理

このオプションを選択して表示される画面およびフィールドは、19 ページの『オプション 4. 報告書定義の処理』における画面およびフィールドと同じです。詳細については、該当するセクションを参照してください。

オプション 8. スプール・ファイルの処理

これは、便宜のために OnDemand のメニューに表示される OS/400 のコマンドです。

オプション 9. 出力待ち行列の処理

これは、便宜のために OnDemand のメニューに表示される OS/400 のコマンドです。

オプション 10. 報告書定義の AFP テキスト・データの印刷

AFPDS スプール・ファイルのセグメンテーション、キーおよび表示フィールドの各値を定義するために、スプール・ファイル・コピーで処理されない AFP テキスト・データまたは SCS データを印刷するには、「報告書定義メニュー」画面（74 ページの図 117）にアクセスします。AFPDS スプール・ファイルの場合には、オプション 4、5、および 6（物理ファイルの作成、スプール・ファイルのコピー、物理ファイル・メンバーの表示）ではなく、このオプションを選択します。OS/400 では、AFPDS データについてスプール・ファイルのコピーを行うことはできません。また、「スプール・ファイルのコピー」コマンドを使用した場合には、完全な SCS 属性の一部が省略されることがあります。スプール・ファイルのコピーで SCS スプール・ファイルをコピーできない場合には、OnDemand 報告書のデータ・タイプを（*OTHER ではなく）*SCS に変更し、PRTTXTRDAR を使用して報告書を定義してください。スプール・ファイル・コピーで SCS スプール・ファイル・データを正常にコピーできた場合には、報告書データ・タイプ *OTHER で正常に処理されるはずですが。

このオプションを選択すると、図 127 の画面が表示されます。

AFP スプール・ファイル・テキストの印刷 (PRTTXTRDAR)		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
スプール・ファイル	AFPDSOUT	名前
ジョブ名	DSP11	名前 , *
ユーザー	DAVE	名前
番号	030256	000000-999999
スプール・ファイル番号	*ONLY	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY
ジョブ・システム名	*ONLY	名前 , *ONLY, *CURRENT, *ANY
作成されたスプール・ファイル :		
作成日	*ONLY	日付 , *ONLY, *LAST
作成		時刻 , *ONLY, *LAST
印刷するページ範囲 :		
開始ページ	1	数値
終了ページ	10	数値 , *END
報告書名	*NONE	*NONE, BILLS, CHECKSTMTS...
バージョン	01	01-99, *HIGHEST

終り

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F10= 追加のパラメーター
F12= 取り消し F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

図 127. AFP スプール・ファイル・テキストの印刷 (PRTTXTRDAR)

2 つの新しいフィールド **報告書名** および **バージョン** に注意してください。

オプション 1. 報告書の記憶

このオプションを選択して表示される画面およびフィールドは、74 ページの『オプション 20. 報告書定義メニュー』、および 75 ページの『オプション 2. 報告書の記憶』における画面およびフィールドと同じです。詳細については、該当するセクションを参照してください。

オプション 2. 報告書の削除

このオプションを選択して表示される画面およびフィールドは、76 ページの『オプション 3. 報告書の削除』における画面およびフィールドと同じです。

オプション 3. 報告書の印刷

セグメンテーションおよび記憶を行った後で、1 つのスプール・ファイル報告書全体を印刷するには、「ONDEMAND 報告書ユーティリティー・メニュー」画面からオプション 3「報告書の印刷」を選択します。図 129 の画面が表示されます。

ONDEMAND の報告書の印刷 (PRTRPTRDAR)		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
報告書名	CHECKSTMTS	名前, リストは F4
バージョン	01	01-99
報告書日付	19950331	日付 (YYYYMMDD)
報告書順序番号	001	001-999
印刷装置	*outq	名前, *OUTQ
終わり		
F3=終了	F4=プロンプト	F5=最新表示
F10=追加のパラメーター	F12=取り消し	
F13=この画面の使用法	F24=キーの続き	

図 129. OnDemand の報告書の印刷 (PRTRPTRDAR)

印刷装置 フィールドに ***OUTQ** を入力し、実行キーを押して、86 ページの図 130 の画面に進みます。

ONDEMAND の報告書の印刷 (PRTRPTRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

報告書名	>CHECKSTMTS	名前, リストは F4
バージョン	>01	01-99
報告書日付	>19950331	日付 (YYYYMMDD)
報告書順序番号	>001	001-999
印刷装置	>*OUTQ	名前, *OUTQ
出力待ち行列	*JOB	名前, *JOB
ライブラリー	_____	名前, *LIBL, *CURLIB

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F10=追加のパラメーター
F12=取り消し F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 130. OnDemand の報告書の印刷 (PRTRPTRDAR)

実行キーを押すと、印刷が行われます。

印刷が正常に行えない場合は、エラー・メッセージ (複数の場合もある) がスプール・ファイル名 **QPRLRERR** を持つ報告書に書き込まれます。この報告書を表示するには、「報告書定義メニュー」画面 (74 ページの図 117) から、オプション 8 「スプール・ファイルの処理」を選択します。エラーを訂正し、「報告書の印刷」オプションを再度実行します。

オプション 4. 報告書管理サイクルの開始

報告書管理サイクルを開始するには、次のいずれかを行います。

- 「ONDEMAND 報告書ユーティリティー・メニュー」画面からオプション 4 「報告書管理サイクルの開始」を選択する。
- **STRMCRDAR** コマンドを制御言語 (CL) プログラムに追加する。
- **STRMCRDAR** コマンドを入力して、**F4** を押す。

87 ページの図 131 の画面が表示されます。

報告書管理サイクルの開始 (STRMCRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

実行する処理	*ALL _____	*ALL, *MIGRATION, *EXPIRATION
報告書ポリシー	*ALL _____	名前, 総称*, *ALL...
移行状況のログ	*NO	*NO, *YES
障害メッセージの送信	*NO	*NO, *YES

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F10=追加のパラメーター F12=取り消し
F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 131. 報告書管理サイクルの開始 (STRMCRDAR)

実行キーを押してサイクルを開始するか、または **F10** を押してバッチへの投入、ジョブ記述、およびライブラリーのフィールドの確認または変更を行います。障害メッセージの送信 フィールドに ***YES** を入力した場合には、別のフィールドが表示されるので、そのフィールドに **OnDemand** がメッセージを送信できる、メッセージ待ち行列の名前を入力します。

報告書管理サイクル活動の詳細を示す統計報告書は、この処理が実行されるたびに生成されます。

オプション 5. 出力待ち行列モニターの開始

このモニターは、出力待ち行列のスパール出力を頻繁に検査し、スパール・ファイルの到着時に **OnDemand** がそのスパール・ファイルを収集できるようにします。

モニター・プログラムはバッチ環境でのみ使用することをお勧めします。

通常、テスト過程では、コマンドやメニュー・オプションを使用して、報告書を定義したり、手動操作によって保管します。報告書の実稼働が可能な場合には、**OnDemand** モニターを用いてその保管を自動化できます。ただし、これは報告書定義で入力した報告書名に対応する報告書の ***SPLFNAME**、***FORMTYPE**、または ***USERDATA** の各スパール・ファイル属性を使用する場合に限られます。

スパール・ファイルは、モニターする出力待ち行列上で使用可能状態 (**RDY**) になっていなければなりません。

モニターが出力待ち行列に対して開始された最初の時点で、**OnDemand** は、データ待ち行列を作成し、モニターされる出力待ち行列に接続します。その待ち行列に既にスパール・ファイルが存在する場合は、モニターはそれらを検出しません。このような場合には、それらのスパール・ファイルをいったん保留にし、その後で解放してください。これにより、モニターはそれらのスパール・ファイル検出し処理できるようになります。これは、特定の出力待ち行列に対してモニター・ジョブが開始される最初の時点でのみ必要になります。

スプール・ファイルが特定の出力待ち行列に到着した時点で報告書の収集を自動的に開始するには、「ONDEMAND 報告書ユーティリティー・メニュー」画面から、オプション 5「出力待ち行列モニターの開始」を選択します。(STRMONRDAR コマンドを発行するか、このコマンドをジョブ・スケジューラーに追加することもできます。) モニターに関する追加情報は、150 ページの『スプール・ファイル保存についてのヒント』を参照してください。図 132 の画面が表示されます。

ONDEMAND のモニターの開始 (STRMONRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

出力待ち行列	MYOUTQ _____	名前
ライブラリー	*LIBL _____	名前, *LIBL, *CURLIB
報告書名として使用する値:		
最初を検査	*SPLFNAME _____	*SPLFNAME, *FORMTYPE...
次を検査	*NONE _____	*NONE, *FORMTYPE...
最後を検査	*NONE _____	*NONE, *USERDATA...
バージョン	*HIGHEST _____	01-99, *HIGHEST
エラー用の出力待ち行列	ERROR _____	名前
ライブラリー	QUSRRDARS _____	名前, *LIBL, *CURLIB
処理済スプール・ファイル削除	*NO _____	*NO, *YES

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F10=追加のパラメーター
 F12=取り消し F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 132. OnDemand のモニターの開始 (STRMONRDAR)

処理されたスプール・ファイルの削除に ***YES** を入力した場合は、**実行キー**を押してモニターを開始するか、または **F10** キーを押して追加のパラメーターを表示することができます。追加のパラメーターは、89 ページの図 134 および 90 ページの図 135 の画面に示されます。

処理されたスプール・ファイルの削除に ***NO** を入力した場合は、89 ページの図 133 に示される 2 つのフィールドが表示されます。

ONDEMAND のモニターの開始 (STRMONRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

出力待ち行列	>MYOUTQ__	名前
ライブラリー	*LIBL__	名前, *LIBL, *CURLIB
報告書名として使用する値:		
最初を検査	*SPLFNAME_	*SPLFNAME, *FORMTYPE...
次を検査	*NONE__	*NONE, *FORMTYPE...
最後を検査	*NONE__	*NONE, *USERDATA...
バージョン	*HIGHEST__	01-99, *HIGHEST
エラー用の出力待ち行列	ERROR__	名前
ライブラリー	QUSRRDARS_	名前, *LIBL, *CURLIB
処理済スプール・ファイル削除	*NO__	*NO, *YES
処理済み用の出力待ち行列	PROCESSED_	名前
ライブラリー	QUSRRDARS_	名前, *LIBL

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F10=追加のパラメーター
F12=取り消し F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 133. OnDemand のモニターの開始 (STRMONRDAR)

実行キーを押してモニターを開始するか、**F10** キーを押して図 134 および 90 ページの図 135 に示されている追加のパラメーターを表示します。

ONDEMAND のモニターの開始 (STRMONRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

出力待ち行列	>MYOUTQ__	名前
ライブラリー	*LIBL__	名前, *LIBL, *CURLIB
報告書として使用する値:		
最初を検査	*SPLFNAME_	*SPLFNAME, *FORMTYPE...
次を検査	*NONE__	*NONE, *FORMTYPE...
最後を検査	*NONE__	*NONE, *USERDATA...
バージョン	*HIGHEST__	01-99, *HIGHEST
エラー用の出力待ち行列	ERROR__	名前
ライブラリー	QUSRRDARS_	名前, *LIBL, *CURLIB
処理済スプール・ファイル削除	*NO__	*NO, *YES
処理済み用の出力待ち行列	PROCESSED_	名前
ライブラリー	QUSRRDARS_	名前, *LIBL

追加のパラメーター

終了日	*NONE__	日付 (YYYYMMDD), *NONE, ...
		続く...

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し
F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 134. OnDemand のモニターの開始 (STRMONRDAR) - 追加のパラメーター

次ページ・キー (**Page Down**) を押して、2 番目のパラメーター画面 (90 ページの図 135) を表示します。

ONDEMAND のモニターの開始 (STRMONRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

終了時刻	235500	時刻
検査間隔	90	秒, *IMMED
開始するモニターの数	1	1-99
バッチへの投入	*YES	*NO, *YES
ジョブ記述	QRDARS400	名前
ライブラリー	*LIBL	名前, *LIBL, *CURLIB

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 135. OnDemand のモニターの開始 (STRMONRDAR) - 追加のパラメーター

実行キーを押して、モニターを開始します。

モニターは、終了日 または終了時刻 に達するまで継続的に稼働します。『オプション 6. 出力待ち行列モニターの終了』を使用して処理を停止することもできます。

モニターは、指定された出力待ち行列に到着し **RDY** (作業可能) 状態のスパール・ファイルをすべて処理します。他のいずれかの状態にあるスパール・ファイルは、モニターによる影響を受けずに、スパール・ファイルが削除されるか、移動されるまで出力待ち行列に存続します。

オプション 6. 出力待ち行列モニターの終了

モニターが開始される際に、終了日 および終了時刻 を指定しない場合は、このオプションを使用して出力待ち行列モニターを終了させる必要があります。

「ONDEMAND 報告書ユーティリティー・メニュー」画面から、オプション 6「出力待ち行列モニターの終了」を選択します。(**ENDMONRDAR** コマンドを出すこともできます。) 91 ページの図 136 の画面が表示されます。

ONDEMAND のモニターの終了 (ENDMONRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

出力待ち行列	MYOUTQ	名前
ライブラリー	*LIBL	名前, *LIBL, *CURLIB
終了するモニターの数	*ONE	*ONE, *ALL

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 136. OnDemand のモニターの終了 (ENDMONRDAR)

1 つ以上のモニターを終了するには、**実行キー**を押します。

検査間隔 フィールド (87 ページの『オプション 5. 出力待ち行列モニターの開
始』) に入力した秒数に達した時点で、モニターは停止します。

オプション 22. OnDemand メイン・メニュー

このオプションを使用して、OnDemand メイン・メニュー (4 ページの図 2) に戻る
ことができます。

オプション 30. OnDemand 共通報告書オプションの変更

OnDemand に記憶された報告書は、さまざまなユーザーによって検索され、検索さ
れた報告書は、表示、再印刷またはファクシミリ送信されます。これら 3 つの出力
操作は、OnDemand データ域に保持されているさまざまなカスタマイズ値 (グロー
バル・ユーザーまたは個々のユーザーのいずれか) によって制御されます。以下の
画面を使用すれば、これらの値の設定を容易に行うことができます。

ユーザーが、自身のユーザー・プロファイル制御値として定義された設定値を持た
ない場合には、グローバル・カスタマイズ・オプションが、**デフォルト値**として使
用されます。(個々のユーザーの設定に関する詳細については、94 ページの『オプ
ション 31. ユーザーの OnDemand 報告書オプションの変更』および 97 ページの
『オプション 32. OnDemand 報告書オプションの変更』を参照してください。) 個
々のユーザーの制御値は常に、より高い優先順位を持ちます。たとえば、ユーザー
の CA/400 ビューアー制御値が ***BOTH** に設定され、グローバル・デフォルト値が
***NO** に設定されている場合、そのユーザーは、AFPDS および非 AFPDS の両方の
スプール・ファイルの表示に CA/400 ビューアーを使用する こととなります。

グローバル・デフォルト・カスタマイズ・オプションを変更するには、オプション 30「OnDemand 共通報告書オプションの変更」を選択して、図 137 へ進んでください。

変更するグローバル・セクションの選択 ONDMD400
98/01/04 14:27:53

選択項目を入力して、実行キーを押してください。
1=選択

セクションの選択
ビューアー・オプション
組み合わせオプション

F3=終了 F12=取り消し

図 137. 変更するグローバル・セクションの選択

変更したいグローバル・カスタマイズ・デフォルトのカテゴリの前に **1** を入力します。**実行キー**を押して、変更を保管します。

ビューアー・オプション

ビューアー・オプション・カテゴリを選択すると、93 ページの図 138 の画面が表示されます。この画面には、グローバル・ビューアー・オプションの選択項目が表示されます。

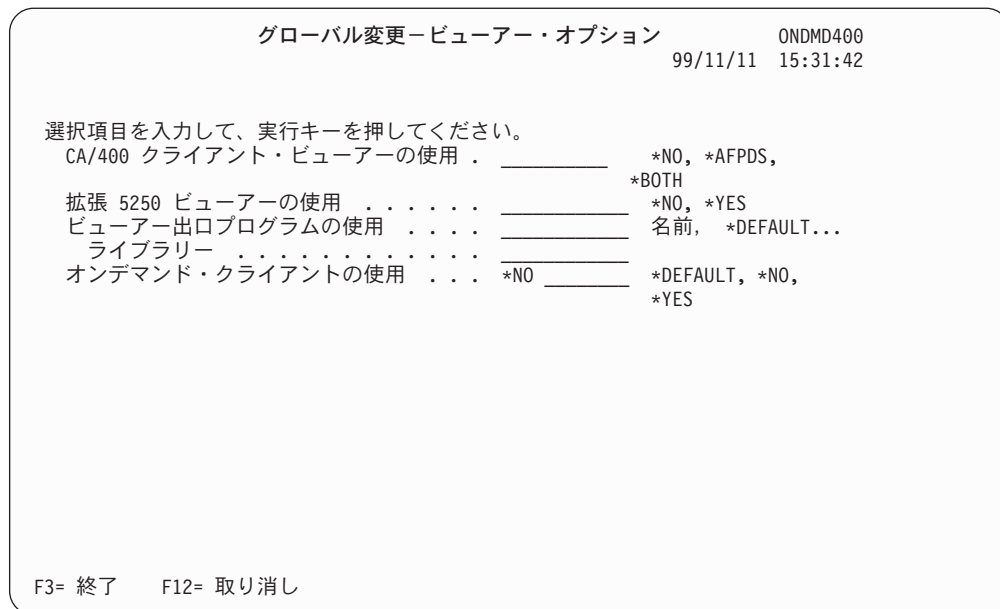


図 138. グローバル変更 - ビューアー・オプション

組み合わせオプション

初期画面から組み合わせオプションを選択すると、OnDemand は、図 139 の画面を表示します。

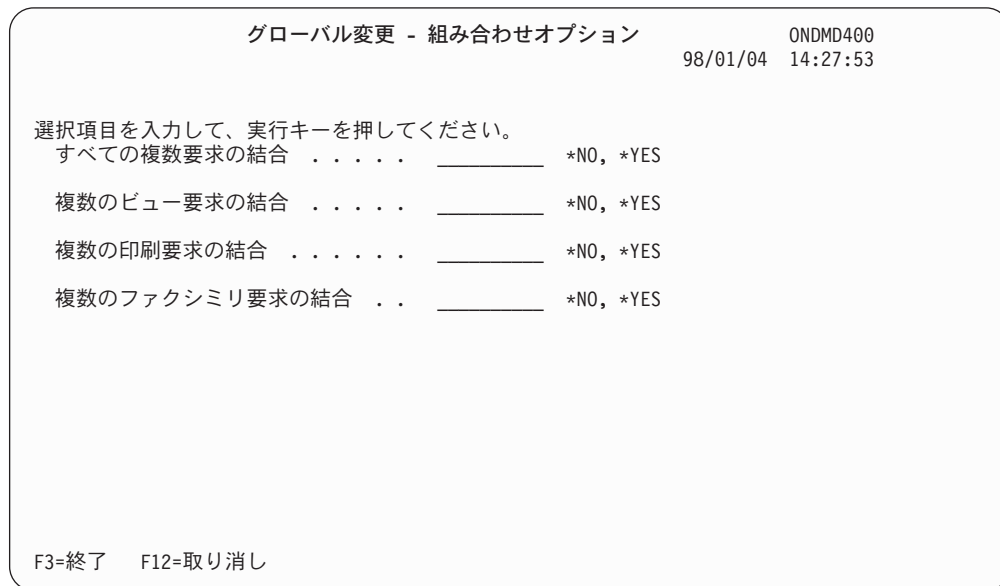


図 139. グローバル変更 - 組み合わせオプション

オプション 31. ユーザーの OnDemand 報告書オプションの変更

固有のユーザー・プロファイルによって識別される OnDemand の各ユーザーは、OnDemand ユーザー・デフォルト・プロファイルを持ちます。個々のユーザーが、自身のユーザー・プロファイル制御値として定義された設定値を待たない場合、グローバル・カスタマイズ・オプションがデフォルト値として使用されます。(グローバル・オプションの設定に関する詳細については、91 ページの『オプション 30. OnDemand 共通報告書オプションの変更』を参照してください。)

ユーザー自身のカスタマイズ・オプションを変更するには、オプション 31 「ユーザーの OnDemand 報告書オプション」を選択して、図 140 へ進みます。

変更するプロファイル・セクションの選択 ONDMD400
98/01/04 14:27:53

ONDEMAND ユーザー・プロファイル : NOBRIEN
選択項目を入力して、実行キーを押してください。
1=選択

セクションの選択
印刷
ファクシミリ
バイパス・オプション
ビューアー・オプション
組み合わせオプション

F3=終了 F12=取り消し

図 140. 変更するプロファイル・セクションの選択

変更したいカスタマイズ・オプションのカテゴリーの前に **1** を入力します。

印刷オプション

印刷カテゴリーを選択すると 95 ページの図 141 の画面に進みます。この画面には、印刷オプションの選択項目が表示されます。

プロフィール変更-印刷		ONDM400
ONDEMAND ユーザー・プロフィール . . .	NOBRIEN	98/01/04 15:39:09
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
印刷装置名	PRT01	名前
- または -		
出力待ち行列		名前
ライブラリー	*LIBL	名前, *LIBL
コピー部数	1	1-999
ページ範囲 :		
開始ページ	1	1-9999999999
終了ページ	*END	1-9999999999, *END
報告書オーバーレイの使用	*NO	*NO, *YES
F3= 終了 F12= 取り消し		

図 141. 印刷オプション

実行キーを押すと、値が保管されます。

ファクシミリ・オプション

ファクシミリを選択した場合、図 142 の画面を使用して、ファクシミリ・カスタマイズ・オプションを設定できます。

プロフィール変更-ファクシミリ		ONDM400
ONDEMAND ユーザー・プロフィール . . .	NOBRIEN	98/01/04 15:13:12
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
発信ファクシミリ番号	_____	
カバー・ページ	*YES	*YES, *NO
タイトル	_____	
送り先	_____	

送信元	_____	

注記行	_____	
ファクシミリ・モード	*NORMAL	*NORMAL, *FINE
コピー部数	1	1-999
ページ範囲 :		
開始ページ	1	1-9999999999
終了ページ	*END	1-9999999999, *END
報告書オーバーレイの使用	*NO	*YES, *NO
F3= 終了 F12= 取り消し		

図 142. ファクシミリ・オプション

実行キーを押すと、値が保管されます。

バイパス・オプション

バイパス・オプションを選択すると、OnDemand では、図 143 の画面が表示されます。

```

                                プロファイル変更-バイパス・オプション                                ONDMD400
                                98/01/04 14:27:53
ONDEMAND ユーザー・プロファイル . . . . . : NOBRIEN

選択項目を入力して、実行キーを押してください。
印刷 /ファクシミリのバイパス・プロンプト. . . *USERRESP *USERRESP, *BYPASS

テープ再呼び出しのバイパス・プロンプト. . . . *USERRESP *USERRESP, *BYPASS,
                                                *NOTIFY

F3= 終了   F12= 取り消し
```

図 143. プロファイル変更 - バイパス・オプション

ビューアー・オプション

初期画面からビューアー・オプションを選択すると、図 144 の画面が表示されます。

```

                                プロファイル変更-ビューアー・オプション                                ONDMD400
                                99/11/11 15:37:41
ONDEMAND ユーザー・プロファイル . . . . . : NOBRIEN

選択項目を入力して、実行キーを押してください。
CA/400 クライアント・ビューアーの使用 . . . _____ *DEFAULT, *NO,
                                                *AFPDS, *BOTH
拡張 5250 ビューアーの使用 . . . . . _____ *DEFAULT, *NO,
                                                *YES
ビューアー出口プログラムの使用 . . . . . _____ 名前, *DEFAULT...
ライブラリー . . . . . _____
オンデマンド・クライアントの使用 . . . . *DEFAULT *DEFAULT, *NO,
                                                *YES

F3= 終了   F12= 取り消し
```

図 144. プロファイル変更 - ビューアー・オプション

組み合わせオプション

初期画面から組み合わせオプションを選択すると、OnDemand は、図 145 の画面を表示します。

プロファイル変更 - 組み合わせオプション		ONDM400
ONDEMAND ユーザー・プロファイル . . .	NOBRIEN	98/01/04 14:27:53
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
すべての複数要求の結合	_____	*DEFAULT, *NO, *YES
複数のビュー要求の結合	_____	*DEFAULT, *NO, *YES
複数の印刷要求の結合	_____	*DEFAULT, *NO, *YES
複数のファクシミリ要求の結合 . .	_____	*DEFAULT, *NO, *YES
F3=終了 F12=取り消し		

図 145. プロファイル変更 - 組み合わせオプション

実行キーを押して、変更を保管します。

オプション 32. OnDemand 報告書オプションの変更

ユーザー自身のものではないユーザー・プロファイルのカスタマイズ・オプションを変更するには、オプション 32「OnDemand 報告書オプションの変更」を選択します。表示される画面で、処理する特定のユーザー・プロファイルを入力して（単一引用符で囲む）、実行キーを押します。その次に表示される画面は、94 ページの『オプション 31. ユーザーの OnDemand 報告書オプションの変更』で説明した画面と同一です。

オプション 40. 報告書定義のエクスポート/インポート

報告書定義のエクスポート/インポート機能により、1 つの R/DARS または OnDemand システムから別のシステムへ、報告書定義記録をコピーする能力が提供されます。

エクスポートとは、iSeries 導入用の、既存の R/DARS または OnDemand により選択された報告書定義記録を、別個の「変換」ファイルにコピーするプロセスを指します。

システムは、この変換ファイル内の報告書定義レコードを「起動」システムから「受動」システムに移動します。受動システムには、R/DARS または OnDemand が導入されていないとなりません。

注: R/DARS または OnDemand のバージョンは、V3R7 以降でなければなりません。

「インポート」のプロセスでは、このような報告書定義レコードが受動システムの標準報告書定義ファイル (QARLRACT) に追加されます。また、このプロセスでは、追加、または「インポート」された報告書定義が受動システムで正しく処理されるために必要な追加機能も実行されます。エラー・チェック機能は、ユーザーへのガイダンスを提供し、受動システム上の既存の機能の遂行が妨げられないようにします。

ここで説明したエクスポート/インポート機能は、OnDemand for AS/400® V4R5 およびそれ以降のリリースにのみ適用されます。それ以前のバージョンおよびリリースのエクスポート/インポート機能は、異なる操作インターフェースを持っています。これら、以前のバージョンの資料は、QRDARS ライブラリ /QSAMPLES ファイル内の「RDEIINSTR」テキスト・メンバーにあります。

エクスポート/インポート・プロセスには 4 つの主要部分、すなわち 4 つの機能があります。

1. 起動システム上の OnDemand 標準報告書定義ファイル (QARLRACT) から、選択済みの報告書定義レコードを、転送ファイルへコピーする機能。作成された報告書定義転送ファイルは、元の QARLRACT ファイルのように、同じファイル属性 (レコード様式、アクセス・パス、その他) を持ちます。ユーザーは、以下のどの方式でも転送ファイルにコピーされたレコードを選択、コピーできます。**CPYDFNRDAR OPTION(*EXPORT)** コマンドは、報告書定義名、バージョンおよびグループ名の値に基づいてこのファイルを作成し、レコードをこのファイルにコピーします。このコマンドは、特定のファイル名に対して最初に実行される際、報告書定義転送ファイルを作成します。また、このコマンドは、コピーされたレコードを同じファイルに追加します。このコマンドは、コピーされたレコードを、それ以降に実行されるたびに同じファイル名を持つファイルに追加します。論理ビュー・サポートが起動システムで使用されている場合、**CPYDFNRDAR OPTION(*EXPORT)** は、QUSRRDARS/QARLRAPP ファイル内の論理ビュー・レコードすべてのコピーを 1 つ作成します。ユーザーは、この「論理ビュー転送」ファイルを、報告書定義転送ファイルと共に受動システムへ移動する必要があります。OnDemand クライアント/サーバーによって使用されるフォルダー・フィールド・ファイルが、起動システムでも使用されていれば、**CPYDFNRDAR OPTION(*EXPORT)** は、QUSRRDARS/QARLRFFU のフォルダー・フィールド・レコードのすべてのコピーを 1 つ作成します。ユーザーは、この「フォルダー・フィールド転送」ファイルを、報告書定義転送ファイルと共に受動システムへ移動しなければなりません。
2. **CPYDFNRDAR OPTION(*PRINT)** コマンドを実行して、転送ファイルへコピーされたレコードを、リストする機能。このコマンドは、報告書定義レコードを報告書名およびバージョンの順にリストします。レコードは、レポート名、バージョン、ポリシーおよびグループ名で識別されます。このリストには、ファイル内のレコード番号が含まれ、コピーされた報告書定義に関連付けられた「関連オブジェクト」についての追加情報も提供されます。
3. 報告書定義転送ファイル、論理ビュー・レコードおよびフォルダー・フィールド・レコードのオプション・ファイル (作成されている場合) を、起動システムから受動システムへ移動する機能。この作業は、使用可能な任意の方式を用いて容易に行えます。R/DARS または OnDemand でサポートされるバージョンのどちらでも、転送されたファイルを作成することに留意してください。いったん

ファイルを作成しておくことで、サポートされるバージョンを導入している受動システムに、いつでもファイルを転送できます。

4. 受動システム上で、**CPYDFNRDAR OPTION(*IMPORT)** コマンドを実行する機能。このコマンドは、報告書定義転送ファイル (QUSRRDARS/QARLRACT) 上のすべての報告書定義ファイルを、標準報告書定義ファイルへコピーします。これにより、受動システムの OnDemand プログラムが、ファイルを使用できるようになります。このインポート・プロセスは、転送ファイルの処理を妨げるエラーの存在をユーザーに通知します。また、インポート・プロセスは、転送された報告書定義のおおのについて、特定の報告書定義のコピーを行ってはいけないようなエラー条件が存在するかどうか検査します。このようなエラーは、「エラー・リスト」スプール・ファイルにリストされます。システムは、そのようなエラーを 1 つでも検出すればリストを作成します。受動システムの R/DARS または OnDemand に正しくインポートされた報告書定義は、別個のスプール・ファイルにリストされます。また、このようにインポートされたリストは、インポートされた各報告書定義に対してさまざまな警告を表示することがあります。このような「警告」には、インポートされた報告書定義に付けられた「関連オブジェクト」の名前が、受動システム上には存在しない場合、その名前が示されます。システムは、正常にインポートする転送ファイルの報告書定義レコードにマークを付けます。エラー条件に起因してインポートされなかったが、後で訂正された報告書を、ユーザーは **CPYDFNRDAR OPTION(*IMPORT)** コマンドによって処理できます。プログラムは、それ以前に正常にインポートされた報告書定義をスキップして処理します。上記の処理ステップは、以下の、番号のついた項 (1 から 4) で詳しく説明します。この各セクションでは、次の情報について説明します。
 - 必要な準備に関する説明
 - コマンド実行時のパラメーター値の指定方法に関する記述
 - エラー検査に関する情報の提供
 - 必要な場合のステップの再実行方法に関する記述

ステップ 1. 起動システム上の報告書定義のエクスポート

起動システム上の OnDemand 標準報告書定義ファイル (QARLRACT) から、選択済みの報告書定義レコードを、転送ファイルにコピーします。

1. どの報告書定義レコードを、報告書定義転送ファイルへコピーするのかを確かめてください。
2. エクスポート・コピー・コマンド **CPYDFNRDAR OPTION(*EXPORT)** を実行します。

CPYDFNRDAR	OPTION(*EXPORT)
	RPTDFNFILE(transfer-file/library)
	VIEWFILE(view-file)
	FLRFLDFILE(folder-field-file)
	REPORT(report-name)
	VERSION(version)
	RPTGRP(group-name)

最初のパラメーター (OPTION) が、*EXPORT の場合は、上記のパラメーターのおおのおを含めます。パラメーター **RPTDFNFILE(transfer-file/library)**、**VIEWFILE(view-file)** および **FLRFLDFILE(folder-field-file)** は、次の項目を識別するために使用します。

- 報告書定義転送ファイル
- 関連ライブラリー
- 必要ならば、論理ビュー・レコードおよびフォルダー・フィールドのオプションの転送ファイル

報告書定義転送ファイルへコピーしたい報告書定義ファイルを選択するためには、**REPORT(report-name)**、**VERSION(version)** および **RPTGRP(group-name)** のパラメーターを使用します。上記のパラメーターにおける特定の値に関しては、次のリストで説明します。

OPTION

*EXPORT = 標準報告書定義ファイル (QARLRAPP) から、報告書定義レコードを、RPTDFNFILE パラメーターに指定された報告書転送ファイルへコピーします。

RPTDFNFILE

'transfer-file' = コピーまたはエクスポートされた報告書定義レコードを格納する報告書定義転送ファイルの名前。このファイル名の先頭文字は、"Q" であってははいけません。このパラメーターは、ブランクのままにしておいてはなりません。'library' = 転送ファイルがすでにあるか、またはこれから転送ファイルが作成されるライブラリーの名前。"*CURLIB" が使用できます。名前の付けられた 'transfer-file' がある場合は、そのファイルが使用され、選択された報告書定義レコードがファイル内のこれら既存のレコードに追加されます。名前の付けられた 'transfer-file' が存在しない場合は、新規ファイルが作成されます。

VIEWFILE

'view-file' = ファイル QARLRAPP から論理ビュー・レコードを格納するファイル名。このファイル名は、論理ビュー・レコードが実際に存在する場合にのみ必要です。
'view-file' = "*NONE" は、エクスポート・プロセスの際、コピーされる論理ビュー・レコードが存在しない場合に使用できます。論理ビュー転送ファイルは、報告書定義転送ファイルに指定されたライブラリー内になければなりません。

FLRFLDFILE

'folder-field-file' = ファイル QARLRFFU から取り出されるフォルダー・フィールド・レコードを格納するファイルの名前。このファイル名は、フォルダー・フィールド・レコードが実際に存在する場合のみ必要です。

'folder-field-file' = "*NONE" は、エクスポート・プロセスの際、コピーされるフォルダー・フィールド・レコードが存在しない場合に使用できます。フォルダー・フィールド転送ファイルは、報告書定義転送ファイルに指定されたライブラリー内になければなりません。

REPORT

'report-name' = "*ALL" は、QARLRCT ファイルにあるすべての報告書定義レコードを、報告書定義転送ファイルへコピーすることを意味します。'report-name' = "XX...X" は、入力された文字と正確に合致する名前を持つ報告書定義をコピーすることを意味します。ここで "XX...X" は、1 から 10 文字の大文字で表された報告書名です。

'report-name' = "XX...X*" は、入力された最初の 1 から 9 文字までの文字で始まる名前を持つ報告書定義をコピーすることを意味します。ここで "XX...X" は、1 から 9 文字の大文字で表された報告書名です。たとえば、"AB*" と入力すると、報告書名 "AB" だけでなく "ABC" および "AB001" 報告書名をコピーします。'report-name' = " " は、報告書定義レコードを選択するために報告書名が使用されていないことを意味します。

VERSION

'version' = "NN" は、バージョンが "NN" である報告書定義レコードすべてをコピーします。"NN" は、"01" から "99" までの 2 桁の数字です。'version' = " " は、報告書のバージョンが、報告書定義レコードを選択するように使用されていないことを意味します。

RPTGRP

'group-name' = "XX...X" は、入力された文字と同じグループ名前を持つ報告書定義レコードをコピーすることを意味します。ここで "XX...X" は、1 から 10 文字の大文字で表されるグループ名です。'group-name' = " " は、報告書グループ名が報告書定義を選択するために使用されていないことを意味します。

上記のパラメーターの内、最後の 3 つが、すべて空白であってはいけません。REPORT 値が "*ALL" の場合、VERSION および RPTGRP パラメーター値は、空白でなければなりません。REPORT 値および RPTGRP 値を入力する場合には、REPORT 値は、総称すなわち "*" でなければなりません。最後の 2 つまたは 3 つのパラメーターを使用する場合は、エクスポートしたい報告書定義レコードが、入力値のすべてに合致していません。

- このステップでのエラー検査は、原則として報告書定義転送ファイルにコピーされた報告書定義レコードすべてをリストした後のステップで行われます。転送ファイルからリストされるレコードと、ユーザーのエクスポート/インポート計画との厳密な相関関係に留意してください。
- エクスポートしたい報告書定義レコードをすべてコピーするために必要なだけ、何回でも **CPYDFNRDAR OPTION(*EXPORT)** コマンドを使用できます。

注: 同一名および同一バージョンの報告書定義を既存の報告書定義転送ファイルにコピーすると、転送ファイル内にコピーされた以前の報告書が置き換えられます。 **CPYDFNRDAR OPTION(*EXPORT)** コマンドにより開始された **CPYF** コマンドは、報告書を報告書定義転送ファイルにコピーするために **MBROPT(*UPDADD)** を使用します。このコマンドは、コマンドを実行する前に存在したレコードをコピーします。転送ファイル内のどのようなレコードを更新する場合でも、その前にエクスポートしたいすべての報告書定義レコードを転送ファイルにコピーする必要があります。

ステップ 2. 転送ファイル内の報告書定義ファイルをリストする

- 上述の、報告書定義レコードを報告書定義転送ファイルにコピーするステップを実行しておくこと以外、特に準備の必要はありません。
- 「印刷装置へのコピー」コマンド **CPYDFNRDAR OPTION(*PRINT)** を実行します。

CPYDFNRDAR **OPTION(*PRINT)**
RPTDFNFILE(transfer-file/library)

上記のパラメーターにおける特定の値に関しては、次のリストで説明します。

OPTION	*PRINT = RPTDFNFILE パラメーターで名前の付けられたファイルから報告書定義レコードの要約リストを印刷します。
RPTDFNFILE	'transfer-file' = 報告書定義転送ファイルの名前であって、そのファイルに、コピー済みまたはエクスポート済みの、リストされる報告書定義レコードが格納されているもの。このパラメーターは、ブランクのままにしておいてはなりません。 'library' = 転送ファイルがあるライブラリーの名前。特殊値 "*CURLIB" を使用できます。

注: **CPYDFNRDAR OPTION(*PRINT)** を実行して、標準 OnDemand 報告書定義ファイル (QUSRRDARS/QARLRACT) を指定することができます。これにより、報告書定義をインポートおよびエクスポートする際の有益な情報が得られます。

- このステップでのエラー検査は、作成された報告書を読み取ることのみです。転送ファイルから読み込まれるレコード数が、下部に表示されます。リストされるレコードと、ユーザーのエクスポート/インポート計画との厳密な相関関係に留意してください。提供される「警告」情報により、特別な要件のあることが分かります。特別な要件には、転送された報告書定義内に名前が付けられているのに、受動システム上に存在しない可能性のある「関連オブジェクト」が含まれます。

エクスポートまたはインポートするプログラムは、このような「関連オブジェクト」を処理したりコピーしたりすることのないように注意してください。

- 必要なだけ、何回でも **CPYDFNRDAR OPTION(*PRINT)** コマンドを実行できます。報告書の複数のコピーを区別するには、2 つの方式があります。
 - 報告書のヘッダーで示される日時を実行する。
 - 下部サマリー・ラインにリストされるファイルやライブラリーを転送する。

ステップ 3. 転送ファイルを受動システムへ移動する

報告書定義転送ファイル、論理ビュー・レコードおよびフォルダー・フィールド・レコードのオプション・ファイル (作成されている場合) を、起動システムから受動システムへ移動する機能。これは、磁気媒体、FTP、その他の簡便な方式を使用して行うことができます。

ステップ 4. 受動システム上の報告書定義をインポートする

- 「コピーのインポート」コマンド **CPYDFNRDAR OPTION(*IMPORT)** を実行する。

CPYDFNRDAR	OPTION(*IMPORT) RPTDFNFILE(transfer-file/library) VIEWFILE(view-file) FLRFLDFILE(folder-field-file)
-------------------	--

上記のパラメーターにおける特定の値に関しては、次のリストで説明します。

OPTION	*IMPORT = RPTDFNFILE パラメーターの名前が付けられた報告書定義転送ファイルから、報告書定義レコードを OnDemand の標準報告書ファイル (QUSRRDARS/QARLRACT) へコピーする。
RPTDFNFILE	'transfer-file' = 先にコピーまたはエクスポートされた報告書定義レコードを格納する報告書定義転送ファイルの名前。このファイル名の先頭文字は、"Q" であってはいけません。このパラメーターは、ブランクのままにしておいてはなりません。'library' = 受動システム上に存在する転送ファイルがあるライブラリーの名前。"*CURLIB" が使用できます。
VIEWFILE	'view-file' = 起動システム上にコピーされた論理ビュー・レコードを格納するファイルの名前。このファイル名は、論理ビュー・レコードが、そのようなファイル内に実際に存在する場合に限り必要で、それらのファイルは、受動システム上にコピーする必要があります。'view-file' = "*NONE" は、コピーされる論理ビュー・レコードが存在しない場合、またはインポート処理の際、これらのコピーを省略したい場合に使用できます。ライブラリー内にあるこの論理ビュー転送ファイルは、報告書定義転送ファイルに指定されたライブラリー内になければなりません。

FLRFLDFILE

'folder-field-file' = 起動システム上にコピーされたフォルダー・フィールド・レコードを格納するファイルの名前。このファイルの名前は、フォルダー・フィールド・レコードが実際に、そのような転送ファイルに存在し、それらが受動システム上にコピーされる場合に限り必要です。'folder-field-file' = "*NONE" は、コピーされるフォルダー・フィールド・レコードが存在しない場合、またはインポート処理の際、これらのコピーを省略したい場合に使用できます。フォルダー・フィールド転送ファイルは、報告書定義転送ファイルに指定されたライブラリーと同一のライブラリーになければなりません。

2. エラー検出および訂正のステップ

- a. コマンドまたはプログラムが、転送ファイル进行处理せず、エラー・メッセージを表示した場合には、表示メッセージに記述されたエラー条件を訂正し、再度コマンドを実行してください。
 - b. 報告書定義のコピーを妨げるエラー条件を検出したコマンドまたはプログラムは、このようなエラーを「エラー・リスト」スプール・ファイルにリストします。システムは、そのようなエラーを検出した場合にのみリストを作成します。報告書定義レコードのインポートされなかった理由が、最低でも 1 つリストされます。
 - 1) 報告書名およびバージョンは、既存のレコードの複製です。
 - 2) グループの割り当てが、同一の報告書名 (フィールド CDTYPE) を持つ既存のレコードにあるグループと一致しません。
 - 3) 報告書定義に指定されたグループ名は、報告書グループ定義として存在しません。
 - 4) 報告書定義レコード内で名前の付けられたポリシー (コレクション) が存在しません。
 - 5) システムは、報告書定義レコード内で名前の付けられた印刷装置ファイルを発見できません。
 - 6) システムが、報告書定義レコードのインポートを試行したとき、異常な問題に遭遇しました。システムは、印刷されたエラー・テキストにエラーの追加、または更新を行うファイルを指定します。
 - c. それぞれのスプール・ファイルは、報告書定義をリストします。この報告書定義を使って受動システムの OnDemand ファイルへのインポートが正しく行われます。また、この「インポートされたリスト」は、各報告書定義に対して、各種の「警告」をリストします。このような「警告」は、報告書定義に名前が指定されているのに、受動システム上には入っていない「関連オブジェクト」の名前を示します。このような「インポート時の警告」は無視しないでください。これらの警告は、多くの場合、インポートされた報告書定義レコードの正しい使用を妨げる可能性を持つエラー条件を示します。
3. 報告書定義転送ファイル内のすべての報告書定義レコードをインポートするために必要なだけ何度でも **CPYDFNRDAR OPTION(*IMPORT)** コマンドを実行できます。システムは、正常にインポートされた転送ファイルの報告書定義レコード

にマークを付けます。エラー条件に起因してインポートされなかったが、後で訂正されたレコードを処理するために、再度このコマンドを実行できます。インポート・プログラムは、それ以前に正常にインポートされた報告書定義をスキップして処理します。たとえば、転送ファイルに 215 の報告書定義レコードが格納されており、**CPYDFNRDAR OPTION(*IMPORT)** を最初に実行した際、205 の報告書定義レコードを正常にインポートしたと仮定します。2 回目の実行では、インポート・プログラムは、報告書定義転送ファイルから 10 個のレコードのみを読み取ります。

報告書定義の作成 - 環境ワークシート

注: 特定の条件のもとでは、異なるフィールドが表示されたり、その記述が多少異なる表現になる場合があります。

報告書定義の作成 - 環境		ONMD400
		98/01/08 14:49:43
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
報告書	_____	名前
バージョン	__	01-99
報告書タイプ	_____	DOC, PAGE
		NODX, UBND
入力レコード長	_____	20-256
ポリシー名	_____	名前
報告書オーバーレイ	_____	名前
報告書データ・タイプ	_____	*LINE, *AFPDS
		*OTHER...
報告書グループ	_____	名前
印刷制御の変換	__	Y=YES, N=NO
印刷装置ファイル	_____	名前
ライブラリー	_____	
テキスト	_____	
圧縮	__	Y=YES, N=NO
記入日付タイプ	__	
F3=終了 F12=取り消し		続く...

図 146. 報告書定義の作成 - 環境ワークシート (3 の 1)

報告書定義の作成 - 環境

ONDMD400
98/01/08 14:50:49

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

記入日付:

タイプ	-	
長さ	-	0-25
桁	-	0-255
行	-	0-256
-または-		
ピボット値	_____	
長さ	-	1-16
桁	-	0-255
+ 行オフセット	-	-255-256

続く...

F3=終了 F12=取り消し

図 147. 報告書定義の作成 - 環境ワークシート (3 の 2)

報告書定義の作成 - 環境

ONDMD400
98/01/08 14:51:26

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

報告書結果画面のバイパス		Y=YES, N=NO
文書結果画面のバイパス		Y=YES, N=NO
すべての順序番号の検索		Y=YES, N=NO
入力出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
索引出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
ビューアー出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	

終わり

F3=終了 F12=取り消し

図 148. 報告書定義の作成 - 環境ワークシート (3 の 3)

報告書定義の作成 - セグメンテーション・ワークシート

報告書定義の作成 - セグメンテーション		ONDMD400
報告書/バージョン	: _____ / _	98/01/08 14:51:39
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
セグメント・サイズ	—	1-100
セグメンテーション条件 1:		
変化/一致	_	1=変化, 2=一致
値	_____	
長さ	—	0-25
桁	—	0-255
行	—	0-256
-または-		
ピボット値	_____	
長さ	—	0-16
桁	—	0-255
+ 行オフセット	—	-255-256
条件の組み合わせ		0=なし, 1=AND, 2=OR
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 149. 報告書定義の作成 - セグメンテーション・ワークシート (2 の 1)

報告書定義の作成 - セグメンテーション		ONDMD400
報告書/バージョン	: _____ / _	98/01/08 14:52:15
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
セグメンテーション条件 2:		
変化/一致		1=変化, 2=一致
値	_____	
長さ	—	0-25
桁	—	0-255
行	—	0-256
-または-		
ピボット値	_____	
長さ	—	0-16
桁	—	0-255
+ 行オフセット	—	-255-256
		終わり
F3=終了 F12=取り消し		

図 150. 報告書定義の作成 - セグメンテーション・ワークシート (2 の 2)

報告書定義の作成 - キー・ワークシート

報告書定義の作成 - キー		ONDMD400
報告書/バージョン :	_____ / _	98/01/08 14:52:24
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 1 の名前	_____	
長さ	—	1-25
最小検索文字数	—	1-長さ
位置:		
桁	—	0-255
行	—	0-256
-または-		
ピボット値	_____	
長さ	—	0-16
桁	—	0-255
+ 行オフセット	—	-255-256
小文字キー		Y=YES, N=NO
キーの機密保護		Y=YES, N=NO
複数キー		Y=YES, N=NO
F3=終了 F12=取り消し		続く...

図 151. 報告書定義の作成 - キー・ワークシート (5 の 1)

報告書定義の作成 - キー		ONDMD400
報告書/バージョン :	_____ / _	98/01/08 14:53:00
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 2 の名前	_____	
長さ	—	1-20
最小検索文字数	—	1-長さ
位置:		
桁	—	0-255
行	—	0-256
-または-		
ピボット値	_____	
長さ	—	0-16
桁	—	0-255
+ 行オフセット	—	-255-256
小文字キー		Y=YES, N=NO
キーの機密保護		Y=YES, N=NO
複数キー		Y=YES, N=NO
F3=終了 F12=取り消し		続く...

図 152. 報告書定義の作成 - キー・ワークシート (5 の 2)

報告書定義の作成 - キー

ONDMD400
98/01/08 14:53:28

報告書/バージョン : _____ / _

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

キー 3 の名前 _____

長さ _____ 1-20

最小検索文字数 _____ 1-長さ

位置:

桁 _____ 0-255

行 _____ 0-256

-または-

ピボット値 _____

長さ _____ 0-16

桁 _____ 0-255

+ 行オフセット _____ -255-256

小文字キー Y=YES, N=NO

キーの機密保護 Y=YES, N=NO

複数キー Y=YES, N=NO

続く...

F3=終了 F12=取り消し

図 153. 報告書定義の作成 - キー・ワークシート (5 の 3)

報告書定義の作成 - キー

ONDMD400
98/01/08 14:53:42

報告書/バージョン : _____ / _

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

キー 4 の名前 _____

長さ _____ 1-20

最小検索文字数 _____ 1-長さ

位置:

桁 _____ 0-255

行 _____ 0-256

-または-

ピボット値 _____

長さ _____ 0-16

桁 _____ 0-255

+ 行オフセット _____ -255-256

小文字キー Y=YES, N=NO

キーの機密保護 Y=YES, N=NO

複数キー Y=YES, N=NO

続く...

F3=終了 F12=取り消し

図 154. 報告書定義の作成 - キー・ワークシート (5 の 4)

報告書定義の作成 - キー		ONDM400
報告書/バージョン	_____ / _____	98/01/08 14:54:31
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 5 の名前	_____	
長さ	_____	1-15
最小検索文字数	_____	1-長さ
位置:		
桁	_____	0-255
行	_____	0-256
-または-		
ピボット値	_____	
長さ	_____	0-16
桁	_____	0-255
+ 行オフセット	_____	-255-256
小文字キー		Y=YES, N=NO
キーの機密保護		Y=YES, N=NO
複数キー		Y=YES, N=NO
F3=終了 F12=取り消し		終わり

図 155. 報告書定義の作成 - キー・ワークシート (5 の 5)

報告書のタイプの例

PAGE 報告書の定義

PAGE 報告書では、値の範囲で索引付けが行われます。値の範囲は、各報告書セグメントの最初のページの最低値から、最後のページの最高値までです。値の範囲は、1 段組または 2 段組のタイプの報告書をサポートしていることから、たとえば、総勘定元帳トランザクション・リストや在庫リストなどに使用することができます。

金額順報告書 **TSTSEQ** について以下で説明します。この報告書は明細行項目を含んでおり、昇順 (分類済み) でリストされています。したがって、各項目 (小切手金額) は報告書内で再順序付けされることはありません。

スプール・ファイルは、ライブラリー **QRDARS** の物理ファイル **TSTSEQ** にコピーされています。

81 ページの『オプション 6. 物理ファイル・メンバーの表示』を使用して、**TSTSEQ** 報告書データを含む物理ファイル (111 ページの図 156) を表示します。

```

物理ファイル・メンバー表示
ファイル . . . . . : TSTSEQ          ライブラリー . . . . . : QRDARS
メンバー . . . . . : $SQRPT        レコード . . . . . : 1
制御 . . . . . :                   桁 . . . . . : 1
検索 . . . . . :
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...+...
1***** ← 行 1          ONDEMAND FARMERS NATIONAL BANK
BANK 001 ← 行 2
***** ← 行 3          ONDEMAND FARMERS NATIONAL BANK
BANK 001 ← 行 4
1 - - - - ***** ← 行 1          ONDEMAND FARMERS NATIONAL BANK
BANK 001 ← 行 2
BANK 001 ← 行 3
1RASORT P3313001 ← 行 1          ONDEMAND FARMERS NATIONAL BANK
BANK 001
FROM 90/12/20
TO 90/12/20
DOLLAR SEQUENCE REPORT
AMOUNT T/R ACCOUNT SERIAL ITEM SEQ. AMOUNT
NUMBER NUMBER NUMBER NUMBER NUMBER
3.00 05320066 1106013267 1022663900
3.00 05320066 1106116899 10216446P 3.00
3.00 05320066 1106116899 10219452P 3.00
F3=終了 F12=取り消し F19=左 F20=右 F24=キーの続き

```

図 156. 物理ファイル・メンバー表示 - PAGE 報告書

強調表示されたフィールド (セグメンテーション基準やキーなど) は、報告書の定義時に使用される値です。

PAGE 報告書では、同じ項目をキー 1 およびキー 2 として使用します。この例では、*Check Dollar Amount* (小切手金額) を使用しています。キー 1 は、各セグメントの最初のページの先頭における最小の小切手金額です。キー 2 は、該当のセグメントの最後のページの最後の行における最高の小切手金額です。(管理機能は、1 から 100 ページまでのセグメントの長さを判別します。)

キー 3 は常にページ番号です。

この例でのキーは、次のとおりです。

- キー 1 - 先頭の小切手金額
- キー 2 - 末尾の小切手金額
- キー 3 - ページ番号 (OnDemand による設定)
- キー 4 - (なし)
- キー 5 - (なし)

PAGE 報告書セグメンテーションは、**DOC** 報告書セグメンテーションとは異なります。(本書の例では、**DOC** 報告書を使用しています。) まず、開始ページを識別します (バナー・ページなどは除いて)。次に、OnDemand は、報告書定義で定義されたセグメントのサイズに基づいて報告書をセグメント化します。

他の欄を表示するには、**F19** および **F20** のキーを使用します。

他の項目を表示するには、下方スクロールを行うか、あるいは制御フィールドに **B** を入力して該当のページの最下部 (**B ottom**) に移動します (112 ページの図 157 を参照)。

物理ファイル・メンバー表示						
ファイル	...	TSTSEQ		ライブラリー	...	QRDARS
メンバー	...	\$\$QRPT		レコード	...	11596
制御	...	B		桁	...	1
検索	...					
*...+	1...+	2...+	3...+	4...+	5...+	6...+
4.88	05390022		103889457			13436265N 4.89
4.88	05390022		103974028			13445255N 4.89
4.88	05390022		321877540	1095		02636776N 4.89
4.88	05390022		322185430	2527		40212093I 4.89
4.88	05390022		322258567	0109		10508512P 4.89
4.88	05390022		322827775	7342		40006100I 4.89
4.88	05390022		323302216	741164		40406788I 4.89
4.88	05390022		541844296			13435022N 4.89
4.88	05390037		55050439			10710263P 4.89
4.88	05390150		721013902			10227150P 4.89
4.88	06100010		8801045801			41709435P 4.89
4.88	06500002		110017072			20209749P 4.89
4.88	07192322		930000709349			30907789P 4.89
***** データの終わり *****						
F3= 終了 F12= 取り消し F19= 左 F20= 右 F24= キーの続き						

図 157. 物理ファイル・メンバー表示 - PAGE 報告書の例

画面の最上部の制御フィールドに **T** を入力すると、報告書データの先頭 (**Top**) に戻ります。サンプル・データを使用して、以下を見つけてみます。

キー 1

最初の小切手金額は 7 行目の 2 桁目から始まります。(この金額には最大 11 文字を入れることができるものと想定します。)

桁番号を調べる場合には、印刷制御位置を組み込みます。ガイドとして画面の最上部の尺度 (ルーラー) を使用することができます。該当のキーを見つけ、固定行に定義されたデータに対する絶対処理を用いて、OnDemand に対しキーの定義を行うことができます。ただし、キーの定義にはピボット処理を使用することをお勧めします (特に、報告書が 2 段組である場合)。(キー 2 についてもピボット値を使用します。)

10 桁目の **?** をピボット値として選択しています。OnDemand が (ページの先頭から検索を開始して) 最初の **?** を検出すると、OnDemand は、同じ行 (0 行目のオフセット) の 2 桁目から始まる 11 文字を取り出します。これにより、キー 1 の値が作成されます。

次に、OnDemand は ページの終わり から逆方向に探索して、同一の基準を用いて、キー 2 の値を記入します。

キー 2

データは、ページの左側を下に流れ、一番下に達すると、再びページの中央の最上部から始まります。この報告書が 2 段組と仮定すると、最後の小切手金額は、68 桁目で検出される可能性があり (前の例を参照)、その長さは 11 文字になります。その行位置を見つけるには、ピボット処理を使用して 76 桁目の **?** を選択します。

OnDemand は、ページの最下部から逆方向に検索します。ピボット値が見つかると、OnDemand は、前に求めたキー 2 を 2 番目の桁の値 (ブランクでない場合) と置き換えます。

1 段目の報告書の場合には、キー 1 の定義と同様にキー 2 を定義します。OnDemand は、逆方向にキー 2 を探索します。1 段組の報告書の方が 2 段組の報告書よりも一般的です。

セグメンテーション

実際の報告書の先頭を見つけます。

この例では、収集すべき実際の報告書データの前に 7 行の情報が含まれています。これらの行は、バナー・ページ、または事前印刷用紙に対する印刷装置位置合わせのページである場合があります。

報告書の先頭を判別するには、いくつかのオプションから選択することができます。

- 1 行目の 2 桁目の長さ 6 の **RASORT** との一致。
- 1 行目の 13 桁目の長さ 8 の **P3313001** との一致。

報告書の日付は 3 行目の 11 桁目にあり、長さは 8 です。日付形式は MM/DD/YY です。(日付は、報告書の最初のセグメントになければなりません。) 報告書を定義する時点で、日付形式を組み込む必要があります。

OnDemand への報告書の定義

「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面から 19 ページの『オプション 4. 報告書定義の処理』を選択します。

それらの画面上に表示される **DOC** 報告書定義と **PAGE** 報告書定義との間には相違点があります。

- 図 158 から 114 ページの図 160 の画面を使用して、**PAGE** 報告書に関する環境を定義します。

報告書定義の作成 - 環境		ONDMD400
		98/01/08 14:49:43
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
報告書	TSTSEQ _____	名前
バージョン	01	01-99
報告書タイプ	PAGE	DOC, PAGE
		NODX, UBND
入力レコード長	133	20-256
ポリシー名	D90OPTICAL	名前
報告書オーバーレイ	_____	名前
報告書データ・タイプ	*OTHER _____	*LINE, *AFPDS
		*OTHER...
報告書グループ	_____	名前
印刷制御の変換	N	Y=YES, N=NO
印刷装置ファイル	_____	名前
ライブラリー	_____	
テキスト	\$ の順序報告書 _____	
圧縮	Y	Y=YES, N=NO
記入日付タイプ	1	
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 158. 報告書定義の作成 - 環境 - PAGE 報告書の例 (3 の 1)

報告書タイプ・フィールドの **PAGE** に注意してください。示されているとおりに各フィールドへの入力を行い、**次ページ・キー (Page Down)** を押して、図 159 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - 環境		ONDMD400
		98/01/08 14:50:49
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
記入日付:		
タイプ	1	
長さ	8	0-25
桁	11	0-255
行	3	0-256
-または-		
ピボット値	_____	
長さ	_____	1-16
桁	_____	0-255
+ 行オフセット	_____	-255-256
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 159. 報告書定義の作成 - 環境 - PAGE 報告書の例 (3 の 2)

示されているとおりに各フィールドへの入力を行い、**次ページ・キー (Page Down)** を押して、図 160 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - 環境		ONDMD400
		98/01/08 14:51:26
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
報告書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
文書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
すべての順序番号の検索	Y	Y=YES, N=NO
入力出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
索引出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
ビューアー出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
		終わり
F3=終了 F12=取り消し		

図 160. 報告書定義の作成 - 環境 - PAGE 報告書の例 (3 の 3)

報告書タイプ・フィールドの **PAGE** に注意してください。ここに示しているように、すべてのフィールドへの入力を行い、**実行キー**を押して、115 ページの図 161 の画面に進みます。

- 「報告書定義の作成 - セグメンテーション」画面には、**DOC** 報告書よりも **PAGE** 報告書に関して有効な入力フィールドが含まれています。 **PAGE** 報告書

では、セグメントとして、自然に分割されることはないため (小切手ステートメントの終了などのように)、セグメント・サイズ がそれぞれのセグメントに属するページ数を決定します。 **DOC** 報告書のセグメント・サイズ は、セグメント当たりの最大ページ数を定義しますが、通常、途中で起きる自然のセグメントの分割によって、しばしばその値に到達しないことがあります。

報告書定義の作成 - セグメンテーション		ONDMD400
		98/01/08 14:51:39
報告書/バージョン	TSTSEQ_____ / 01	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
セグメント・サイズ	100	1-100
セグメンテーション条件:		
変化/一致	2	1=変化, 2=一致
値	RASORT_____	
長さ	6	0-25
桁	2	0-255
行	1	0-256
-または-		
ピボット値	_____	
長さ	—	0-16
桁	—	0-255
+ 行オフセット	—	-255-256
条件の組み合わせ		0=なし, 1=AND, 2=OR
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 161. 報告書定義の作成 - NODX セグメンテーション例

使用するフィールドは、次のとおりです。

セグメント・サイズ

ページ・カウント (1 ~ 100) を入力します。

PAGE 報告書はきわめて長くなることがあるので、使用しやすくするためにページをセグメント化します。

ここに示しているように、各フィールドへの入力を行います。この例では、セグメンテーションの要件は 1 つのみであるため、**実行キー**を押して、116 ページの図 162 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - キー		ONDMD400
		98/01/08 14:52:24
報告書/バージョン : TSTSEQ____ / 01	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 1 の名前	\$金額	
長さ	11	1-25
最小検索文字数	1	1-長さ
位置:		
桁	2	0-255
行	0	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ	1	0-16
桁	10	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
小文字キー		Y=YES, N=NO
キーの機密保護		Y=YES, N=NO
複数キー		Y=YES, N=NO
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 162. 報告書定義の作成 - キー 1 - PAGE 報告書の例

示されている各フィールドへの入力を行い、次ページ・キー (Page Down) を押し、図 163 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - キー		ONDMD400
		98/01/08 14:52:24
報告書/バージョン : TSTSEQ____ / 01	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 2 の名前	終了金額	
長さ	11	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数	1	0-長さ
位置:		
桁	68	0-255
行	0	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ	1	0-16
桁	76	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
小文字キー		Y=YES, N=NO
キーの機密保護		Y=YES, N=NO
複数キー		Y=YES, N=NO
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 163. 報告書定義の作成 - キー 2 - PAGE 報告書の例

示されている各フィールドへの入力を行い、次ページ・キー (Page Down) を押し、117 ページの図 164 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - キー		ONDMD400
報告書/バージョン	98/01/08	14:52:24
: TSTSEQ___ / 01		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 3 の名前	ページ番号___	
F3=終了 F12=取り消し		続く...

図 164. 報告書定義の作成 - キー 3 - PAGE 報告書の例

次ページ・キー (Page Down) を押して、図 165 から 118 ページの図 166 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - キー		ONDMD400
報告書/バージョン	98/01/08	14:53:42
: TSTSEQ___ / 01		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 4 の名前	_____	
長さ	___	1-20
最小検索文字数	___	1-長さ
位置:		
桁	___	0-255
行	___	0-256
-または-		
ピボット値	_____	
長さ	___	0-16
桁	___	0-255
+ 行オフセット	___	-255-256
小文字キー		Y=YES, N=NO
キーの機密保護		Y=YES, N=NO
複数キー		Y=YES, N=NO
F3=終了 F12=取り消し		続く...

図 165. 報告書定義の作成 - キー 4 - PAGE 報告書の例

必要に応じて各フィールドへの入力を行い、次ページ・キー (Page Down) を押して、118 ページの図 166 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - キー		ONDM400
報告書/バージョン	TSTSEQ___ / 01	98/01/08 14:54:31
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 5 の名前	_____	
長さ	—	1-15
最小検索文字数	—	1-長さ
位置:		
桁	—	0-255
行	—	0-256
-または-		
ピボット値	_____	
長さ	—	0-16
桁	—	0-255
+ 行オフセット	—	-255-256
小文字キー		Y=YES, N=NO
キーの機密保護		Y=YES, N=NO
複数キー		Y=YES, N=NO
		終わり
F3=終了 F12=取り消し		

図 166. 報告書定義の作成 - キー 5 - PAGE 報告書の例

必要に応じて画面を完成し、**実行キー**を押します。

この報告書の報告書記憶のテストを行います。詳細については、75 ページの『オプション 2. 報告書の記憶』を参照してください。

NODX 報告書の定義

報告書によっては、ユーザー定義可能な意味のある索引がないために、**DOC** や **PAGE** 報告書として分類できない報告書があります。そのような報告書を、あとで検索できるように報告書名、日付、セグメント番号、およびページ番号を使用して、**NODX** (無索引) 報告書として保存することができます。報告書はいずれも、**NODX** として定義することができます。

ここでは、**PAGE** 報告書で定義したものと同一報告書を例として示しています。(スプール・ファイルは、**QRDARS** ライブラリーの物理ファイル **TSTSEQ** にコピーされています。)

TSTSEQ を表示するには、81 ページの『オプション 6. 物理ファイル・メンバーの表示』を選択します。119 ページの図 167 の画面が表示されます。

物理ファイル・メンバー表示 (DSPPFM)

選択項目を入力して、Enter キーを押してください。

```

ファイル . . . . . TSTSEQ _____ 名前
ライブラリー . . . . . QRDARS _____ 名前, *LIBL, *CURLIB
メンバー . . . . . *FIRST _____ 名前, *FIRST, *LAST
開始レコード . . . . . 1 _____ 番号, *END
    
```

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し
 F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 167. 物理ファイル・メンバー表示 (DSPPFM)

この例のようにファイル名とライブラリー名を入力し、**実行キー**を押して、「物理ファイル・メンバー表示」画面 (図 168) に進みます。

```

物理ファイル・メンバー表示
ファイル . . . . . : TSTSEQ          ライブラリー . . . . . : QRDARS
メンバー . . . . . : $SQRPT        レコード . . . . . : 1
制御 . . . . . :                   桁 . . . . . : 1
検索 . . . . . :
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...+...
1***** ← 行 1          ONDEMAND FARMERS NATIONAL BANK
BANK 001 ← 行 2
***** ← 行 3          ONDEMAND FARMERS NATIONAL BANK
BANK 001 ← 行 4
1 - - - - ***** ← 行 1          ONDEMAND FARMERS NATIONAL BANK
BANK 001 ← 行 2
BANK 001 ← 行 3
1RASORT P3313001 ← 行 1          ONDEMAND FARMERS NATIONAL BANK
BANK 001
FROM 90/12/20
TO 90/12/20
DOLLAR SEQUENCE REPORT
AMOUNT T/R ACCOUNT SERIAL ITEM SEQ. AMOUNT
        NUMBER NUMBER NUMBER NUMBER
3.00 05320066 1106013267 10226639 3.00
3.00 05320066 1106116899 10216446P 3.00
3.00 05320066 1106116899 10219452P 3.00
F3=終了 F12=取り消し F19=左 F20=右 F24=キーの続き
    
```

図 168. 物理ファイル・メンバー表示 - NODX 報告書の例

キー **NODX** キーの 1 から 3 までは、次のように、OnDemand によって作成されます。

- キー 1 - セグメント番号
- キー 2 - 日付
- キー 3 - ページ番号

追加のフィールド

次のフィールドを定義することができます。

- キーまたは表示フィールド 4

・ キーまたは表示フィールド 5

セグメンテーション

NODX の場合のセグメンテーションは、 **PAGE** の場合と同一です。前述の **PAGE** 報告書のセグメンテーションの手順に従ってください。

OnDemand への報告書の定義

「OnDemand 報告書管理メニュー」画面から 19 ページの『オプション 4. 報告書定義の処理』を選択します。図 169 から 121 ページの図 171 の例に示しているように、フィールドに情報を入力します。

報告書定義の作成 - 環境		ONDM400
		98/01/08 14:49:43
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
報告書	NODXDOLSEQ	名前
バージョン	01	01-99
報告書タイプ	NODX	DOC, PAGE NODX, UBND
入力レコード長	133	20-256
ポリシー名	D90TAPE__	名前
報告書オーバーレイ	_____	名前
報告書データ・タイプ	*OTHER_____	*SCS, *AFPDS *OTHER...
報告書グループ	_____	名前
印刷制御の変換	_____	Y=YES, N=NO
印刷装置ファイル	_____	名前
ライブラリー	_____	
テキスト	NODX \$の順序報告書__	
圧縮	Y	Y=YES, N=NO
記入日付タイプ	1	
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 169. 報告書定義の作成 - 環境 - NODX 報告書の例 (3 の 1)

示されているとおりに各フィールドへの入力を行い、次ページ・キー (Page Down) を押して、121 ページの図 170 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - 環境		ONDMD400
		98/01/08 14:50:49
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
記入日付:		
タイプ	1	
長さ	8	0-25
桁	11	0-255
行	3	0-256
-または-		
ピボット値	_____	
長さ	—	0-16
桁	—	0-255
+ 行オフセット	—	-255-256
F3=終了 F12=取り消し		続く...

図 170. 報告書定義の作成 - 環境 - NODX 報告書の例 (3 の 2)

示されている各フィールドへの入力を行い、**次ページ・キー (Page Down)** を押して、図 171 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - 環境		ONDMD400
		98/01/08 14:51:26
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
報告書結果画面のバイパス		Y=YES, N=NO
文書結果画面のバイパス		Y=YES, N=NO
すべての順序番号の検索		Y=YES, N=NO
入力出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
索引出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
ビューアー出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
F3=終了 F12=取り消し		終わり

図 171. 報告書定義の作成 - 環境 - NODX 報告書の例 (3 の 3)

示されている各フィールドへの入力を行い、**実行キー**を押して、122 ページの図 172 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - セグメンテーション		ONDMD400
		98/01/08 14:51:39
報告書/バージョン	: NODXDOLSEQ / 01	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
セグメント・サイズ	100	1-100
セグメンテーション条件:		
変化/一致	2	1=変化, 2=一致
値	RASORT	_____
長さ	6	0-25
桁	2	0-255
行	1	0-256
-または-		
ピボット値		_____
長さ	—	0-16
桁	—	0-255
+ 行オフセット	—	-255-256
条件の組み合わせ	0	0=なし, 1=AND, 2=OR
		終わり
F3=終了 F12=取り消し		

図 172. 報告書定義の作成 - NODX セグメンテーション例

表示されている各フィールドへの入力を行い、他のセグメンテーションの要件がない場合には、**実行キー**を押して、図 172 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - キー		ONDMD400
		98/01/08 14:52:24
報告書/バージョン	: NODXDOLSEQ / 01	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 1 の名前	SEGMENT	番号 _____
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 173. 報告書定義の作成 - キー 1 - NODX 報告書の例

フィールドには、ユーザーに代わって OnDemand が値を入れます。次ページ・キー (**Page Down**) を押して、123 ページの図 174 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - キー		ONDM400
		98/01/08 14:52:24
報告書/バージョン	: NODXDOLSEQ / 01	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 2 の名前	SEGMENT	日_____
長さ	8	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数	8	0=長さ
F3=終了 F12=取り消し		続く...

図 174. 報告書定義の作成 - キー 2 - NODX 報告書の例

フィールドには、ユーザーに代わって OnDemand が値を入れます。次ページ・キー (Page Down) を押して、図 175 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - キー		ONDM400
		98/01/08 14:52:24
報告書/バージョン	: NODXDOLSEQ / 01	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 3 の名前	ページ番号	_____
F3=終了 F12=取り消し		続く...

図 175. 報告書定義の作成 - キー 3 - NODX 報告書の例

フィールドには、ユーザーに代わって OnDemand が値を入れます。次ページ・キー (Page Down) を押して、124 ページの図 176 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - キー		ONDMD400
報告書/バージョン	: NONDXDOLSEQ / 01	98/01/08 14:53:42
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 4 の名前	_____	
長さ	—	1-20, 0=使用しない
最小検索文字数	—	1-長さ
位置:		
桁	—	0-255
行	—	0-256
-または-		
ピボット値	_____	
長さ	—	0-16
桁	—	0-255
+ 行オフセット	—	-255-256
小文字キー		Y=YES, N=NO
キーの機密保護		Y=YES, N=NO
複数キー		Y=YES, N=NO
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 176. 報告書定義の作成 - キー 4 - NODX 報告書の例

必要に応じてフィールドへの入力を行い、次ページ・キー (Page Down) を押して、図 177 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - キー		ONDMD400
報告書/バージョン	: NONDXDOLSEQ / 01	98/01/08 14:54:31
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 5 の名前	_____	
長さ	—	1-20
最小検索文字数	—	1-長さ
位置:		
桁	—	0-255
行	—	0-256
-または-		
ピボット値	_____	
長さ	—	0-16
桁	—	0-255
+ 行オフセット	—	-255-256
小文字キー		Y=YES, N=NO
キーの機密保護		Y=YES, N=NO
複数キー		Y=YES, N=NO
		終わり
F3=終了 F12=取り消し		

図 177. 報告書定義の作成 - キー 5 - NODX 報告書の例

ここで、必要に応じてフィールドを入力できます。実行キーを押して、定義を完了します。

UBND (アンバンドル) 報告書の定義

スプール・ファイルには、複数の報告書を入れることができます。スプール・ファイルを報告書別に分割 (アンバンドル) し、索引付けを行い、記憶することができます。スプール・ファイルの各報告書は、報告書定義を持っていなければなりません。

アンバンドル報告書には、再始動機能はありません。アンバンドル報告書の記憶の過程で、エラー状態が生じた場合には、OnDemand 環境を手操作でセットアップして再始動する必要があります。そのためには、エラー条件を訂正し、当該サイクルで記憶されたすべての報告書を削除します。

UBND の例 (図 178 で始まる) では、スプール・ファイル中の 2 つの報告書 (**TSTINVM** および **TSTSEQM**) を使用しています。

物理ファイル・メンバー表示 (DSPPFM)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ファイル	BUNDLE01	__	名前
ライブラリー	MYLIB	__	名前, *LIBL, *CURLIB
メンバー	*FIRST	__	名前, *FIRST, *LAST
開始レコード	1	__	番号, *END

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 178. 物理ファイル・メンバー表示 (DSPPFM) - UBND 報告書の例

実行キーを押して、「物理ファイル・メンバー表示」画面 (126 ページの図 179) に進みます。

```

物理ファイル・メンバー表示
ファイル . . . . . : BUNDLE01      ライブラリー . . : MYLIB
メンバー . . . . . : BUNDLE01      レコード . . . . : 1
制御 . . . . .      桁 . . . . . : 1
検索 . . . . .
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...+...
1  **TSTINVM ← 行 1
1  ← 行 1
-  ← 行 2
-  ← 行 3

ALMON SAFETY EQUIPMENT                      ALMON SAFETY EQUIPM
137 EAST BROAD AVENUE                      137 EAST BROAD AVEN
ALBANY, GA 30709-3590                      ALBANY, GA 30709-35

0
-
0 300 BEST WAY                                C000323  31709  1234567890
-

                                UPS
                                FREE
                                ORDER OVER 1000.00
03424                                TREADLE ASSEMBLY                EA      20.000
99001-1                              SPRAY UNIT - PVT LABEL          EA      15.000
03591-10                             WHEEL 12 IN DIA
26006-22                             TANK 12 BY 24 INCHES

***** (複数送り状続く) *****
.....
***** (送り状のページの終わり) *****

1  **TSTSEQM      ← 行 1                ONDEMAND FARMERS NATIONAL BANK
BANK  001        ← 行 2
BANK  001        ← 行 3
1RASORT P3313001 ← 行 1                ONDEMAND FARMERS NATIONAL BANK
BANK  001
FROM  90/12/20
TO    90/12/20

                                DOLLAR SEQUENCE REP
                                T/R      ACCOUNT      SERIAL      ITEM SEQ.
                                NUMBER    NUMBER      NUMBER      NUMBER      A
AMOUNT  3.00  05320066  1106013267  10226639P
AMOUNT  3.00  05320066  1106116899  10216446P
AMOUNT  3.00  05320066  1106116899  10219452P

***** (複数ページ続く) *****
.....
***** (報告書のページの終わり) *****

F3=終了  F12=取消し  F19=左  F20=右  F24=キーの続き

```

図 179. 物理ファイル・メンバー表示 - UBNB 報告書の例

セグメンテーション

セグメンテーション基準 (個々の報告書名を見つけるために使用される) は、報告書の最初のセグメント、または実際のデータの前のページ (たとえば、見出しページ、またはユーザー・プログラムにより OnDemand 報告書の識別用に挿入したページ) に入れることができます。

報告書名は、新しい報告書ごとに、常にページ上の同じ位置になければなりません。固定行位置またはピボット値に関しては、変更条件を使用することができます。

セグメンテーション基準に基づいて新しい報告書が見つかったら、OnDemand は、該当の報告書を (その報告書定義を使用して) スプール・ファイルの唯一の報告書であるかのように処理します。

OnDemand への報告書の定義

「OnDemand 報告書管理メニュー」画面から 19 ページの『オプション 4. 報告書定義の処理』を選択します。図 180 の画面が表示されます。

報告書定義の作成 - 環境		ONDMD400
		98/01/08 14:49:43
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
報告書	BUNDLE01	名前
バージョン	01	01-99
報告書タイプ	UBND	DOC, PAGE
		NODX, UBND
入力レコード長	133	20-256
ポリシー名	D90TAPE	名前
報告書オーバーレイ		名前
報告書データ・タイプ	*OTHER	*SCS, *AFPDS
		*OTHER...
報告書グループ		名前
印刷制御の変換	N	Y=YES, N=NO
印刷装置ファイル		名前
ライブラリー		
テキスト	その他の報告書のバンドル	
圧縮	Y	Y=YES, N=NO
記入日付タイプ	1	
続く...		
F3=終了 F12=取り消し		

図 180. 報告書定義の作成 - 環境 - UNBD 報告書の例 (3 の 1)

示されているとおりに各フィールドへの入力を行い、次ページ・キー (Page Down) を押して、図 181 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - 環境		ONDMD400
		98/01/08 14:50:49
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
記入日付:		
タイプ	1	
長さ	8	0-25
桁	11	0-255
行	3	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ		0-16
桁		0-255
+ 行オフセット		-255-256
続く...		
F3=終了 F12=取り消し		

図 181. 報告書定義の作成 - 環境 - UNBD 報告書の例 (3 の 2)

示されているとおりに各フィールドへの入力を行い、次ページ・キー (Page Down) を押して、図 182 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - 環境		ONDMD400
		98/01/08 14:51:26
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
報告書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
文書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
すべての順序番号の検索	Y	Y=YES, N=NO
入力出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
索引出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
ビューアー出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
F3=終了 F12=取り消し		終わり

図 182. 報告書定義の作成 - 環境 - UNBD 報告書の例 (3 の 3)

OnDemand は、変更 (次画面を参照) として定義された報告書のセグメント化の値を取り出し、それをアンバンドル出口 フィールドに指定されているプログラム (指定がある場合) に渡します。この手法を使用して、取り出された報告書名を、OnDemand 報告書定義に一致する別の報告書名に変更することができます。詳細については、309 ページの『アンバンドル出口』を参照してください。

実行キーを押して、129 ページの図 183 の画面に進みます。

示されているとおりに各フィールドへの入力を行い、実行キーを押して、129 ページの図 183 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - セグメンテーション		ONDM400
報告書/バージョン	BUNDLE01_ /01	98/01/08 14:51:39
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
セグメント・サイズ	100	1-100
セグメンテーション条件 1:		
変化/一致	1	1=変化, 2=一致
値		
長さ	10	0-25
桁	7	0-255
行	0	0-256
-または-		
ピボット値	**	
長さ	2	0-16
桁	5	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
条件の組み合わせ	0	0=なし, 1=AND, 2=OR
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 183. 報告書定義の作成 - セグメンテーション - UNBD 報告書の例

OnDemand が、バンドル内の異なる各報告書に対し変更として定義された報告書セグメント化の値を取り出すと、個々の報告書ごとに別個の報告書収集が実行され、その結果、それぞれの名前ごとに報告書の保存が行われます。

実行キーを押して、UNBD 報告書定義を完了します。

ANYS (AnyStore) 報告書の定義

AnyStore 報告書定義は非常に単純であり、標準的な報告書定義のサブセットに相当します。以下の画面に示すように、いくつかの必須フィールドしかありません。たとえば、最も重要な要件の 1 つは、各 AnyStore 報告書定義が、報告書グループに属することです。AnyStore 要件に関する詳細については、177 ページの『第 4 章 OnDemand AnyStore 機能の使用』を参照してください。

OnDemand への報告書の定義

「OnDemand 報告書管理メニュー」画面から 19 ページの『オプション 4. 報告書定義の処理』を選択します。130 ページの図 184 の画面が表示されます。

報告書定義の作成 - 環境		ONDMD400
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		98/01/08 14:49:43
報告書	SPREADSHT_	名前
バージョン	01	01-99
報告書タイプ	ANYS	DOC, PAGE NODX, UBND 20-256
入力レコード長		名前
ポリシー名	D90OPTICAL	名前
報告書オーバーレイ		*SCS, *AFPDS *OTHER...
報告書データ・タイプ	*IFS	名前
報告書グループ	ANYSGROUP_	名前
印刷制御の変換	N	Y=YES, N=NO
印刷装置ファイル ライブラリー		名前
テキスト	AnyStore IFS	ファイル (スプレッドシート)
圧縮	N	Y=YES, N=NO
記入日付タイプ		
F3=終了 F12=取り消し		続く...

図 184. 報告書定義の作成 - 環境 - ANYS の例 (2 の 1)

AnyStore では、この画面でフィールドに入力があっても、不要なものは無視されま
す。 AnyStore の場合に指定するフィールドには、以下が含まれます。

- 報告書名
- バージョン
- 報告書タイプ (AnyStore の場合は **ANYS** でなければなりません)
- ポリシー名
- 報告書データ・タイプ
- 報告書グループ (AnyStore の場合は必須)
- テキスト
- 圧縮

無視されるフィールドは、以下のとおりです。

- 入力レコード長
- 報告書オーバーレイ
- 印刷制御の変換
- 印刷装置ファイルおよびライブラリー
- 記入日付タイプ

必須フィールドを指定したら、次ページ・キー (**Page Down**) を押して、131 ペー
ジの図 185 の画面に進みます。

報告書定義の作成 - 環境		ONDM400
		98/01/08 14:51:26
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
報告書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
文書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
すべての順序番号の検索	Y	Y=YES, N=NO
入力出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
索引出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
ビューアー出口	_____	名前
ライブラリー	*LIBL_____	
オブジェクト・クラス	_____	0-9999
		終わり
F3=終了 F12=取り消し		

図 185. 報告書定義の作成 - 環境 - ANYS の例 (2 の 2)

これは、標準のスパール・ファイル保存報告書に使用される画面と同じ画面です。AnyStore の場合に必要なフィールドは**オブジェクト・クラス**であり、以下のリストからの事前定義値を含めることができます。

- 0 オブジェクト・クラスが指定されていない
- 1 ビットマップ・タイプ・オブジェクト
- 2 GIF タイプ・オブジェクト
- 3 PCX タイプ・オブジェクト
- 4 PDF タイプ・オブジェクト
- 5 PostScript タイプ・オブジェクト
- 6 TIFF タイプ・オブジェクト
- 7 JPEG タイプ・オブジェクト

ANYS 報告書定義には、報告書セグメンテーションの概念がありません。AnyStore API を呼び出すプログラムが、セグメンテーションを決定します。したがって、**実行キー**を押して、132 ページの図 186 に移動します。

報告書定義の作成 - キー		ONDM400
報告書/バージョン	SPREADSHT / 01	98/01/08 14:52:24
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キー 1 の名前	Filename.type	
長さ	12	1-25
最小検索文字数	1	1-長さ
位置:		
桁	5	0-255
行	6	0-256
-または-		
ピボット値		
長さ	0	0-16
桁	0	0-255
+ 行オフセット	0	-255-256
小文字キー	Y	Y=YES, N=NO
キーの機密保護	N	Y=YES, N=NO
複数キー	N	Y=YES, N=NO
		続く...
F3=終了 F12=取り消し		

図 186. 報告書定義の作成 - キー - ANYS の例 (5 の 1)

必要に応じてフィールドを指定します。この画面は、標準のスパール・ファイル保存報告書 (DOC 報告書など) の場合に使用すると同じ画面です。フィールドの多くは、**ANYS** 報告書には適用されません (たとえば、すべての位置フィールド)。これらのフィールドは、入力しても無視されます。

次ページ・キー (Page Down) を押して次のキー画面に進むか、実行キーを押して **ANYS** 報告書定義を完了します。

スパール・ファイル保存の機密保護の詳細

OnDemand に保存された報告書文書の検索は、4 つのステップのプロセスで行います。第 1 に、ユーザーは、報告書または報告書グループを名前を選択します。この報告書名は、報告書定義レコード内の名前です。報告書名は、保存された報告書オブジェクトが記憶されているディレクトリーに対応するとともに、このディレクトリーの機密を保護するために使用される権限リストにも対応します。これは、これらの内容にも適用されます。

第 2 ステップでは、報告書名の選択後、その報告書の特定のオカレンスを選択します。**オカレンス** とは、OnDemand に保存されるスパール・ファイルであって、報告書名またはその報告書を記述する定義を使用するものを指します。これらのスパール・ファイルのいずれかを**報告書オブジェクト**として参照することができます。OnDemand は、これらの報告書オブジェクトを日付および順序番号で識別します。たとえば、**19970412.002** は典型的なオブジェクト名です。

次に、1 つ以上の検索値またはキー値を入力して報告書オブジェクトの特定のセグメントまたはページを選択します。入力した検索値は、OnDemand がオブジェクトを保存したときにそのテキストから取り出した対応するキー値と比較されます。検索によって、ユーザーが入力した検索値と一致する報告書セグメントのリストが戻されます。

第 4 ステップでは、上記の検索値と一致するキー・レコードのリストから、検索対象の報告書セグメントを選択します。

以上のように、4 つの処理によって報告書検索を行います。これらの処理とは、報告書名の選択、報告書オブジェクトの選択、キー値の入力、および表示、再印刷、またはファクシミリ送信する 1 つ以上のセグメントの選択です。

OnDemand 機密保護機能は、これらの第 1 ステップで行う報告書名の選択、および第 3 ステップで行う入力したキー値に基づく検索に適用されます。**報告書の機密保護**は、保存された報告書へのアクセスを報告書名レベルで制御します。**キーの機密保護**は、キー・フィールドまたは表示フィールドの実際の値に基づいて、保存された報告書の特定のセグメントまたはページへのアクセスを許可したり制限したりします。

以下の 2 つのセクションでは、これらの機密保護機能の影響について説明します。最初に、『OnDemand 機密保護の機能』で全ユーザーに影響する操作可能な機能について説明してから、136 ページの『OnDemand 機密保護のセットアップ方法』で、OnDemand 管理担当者が使用する項目について説明します。これらのセクションでは、報告書の機密保護について説明してから、キーの機密保護の情報について説明します。

OnDemand 機密保護の機能

報告書の機密保護

報告書名のリストの検索:

個々の報告書名のリスト: 保存された報告書を検索する際に、ユーザーは、「報告書検索の指定」画面で既存の報告書名のリストから報告書を選択できます。この操作は、「報告書の検索」メニュー・オプションを選択して行っても、**FND RPTR DAR** コマンドを実行して行っても同じです。カーソルを**報告書**フィールドに置いて **F4** を押すと、選択リストが生成されます。(また、**報告書グループ**・フィールドに、**総称** 値または **AP*** などの部分検索値を入力することもできます。) 生成された報告書名のリストには、ユーザーが検索を許可される報告書で、しかも最低限 1 つの報告書が保存された報告書名だけが示されます。

報告書グループ・リストの使用: 報告書グループ内にある保存された報告書を検索する際には、ユーザーは、「報告書検索の指定」画面で既存の報告書グループのリストから報告書を選択できます。カーソルを**報告書グループ**・フィールドに置いて **F4** を押すと、報告書グループのリストが生成されます。または、このフィールドに、**総称** 値、または **AP*** などの部分検索値を入力します。この時点では、報告書グループのリストは、報告書の機密保護検査を受けないまま表示されています。すなわち、リストに表示されているものは、すべて定義済みの報告書グループです。「**報告書結果の選択**」リストに表示される報告書名は、以下によって異なります。

- ユーザーは、自分に権限が付与されている特定の報告書グループを選択しているかどうか。
- 選択した報告書グループに少なくとも 1 つの報告書が保存されているかどうか。

報告書名の選択:

単一の報告書名の選択: 以上の説明のように、ユーザーが報告書名リストから特定の報告書名を 1 つ選択したときには、既に報告書の機密保護が検査されています。ユーザーが以下のいずれかを行うと、OnDemand は、指定された名前前の報告書が見つからないというエラー・メッセージを出します。

- ユーザーが「報告書検索の指定」画面で、許可されていない報告書名を入力した場合。
- ユーザーに対して、**FNDRPTRDAR** を使用した報告書へのアクセスが許可されていない場合。

許可されていない報告書名が **FNDKEYRDAR** コマンドで使用されると、応答が送られます。この応答は、アクセスが拒否され、この報告書へのアクセスがそのユーザーには許可されていないことを示します。

複数の報告書の使用 (グループの検索): ユーザーが報告書グループ内の報告書を選択すると、その報告書は、**グループの検索**を開始することができます。これを行うには、キー値入力画面(「文書検索の指定」)で **F6** を押します。報告書グループ内の複数の報告書を検索するには、当該ユーザーに、報告書グループへのアクセス権限が付与されていなければなりません。ユーザーに報告書グループへのアクセス権限が付与されていないと、プロンプト **F6 = グループの検索**が「文書検索の指定」画面に表示されません。したがって、このユーザーはグループ検索を開始することができません。グループ検索のプロンプトは、報告書グループへのアクセス権限が付与されていれば常に表示されます。また、報告書グループ内の個々の報告書のうち 1 つでもそのユーザーを除外していれば、このプロンプトが表示されます。グループ検索では、グループ検索の適用範囲から除外された報告書はすべて省略されます。**FNDKEYRDAR** コマンドを使用して許可されていないグループ検索を開始すると、システムからメッセージが出されます。応答は、この報告書へのアクセスが許可されていないことを示す、より具体的なエラー・メッセージです。

キーの機密保護の使用

OnDemand のキーの機密保護機能は、基本的に、2 つのセットのキー値を突き合わせることによって行われます。すなわち、報告書の索引レコードにあるキー値は、その報告書およびユーザーのキー機密保護レコードに記憶されたキー値と比較されます。報告書の索引(またはディレクトリー)レコードには、定義されたキーおよび表示フィールドごとの実際の値が含まれます。OnDemand は、実際の報告書テキストからこれらの索引を取り出します。これは、OnDemand がこれらの索引を保存する際に行います。これらの索引レコードは、キー値の組み合わせとともに、報告書の特定のセグメントを指します。

キー機密保護レコードは、OnDemand の管理担当者が作成します。これらのレコードは、報告書定義が終わってから報告書を記憶するまでの間に、特定の報告書セグメントのキーの機密保護の値または範囲を定義します。各キー機密保護レコードには、以下の定義が含まれます。

- 特定の報告書名のキーの機密保護値の組み合わせ。
- その報告書のキーの機密保護値へのアクセスが許可されている特定のユーザー(またはユーザーのグループ)。

文書の検索: OnDemand ユーザーは、「文書検索の指定」画面で 1 つ以上の検索値を入力して、文書 (または報告書) の特定のセグメントまたはページを選択します。入力した検索値は、報告書の索引レコード内の対応するキー・フィールド値と比較されます。入力した検索値とキーの機密保護値の両方に一致する索引レコードすべてのリストが、「文書の処理」画面に表示されます。検索値およびキーの機密保護値のこの検査は、各キー・フィールドおよび表示フィールドごとに全ユーザーに対して必ず行われます。この処理は、報告書の定義で**キーの機密保護**が **Y** に設定されたキー・フィールドまたは表示フィールドについてのみ行われます。機密保護値の検査は、***ALLOBJ** または機密保護担当者権限を持つユーザーについては指定変更されません。

拡張キー機密保護プロセスは、次の場合に開始されます。

- 報告書定義レコードで、キーおよび表示フィールドの**キーの機密保護**が **Y** に設定されている場合。
- これらの各フィールドの実際の値は、そのユーザーのキー・フィールドまたは表示フィールドのキー機密保護レコード内で指定された、許可された範囲内であればなりません。

検索プロセスでは、キー機密保護要件を満たし、かつ入力したキー値と一致する索引レコード (キー値) しか表示されません。たとえば、ユーザーが、キー 1 の検索値として ***ALL** を入力し、報告書の全セグメントを要求したとします。このユーザーに対して実際に表示されるのは、キーの機密保護の検査で使用を許可されていると判別された索引レコードのリストです。

現行のユーザーが使用するためのキー機密保護レコードの選択に当たっては、キー機密保護テーブル内の特定の項目が優先されます。たとえば、**FRED** が OnDemand ユーザーであり、あるキー機密保護レコードによって、**FRED** は **GLEXPENSE** という名前の報告書の企業番号 100 から 199 までしか使用できないことが指定されているとします。(企業番号を報告書のキーの 1 つとして使用します。) さらに、同じキーおよび報告書名の別のキー機密保護レコードが、全ユーザー (***PUBLIC**) に **GLEXPENSE** 内の全企業番号の使用を許可しているとします。**FRED** に対する特定のレコードが存在しているので、OnDemand は **FRED** のレコードを使用します。つまり、**FRED** は、**GLEXPENSE** 報告書の企業番号 100 ~ 199 のセグメントしか参照できません。キー機密保護レコードの選択順序は、ユーザー・プロファイル、ユーザー・グループ・プロファイル (ユーザーのユーザー・プロファイルがユーザー・グループ・プロファイルを指定している場合)、***PUBLIC** の順です。

キー・フィールドまたは表示フィールドのキーの機密保護が使用可能な場合に、現行のユーザーに適用するキー機密保護レコードが見つからない場合は、検索は行われません。ユーザーは、このキーでは文書が見つからないという示すメッセージを受け取ります。

グループの検索: グループ検索は、「文書検索の指定」画面で報告書グループの一部である報告書名を選択してから **F6** を押すと、実行されます。グループ検索が行われると、アクセスが許可された報告書がグループ内で識別され、指定した日付の範囲、入力したキーの値、およびキーの機密保護範囲すべてに一致する値が選択されます。

グループ検索を生成すると、報告書グループのキー機密保護レコードが識別されません。OnDemand の以前のバージョンでは、選択された報告書のキー機密保護レコードがグループ検索に使用されました。このバージョンでは、グループ検索で個々の報告書のキー機密保護制御が使用されることはありません。この変更によって、個々の報告書定義のいくつかに基づく検索と比較して、グループ検索の結果が大幅に変わる場合があります。特に、定義されたまま、あるいは報告書グループ定義で機密保護されていないキー・フィールドは、キーの機密保護検査には使用されません。しかし、このキーを定義し、かつグループ内の 1 つ以上の報告書定義で**キーの機密保護** を **Y** に設定することができます。

報告書全体の印刷 (PRTRPTRDAR): 「報告書の印刷」メニュー・オプションおよび **PRTRPTRDAR** コマンドで、保存された文書の全テキストを再印刷することができます。これは、文書の全セグメントの検索と同様の処理なので、この機能の場合にもキーの機密保護検査が行われます。この方法で報告書全体を印刷したい場合は、報告書定義でキーの機密保護が使用可能になっているキーごとに ***ALL** キー値を付与しなければなりません。OnDemand が保護されたキーについてこのようなキー機密保護レコードの検索に失敗すると、要求した報告書は印刷されません。コマンドは、特定の報告書の使用がユーザーに許可されていない旨を示すエラー・メッセージを戻します。

キー値 (特殊値 ***ALL** を含む最低値および最高値の両方のフィールド) すべてへのアクセスを認可するキー機密保護レコードは、以下の条件で提供することができます。

- 個々のユーザー・プロファイルに対して
- グループ・プロファイルに対して
- 全 OnDemand ユーザー (***PUBLIC**) に対して

現行のユーザーに使用するキー機密保護レコードの選択では、特定の項目が優先されます。**FRED** は、特定の報告書キーに対して特定のキー範囲のみを使用することが許可されたキー機密保護レコードを持っています。さらに、同じキーの共通権限は ***ALL** です。つまり、**FRED** は、「報告書の印刷」メニュー・オプションまたは **PRTRPTRDAR** コマンドの使用を許可されている場合でも、報告書を印刷することができません。

最低値および最高値が ***ALL** であるキー機密保護レコードの検査は、常に、各キー・フィールドまたは表示フィールドごとに全ユーザーに対して行われます。これは、報告書の定義で**キーの機密保護** が **Y** に設定されたキー・フィールドまたは表示フィールドにのみ行われます。ユーザーには ***ALLOBJ** または機密保護担当者権限がある場合には、キーの機密保護値の検査は指定変更されません。

OnDemand 機密保護のセットアップ方法

報告書の機密保護の管理

OnDemand は、標準的な OS/400 オブジェクト機密保護機能に似た方法で報告書機密保護の管理を行います。OnDemand は、権限リストを使用して、OnDemand 報告書ディレクトリーおよびその内容に対してユーザー権限を認可したり検査したりします。報告書の機密保護は、標準的な OS/400 の機密保護と似ているため、

***ALLOBJ** 権限を持つ OnDemand ユーザーは当然、OnDemand 内のすべてのオブジェクトに対する権限も持つことになります。IBM は、この方法をお勧めしません。

OnDemand 管理ファイルおよびコマンドに対する機密保護は、以前の OnDemand リリースから拡張されています。OnDemand は、**QRDARSADM** と呼ばれる新しい権限リストを使用してオブジェクトの機密を保護します。**QRDARSADM** という OnDemand 管理担当者の新しいユーザー・プロファイルには、権限リスト **QRDARSADM** によって機密を保護された ***ALL** 権限があります。管理ファイルおよびコマンドにアクセスできるようにするには、**QRDARSADM** ユーザー・プロファイルをグループ・プロファイルとして OnDemand 管理担当者のユーザー・プロファイルに追加する必要があります。**QRDARSADM** は、最初のグループ・プロファイル (**GRPPRF(QRDARSADM)**) であっても補足グループ・プロファイル (**SUPGRPPRF(QRDARSADM)**) の 1 つであっても構いません。

ここで説明する機密保護の拡張では、以下に必要な実際の管理用タスクはあまり変更されていません。

- 報告書の機密保護
- **WRKADMRDAR** コマンド
- 報告書権限リストの編集に使用するメニュー・オプション

報告書グループ内のすべての報告書の権限を認可する報告書グループの権限リストの使用が、OnDemand の以前のリリースから拡張されました。OnDemand ユーザーが特定の報告書の権限リスト内に特定権限を持っておらず、かつ報告書が報告書グループ内にあるとします。ついで、そのユーザーに認可された、報告書グループの権限リスト内の権限は、個々の報告書に適用されることとなります。これは、ユーザー・グループ・プロファイルを使用して、ユーザーのグループに特定のオブジェクトに対する権限を認可するのに類似しています。

たとえば、新しい OnDemand 報告書定義を報告書グループに追加する際、***EXCLUDE** を指定すれば、報告書の権限リストにユーザー ***PUBLIC** の項目が入ります。**FRED** に対してその報告書グループの使用許可を与える項目が報告書グループの権限リストに含まれているとします。この場合、**FRED** は、グループ内の新しい報告書を使用することもできます。**FRED** に与えられた報告書グループに対する権限によって、新しい報告書に対する ***PUBLIC *EXCLUDE** は無視されます。**FRED** に対する ***EXCLUDE** 項目を追加することによって、新しい報告書の権限リストを変更すれば、**FRED** はグループ内の新しい報告書にアクセスできなくなります。すなわち、グループ検索を行っても、その新しい報告書は出てきません。

ある報告書グループに対して許可されてはいるが、そのグループ内の特定の報告書から明示的に除外されているユーザーは、グループ検索の実行に制限を受けます。あるユーザーが、グループ内で 20 を超える報告書から明示的に除外されると、そのユーザーはグループ検索を行えなくなります。

キーの機密保護の管理

キーの機密保護の管理には、2 つのタイプのレコード (報告書定義レコードとキーの機密保護レコード) の保守活動が関係します。これらのレコードのフィールドおよび属性のいくつかは、名前が非常に類似しており、密接に関連した機能を持ちます。これらのレコードおよび機能は注意して区別してください。

報告書定義レコード (ファイル **QARLRACT** にあります) は、OnDemand 報告書の以下の点について記述します。

- 一般的な特性
 - セグメント分割方法
 - 検索対象の報告書またはセグメントを探す場合に使用するキーと表示フィールド
- 報告書定義の各キー・フィールドと表示フィールドには、「**キーの機密保護**」フィールドがあります。そのフィールドに対するキーの機密保護機能を**オン**にするには、このフィールドを **Y** に設定します。これらの報告書定義は、OnDemand メニューの中の 1 つから「報告書定義の処理」メニュー・オプションを選択することによって保守します。

キーの機密保護レコードは、**QARLRSEcn** という名前のファイルのセット内にあります。ここで、**n** は、キーの機密保護の検査に使用するキー・フィールドの番号です。各キーの機密保護レコードは、特定のキー・フィールドや表示フィールド、報告書、およびユーザーの組み合わせの許可された値の範囲を指定します。ユーザーは、ユーザー・プロファイル、ユーザー・グループ・プロファイル、または ***PUBLIC** で指定します。これらのキーの機密保護レコードは、「**ONDEMAND** 報告書管理メニュー」画面から「キーの秘密保護の処理」メニュー・オプションを選択することによって保守します。

報告書定義レコードまたはキーの機密保護レコードを変更したり追加したりするには、管理担当者のユーザー・プロファイルで、新しい **QRDARSADM** ユーザー・プロファイルをグループ・プロファイルとして指定しておかなければなりません。

報告書定義におけるキーの機密保護の使用可能化: 報告書定義の各キー・フィールドと表示フィールドには、**キーの機密保護** フィールドがあり、**Y** または **N** を設定することができます。これらの**キーの機密保護** フィールドの設定と関連する重要な事項がいくつかあります。この目的は、同じ報告書へのアクセスに使用される可能性があるその他のすべての報告書定義レコードに対するキーまたは表示フィールドを機密保護するために取る処理を拡張することです。以下の段落では、これらの変更について詳細に説明します。

報告書グループ定義におけるキーの機密保護の使用可能化: 報告書グループ定義のキー・フィールドおよび表示フィールドについて、**キーの機密保護** を **Y** に設定することができるようになりました。報告書グループのキー・フィールドまたは表示フィールドでキーの機密保護レコードを追加したり除去したりすると、報告書グループ定義の**キーの機密保護** 値が自動的に正しく設定されます。(詳細については、139 ページの『キー機密保護レコードの追加/削除によるキーの機密保護値の変更』および 140 ページの『キー機密保護レコードの保守』を参照してください。)

表示フィールドのキーの機密保護の使用可能化: 報告書定義のキー・フィールドおよび表示フィールドの両方について、キーの機密保護を使用可能にすることができます。両方のタイプのフィールドを選択して、キーの機密保護レコードの入力または更新を行うことができます (140 ページの『キー機密保護レコードの保守』を参照してください)。通常は、同じデータ項目を、あるバージョンの報告書定義ではキー・フィールドとして指定し、別のバージョンでは表示専用フィールドとして指定します。キーの機密保護の制限は、報告書の検索に使用する報告書定義のバージョンに関係なく、正しく機能します。

キー機密保護レコードの追加/削除によるキーの機密保護値の変更: 特定の報告書のキーまたは表示フィールドに対する少なくとも 1 つのキー機密保護レコードを追加すると、報告書定義レコード内のそのフィールドに対する**キーの機密保護** 値が自動的に **Y** に変更されます。たとえば、同じ報告書について複数のバージョンが存在するとします。例を挙げると、報告書 **GLEXPENSE** に 2 つのバージョンがあるため、報告書定義にバージョン **01** およびバージョン **02** が存在するような場合です。この場合、**キーの機密保護** フィールドは、全バージョンで **Y** に変更されます。つまり、以下の条件を満たす場合、報告書グループ定義で **キーの機密保護** は **Y** に変更されます。

- 報告書が報告書グループの一部である場合。
- 報告書グループ定義で、影響するキーまたは表示フィールドが定義されている場合。
- **キーの機密保護** が **N** に設定されている場合。

報告書定義レコードのフィールドの**キーの機密保護** 値は、以下の場合に自動的に **N** に変更されます。

- 特定の報告書のキーについて、最後のキー機密保護レコードが削除された場合。
- 特定の報告書の表示フィールドについて、最後のキー機密保護レコードが削除された場合。

たとえば、同じ報告書について複数のバージョンが存在するとします。例を挙げると、報告書 **GLEXPENSE** に 2 つのバージョンがあるため、報告書定義にバージョン **01** およびバージョン **02** が存在するような場合です。この場合、**キーの機密保護** フィールドは、全バージョンで **N** に変更されます。報告書が報告書グループの一部である場合は、最後のキー機密保護レコードを削除しても、報告書グループ定義内のキーの**キーの機密保護** 値は**変更されません**。(この特定の報告書のこの特定のキーからキーの機密保護を除去しても、必ずしもこのキーが報告書グループ・レベルで機密保護されなくなるわけではありません。)

実際には、管理担当者がキーの機密保護保守プログラムを終了するときに、報告書定義の**キーの機密保護** 値が自動更新されます。特定のキーについてキー機密保護レコードが作成されると、必ず更新が実行されます。このようなキー機密保護レコードが存在することが検出されると、**少なくとも 1 つのキーが特定の報告書のキーまたは表示フィールドに追加された** と判別されます。選択された報告書に、そのキーに対するキー機密保護レコードが存在していない場合、**最後のキー機密保護レコードの削除** が行われたと見なされます。したがって、管理担当者がキー機密保護保守プログラムを終了するたびに、関連する報告書定義の**キーの機密保護** 値が自動的に更新されます。これは、実際には保守が行われなかった場合にも実行されます。

他の報告書定義で影響が及ぶキーの機密保護値への変更: 以下の条件を満たす場合、すべてのバージョンで**キーの機密保護** フィールドは **Y** に変更されます。

- 任意の報告書定義のキーまたは表示フィールドについて**キーの機密保護** を **Y** に変更する場合。
- 同じ報告書について複数のバージョンが存在する場合。

キーの機密保護 は、報告書グループ定義でも、以下の条件を満たす場合に **Y** に変更されます。

- 報告書が報告書グループの一部である場合。

- 報告書グループ定義で、影響するキーまたは表示フィールドが定義されている場合。
- 報告書グループ定義で**キーの機密保護** が **N** の場合。

新しい報告書定義の追加時における前のバージョンからのキーの機密保護値の使用：
管理担当者が、OnDemand に新しい報告書定義を追加する場合に、同じ報告書の別のバージョンが存在するとします。既存のバージョンが提供する**キーの機密保護**値のデフォルト値が、新しい報告書定義の値として使用されます。別のバージョンは存在しないが、新しい報告書定義を報告書グループに追加する場合は、報告書グループ定義レコードの**キーの機密保護** 値を、新しい報告書定義のデフォルト値として使用します。

複数值 (複数キー) フィールドに許可されていないキーの機密保護：報告書定義レコードを追加したり変更したりする場合に、**キーの機密保護** 値および**複数キー** 値の両方を同じキー・フィールドや表示フィールドに対して等しく **Y** に設定することはできなくなりました。**複数キー** の指定は、報告書の単一セグメントにそのキー・フィールドに対する複数の値が含まれる場合に使用します。つまり、このキー・フィールドに対して異なる値を持つ複数の索引レコードが、同じ報告書セグメントへのアクセスに使用されます。キーの機密保護も使用可能であると仮定した場合、このキーに許可された値を使用して、制限された値を含む報告書セグメントを検索および表示することができます。

報告書のキーの機密保護によって制限しなければならないキー・フィールドは、同じセグメント内に通常複数の値を持つキーと同じキーではありません。得意先への送り状が企業、営業担当者、得意先、送り状番号、および製品番号に定義されたキー・フィールドとともに保存されている場合は、これらの送り状は、おそらく送り状番号の変更時にセグメントに分割されます。ほとんどの送り状には複数の製品が含まれるので、製品番号 (キー 5) は**複数キー** として指定することになります。キーの機密保護は、企業番号、営業担当者番号、および (おそらく) 得意先番号 (キー 1 ~ 3) に最適です。これらのキーに対し、キーの機密保護を使用可能にして、製品番号 (キー 5) を**複数キー** として指定することができます。これによって、キーの機密保護処理と複数キー処理の両方が、前述のように機密漏れが生じることなく正しく処理されます。

キー機密保護レコードの保守:

キーの機密保護を保守するための報告書グループの選択：OnDemand 報告書管理者は、キーの機密保護の処理を使用することによって (「ONDEMAND 報告書管理メニュー」のオプション 13)、「ONDEMAND の機密保護の処理」画面で報告書グループ名を選択することができるようになりました。報告書グループのキー・フィールドまたは表示フィールドでキーの機密保護レコードを追加したり除去したりすると、報告書グループ定義の**キーの機密保護** 値が自動的に正しく設定されます。(139 ページの『キー機密保護レコードの追加/削除によるキーの機密保護値の変更』を参照してください)。

報告書グループ名の選択時に、スクリーン編集機能で**バージョン** 値を入力する必要があります。報告書グループ定義にはバージョン値はありませんが、単にデフォルト値 **01** にしておけば、指定した報告書グループ定義が正しく選択されます。

キーの機密保護の保守における表示フィールドの選択: キー・フィールドと表示フィールドの両方を選択して、キー機密保護レコードの入力または更新を行うことができます。

通常は、同じデータ項目を、あるバージョンの報告書定義ではキー・フィールドとして指定し、別のバージョンでは表示専用フィールドとして指定します。キーの機密保護の制限は、報告書の検索に使用する報告書定義のバージョンに関係なく、正しく機能します。

キーの機密保護の保守における複数キー・フィールドの省略: 複数值のキー・フィールドおよび表示フィールドに対してキーの機密保護を使用可能にすると、問題が発生する場合があります。このため、**複数キー** を **Y** に設定したキー・フィールドや表示フィールドは、「機密保護キーの選択」画面に表示されません。これは、報告書定義で定義されたキー・フィールドおよび表示フィールドをリストした画面です。140 ページの『複数值 (複数キー) フィールドに許可されていないキーの機密保護』を参照してください。

キー機密保護レコードにおける最低値および最高値の入力: キー機密保護レコードの**最低値** データ・フィールドおよび**最高値** データ・フィールドの入力や更新は、細かく編集されません。これらの値は、保存された報告書から抽出された実際のデータ値に基づくので、このフィールドではほとんどの値が許可されます。ただし、特別に考慮しなければならない事項がいくつかあります。

一般に、キーの機密保護の検査処理では、最低値および最高値のフィールドで検出された値がそのまま使用されます。このため、フィールド内での文字位置によって結果は異なります。値 **M** を誤って (先行ブランクを付けて) **M** としてキーの最低値フィールドに指定しないように注意してください。このようにすると、ユーザーは **M** から始まるキー値には制限されなくなってしまう可能性があります。最低値 **M** に先行ブランクがあると、すべてのキー値にアクセスできるようになる可能性があります。

ほとんどの**特殊文字** は、最低値および最高値で使用しても問題はありません。ただし、**単一引用符** またはアポストロフィ (') およびパーセント記号 (%) は例外です。キー機密保護レコードでこれらの特殊文字のいずれかを使用すると、報告書の検索中にプログラム障害が起こります。

2 種類の特殊文字については、最低値フィールドおよび最高値フィールドで使用され、かつ他の特別な条件も満たされている場合に限り、特別な機能を持ちます。アスタリスク (*) を最後の文字として入力すると、値の**総称** 比較の際に部分値が使用されます。(この機能の使用については、142 ページの『総称比較用のキー機密保護レコードの部分値』を参照してください。) 最低値と最高値に等しく下線 (_) を使用すると、任意の文字を含む文字位置が指定されます。(詳細については、142 ページの『特定のデータ・パターンへのアクセスを許可するキーの機密保護特殊値』を参照してください。)

報告書定義でキー・フィールドに小文字値を使用できるようにしている場合は、複数のキー機密保護レコードを追加する必要があります。すべての小文字 (**a** から **z** まで) は、標準照合順序では大文字より順序が低くなっています。**A** から **K** までのキー値がユーザーに許可されているが、大文字、小文字のどちらのデータでも可能な場合には、2 つのキー機密保護レコード (**A*** と **K*** および **a*** と **k***) が必要に

なります。(「総称」標識として "*" を使用する方法については、『総称比較用のキー機密保護レコードの部分値』を参照してください。)

総称比較用のキー機密保護レコードの部分値: キー機密保護レコードの**最低値** フィールドおよび**最高値** フィールドには、部分値 (実際のキーの長さとは一致する必要がある文字数よりも短い文字数) を入力することができます。キーの機密保護の拡張により、これらの部分値の使用が拡張されました。完全な一致と、アスタリスク (*) を入力値に追加することによる**総称検索** とを選択できるようになりました。

キーの機密保護値を使用することによって、**06/13/96** などの値を持つ日付フィールドを制限できます。単に 最低値フィールドと最高値フィールドの両方に **06** を入力するだけでは、影響を受けるユーザーは、その月のすべての項目を検索することができません。値にアスタリスク (*) を追加することによって、キーの機密保護検査の際、その値を**総称値** として OnDemand に処理させることができます。(アスタリスクを使用して、入力したデータが部分値であることを指定する方法は、報告書の検索時に総称検索値を要求する場合の方法と同じです。) 最低値および最高値が **06*** である場合は、**06** で始まる値はすべてキーの機密保護検査に合格します。

別の例として、報告書に部門番号 **23** および部門番号 **232** が入っているとします。OnDemand ユーザーの **FRED** は、部門 **23** のレコードしか使用してはいけません。**FRED** のキー機密保護レコードの最低値と最高値の両方に **23** を入力しておけば、**FRED** は **23** を持つセグメントは使用できますが、**232** を持つセグメントは使用できなくなります。

特定のデータ・パターンへのアクセスを許可するキーの機密保護特殊値: 通常、キー機密保護レコードで**最低値** フィールドおよび**最高値** フィールドを使用するのは、ユーザーに権限を付与するキー値の範囲を定義する場合です。**最低値** フィールドおよび**最高値** フィールドの両方に全く同じ値を入力すると、この範囲検査のための特殊ケースを作ってしまうこととなります。実際には、キーの機密保護の検査プロセスでは、両方のフィールドに示された同一の値と一致する値が検査されます。

この特殊な場合に限り、入力する値の中に下線文字 (_) を使用して、任意の 1 文字を示すことができます。最低値と最高値の両方が **A_C** の場合、ユーザーは、**ABC**、**AXC**、**A4C** などのキー値を許可されます。しかし、**ABX**、**AB**、**ABCD** などは許可されません。総称標識 (**A_C***) を追加すれば、**ABCD**、**ANC1234** など、4 文字以降がブランク以外の文字からなるすべてのキーにアクセスを拡張できるようになります。キーの機密保護値が **A_C*** の場合には、最初の文字が **A** で 3 番目の文字が **C** でなければならないことが指定されます。その他の文字は任意の SBCS (1 バイト文字セット) 文字にすることができます。

ユーザー **FRED** に対して機密保護を行う報告書キーが、**02.014.nnnnn.nnn** のような総勘定元帳番号であるとします。ここで、**02** は企業番号、**014** は保守処理用の部門番号、および残りの数値は各種のマイナー・コードです。**FRED** は、さまざまな報告書のうち、自身の部門 (**014**) に該当する報告書のみを表示させなければなりません。すべての企業に対して責任があるとします。最低値および最高値の両方を **__014*** に設定したキー機密保護レコードによって、**FRED** は、部門 **014** についてのみ報告書セグメントを検索することができるようになります。2 つの下線文字は、任意の 2 文字の企業番号が許されることを指定します。ただし、**.014** は正確に一致しなければならないが、後続のアスタリスク (*) は、残りの位置に任意の文字が許されることを指定します。

下線文字は、特にキー機密保護レコードが関係する場合には、慎重に計画し、テストしてから使用してください。同じユーザーのキー機密保護レコードで、**値の突き合わせと文字置換**と、通常の最低から最高までの範囲値とを組み合わせると、混乱しやすくなります。

キー機密保護レコードのユーザー・プロファイルの選択: ユーザー・プロファイル・フィールドの入力および更新は、前のリリースから変更されていません。キーの機密保護に対する変更点は、同じユーザー、特に ***PUBLIC** と認識されるユーザーについて複数のキー範囲を使用する際のエラーが訂正されたことです。さらに、複数のグループ・プロファイルを持つユーザー・プロファイルがある場合は、指定された各グループ・プロファイルが、ユーザー・プロファイル内に示されている順に検査されるようになりました。

特定のユーザーのキー機密保護レコードは、特定の項目 (1 つ以上) が優先して選択され、報告書検索によって使用されます。選択順序は、ユーザー・プロファイル、ユーザー・グループ・プロファイル (ユーザー・プロファイルでユーザー・グループ・プロファイルを指定した場合)、***PUBLIC** の順です。1 つ以上のキー機密保護レコードがいずれかのレベルで検出された場合は、残りのレベルは検査されません。

報告書定義のキーの機密保護値の自動更新: 特定の報告書のキー・フィールドまたは表示フィールドの少なくとも 1 つのキー機密保護レコードを追加します。そうすると、選択された報告書定義内のそのフィールドの**キーの機密保護** 値は、自動的に **Y** に変更されます。

ここで、同じ報告書について複数のバージョンが存在するとします。(たとえば、報告書 **GLEXPENSE** にバージョン **01** およびバージョン **02** の 2 つのバージョンの報告書定義が存在するとします。) **キーの機密保護** 値は、すべてのバージョンの報告書定義で **Y** に変更されます。

以下の条件を満たす場合、報告書グループ定義は **Y** に変更されます。

- 選択された報告書が、報告書グループの一部である場合。
- 報告書グループ定義で、追加のキー・フィールドまたは表示フィールドを定義した場合。
- **キーの機密保護** 値が **N** である場合。

特定の報告書のキー・フィールドまたは表示フィールドに対する最後のキー機密保護レコードが削除されると、報告書定義内の、そのフィールドの**キーの機密保護** 値は自動的に **N** に変更されます。同じ報告書について複数のバージョンが存在するとします。(たとえば、報告書 **GLEXPENSE** にバージョン **01** およびバージョン **02** の 2 つのバージョンの報告書定義が存在するとします。) **キーの機密保護** 値は、すべてのバージョンで **N** に変更されます。

選択した報告書が報告書グループの一部である場合は、特定のキー・フィールドまたは表示フィールドの最後のキー機密保護レコードを削除しても、報告書グループ定義のそのフィールドの**キーの機密保護** 値は**変更されません**。(この特定の報告書のこの特定のキーからキー機密保護を削除しても、必ずしもその報告書グループ・レベルでこのキーを機密保護する必要がなくなったことを意味するわけではありません。)

実際には、管理担当者がキーの機密保護保守プログラムを終了するときに、報告書定義の**キーの機密保護** 値が自動更新されます。更新は、この特定のキーのキー機密保護レコードの存在に基づいて実行されます。このようなキー機密保護レコードが存在することが検出されると、**少なくとも 1 つのキーが特定の報告書のキーまたは表示フィールドに追加された** と判別されます。**特定の報告書のキー・フィールドまたは表示フィールドの最後のキー機密保護レコードの削除は**、そのキーのキー機密保護レコードが、選択された報告書内に行われず、したがって、管理担当者がキーの機密保護保守プログラムを終了するたびに、実際の保守が行われていなくても、関連する報告書定義の**キーの機密保護** 値がこのように自動更新されません。

スプール・ファイル保存環境のカスタマイズ

OnDemand は、記憶されている報告書を各種のユーザー単位で検索します。これらの報告書は、表示、再印刷、またはファクシミリ送信のために検索することができます。OnDemand は、これらの 3 つの出力操作を制御する各種の値を、データ域に記憶しています。91 ページの『オプション 30. OnDemand 共通報告書オプションの変更』、94 ページの『オプション 31. ユーザーの OnDemand 報告書オプションの変更』、および 97 ページの『オプション 32. OnDemand 報告書オプションの変更』に示されている画面を使用して、これらの値を設定してください。

将来的には、これらのデータ域の制御値を使用して、現在の画面からでは行えない更新を実行できるようにする OnDemand の機能拡張版をリリースする予定です。この場合の拡張では、直接呼び出すことができ、必要な制御値に対応するパラメーターを渡す保守プログラムを参照します。これらのデータ域のレイアウト、およびカスタマイズ・パラメーターの更新に使用される保守プログラム (**QRLRSETP**) の説明が、OnDemand ソフトウェアとともにライブラリー **QRDARS** のソース・ファイル **QSAMPLES** のメンバー名 **PROFILE** に入れられます。

スプール・ファイル保存のその他の考慮事項

このセクションでは、OnDemand スプール・ファイル保存の使用に際して考慮すべき種々の事項について説明しています。

行番号の計算

OnDemand で報告書定義を作成する場合、キー (索引)、セグメンテーションの値、および報告書の日付などのデータ項目の、ページ上のデータの横方向および縦方向の位置に関する情報の提供が求められます。表示 (および、場合によっては、印刷またはファクシミリ送信) のための報告書オーバーレイを定義する場合にも、行番号を指定する必要があります。報告書およびオーバーレイの定義のいずれにおいても、用語の行 は、定義される項目の縦方向の位置を表すために使用されますが、このフィールドの値は、これら 2 つのタイプの定義において異なる方法で算出されます。

報告書定義の場合

報告書定義の場合、用語の行 は、その行が印刷される場合に現れるページ上の縦方向の位置を指すのではなく、スプール・ファイルにおけるレコード間で、同一ページ上の最初の印刷レコードに対する各印刷レコード (行) の関係を指しています。た

たとえば、送り状を想定します。各ページの最初の印刷行には、送り状番号と日付が含まれ、それらは用紙の **6 行目** (ページの最上部から約 1 インチの位置) に印刷されると想定します。 OnDemand にとって、このデータはページに書き込まれる**最初**の行であるため、**1 行目** (6 行目ではない) になります。得意先の名前を含む行がそのページに書き込まれる 2 番目の行と想定すると、たとえそれが **10 行目** に印刷されるとしても、 OnDemand にとっては **2 行目** になります。(報告書定義の環境のセクションで、印刷制御の変換 が **Y** に設定されている場合には、この説明は適用されません。印刷制御の変換 機能を使用することにより、報告書定義の行番号が現実の印刷の行番号と同じ値を表すようになります。これにより定義を行うのは容易になりますが、 OnDemand が報告書を記憶するのに要する時間は大幅に増大します。)

標準のスパール・ファイル (AFPDS 以外の) の報告書定義の行番号を判別する望ましい方法は、「報告書定義メニュー」画面の「スパール・ファイルのコピー」メニュー・オプションを使用して、報告書定義を作成しようとしている報告書からスパール出力をコピーすることです。この方法は、各スパール・レコード (行) が 1 つのデータベース・レコードに対応する印刷行イメージのデータベース・ファイルを作成します。制御文字 パラメーターに ***FCFC** (これは、OnDemand メニュー・オプションを使用する場合のデフォルト値です) を指定することにより、用紙制御文字が各データベース・レコードの最初の位置に入れます。結果のデータベース・ファイルをファイル表示するには、「報告書定義メニュー」画面の物理ファイル・メンバーの表示 メニュー・オプションを使用します。最初の位置に **1** があるレコードは、そのページの最初の印刷行であることを示しています。 OnDemand にとって、該当のレコードのそのデータは **1 行目** にあることを意味します。このレコードに続くレコードは、**1** を最初に持つ他のレコードが検出されるまで OnDemand にとっては **2, 3, 4 などの行** として見なされます。他のレコードが検出されると、行番号は**行 1** から再度開始されます。

*AFPDS として、あるいは OnDemand 報告書データ・タイプ *SCS として作成されたスパール・ファイルの場合にも、概念は似ています。ただし、OnDemand は別の技法を使用して行番号を決定します。 OnDemand には、スパール・ファイルを処理し、横方向と縦方向の目盛り行が付加された任意のテキスト・データの印刷出力を生成するプログラムが用意されています。 OnDemand はフォント、イメージ、その他の AFP 資源を無視してデータを印刷します。(この出力は、「報告書定義メニュー」の「印刷 AFP 報告書定義のテキスト・データの印刷」メニュー・オプションを使用して作成できます。) この出力を使用することにより、印刷データの横方向 (列) および縦方向 (行) の位置を決めることができます。

報告書オーバーレイの場合

行番号は、報告書オーバーレイ定義において、保存された報告書を表示 (および任意指定で印刷/ファクシミリ送信) する際にオーバーレイ・データの行をどこに挿入またはオーバーレイするかを指定する場合に使用されます。前述の報告書定義の行番号とは異なり、報告書オーバーレイの行番号は、印刷された場合のデータの印刷ページにおける行番号に関連します。

これらの行番号を決定する方法としては、必要に応じて報告書を OnDemand に記憶し、エンド・ユーザーの場合と同じように検索する (「報告書定義メニュー」画面の「報告書の検索」メニュー・オプションを使用) 方法をお勧めします。(出力待ち

行列のオリジナルのスパール・ファイルを表示することによってもこれを行うことができます。)「スパール・ファイルの表示」画面の右上隅には、「ページ/行 1/2」などの情報が表示されます。

次ページ・キー (Page Down) を押すか、表示画面の左上の制御 フィールドに制御 コマンドを入力して次へ進むと、行番号が変わることが分かります。これが、報告書オーバーレイを作成または変更するに際して使用する行番号です。

結合表示/印刷/ファクシミリ送信

OnDemand における報告書検索の処理には、一連の選択のステップがあります。ユーザーは報告書または報告書グループを選択し、次に報告書の特定のオカレンス、そして報告書の特定のセグメントの選択に使用されるキー値を選択します。選択したキー値が文書の処理 画面に表示される時点で、表示、印刷、またはファクシミリ送信する文書セグメントを選択するオプションの入力を求めるプロンプトが出されます。結合表示/印刷/ファクシミリ送信オプションの 1 つ以上の使用により、同時に入力された複数の選択項目の処理方法が決定されます。

結合表示/印刷/ファクシミリ送信機能によって、ユーザーは特定の出力操作の対象として複数の報告書セグメントを選択し、その操作の実行に先立ってそれらのセグメントを 1 つのスパール・ファイルに結合することができます。たとえば、OnDemand ユーザーが 3 つの異なる送り状のコピーを得意先にファクシミリで送信したいと想定します。そのユーザーに対して**結合ファクシミリ送信** が**使用可能でない** 場合には、3 つの送り状を選択すると、3 回の別々のファクシミリ送信が開始されます。**結合ファクシミリ送信** オプションが**使用可能** な場合には、同時に選択された 3 つの送り状は、1 つのスパール・ファイルに結合され、この結合ファイルがファクシミリ送信によって送信されます。

実際の出力操作は、結合されているか否かに関係なく、同じように行われます。結合オプションを使用すると、複数のセグメントが 1 つのスパール・ファイルに追加されます。スパール・ファイルが作成されると、その後のすべての操作は、そのスパール・ファイルに複数の報告書セグメントが含まれていることを意識せずに行われます。したがって、すべての使用可能なビューアー・プログラム、印刷およびファクシミリ送信の機能は、結合および非結合の選択のいずれに対しても同様に機能します。

結合機能は、ユーザー・デフォルト・データ域、またはグローバル・デフォルト・データ域に制御値を設定することによって活動化されます。この方法によって、個々の OnDemand ユーザーは、結合出力を生成する操作をそれぞれ独自に制御できます。グローバル制御は、独自のオプション・セットを持たないすべてのユーザーにとって便利な制御点を提供します。個々の機能 (表示、印刷、ファクシミリ送信) に対して、ユーザーの制御設定値が定義されていればそれが使用されます。定義されていない場合にのみ、OnDemand は、そのユーザーに対してグローバル制御値を使用します。これらのすべての制御値は、プロファイル保守画面で設定されます。(詳細については、144 ページの『スパール・ファイル保存環境のカスタマイズ』を参照してください。)

使用可能な出力機能 (表示、印刷、ファクシミリ送信) それぞれに対して別個の制御が可能です。たとえば、結合印刷と結合ファクシミリ操作が必要になり、一方で、複数の選択項目を 1 つずつ表示させたい場合があります。文書の処理 画面のオブ

シヨンの説明を見ることによって、ユーザーは容易に設定されている制御値がわかるはずですが、結合が、**1** つも設定されていない場合、5= 表示、6= 印刷、および 7= ファクシミリ送信 が表示されるはずですが、**すべての結合が設定がされている場合には、5= 結合表示、6= 結合印刷、および 7= 結合ファクシミリ送信 が表示されます。**また、種々の設定により、これらを組み合わせた表示になるはずですが。

結合機能は、出力に先立って複数の報告書セグメントを 1 つのスパール・ファイルに追加するので、結合機能の選択と使用には制約があります。選択された報告書セグメントは、互換性のある印刷属性を持たなければなりません。互換性のないセグメントを結合しようとする問題のセグメントを識別するエラー・メッセージが出されます。これは、異なる報告書からセグメントを選択する場合のみ発生します。このような選択は、以下の 2 つの条件下で行われます。

- システムが報告書グループ検索を実行した後。
- 同じ報告書について複数のバージョンがあり、印刷属性がバージョン間で変更された場合。

ユーザーは、一時点で、1 つの結合機能に対してのみ報告書セグメントを選択することができます。たとえば、印刷、およびファクシミリ送信の両者が結合出力として定義された場合、この両者はいずれも選択されたセグメントを結合するのに使用することができますが、しかし一時点で**実行キー**を押すのに先立って、あるセグメントは結合印刷として、他のセグメントは結合ファクシミリ送信として選択することはできません。結合表示/印刷/ファクシミリ送信では、多くの報告書セグメント (255 まで) を選択できますが、これらは、1 つのスパール・ファイルに結合され、1 回の出力操作に使用されます。同時点で、結合の設定に**先立って**、単一 (非結合) の機能を選択することはできますが、一連の結合選択の**後に続く**非結合の機能はエラーになるはずですが。

いったん、いくつかのセグメントが選択され結合されると、それらはその特定の出力操作の過程で分離することはできません。たとえば、結合表示が活動中で、いくつかの報告書セグメントが選択され表示された場合、その表示されるファイルには選択されたすべてのセグメントが含まれます。表示の過程で、アテンション・キーを押して、文書のファクシミリ送信のオプションを選択すると、結合ファクシミリ送信オプションが ***NO** に設定されている場合でも、選択された報告書セグメントは**すべて**含まれます。しかし、文書の処理 画面で複数の **7** のオプションが選択され、結合ファクシミリ送信オプションが、***NO** に設定されている場合には、ファクシミリ送信は別々に行われることとなります。

複数キー報告書に関してセグメントが選択された場合、選択されたキー値によって、特定の報告書セグメントが複数回検索されることがあります。このような場合には、OnDemand はこれを認識し、結合出力ファイルにそのセグメントを一度だけ組み込みます。

使用統計報告書

報告書保存に関するディスク上で使用可能な日数、テープ上で使用可能な日数、および光ディスク上で使用可能な日数 (報告書ポリシー定義で定義される) の当初の累積もりは、OnDemand によって報告書の実際の使用状況の統計に関するデータが収集された後で、修正することができます。

QRDARS がライブラリー・リストに入っている場合には、OS/400 コマンド行上で以下のプログラムの呼び出しを発行します。これにより、OnDemand に対して定義された各報告書ごとに OnDemand の実際の活動を示す報告書が生成されます。

• CALL QRLRSTAT

OnDemand は 2 つの報告書を生成します (スプール・ファイル名は **QPQUPRFILE** です)。最初の報告書のタイトルは、**Access Report by Week (週ごとのアクセス報告書)** であり、2 番目の報告書のタイトルは、**Access Report by Month (月別のアクセス報告書)** です。これらの報告書を用いて、報告書ポリシー定義に定義する報告書の移行特性について、経験値に則した決定を行うことができます。

監査ファイルのアクション・コード

OnDemand スプール・ファイル保存機能は、報告書に処理が行われるたびにレコードが書き込まれる監査ファイルを提供します。この **QARLRSTAT** と呼ばれる監査ファイル (**QUSRRDARS** ライブラリー内) に対して照会プログラムを実行することにより、保存に関する広範な追加管理報告書を作成することができます。

各レコードには、ログに記録された活動を記述するアクション・コードが示されます。コードのリストとそれぞれの意味は以下のとおりです。

- D または 5 - 報告書が表示されました。
- P または 6 - 報告書が印刷されました。
- F または 7 - 報告書がファクシミリ送信されました。
- I - 報告書定義がインポートされました。
- S - 報告書の記憶が成功しました。
- U - 報告書の記憶に失敗しました。
- V - 機密保護違反 - 報告書に対する権限がありません。
- Z - 報告書オカレンスが削除されました。

OnDemand および OS/400 グラフィカル・アクセス

OnDemand のこのバージョンには、プログラマブル・ワークステーション上の iSeries ユーザーを、OnDemand の画面をグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) 形式で処理できるようにするサポートが含まれます。ユーザーのシステムでこの機能 (OS/400 グラフィカル・アクセス) が使用できるように設定されていれば、グラフィカル・バージョンの OnDemand 画面を使用できます。これにより、OnDemand の各種機能をポイント・アンド・クリック方式で使用できます。OnDemand で追加のセットアップは必要ありません。

OnDemand および iSeries Access AFP ビューアー

OnDemand は、一般的に AFP ワークベンチ・ビューアー と呼ばれている iSeries Access の機能とリンクしています。これにより、OnDemand のエンド・ユーザーは、プログラマブル・ワークステーションで iSeries Access ビューアーを呼び出し、ワークステーション・ウィンドウに OnDemand の文書または報告書セグメントを表示することができます。この機能は、OnDemand と iSeries Access の両方でサポートされます。

このビューアーの最も重要な機能は、エンド・ユーザーが AFPDS 報告書セグメントを選択してポップアップ・ウィンドウを表示できることにあります。

- 完全解析された AFPDS 出力 (フォントを伴い、オーバーレイおよび PSEGS を伴わない)。
- 資源がワークステーションまたはサーバー・ディスクで使用可能な場合、関連する AFP オーバーレイまたは PSEG で完全に解決した AFPDS 出力。

注: いずれの場合でも、文書内から呼び出す AFP 資源は、ビューアーが検出できる位置 (ワークステーション上であれば、サーバー・ディスク上であれば) で利用可能にしておいてください。「標準」フォントは、通常はビューアーで利用することができます。PSEGS や OVERLAYS などは、ビューアーが検出できるようにワークステーションまたはサーバー・ディスク上になければなりません。(サーバー・ディスクは、IFS 内の iSeries にあるスペースでも構いません。) さらに、ビューアーは、SCS 印刷ファイルを読み取ったり、印刷装置ファイルで指定されたオーバーレイを認識することはできません。インプリメントする前に、オーバーレイのある SCS データをテストする必要があります。または、印刷属性を *AFPDS に変更して、iSeries Access でデータを表示してみることを検討してください。ビューアーが何らかの理由でデータを表示できない場合には、OnDemand が自動的に代替のビューアー (スプール・ファイルの表示 など) を選択してデータを表示します。

この機能を活用するには、以下が必要です。

- QUSRRDARS を使用して、各ワークステーションごとにビューアーを実行できるデータ域を作成する。このデータ域は、以下のコマンドを発行することで作成します。
 - **CALL PGM(QRDARS/QRLRSETP) PARM(*VIEWADDWS' 'xxxxxxx' ' ')**

ここで、'xxxxxxx' はワークステーション名です。

(後で、このワークステーション・データ域を削除する必要がある場合は、上記と同じ CALL コマンドを発行します。ただし、**PARM** の値を *VIEWRMVWS に設定し、削除したいワークステーション名を再度指定します。)

- 新規ビューアーを使用したいユーザーは、それぞれ次のようにセットアップする必要があります。ユーザー・プロファイルでは、iSeries Access ビューアーを使用することを示し、どのような種類のデータであるかを指定しなければなりません。iSeries Access ビューアーでは *AFPDS データと *SCS データのみを表示できます。ユーザーは、両方のスプール・ファイル・タイプを表示するのか、*AFPDS データのみを表示するのかを選択することができます。このプロファイルは、91 ページの『オプション 30. OnDemand 共通報告書オプションの変更』、94 ページの『オプション 31. ユーザーの OnDemand 報告書オプションの変更』、または 97 ページの『オプション 32. OnDemand 報告書オプションの変更』に記載されているビューアー・オプションの指示に従って変更することができます。

*SCS の完全なサポート

*SCS データ型を使用する必要があるスプール・ファイルには、さまざまなフォント、あるいは *SCS データ型として処理できる OfficeVision® 文書などの、その他の拡張スプール属性が含まれます。OnDemand は、これら、表示、印刷およびファクシミリ送信用の属性を保持しています。

印刷装置タイプ が *SCS である OS/400 スプール・ファイルの大部分は、データ *OTHER が適しており、現在でもこれを使用する必要があります。ユーザーは、*SCS を、インチ当たりの可変行数、インチ当たりの可変文字数、可変フォントなどの拡張属性を持つスプール・ファイルに対する報告書定義のデータ型としてのみ使用する必要があります。

最初に報告書を定義する際に両方のデータ型を試して、特定のスプール・ファイル・データに最も適したデータ型を判別することができます。データ型を試す際には、以下の点を考慮してください。

- 多くの場合、*OTHER のほうが *SCS よりも圧縮効率が高くなります。
- *OTHER を使用すると、AFP オーバーレイを OnDemand クライアントに適用して表示することができますが、*SCS ではそのようなことはできません。
- *OTHER を使用した場合、ユーザーは OnDemand クライアントを使用して欄および見出しをロックすることができます、*SCS ではそのようなことはできません。
- *SCS データ属性はすべて保存されます（上記の属性を持つスプール・ファイルの場合には、非常に重要です）が、*OTHER では保存することができません。

スプール・ファイル保存についてのヒント

このセクションでは、スプール・ファイル保存の実現に際して考慮すべき多くのヒントを示しています。

- OnDemand サーバーを始動（始動するサーバー・アプリケーションとして *ONDMMD を指定して TCP/IP サーバー始動 (STRTCPSVR) コマンドを使用) する際に、ジョブ・ログに、ロケールが設定されていないために QUSROND インスタンス・サーバーが始動しなかったことを示すメッセージが返される場合は、ご使用のシステムに Common Server (OnDemand 製品オプション 10) もインストールされているため、デフォルトの Common Server インスタンス (QUSROND) のロケールを定義する必要があります。ロケール情報の設定方法については、「Content Manager OnDemand Common Server Planning and Installation Guide」を参照してください。また、OnDemand Common Server を現在使用していない場合には、ご使用のシステムから OnDemand Common Server の製品オプションを削除することによっても、このメッセージを回避できます。
- 出力待ち行列モニター機能の使用時に報告書記憶統計がある出力待ち行列を判別するには、単にモニター開始コマンドの **ジョブ記述** パラメーターを検査するだけで済みます。ジョブ記述の **出力待ち行列** パラメーターが、この出力先を判別します。宛先を他の出力待ち行列に変更するには、ジョブ記述の **出力待ち行列** パラメーターを変更するか、モニターの開始時に異なるジョブ記述を使用します。
- ジョブ・スケジューラーで STRMONRDAR コマンドを使用して OnDemand 出力待ち行列モニターを開始する場合、どのジョブ記述を使用すべきかが不確実な場合があります。多くの場合、QRDARS400 ジョブ記述を使用すると、STRMONRDAR の動作が最適となります。システムの特別なニーズにより、ユーザー独自のジョブ記述の使用が必要な場合もありますが、IBM 提供のこのジョブ記述は、多くのお客様の環境で正常に動作します。
- エンド・ユーザーが索引または報告書再呼び出しジョブを起動した場合、使用されるジョブ記述は、ライブラリー **QRDARS** 内の **QRDARS400** です。ただし、

ライブラリー **QUSRRDARS** 内に **QRLRSBMJOB** というデータ域を作成して、これらのジョブに使用する代替ジョブ記述を指定することもできます。

上記で指定するデータ域は、20 文字のデータ域として作成されます。最初の 10 文字には、ジョブ記述名が入ります。後半の 10 文字には、ジョブ記述のライブラリー名が入ります。ジョブ記述名には、特殊値 ***USRPRF** を入れることができ、ライブラリー名には、特殊値 ***LIBL** を入れることができます。

データ域は、有効なジョブ記述とライブラリーの組み合わせ (存在する場合) を使用します。データ域は、値の組み合わせが有効でない場合には、デフォルト値を使用します。特殊値 ***USRPRF** が入っている場合、ジョブ記述は、ジョブを投入したユーザーのユーザー・プロファイルを取ります。

- 報告書記憶 (**STRCDSRDAR**) コマンドおよび報告書管理サイクル (**STRMCRDAR**) コマンドをバッチにサブミットした場合、出力 **QPRLRCDS** および **QPRLRRMC** は、そのジョブをサブミットしたユーザーによって所有されたままになります。ジョブをサブミットしたユーザーは、**OS/400 WRKSPLF** (スプール・ファイルの処理) コマンドを使用すれば容易に出力を検索できます。
- OnDemand が、***NO** に設定された **OPRCTL** (オペレーター制御による) パラメーターを使用する出力待ち行列がある場合、ユーザーは、**QRDARS400** ユーザー・プロファイルに ***SPLCTL** (スプール制御) 権限を与える必要があります。
- 報告書定義の + 行オフセット・フィールドに負の数値を入力する場合は、単にその数字そのものを入力し、フィールド・マイナス・キーを押してください。これで、負の数字を入力することになります。また、どのキーがフィールド・マイナス・キーかわからない場合には、負符号の前に数値 (3- など) を入力することもできます。
- ライブラリー **QUSRRDARS** の **QARLRAUDIT** という名前のスプール・ファイル保存監査ファイルを定期的に消去 (**CLRPFM** を使用) することを忘れないでください。使用統計報告書 (147 ページの『使用統計報告書』を参照) を、機密保護監査の目的で作成するすべての照会プログラムとともに定期的に行うことを考慮してください。この報告書を実行した後で、そのファイルを消去しても構いません (必要に応じて、保管、または OnDemand オブジェクト保存で保存した後で)。
- 既存の報告書定義の新しいバージョンを作成すべきか、新たな別の報告書定義を作成すべきかを考慮する際には、次の点に注意してください。すなわち、キーまたは表示フィールドの位置 が変更された場合は、単に同じ報告書の新しいバージョンを作成すればよいということです。たとえば、行番号 7 にあったキー 2 を、行番号 9 に変更する必要がある場合などです (あるいは、絶対行番号の代わりにピボット値を使用する場合)。キーまたは表示フィールドの意味 が変更された場合は、新たな報告書定義を作成する必要があります。たとえば、得意先の名前であったキー 2 を、取引先の郵便番号に変更する必要がある場合などです。このような推奨事項に従わない場合、エンド・ユーザーが入力する検索フィールド、および報告書選択リストの項目の上に現れる列見出しは、それらが表現するデータを常に正しく記述するとは限りません。
- OnDemand に記憶したい項目 (たとえば送り状) に対して個々にスプール・ファイルを作成するアプリケーションの場合は、それぞれを個々に記憶しないようにすることを強くお勧めします。そのかわりに、スプール・ファイルを 1 つのファイルに結合して、そのファイルを OnDemand に記憶すべきです。

これをお勧めするのは、次のような 2 つの理由からです。

まず第 1 は、ディスク・スペースとパフォーマンスに関連しています。

OnDemand に個々の項目を別個の報告書 (順序番号) として記憶する場合、個々の項目ごとに、記憶済み報告書テーブルにレコードが作成されます。たとえば 1 日に 500 通の送り状があった場合、記憶済み報告書テーブルに毎日 500 のレコードが作成されます。これは、ディスク・スペースとパフォーマンスの観点から、明らかに非効率的な方法です。

2 つ目の理由は、OnDemand の順序番号の最大数 (999) と関係があります。1 日に 999 通を超える送り状を記憶する必要がある場合、この最大数に到達し、この最大数を超えた報告書 (送り状) はすべて、OnDemand による報告書の記憶処理に失敗することになります。

- **999** という順序番号の最大数の制限を避けるには、OnDemand に複数報告書オカレンスを自動的に作成させるよう選択します。この機能を有効にするには、iSeries ナビゲーターを通じて OnDemand 管理ツールにアクセスし、これを使用してください。ツールの「保存タブ」上で、報告書ごとにオカレンスを結合するかどうかを指定できます。

オカレンスは、以下の条件に該当する場合に、前のオカレンスと結合できます。

- 両方のオカレンスで報告書の名前とバージョンが同じである
- AFP の場合、両方のオカレンスで同じ保存資源のセットを使用している
- 前のオカレンスのデータまたは索引が、報告書管理サイクル (RMC) によって移行されておらず、またテープや光ディスクにバックアップされていない

- モニターで処理するスプール・ファイルを作成するアプリケーションに対しては、印刷装置ファイルの**スプール出カスケジュール・パラメーター**を ***IMMED** に設定することはできません。モニターは、これをエラー状態と見なします。モニターは、**STRMONRDAR** コマンドの**エラー出力待ち行列**パラメーターで指定された出力待ち行列にスプール・ファイルを送信します。この安全機能がなければ、モニターは、完了してクローズする前にスプール・ファイルを記憶しようとします。
- スプール・ファイルとともに使用する外部 AFP 資源を使用している場合は、資源を変更する際、異なる名前を使用してください。たとえば、企業ロゴを含む AFP 資源がある場合、将来新しいロゴに変更する必要がある可能性があります。この場合、新しいロゴ用に新しい名前を持つ AFP 資源を新たに作成し、以前のロゴ用に使用していた AFP 資源を取っておいてください。こうすれば、OnDemand は、文書を再作成する際、このうちのどちらかを見付けることができます。
- 書き込み機能が付加されている出力待ち行列に対してモニターを開始しないでください。開始した場合、報告書が OnDemand に記憶される前に印刷されてしまう恐れがあります。
- 出力待ち行列 **QRDARS400** に対してモニターを開始しないでください。これは、OnDemand が報告書記憶処理で生成される統計報告書に使用するデフォルトの出力待ち行列です。この出力待ち行列をモニターすると、記憶済み報告書から報告書を記憶することを次から次へと繰り返す終わりのないループに陥る可能性があります。

第 2 章 OnDemand オブジェクト保存機能の使用法

オブジェクト保存機能を使用すれば、多様な OS/400 オブジェクトは磁気媒体または光媒体を対象として、保存および検索を行うことができますようになります。この章では、使用する画面およびフィールドについて詳細に説明しています。

システム管理者は、OnDemand へのデータの移行と、ユーザー用の標準プロシージャの作成を担当します。現行の方式から最新の保存および検索方式への円滑な移行を確実に行うためには、入念な計画が必要です。開始に先立って、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 導入の手引き*」の第 4 章を熟読することをお勧めします。

オブジェクト管理メニュー

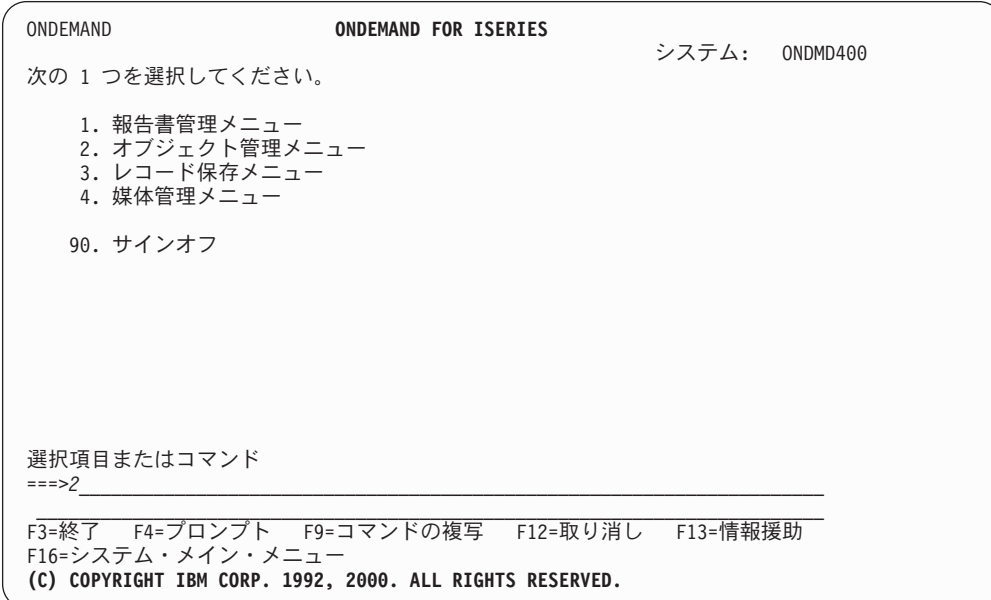
オブジェクト管理メニューにアクセスするには、次のように入力してください。

- OnDemand for iSeries のメイン・メニューのコマンド行で **2** を入力する (図 187)。
- または、**高速パス・コマンド**

GO RDARSOBJ

を OS/400 コマンド行に入力し、154 ページの図 188 の画面に直接アクセスする。

OnDemand for iSeries メイン・メニュー (図 187) にアクセスします。



ONDEMAND ONDEMAND FOR ISERIES システム: ONDMD400

次の 1 つを選択してください。

1. 報告書管理メニュー
2. オブジェクト管理メニュー
3. レコード保存メニュー
4. 媒体管理メニュー

90. サインオフ

選択項目またはコマンド
===>2

F3=終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12=取り消し F13=情報援助
F16=システム・メイン・メニュー
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1992, 2000. ALL RIGHTS RESERVED.

図 187. OnDemand for iSeries のメイン・メニュー

オプション 2 を選択して、154 ページの図 188 の画面に進みます。

RDARSOBJ

ONDEMAND オブジェクト管理メニュー

システム: ONDMD400

次の 1 つを選択してください。

1. オブジェクト・ポリシーの処理
2. OCT 項目の処理

10. ONDEMAND ユーザーの編集/認可

20. オブジェクト保存の開始
21. オブジェクト検索の開始

30. オブジェクト管理サイクルの開始

40. ONDEMAND メイン・メニュー

選択項目またはコマンド

==>

F3=終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12=取り消し F13=情報援助
F16=システム・メイン・メニュー
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1995, 2000. ALL RIGHTS RESERVED.

図 188. OnDemand オブジェクト管理メニュー

この章では、この画面のすべてのオプションについて説明しています。ただし、この画面を繰り返し示すことはありません。

オプション 1. オブジェクト・ポリシーの処理

この画面を使用して、選択した OS/400 オブジェクトの移行と保存特性、および保持する必要のある各保存項目の世代数を定義します。

「ONDEMAND オブジェクト管理メニュー」画面 (図 188) から、オプション 1「オブジェクト・ポリシーの処理」を選択します。

155 ページの図 189 の画面が表示されます。

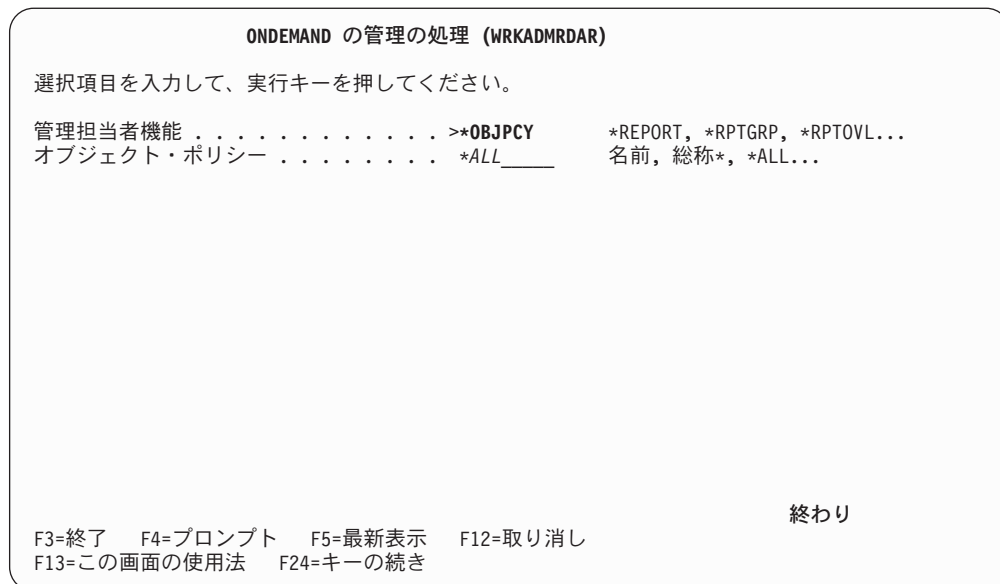


図 189. OnDemand の管理の処理 (WRKADMRDAR)

実行キーを押して、「オブジェクト・ポリシーの処理」画面 (図 190) に進みます。
 この画面を使用して、ポリシー定義の作成、変更、削除または表示を行います。

オブジェクト・ポリシーの作成

この画面 (図 190) を使用して、ポリシーを作成します。

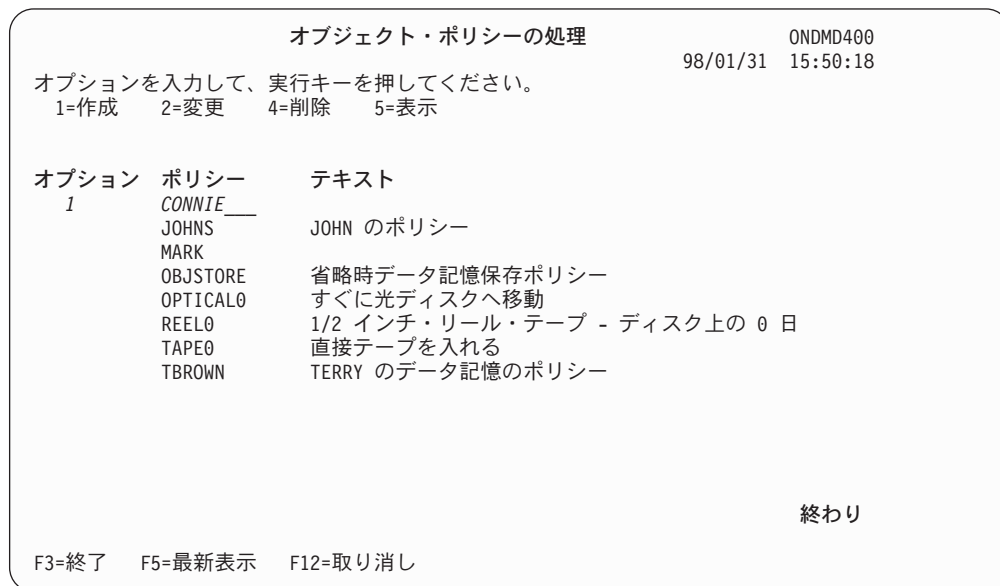


図 190. オブジェクト・ポリシーの処理

実行キーを押して、「オブジェクト・ポリシーの作成」画面 (156 ページの図 191) に進みます。

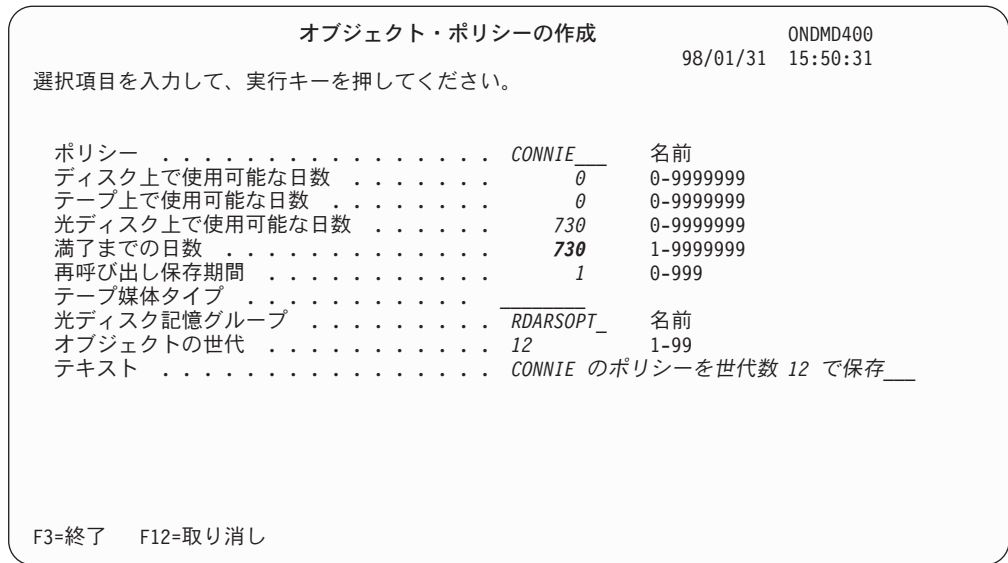


図 191. オブジェクト・ポリシーの作成

実行キーを押して、図 192 の画面に進みます。

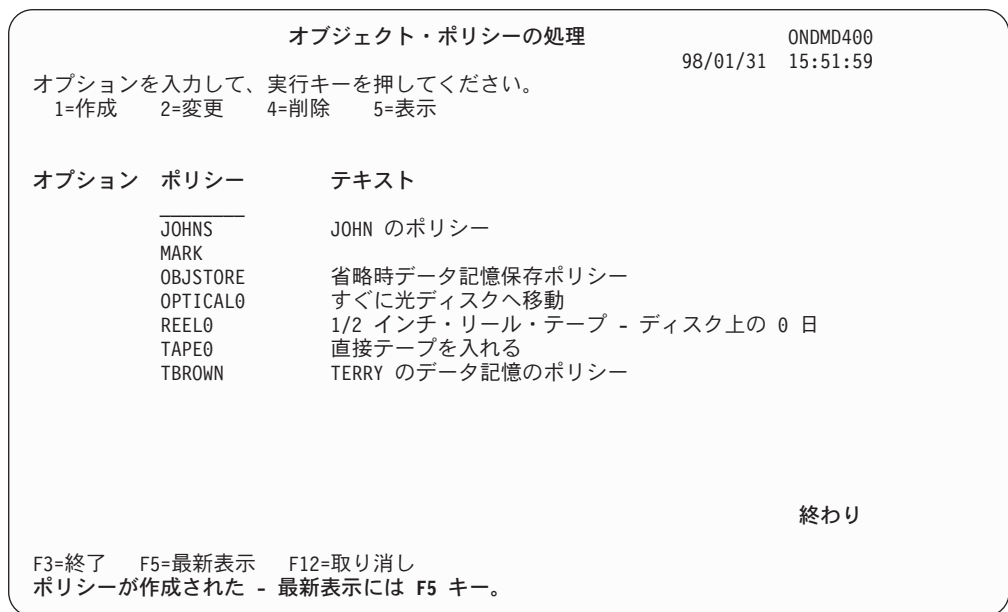


図 192. オブジェクト・ポリシーの処理

この画面で、新しいポリシーが追加されたことを確認します。

追加された内容を表示するには、**F5** を押します。

オブジェクト・ポリシーの変更

この一連の画面を使用して、オブジェクト・ポリシーの特性を変更します。

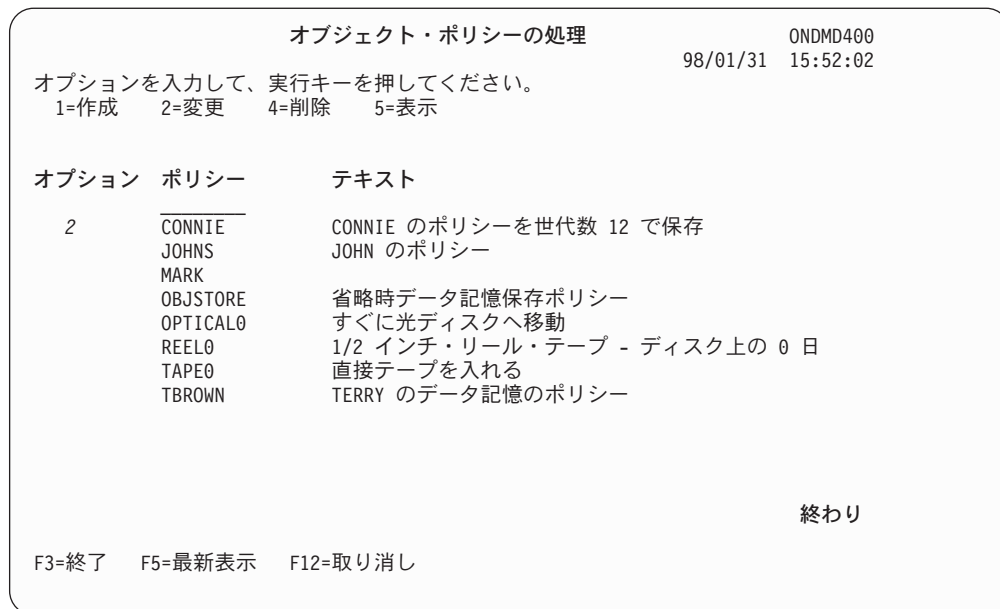


図 193. オブジェクト・ポリシーの処理

実行キーを押して、図 194 の画面に進みます。

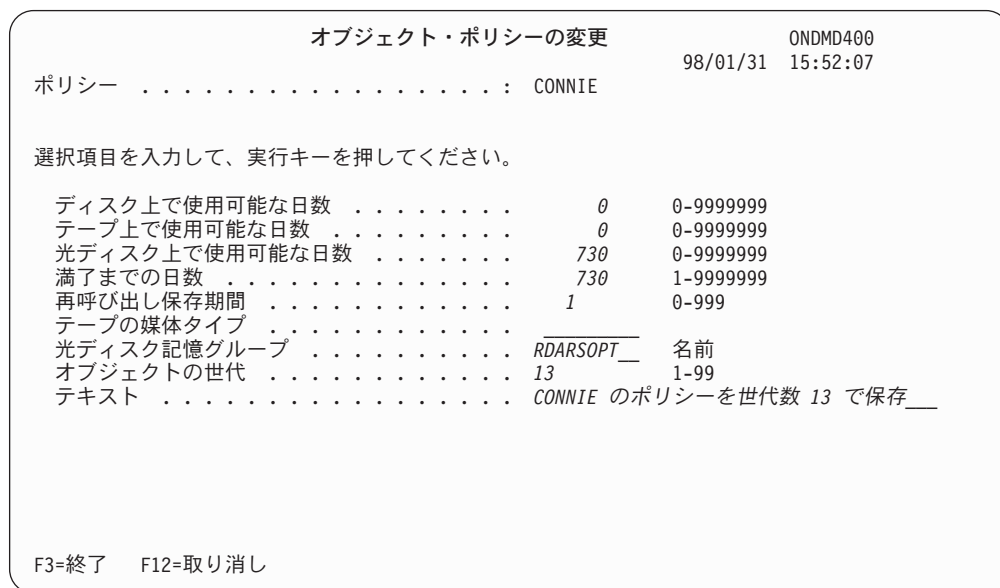


図 194. オブジェクト・ポリシーの変更

情報に重ねて入力することにより、いずれの情報も変更することができます。

実行キーを押して、変更内容を保管します。

オブジェクト・ポリシーの削除

158 ページの図 195 以降の画面を使用して、オブジェクト・ポリシーを削除することができます。

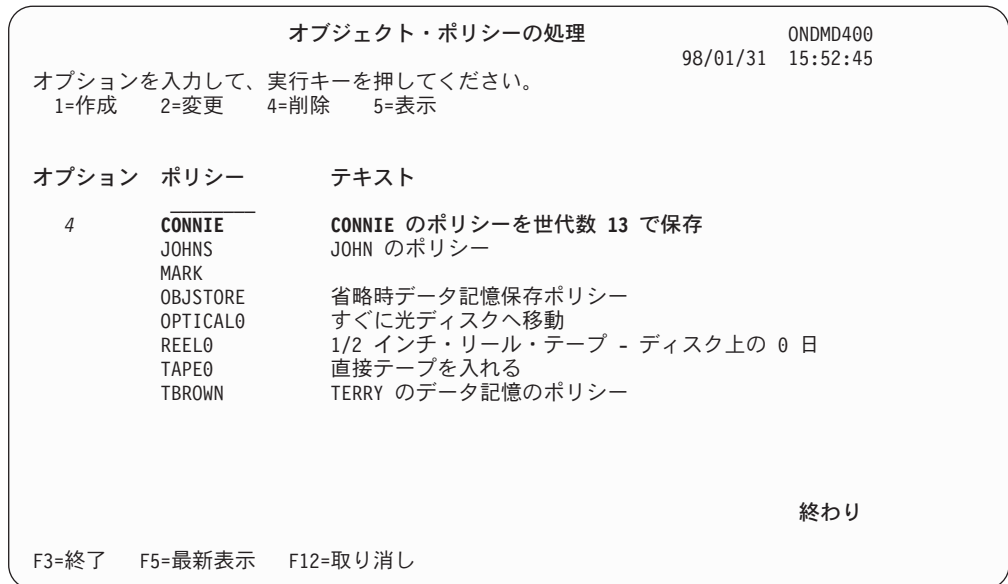


図 195. オブジェクト・ポリシーの処理

実行キーを押して、図 196 の画面に進みます。

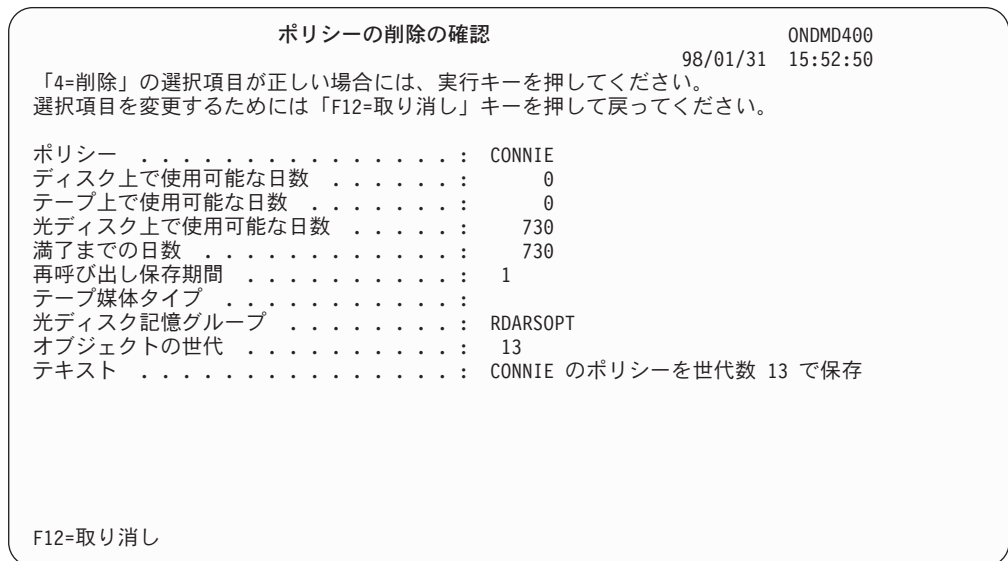


図 196. ポリシーの削除の確認

正しいポリシーを入力し、**実行キー**を押して、159 ページの図 197 の画面に進みます。

表示されたポリシーが削除したいポリシーではない場合には、**F12** を押して前の画面に戻ります。

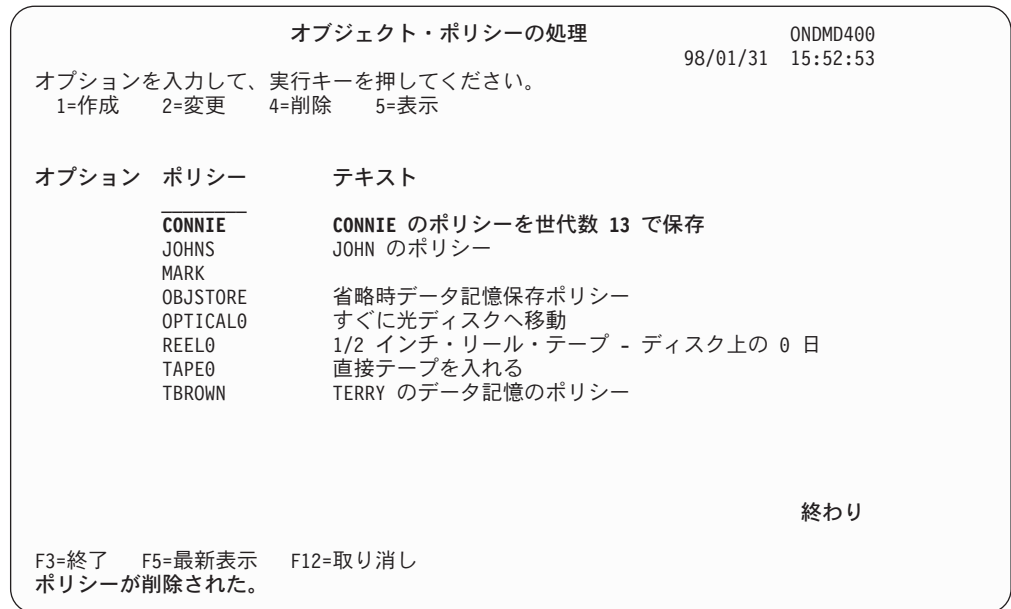


図 197. オブジェクト・ポリシーの処理

この画面で、該当のポリシーが削除されたことを確認します。

オブジェクト・ポリシーの表示

この画面 (図 198) を使用して、オブジェクト・ポリシーを表示します。

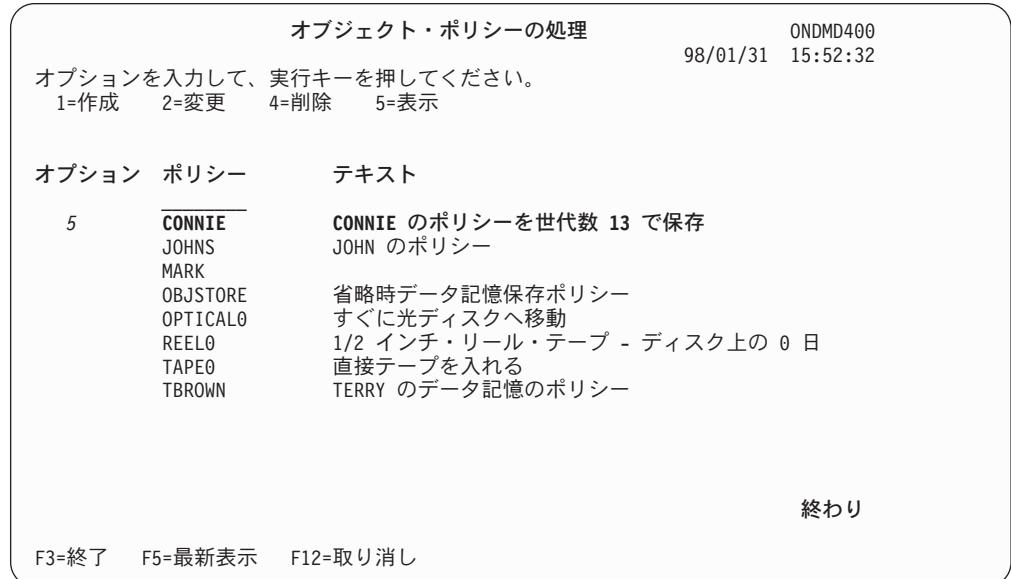


図 198. オブジェクト・ポリシーの処理

実行キーを押して、160 ページの図 199 の画面に進みます。

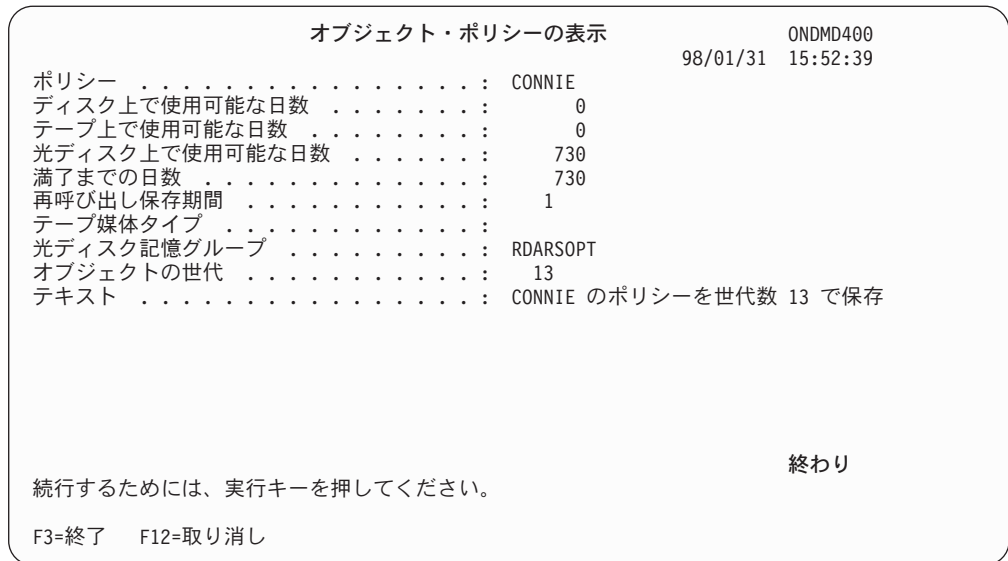


図 199. オブジェクト・ポリシーの表示

オプション 2. オブジェクト管理テーブルの処理

オブジェクト管理テーブルのレコードの作成、変更、削除、または表示を行いたい場合には、このオプションを使用します。

このテーブルからのレコードは、指定したオブジェクト名 (または総称オブジェクト名) およびライブラリーに基づいてオブジェクトを保存するときに選択されます。この項目により、保存に関する記憶域移行および保存特性を含むポリシーが識別されます。

オブジェクト管理サイクルによって保存されるオブジェクトに関する詳細をリストしたい場合には、この画面を使用します。

最初に、「ONDEMAND オブジェクト管理メニュー」画面 (154 ページの図 188) からオプション 2「オブジェクト管理テーブル項目の処理」を選択します。

「ONDEMAND の管理の処理 (WRKADMRDAR)」画面 (161 ページの図 200 を参照) が表示されます。

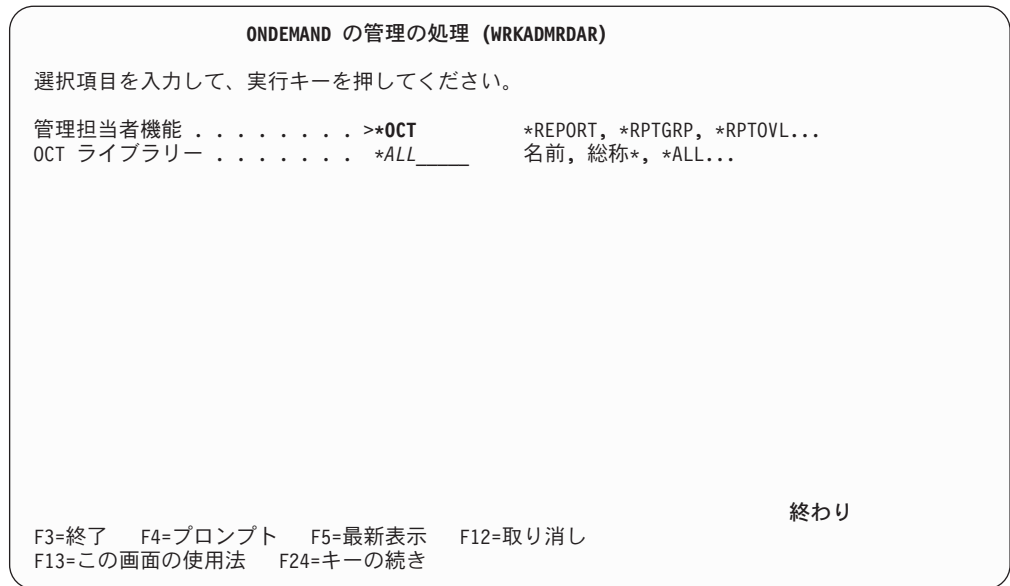


図 200. OnDemand の管理の処理 (WRKADMRDAR)

実行キーを押すと、図 201 の画面が表示されます。オブジェクト管理テーブルのレコードの作成、変更、削除、または表示を行う場合には、この画面を使用します。

オブジェクト制御レコードの作成

オブジェクト管理テーブル・レコードを作成するには、図 201 の画面を使用します。

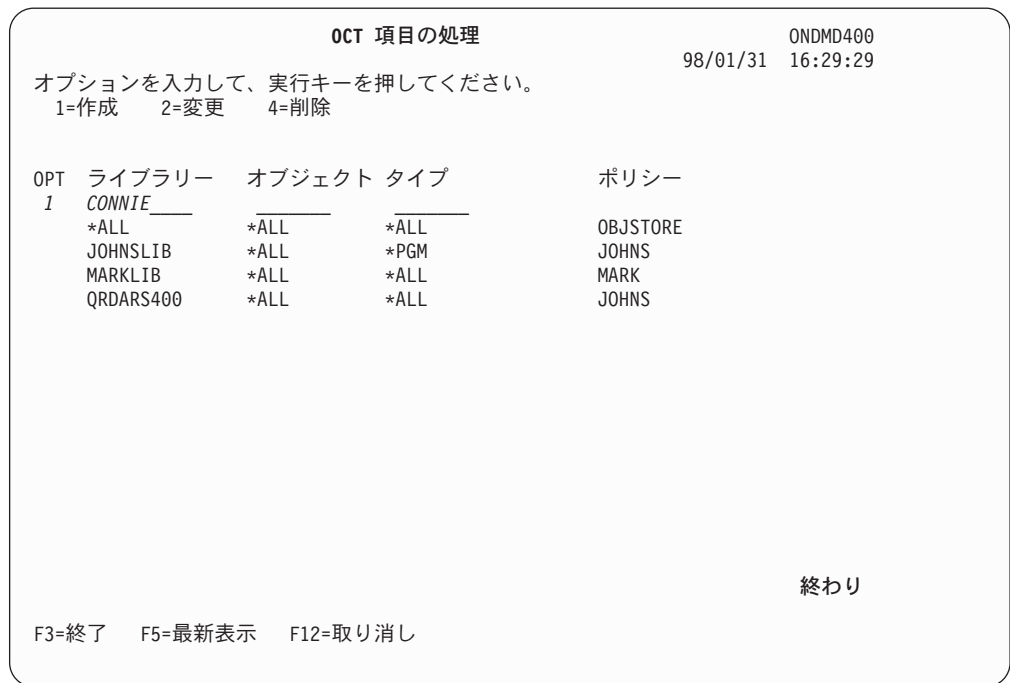


図 201. OCT 項目の処理

実行キーを押すと、「オブジェクト制御レコードの作成」画面（162 ページの図 202）に進みます。

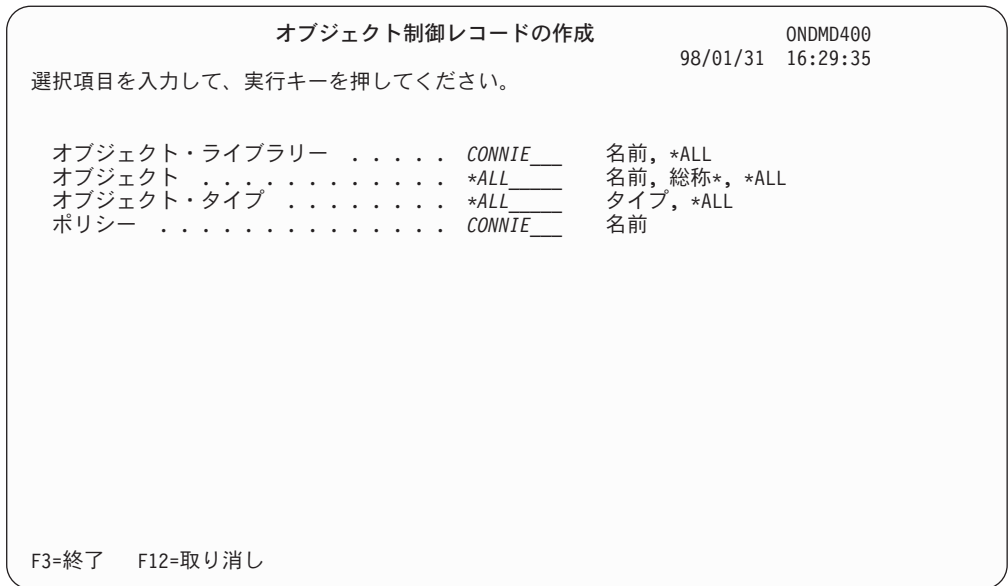


図 202. オブジェクト制御レコードの作成

実行キーを押して、図 203 の画面に進みます。



図 203. OCT 項目の処理

この画面で、オブジェクト制御レコードが追加されたことを確認します。

追加された内容を表示するには、**F5** を押します。

オブジェクト制御レコードの変更

この画面 (163 ページの図 204) を使用して、レコードを変更します。

OCT 項目の処理				ONDM400
				98/01/31 16:29:51
オプションを入力して、実行キーを押してください。				
1=作成 2=変更 4=削除				
OPT	ライブラリー	オブジェクト	タイプ	ポリシー
	*ALL	*ALL	*ALL	OBJSTORE
2	CONNIE	*ALL	*ALL	CONNIE
	JOHNSLIB	*ALL	*PGM	JOHNS
	MARKLIB	*ALL	*ALL	MARK
	QRDARS400	*ALL	*ALL	JOHNS
	QRDARS400F	*ALL	*ALL	OBJSTORE
	TBROWN	*ALL	*ALL	OBJTEST
				終わり
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し				

図 204. OCT 項目の処理

実行キーを押すと、図 205 の画面が表示されます。

オブジェクト制御レコードの変更				ONDM400
				98/01/31 16:29:55
選択項目を入力して、実行キーを押してください。				
オブジェクト・ライブラリー	CONNIE__	名前, *ALL	
オブジェクト	*ALL__	名前, 総称*, *ALL	
オブジェクト・タイプ	*ALL__	タイプ, *ALL	
ポリシー	CONNIE2__	名前	
				F3=終了 F12=取り消し

図 205. オブジェクト制御レコードの変更

表示された情報に重ねて新しいデータを入力し、**実行キー**を押して、164 ページの図 206 の画面に進みます。

OCT 項目の処理			ONDM400
オプションを入力して、実行キーを押してください。			98/01/31 16:29:57
1=作成 2=変更 4=削除			
OPT	ライブラリー	オブジェクト	タイプ
	_____	_____	_____
	*ALL	*ALL	*ALL
	CONNIE	*ALL	*ALL
	JOHNSLIB	*ALL	*PGM
	MARKLIB	*ALL	*ALL
	QRDARS400	*ALL	*ALL
	QRDARS400F	*ALL	*ALL
	TBROWN	*ALL	*ALL
			OBJSTORE
			CONNIE2
			JOHNS
			MARK
			JOHNS
			OBJSTORE
			OBJTEST
終わり			
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し			
オブジェクト制御レコードが変更された。			

図 206. OCT 項目の処理

この画面で、変更を確認します。

オブジェクト制御レコードの削除

オブジェクト制御テーブルの項目を削除するには、165 ページの図 207 の画面を使用します。

注: 保存されているオブジェクトに対する OCT 項目の削除を禁止するチェック機能はありません。OCT 項目は保存処理 (検索処理ではなく) の過程でのみ使用されます。ただし、OCT 項目を使用して保存されたオブジェクトがある場合は、その項目を削除しないことをお勧めします。そのような項目が削除されると、保存されたオブジェクトに対して持っている可視性および保存処理で使用されるポリシーが除去されます。



図 207. OCT 項目の処理

実行キーを押して、図 208 の画面に進みます。

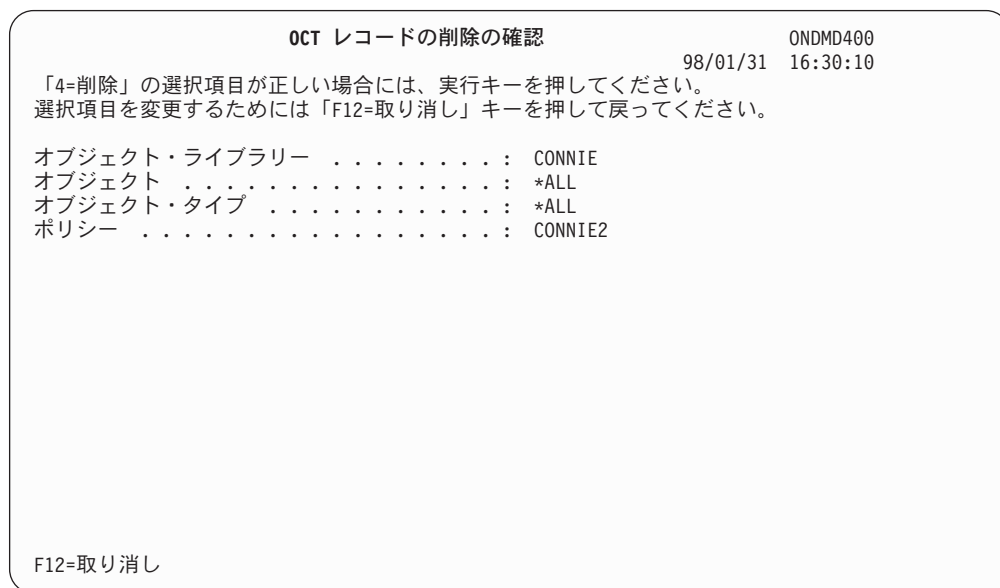


図 208. OCT レコードの削除の確認

表示されているオブジェクト制御レコードが、削除したいレコードではない場合には、**F12** を押して前の画面に戻ります。

そのオブジェクト制御レコードが削除したいレコードである場合には、**実行キー**を押して、それを削除し、166 ページの図 209 の画面に進みます。

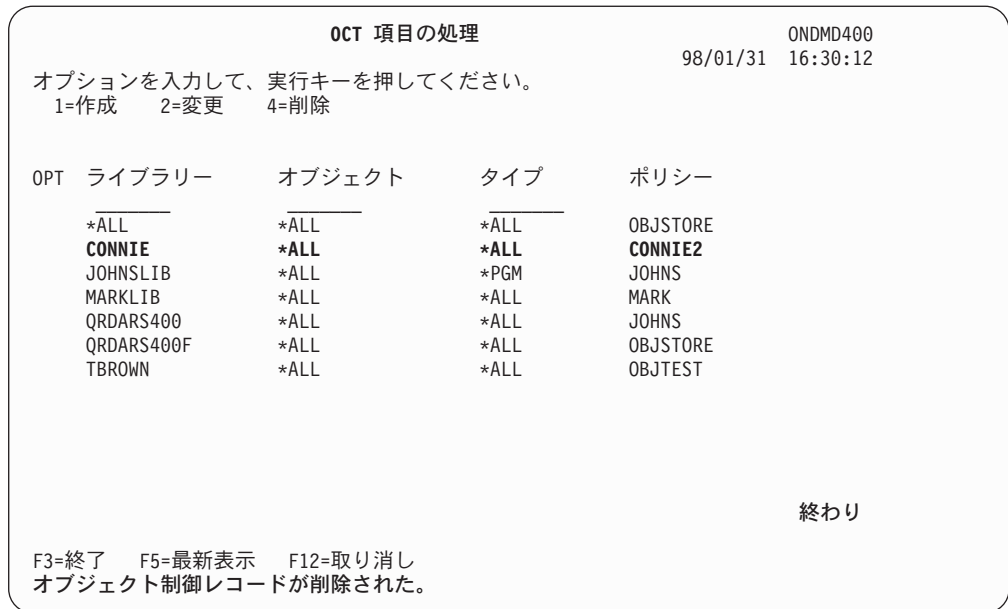


図 209. OCT 項目の処理

この画面で、該当のオブジェクト制御レコードが削除されたことを確認します。

残りのレコードのリストを表示するには **F5** を押します。

オプション 10. OnDemand ユーザーの編集/認可

これらの手順については、59 ページの『オプション 10. OnDemand ユーザーの編集/認可』を参照してください。

オプション 20. オブジェクト保存の開始

このオプションを使用して OS/400 オブジェクトの圧縮および保存を行うことができます。これにより、オブジェクト (複数も可) が圧縮保存された形でディスクに保管され、オブジェクト管理サイクルによる将来の管理が可能になります。オブジェクト管理サイクルでは、保存のオブジェクト・ポリシー基準を使用して、ディスクから光ディスクまたはテープへのその移行を制御します。

この作業を開始するには、「ONDEMAND オブジェクト管理メニュー」画面 (154 ページの図 188) から、オプション 20 「オブジェクト保存の開始」を選択します。

「ONDEMAND を使用した保存の開始 (STRARCRDAR)」画面 (167 ページの図 210) が表示されます。

ONDEMAND を使用した保存の開始 (STRARCRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

オブジェクト	F_____	名前, 総称*, *ALL
ライブラリー	TBROWN____	名前
オブジェクト・タイプ	*ALL____	*ALL, *ALRTBL, *BNDDIR...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F10=追加のパラメーター F12=取り消し
 F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 210. OnDemand を使用した保存の開始 (STRARCRDAR)

図 211 の追加のパラメーターを表示するには、**F10** を押します。

ONDEMAND を使用した保存の開始 (STRARCRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

オブジェクト	>F_____	名前, 総称*, *ALL
ライブラリー	>TBROWN____	名前
オブジェクト・タイプ	*ALL____	*ALL, *ALRTBL, *BNDDIR...

追加のパラメーター

記憶域	*KEEP	*KEEP, *FREE
詳細	*BASIC	*BASIC, *FULL
テキスト '記述'	ライブラリー TBROWN の F という すべてのオブジェクトの保存	
再始動	*NO_	*NO, *YES

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し
 F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 211. OnDemand を使用した保存の開始 (STRARCRDAR) - 追加のパラメーター

実行キーを押すと、OnDemand はオブジェクト (複数の場合もある) の保存項目を圧縮し、ディスクに記憶します。ユーザーは、オブジェクト管理テーブルのポリシー名に基づいて、それらの保存項目を光ディスクまたはテープに移行するために、OnDemand のオブジェクト管理サイクルを実行する必要があります。

OnDemand を使用した保存の開始 (STRARCRDAR) 機能は、オブジェクトの世代の削除時期も判別する点に注意してください。ここでは、オブジェクトを、そのポリシーだけを使用して保存した回数が参照されます。このコマンドの OBJ パラメーター、LIB パラメーター、および OBJTYPE パラメーター、ならびにオブジェクト制御テーブル (OCT) 内の定義により、ポリシーが判別されます。OCT とこのコマ

ンドの関係についての詳細は、169 ページの『保存を行うために OnDemand が OCT からレコードを選択する方法』を参照してください。

オプション 21. オブジェクト検索の開始

OnDemand 保存オブジェクトを検索するには、「ONDEMAND オブジェクト管理メニュー」画面 (154 ページの図 188) のオプション 21「ONDEMAND を使用したオブジェクト検索の開始」を選択します。「ONDEMAND を使用した検索の開始 (STRRTVRDAR)」画面 (図 212) が表示されます。

ONDEMAND を使用した検索の開始 (STRRTVRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

オブジェクト	<u>F</u> _____	名前
保存されたライブラリー	<u>TBROWN</u> _____	名前
オブジェクト・タイプ	<u>*ANY</u> _____	*ANY, *ALRTBL, *BNDDIR...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F10=追加のパラメーター F12=取り消し
F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 212. OnDemand を使用した検索の開始 (STRRTVRDAR)

F10 を押して、図 213 の画面に進みます。

ONDEMAND を使用した検索の開始 (STRRTVRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

オブジェクト	<u>>F</u> _____	名前
保存されたライブラリー	<u>>TBROWN</u> _____	名前
オブジェクト・タイプ	<u>*ANY</u> _____	*ANY, *ALRTBL, *BNDDIR...

追加のパラメーター

世代	<u>*CURRENT</u> _____	*CURRENT, 0 - -98
オプション	<u>*NEW</u> _____	*NEW, *OLD, *FREE, *ALL
ファイル・メンバー	<u>*ALL</u> _____	名前, 総称*, *ALL, *NONE

値の続きは +

DB メンバー・オプション	<u>*MATCH</u> _____	*MATCH, *ALL, *NEW, *OLD
オブジェクト差異可能	<u>*NONE</u> _____	*NONE, *ALL
ライブラリーへの検索	<u>QTEMP</u> _____	名前, *LIB
ASP への検索	<u>*ARCASP</u> _____	1-16, *ARCASP
保管ファイルの削除	<u>*OMC</u> _____	*OMC, *IMMED

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 213. OnDemand を使用した検索の開始 (STRRTVRDAR)

この画面により、入力した最初の 3 つのフィールドを確認し、検索をさらに定義することができます。

実行キーを押して、検索プロセスを開始します。

オプション 30. オブジェクト管理サイクルの開始

オブジェクト管理サイクルを開始するには、「OnDemand オブジェクト管理メニュー」画面（154 ページの図 188）から、オプション 30「オブジェクト管理サイクルの開始」を選択します。図 214 の画面が表示されます。

オブジェクト管理サイクルの開始 (STROMCRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

バッチへの投入	*YES	*YES, *NO
ジョブ記述	QRDARS400_	名前
ライブラリー	*LIBL_____	名前, *LIBL, *CURLIB

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 214. オブジェクト管理サイクルの開始 (STROMCRDAR)

実行キーを押すと、オブジェクト管理サイクルが開始されます。OnDemand は、報告書 **QPRLOOMC** を生成し、その報告書に、保存されたオブジェクトの移行と満了日の詳細が示されます。

オプション 40. OnDemand メイン・メニュー

153 ページの図 187 のメイン・メニューに戻りたい場合には、このオプションを選択します。

オブジェクト保存のその他の考慮事項

このセクションでは、OnDemand オブジェクト保存を実現する際に考慮すべき事項について説明しています。

保存を行うために OnDemand が OCT からレコードを選択する方法

OnDemand オブジェクト保存では、各保存要求ごとに保存されたオブジェクトのセットが入った 1 つの ***SAVF** オブジェクトを作成します。これは、要求によって「オブジェクト管理メニュー」画面からメニュー・オプションが選択されるか、ま

たは **STRARCRDAR** コマンドが発行されることが条件になります。 OnDemand は、オブジェクト制御テーブル (OCT) から最も総称の範囲が小さく、しかも該当の保存要求を満たす項目を選択します。

図 215 に示した OCT 項目について考えてみます。

OCT 項目の処理				ONDMD400
オプションを入力して、実行キーを押してください。				98/01/31 16:29:29
1=作成 2=変更 4=削除				
OPT	ライブラリー	オブジェクト	タイプ	ポリシー
	*ALL	*ALL	*ALL	OBJSTORE
	JOHNSLIB	*ALL	*PGM	JOHNS
	LANDRUM	*ALL	*ALL	ALLCOLL
	LANDRUM	*ALL	*FILE	FILECOLL
	LANDRUM	*ALL	*PGM	PGMCOLL
	LANDRUM	PAY*	*ALL	ALLCOLL
	LANDRUM	PAY*	*PGM	PGMCOLL
	MARKLIB	*ALL	*ALL	MARK
	QRDARS400	*ALL	*ALL	JOHNS
	QRDARS400F	*ALL	*ALL	OBJSTORE
	TBROWN	*ALL	*ALL	OBJTEST
				終わり
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し				

図 215. OCT 項目の処理

図 215 の OCT 項目を使用して、以下の表およびそれぞれに対応する注を再度調べてください。選択処理を明確に理解することは、ユーザー・システムにおける正しいオブジェクト保存環境を定義する上で重要です。一番混乱の少ない手法は、オーバーラップした OCT 項目をすべて除去することですが、これは場合によって、可能でないことがあります。

表 1. STRARCRDAR における指定

ライブラリー	オブジェクト	タイプ
LANDRUM	*ALL	*ALL
LANDRUM	AR*	*PGM
LANDRUM	PAY204	*ALL
LANDRUM	*ALL	*CMD
LANDRUM	PAY*	*FILE

表 2. 保存に使用される OCT 項目

ライブラリー	オブジェクト	タイプ	注
LANDRUM	*ALL	*ALL	1
LANDRUM	*ALL	*PGM	2
LANDRUM	PAY*	*ALL	3
LANDRUM	*ALL	*ALL	4
LANDRUM	PAY*	*ALL	5

注:

1. 要求が OCT 項目に完全に一致している。
2. ***PGM** オブジェクトを保存するのに、***ALL *PGM** OCT 項目は ***ALL *ALL** に比べて、総称の範囲が小さいと言えます。
3. **PAY204** が ***PGM** オブジェクトであっても、**PAY* *PGM** 項目は選択されません。これは、OnDemand がライブラリーに **PAY204** という名前の他のオブジェクトが存在しないことを想定できないからです。
4. ***CMD** をオブジェクト・タイプとして指定する項目はありません。
5. このケースでは、***ALL *FILE** と **PAY* *ALL** の項目は、要求に対して正確に一致しません。オブジェクト名は、決定要因となります。

オブジェクト保存からのオブジェクトのセットの削除

オブジェクト保存からオブジェクトのセットを削除する必要がある場合は、以下の情報を使用して削除を実行できます。これは、スプール・ファイル保存の報告書の削除 (DLTRPTRDAR) コマンドに似ていますが、オブジェクト保存とともに使用します。以下のコマンドにおいて、小文字のワードが表す内容は次のとおりです。

ライブラリー 保存されたオブジェクトを含むライブラリーの名前。

オブジェクト オブジェクト名。これは、保存された日付 (YYYYMMDD 形式) と同等のものです。

seq 保存の順序番号 (3 桁の数字)。

次の 6 個のコマンドを入力します。

1. ADDLIBLE QRDARS

2. CALL PGM(QRLCOVR) PARM(*ADD 'RLCRLO' ' *')

注: 3 番目のパラメーターの * の前には、スペースを入れる必要があります。

3. STRCMTCTL LCKLVL(*CHG)

4. CALL PGM(QRLODLT) PARM('library' 'object' 'seq' '*' *YES)

ジョブ・ログを表示 (必ず F10 を押して、詳細なメッセージを表示してください) すると、実行された内容を示すメッセージを確認できます。ステップ 4 の最後のパラメーターによって、すべてのオブジェクトを検出できなかった場合でも、OnDemand はクリーンアップを実行します (これは、DLTRPTRDAR CLEANUP(*YES) に相当します)。例えば、保存のライブラリー名が TBROWN であり、1997 年 5 月 5 日に保存された最初のものである場合は、ステップ 4 で次のように入力します。

CALL PGM(QRLODLT) PARM('TBROWN' '19970505' '001' '*' *YES)

5. COMMIT

6. ENDCMTCTL

CL プログラムを作成して、ディスク/光ディスク記憶装置からオブジェクト保存のオブジェクトを削除するには、172 ページの図 216 に示されている DLTOBJRDAR というサンプル CL プログラムを作成します。

```

PGM PARM(&LIBRARY &OBJECTNAME &SEQUENCENO &CLEANUP)
DCL VAR(&LIBRARY) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&OBJECTNAME) TYPE(*CHAR) LEN(8)
DCL VAR(&SEQUENCENO) TYPE(*CHAR) LEN(3)
DCL VAR(&RETURNCODE) TYPE(*CHAR) LEN(8)
DCL VAR(&CLEANUP) TYPE(*CHAR) LEN(4)
ADDLIBLE LIB(QUSRRDARS)
MONMSG MSGID(CPF2103)
ADDLIBLE LIB(QRDARS) POSITION(*AFTER QUSRRDARS)
MONMSG MSGID(CPF2103)
STRCMTCTL LCKLVL(*CHG)
MONMSG MSGID(CPF8351) EXEC(RCVMSG MSGTYPE(*LAST)) +
/* ALREADY STARTED */
ROLLBACK
CALL PGM(QRDARS/QRLODLT) PARM(&LIBRARY +
&OBJECTNAME &SEQUENCENO &RETURNCODE &CLEANUP)
MONMSG MSGID(CPF0000 CPF9999) EXEC(ROLLBACK)
COMMIT
ENDCMTCTL
ENDPGM

```

図 216. サンプル CL プログラム (DLTOBJRDAR)

| DLTOBJRDAR プログラムには、次の 4 つのパラメーターがあります。

	OS/400 ライブラリー名	YYYYMMDD
	OnDemand オブジェクト名	10 文字
	順序番号	000 から 999 まで
	クリーンアップ	*YES または *NO

| このプログラムを実行するには、次のように入力してプログラムを呼び出します。
| 各パラメーターの情報は適宜置換してください。

| CALL PGM(DLTOBJRDAR) PARM('EWAITMAN' '19980501' '001' '*YES')

| クリーンアップに *YES を指定すると、OnDemand は、媒体が光ディスクでオブジ
| ェクトを物理的に削除できない場合でも、そのすべてのデータベース項目を除去し
| ます。

監査ファイルの詳細

OnDemand オブジェクト保存機能は、保存済みオブジェクト上で処理が行われるた
びにレコードが書き込まれる監査ファイルを提供します。 **QUSRRDARS** ライブラ
リー内の、この **QARLOAUDIT** というファイルに対して照会を実行して、保存項目
に関する広範な各種の追加管理報告書を作成することができます。

各レコードには、ログに記録された活動を記述するアクション・コードが示されま
す。コードのリストとそれぞれの意味は以下のとおりです。

- A - 保存項目が作成されました。
- R - 保存項目が検索されました。
- Z - 保存項目が削除されました。

オブジェクト保存についてのヒント

このセクションには、オブジェクト保存の実現に際して考慮すべきヒントが含まれています。

- ライブラリー **QUSRRDARS** のオブジェクト保存監査ファイル **QARLOAUDIT** を定期的に消去 (**CLRPFM**) することを忘れないでください。必要に応じて、このファイルに対して照会プログラムを定期的に行うことを検討してください。この報告を実行した後は、そのファイルを消去してもかまいません (必要に応じて、消去する前に、保管するかまたは OnDemand オブジェクト保存で保存してください)。
- スプール・ファイル保存、オブジェクト保存、およびレコード保存光ディスク・データについては、別々の記憶域グループを作成することをお勧めします。それぞれの OnDemand 環境の要件はそれぞれ異なるため、データは別々に保持することをお勧めします。

第 3 章 OnDemand レコード保存機能の使用法

レコード保存機能に備わっているコマンドとアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を使用すると、履歴データへ時折アクセスする必要があるのみといったユーザーのために、データ・レコードを光ディスクに保存したり、光ディスクから検索したりすることができます。バージョン 5 リリース 2 では、すでにレコード保存機能を使用しているお客様のためにこの製品オプションが提供されていますが、機能強化は予定されていません。関連文書は従来のリリースの OnDemand 資料に含まれています。その他の、圧縮 DASD などのオプションについては、ソフトウェア・プロバイダーにお問い合わせください。

第 4 章 OnDemand AnyStore 機能の使用

AnyStore 機能が提供するアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) によって、ディスク、光媒体、またはテープ媒体上にさまざまなデータ・タイプを記憶したり、検索したりすることができます。これらのデータ形式の記憶および検索 (書き込みおよび読み取り) は、データ・タイプには関係ありません。AnyStore が、保存および検索中にデータの形式を保持します。保存項目から戻されたデータの形式は、記憶前のデータ形式と同じです。

提供されている API を使用すると、全く新しいアプリケーションを開発したり既存のアプリケーションを拡張したりして、以下のリストのようなデータを記憶することができます。

- PC ファイル
- スプール・ファイル全体
- データベース・ファイルの各メンバー
- ユーザーのプログラムによってバッファ内に作成したデータ

データを記憶するアプリケーションと、データを検索するアプリケーションを設計してください。AnyStore はプログラミング・ツール (API) を提供し、OnDemand スプール・ファイル保存機能は異なる媒体間でデータを移動する記憶管理機能を提供します。

本章では、ユーザーのアプリケーション・プログラムで使用するための AnyStore API の詳細について説明します。

AnyStore の特性

AnyStore データの操作は、ある意味では以下の点で OnDemand スプール・ファイル保存データと類似しています。

- キーでデータを検索することができる。
- スプール・ファイル保存データと同様に、OnDemand 記憶階層に適合する。
- 多くのスプール・ファイル保存コマンドを使用して AnyStore を管理することができる。

ただし、以下の点でスプール・ファイル保存データとは異なります。

- スプール・ファイル保存コマンドを使用して記憶または検索することはできない。
- AnyStore API を介して記憶および検索することができる。
- OnDemand は、必ず報告書グループ内に AnyStore データを記憶する。

AnyStore 報告書の定義

AnyStore 項目の定義には、「スプール・ファイル保存メニュー」のオプション「報告書定義の処理」または、スプール・ファイル保存コマンド **WRKADMRDAR TYPE(*REPORT)** を使用します。この機能に関する詳細については、19 ページの『オプション 4. 報告書定義の処理』を参照してください。(実際に記憶するデータのタイプに関係なく、AnyStore 項目は「報告書」を意味します。AnyStore は、OnDemand のスプール・ファイル保存機能に基づいて作成を行います。この機能は、報告書名、報告書タイプなどで制御します。)

AnyStore データの報告書定義には、以下の情報が必要です。

- 報告書タイプ
 - **ANYS** (AnyStore 報告書)
- 報告書データ・タイプ (以下のいずれかを選択します)
 - ***SPLF** (各セグメントは、1 つのスプール・ファイルである)
 - ***FILE** (各セグメントは、データベース・ファイル・メンバー内のすべてのレコードである)
 - ***BUFFER** (各セグメントは、プログラム内のバッファからのものである)
 - ***IFS** (各セグメントは、統合ファイル・システム (IFS) ファイルである)
- 圧縮
 - **Y** (する)
 - **N** (しない)

報告書定義のほかに、AnyStore 環境について以下の情報を定義します。

- 報告書グループ
- ポリシー
- 記憶グループ (光ディスクを使用する場合)
- 磁気テープ装置 (テープを使用する場合)
- 光ディスクまたはテープの目録 (必要に応じて)

AnyStore 報告書の削除

AnyStore 項目の削除には、「スプール・ファイル保存メニュー」のオプション「報告書の削除」、またはスプール・ファイル保存コマンド **DLTRPTRDAR** を使用します。この機能に関する詳細については、76 ページの『オプション 3. 報告書の削除』を参照してください。

AnyStore の使用

AnyStore 項目を記憶または検索するには、高水準言語 (HLL) プログラムから AnyStore のアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を呼び出します。

AnyStore API を使用するサンプルの**記憶** ロジックは以下のとおりです。

1. **AnyStore オブジェクトのオープン (QrlsOpenAnyStoreObject) API** を使用して、AnyStore ファイル・ハンドルを取得する。ファイル・ハンドルは書き込みおよびクローズの両方について、使用中の AnyStore オブジェクトを識別するために使用します。
2. **AnyStore セグメントの記憶 (QrlsStoreAnyStoreSegment) API** を使用して、AnyStore オブジェクトにデータを書き込む。
3. **AnyStore オブジェクトのクローズ (QrlsCloseAnyStoreObject) API** を使用して、AnyStore オブジェクトをクローズする。

AnyStore API を使用するサンプルの検索 ロジックは以下のとおりです。

1. **AnyStore リストの検索 (QrlsRetrieveAnyStoreList) API** を使用して、指定されたキー値を満たす利用可能なセグメントのリストを検索する。
2. **AnyStore セグメントの検索 (QrlsRetrieveAnyStoreSegment) API** を使用して、**AnyStore リストの検索 (QrlsRetrieveAnyStoreList) API** リストからセグメントの 1 つを検索する。

QSAMPLES ソース・ファイル (ライブラリー **QRDARS** 内) に、これらの API を使用した COBOL および RPG のサンプル・プログラムが入っています。このサンプル・ソース・コードのメンバー名は、すべて **QRLSASxxxx** で始まっています。

OnDemand AnyStore API

このセクションでは、以下の機能の実行を可能にする AnyStore API について説明します。

- AnyStore オブジェクトのオープン
- AnyStore セグメントの記憶
- AnyStore オブジェクトのクローズ
- AnyStore セグメントのリストの検索
- 特定の AnyStore セグメントの検索

各 API には、渡さなければならない一定の数のパラメーターがあります。

OnDemand 制御エラーは、エラー・コード・パラメーターによって制御されます。ただし、以下のいずれかが原因でエスケープ・メッセージが送信されて呼び出しが停止された場合は制御されません。

- エラー・コードを戻すスペースがない。
- エラーが明確で、プログラムの再コンパイルが必要である。
- エラーが API の結果に依存していない。

エラー・コード・パラメーター

すべての OnDemand AnyStore API には、エラー・コードと例外データ呼び出し側のアプリケーションに戻すエラー・コード・パラメーターが含まれています。エラー・コード・パラメーターは、エラー状態に関連する情報を含む可変長の構造体です。エラー・コード・パラメーターの形式は、**ERRC0100** または **ERRC0200** の可変長構造体のいずれかです。

形式 **ERRC0100** の場合、その構造体のフィールドの 1 つは入力フィールドです。このフィールドは、例外をアプリケーションに戻すか、またはエラー・コード構造体に例外情報を格納するかを制御します。「提供されるバイト数」フィールドが **8** 以上の場合は、エラー・コード構造体の残りの部分に、エラーに関連する出力例外情報が格納されます。「提供されるバイト数」フィールドが **0** の場合は、他のフィールドはすべて無視され、例外が戻されます。

API の呼び出し元が変換可能文字 (CCHAR) サポートを必要とする場合には、形式 **ERRC0200** を使用します。形式 **ERRC0200** には、2 つの入力フィールドがあります。1 番目のフィールドはキー・フィールドといい、CCHAR サポートを使用するには **-1** を入力しなければなりません。「提供されるバイト数」フィールドが **12** 以上の場合は、エラー・コード構造体の残りの部分に、エラーに関連する出力例外情報が格納されます。「提供されるバイト数」フィールドが **0** の場合は、他のフィールドはすべて無視され、例外が戻されます。

注: エラーが発生したかどうかを判別するには、「使用可能なバイト数」が **0** より大きいかどうかを調べる必要があります。例外 ID が非ブランク値かどうかを検査することは、有効な方法ではありません。

エラー・コード・パラメーター構造体は、使用される形式に応じて以下のようになっています。

ERRC0100 形式:

オフセット		使用	タイプ	フィールド
10 進	16 進			
0	0	入力	Binary(4)	提供されるバイト数
4	4	出力	Binary(4)	使用可能なバイト数
8	8	出力	Char(7)	例外 ID
15	F	出力	Char(1)	予約済み
16	10	出力	Char(*)	例外データ

ERRC0200 形式:

オフセット		使用	タイプ	フィールド
10 進	16 進			
0	0	入力	Binary(4)	キー
4	4	入力	Binary(4)	提供されるバイト数
8	8	出力	Binary(4)	使用可能なバイト数
12	C	出力	Char(7)	例外 ID
19	13	出力	Char(1)	予約済み
20	14	出力	Binary(4)	CCHAR データの CCSID
24	18	出力	Binary(4)	例外データに対するオフセット
28	1C	出力	Binary(4)	例外データの長さ

オフセット				
10 進	16 進	使用	タイプ	フィールド
		出力	Char(*)	例外データ

ERRC0200 フィールド記述

使用可能なバイト数

API が使用できるエラー情報の長さ (バイト単位)。この値が 0 の場合、エラーは検出されていません。

提供されるバイト数

呼び出し側アプリケーションがエラー・コード用に用意する区域の長さ。

API 呼び出し元が形式 ERRC0100 を使用している場合は、提供されるバイトは 0、8、または 8 より大きくなければなりません。API 呼び出し元が形式 ERRC0200 を使用している場合は、バイトで提供されるキーは 0、12、または 12 より大きくなければなりません。

0 - エラーが発生した場合は、例外がアプリケーションに戻され、要求された機能が失敗したことが示されます。

>8 - エラーが発生した場合は、スペースに例外情報が格納されます。例外は戻されません。この状態は、形式 ERRC0100 が使用されている場合にのみ起こります。

>12 - エラーが発生した場合は、スペースに例外情報が格納されます。例外は戻されません。この状態は、形式 ERRC0200 が使用されている場合にのみ起こります。

CCHAR データの CCSID

例外データの変換可能文字 (CCHAR) 部分のコード化文字セット ID (CCSID)。デフォルトは 0 です。

0 - デフォルトのジョブ CCSID。

例外データ

例外用の置換テキストを含む可変長文字フィールド。SNDPGMMSG または SNDUSRMSG CL コマンドで MSGID パラメーターの値に例外 ID を指定し、MSGDATA パラメーターの値に例外データを指定することにより、これらのコマンドを使用して、任意のユーザーにメッセージを送ることができます。メッセージは、メッセージ・ハンドラー API を使用して送信することもできます。

例外 ID

エラー状態に関するメッセージの識別コード。RDR で始まる ID は、ライブラリー QRDARS 内のメッセージ・ファイル QRLCMMSGF の中で見つけることができます。

キー CCHAR サポートが使用されている場合に、メッセージ・ハンドラー誤差関数を使用可能にするキー値。CCHAR サポートが予定されている場合は、この値は -1 にする必要があります。

例外データの長さ

例外データの長さ。エラー・コードで戻される例外データのバイト単位の長さです。

例外データに対するオフセット

例外データに対するオフセット。エラー・コード構造体の中の例外データに対するエラー・コード構造体の先頭からのオフセットです。

予約済み

1 バイトの予約フィールド。

AnyStore オブジェクトのクローズ (QrlsCloseAnyStoreObject) API

パラメーター			
必須パラメーター・グループ:			
1	AnyStore ハンドル	入力	Char(16)
2	エラー・コード	入出力	Char(*)
サービス・プログラム: QRLSAS1			
スレッド・セーフ: 非保証			

AnyStore オブジェクトのクローズ (QrlsCloseAnyStoreObject) API は、指定されたオブジェクトをクローズし、オブジェクトに対するロックを解放します。このオブジェクトに関連するデータは、強制的に不揮発性記憶装置に入れられます。

重要: セグメントを記憶する際、オブジェクトのクローズに失敗すると、そのオブジェクトは損傷が発生した状態になります。オブジェクトは、必ず確実にクローズしてください。

また、**QrlsCloseAnyStoreObject** を使用する代わりに、プログラム **QRLRCASO** を呼び出すこともできます。IBM では、以前の AnyStore のリリースとの互換性を確保するために **QRLRCASO** を用意しました。

権限およびロック

ライブラリー権限

*EXECUTE

必須パラメーター・グループ

AnyStore ハンドル

入力、CHAR(16)。クローズ・プロセスにあるオブジェクトが **AnyStore オブジェクトのオープン (QrlsOpenAnyStoreObject) API** でオープンされたときに戻されるハンドル。

エラー・コード

入出力、CHAR(*)。エラー情報を戻すための構造体。この構造体の形式については、179 ページの『エラー・コード・パラメーター』を参照してください。

エラー・メッセージ

CPF24B4

パラメーター・リストのアドレッシング中に重大エラーが発生しました。

CPF3CF1

エラー・コード・パラメーターが無効です。

CPF9872

ライブラリー &2; のプログラムまたはサービス・プログラム &1; が終了しました。理由コードは &3 です。

RDR2101

AnyStore ハンドルが正しくありません。理由コードは &1 です。

RDR2102

正常にクローズすることができません。

RDR2103

クローズの問題が発生しました。

RDR2153

適切なライセンスを獲得することができません。

AnyStore オブジェクトのオープン (QrlsOpenAnyStoreObject) API

パラメーター			
必須パラメーター・グループ:			
1	AnyStore ハンドル	出力	Char(16)
2	報告書名	入力	Char(10)
3	バージョン	入力	Char(2)
4	記入日付	入力	Char(10)
5	実行注記	入力	Char(50)
6	順序番号	出力	Char(3)
7	エラー・コード	入出力	Char(*)
サービス・プログラム: QRLSAS1			
スレッド・セーフ: 非保証			

AnyStore オブジェクトのオープン (QrlsOpenAnyStoreObject) API が AnyStore オブジェクトをオープンします。

また、**QrlsOpenAnyStoreObject** を使用する代わりに、プログラム **QRLROASO** を呼び出すこともできます。IBM では、以前の AnyStore のリリースとの互換性を確保するために **QRLROASO** を用意しました。

注: 単一ジョブ内で一度にオープンすることができる AnyStore オブジェクトは 1 つのみです。AnyStore オブジェクトのクローズ API を使用して、オープンしている AnyStore オブジェクトをクローズしてからでなければ、別の AnyStore オブジェクトをオープンすることはできません。

権限およびロック

ライブラリー権限

*CHANGE

ファイル権限

*CHANGE

必須パラメーター・グループ

AnyStore ハンドル

出力、CHAR(16)。API によって割り当てられ、以後の操作で AnyStore オブジェクトの参照に使用される任意の文字から構成される識別コード。このハンドルは、AnyStore オブジェクトのオープン固有のものとして識別します。同一のジョブでの同一の報告書の別のオープンにより、別の固有の AnyStore ハンドルが提供されます。

報告書名

入力、CHAR(10)。この AnyStore オブジェクトをオープンするときに使用する報告書定義の名前。

バージョン

入力、CHAR(2)。このバージョンは、報告書名と組み合わせて、使用する特定の報告書定義を指定します。

記入日付

入力、CHAR(10)。この AnyStore 報告書オブジェクトを記憶するときに使用する日付。このパラメーターの有効な値は、次のとおりです。

*JOBDATE

ジョブ日付を使用します。

*SYSDATE

システム日付を使用します。

日付 YYYYMMDD の形式で日付を入力します。

実行注記

入力、CHAR(50)。このオープンを記述するテキスト。何も指定しない場合は、デフォルト値として報告書記述になります。

順序番号

出力、CHAR(3)。この実行に割り当てる順序番号を示す 3 桁の値。順序番号は、特定の日付に同じ報告書が別に実行されたことを示すものです。ある特定の日付について単一の報告書を実行する場合の実行の最大数は 46,656 です。順序番号は、新しい日付ごとにリセットされ、報告書に固有のものです。

エラー・コード

入出力、CHAR(*)。エラー情報を戻すための構造体。この構造体の形式については、179 ページの『エラー・コード・パラメーター』を参照してください。

エラー・メッセージ

CPF24B4

パラメーター・リストのアドレッシング中に重大エラーが発生しました。

CPF3CF1

エラー・コード・パラメーターが無効です。

CPF9872

ライブラリー &2; のプログラムまたはサービス・プログラム &1; が終了しました。理由コードは &3; です。

RDR2153

適切なライセンスを獲得することができません。

RDR2201

報告書が見つかりません。理由コードは &1; です。

RDR2202

実行日付が正しい日付ではありません。

RDR2203

新しい順序番号を割り当てることができません。

RDR2204

正常にオープンすることができません。

RDR2205

権限が不十分です。

RDR2206

報告書名またはバージョンがブランクになっています。

RDR2207

実行日付パラメーターが正しくありません。

RDR2208

報告書の処理はすでに進行中です。

RDR2209

文書ライブラリー・サービスのオープンの問題が発生しました。

RDR2211

オープンの問題が発生しました。理由コードは &1; です。

AnyStore リストの検索 (QrlsRetrieveAnyStoreList) API

パラメーター			
必須パラメーター・グループ:			
1	レシーバー変数	出力	Char(*)
2	レシーバー変数の長さ	入力	Binary(4)
3	レシーバー変数の形式	入力	Char(8)
4	先頭セグメント・キー	入力	Char(*)
5	終了セグメント・キー	入力	Char(*)
6	セグメント・キーの形式	入力	Char(8)
7	検索するセグメントの最大数	入力	Binary(4)
8	継続ハンドル	入力	Char(16)
省略可能パラメーター・グループ:			

9	索引状況の要求	入力	Char(10)
10	索引状況	出力	Char(1)
11	エラー・コード	入出力	Char(*)
サービス・プログラム: QRLSAS2			
スレッド・セーフ: 非保証			

AnyStore リストの検索 (QrlsRetrieveAnyStoreList) API は、指定されたキーに一致するすべてのセグメントのリストを検索します。総称検索と範囲指定検索を行うことができます。キー値の後ろにアスタリスク (*) が付いているものは、総称検索を表します。複数のキーを指定した場合、検索は、キーがセグメント・キー・パラメーター内にリストされている順序で実行されます。少なくとも 1 つのキーを指定してください。キー・フィールドがブランクの場合は、指定されていないものと見なされます。総称検索は、**先頭セグメント・キー** 変数に指定されたキーにのみ指定することができます。**終了セグメント・キー** 変数に指定した場合は、この検索要求は無効となります。検索されたセグメントのリストは、レシーバー変数に格納されます。セグメントのリストには、当該ユーザーに許可されたキー値のみが含まれます。

重要: 機密保護検査は、現行ユーザーに基づいて行われます。ユーザーの権限のもとで実行されていないサーバー・ジョブがこの API を使用すると、デフォルト値により、サーバー・ジョブのユーザー・プロファイルが使用されます。これは、この API を呼び出す前に実際のユーザーのプロファイルに切り替えれば、防止できます。

また、**QrlsRetrieveAnyStoreList** を使用する代わりに、プログラム **QRLRRASL** を呼び出すこともできます。IBM では、以前の AnyStore のリリースとの互換性を確保するために **QRLRRASL** を用意しました。

権限およびロック

ライブラリー権限

*EXECUTE

ファイル権限

*CHANGE

必須パラメーター・グループ

レシーバー変数

出力、CHAR(*)。検索されたセグメントのキーを含む。レシーバー変数の形式フィールドでこの変数の形式を指定します。

レシーバー変数の長さ

入力、BINARY(4)。レシーバー変数の長さ。これは、セグメントの最大数にこの形式の非繰り返し部分の長さを加えたものを入れることのできる十分な大きさでなければなりません。形式が **SEGFO100** の場合、非繰り返し部分は 36 バイトです。

レシーバー変数の形式

入力、CHAR(8)。レシーバー変数の形式。

SEGF0100

RetrieveSegmentKeyList 形式

これらの形式の説明については、189 ページの『RetrieveSegmentKeyList の形式』を参照してください。

先頭セグメント・キー

入力、CHAR(*)。開始キー、または検索するために使用する唯一のキー。セグメント・キー形式フィールドで形式を指定します。

終了セグメント・キー

入力、CHAR(*)。範囲指定検索の場合の上限 (最高値)。セグメント・キー形式フィールドで形式を指定します。

セグメント・キーの形式

入力、CHAR(8)。セグメント・キーの形式。

KEYA0100

キー形式

これらの形式の説明については、188 ページの『セグメント・キーの形式』を参照してください。

検索するセグメントの最大数

入力、BINARY(4)。セグメント・リストに入れるセグメントの最大数。この値は、1 ~ 9999 の範囲でなければなりません。

継続ハンドル

入力、CHAR(16)。このフィールドは、ブランクまたは有効な継続ハンドルのいずれかでなければなりません。ブランクの場合は、指定されたキー値で新たに検索が行われます。直前の呼び出しからの有効な継続ハンドルを指定した場合は、中断された位置から引き続き検索が行われます。

省略可能パラメーター・グループ

索引状況の要求

入力、CHAR(10)。特定の報告書について索引状況の情報を要求する。報告書名を指定します。指定しないと、索引状況は戻りません。**先頭セグメント・キー**および**終了セグメント・キー**の形式で日付範囲を指定しない場合は、索引状況を要求しても有用な情報はほとんど得られません。日付範囲を指定しないと、OnDemand の導入以降に保存されたこの報告書の索引がすべてチェックされます。検索日付は、特定の日付範囲に制限するようにしてください。このようにすると、**索引状況の要求**に、その日付範囲内に保存された索引がすべて揃っているかどうかを示されます。これによって、検索が完了したかどうか分かります。このパラメーターのデフォルト値は ***NO** です。このフィールドの有効な値は、次のとおりです。

***YES** 索引状況フィールドに索引状況を戻す。

***NO** 索引状況を戻さない。

索引状況

出力、CHAR(1)。この索引が指定された報告書と日付の組み合わせに関するものかどうかを示す。このパラメーターの値は以下のとおりです。

0 指定された日付範囲内の索引がすべてディスク上にある。

1 索引の少なくとも 1 つが光ディスクまたはテープに保存される。

エラー・コード

入出力、CHAR(*)。エラー情報を戻すための構造体。この構造体の形式については、179 ページの『エラー・コード・パラメーター』を参照してください。

エラー・メッセージ

CPF24B4

パラメーター・リストのアドレッシング中に重大エラーが発生しました。

CPF3C21

形式名 &1; が無効です。

CPF3CF1

エラー・コード・パラメーターが無効です。

CPF9872

ライブラリー &2; のプログラムまたはサービス・プログラム &1; が終了しました。理由コードは &3; です。

RDR2153

適切なライセンスを獲得することができません。

RDR2205

権限が不十分です。

RDR2301

検索要求が正しくありません。

RDR2302

検索日が正しくありません。

RDR2303

セグメントの最大数が正しくありません。

RDR2304

検索リスト・エラーです。

セグメント・キーの形式

KEYA0100 形式: この形式は、検索開始キーと検索終了キーの値を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	CHAR(10)	報告書名/グループ名
10	A	CHAR(2)	バージョン
12	C	CHAR(25)	キー 1
37	25	CHAR(20)	キー 2
57	39	CHAR(20)	キー 3
77	4D	CHAR(20)	キー 4
97	61	CHAR(15)	キー 5
112	70	CHAR(8)	日付 YYYYMMDD

KEYA0100 フィールド記述。

少なくとも、フィールド・キー 1 から 5 までの 1 つが指定されていないと、メッセージ RDR2301 が発行されます。

日付 検索される日付を YYYYMMDD の形式で入力するか、または空白。検索基準の一部として空白・フィールドが使用されない場合です。

キー 1

検索される値、または空白。検索基準の一部として空白・フィールドが使用されない場合です。

キー 2

検索される値、または空白。検索基準の一部として空白・フィールドが使用されない場合です。

キー 3

検索される値、または空白。検索基準の一部として空白・フィールドが使用されない場合です。

キー 4

検索される値、または空白。検索基準の一部として空白・フィールドが使用されない場合です。

キー 5

検索される値、または空白。検索基準の一部として空白・フィールドが使用されない場合です。

報告書/グループ名

使用する報告書またはグループ名。報告書名が提供されている場合は、その報告書に対するキーのみが検索されます。グループ名が使用されている場合は、グループ内のすべての報告書に対するキーが検索されます。特別の形式 *GRPABVnnn を用いて、グループ省略形を使用することもできます。この場合、nnn は 3 文字のグループ省略形です。この値に対しては、検査が行われません。このフィールドがセグメントおよびセグメント・キー変数の両方共に指定されている場合、それぞれが同じ値でなければなりません。総称検索を意味する '*' の使用は、このフィールドでは許可されていません。

バージョン

報告書バージョン 01 ~ 99 または空白。検索基準の一部として空白・フィールドが使用されない場合です。

RetrieveSegmentKeyList の形式

このキーのリストは、必要に応じて最大 9999 回まで繰り返すことができます。

SEGF0100 形式: この形式は、戻されるセグメントの情報を定義します。

オフセット			
10 進	16 進	タイプ	フィールド
0	0	BINARY(4)	戻されたバイト数
4	4	BINARY(4)	使用可能なバイト数
8	8	CHAR(16)	継続ハンドル

オフセット			
10 進	16 進	タイプ	フィールド
24	18	BINARY(4)	セグメント情報リストに対するオフセット
28	1C	BINARY(4)	セグメント・リスト項目の数
32	20	BINARY(4)	セグメント・リスト項目の長さ
<p>注: 以下に、セグメント・リスト内の項目の形式を示します。以下のフィールドは、各セグメント・リスト項目ごとに繰り返されます。10進オフセットおよび16進オフセットは、セグメント・リスト項目の数に応じて異なります。最初のセグメント・リスト項目を見つけるには、セグメント情報リストに対するオフセットを使用します。</p>			
-	-	CHAR(10)	報告書名
-	-	CHAR(2)	バージョン
-	-	PACKED(11 0)	圧縮した長さ
-	-	PACKED(11 0)	完全な長さ
-	-	PACKED(11 0)	変位
-	-	CHAR(25)	キー 1
-	-	CHAR(20)	キー 2
-	-	CHAR(20)	キー 3
-	-	CHAR(20)	キー 4
-	-	CHAR(15)	キー 5
-	-	CHAR(8)	日付
-	-	CHAR(1)	ピリオド
-	-	CHAR(3)	順序番号
-	-	CHAR(1)	予約済み
-	-	CHAR(16)	セグメント・ハンドル

SEGF0100 フィールド記述

使用可能なバイト数

RetrieveReportKeylist のバイト単位の長さ。

戻されたバイト数

RetrieveReportKeylist に戻されたデータの、バイト単位の長さ。

圧縮した長さ

圧縮後のセグメントのサイズ。

継続ハンドル

指定された検索と一致するすべてのキーがセグメント・リスト項目に含まれている場合は、このフィールドはブランクです。さらに多くの項目が使用可能な場合には、このフィールドにはハンドルが含まれます。このハンドルを使用することにより、前回終了した箇所から検索を継続することができます。

日付 形式 YYYYMMDD によるセグメントの日付。

変位 オブジェクトの先頭からこのセグメントまでのオフセット。

完全な長さ

このフィールドには、セグメントの圧縮前の長さ、または AFPDS 資源グループ ID (負の数) のいずれかが入ります。

キー 1

キー 1 の値。

キー 2

キー 2 の値。

キー 3

キー 3 の値。

キー 4

キー 4 の値。

キー 5

キー 5 の値。

セグメント・リスト項目の長さ

各セグメント・リスト項目の長さ。

セグメント・リスト項目の数

リスト内の戻された項目の数。

セグメント・リスト情報に対するオフセット

形式の先頭からセグメント・リスト項目までのバイト単位のオフセット。

ピリオド

常にピリオドが含まれます。

報告書名

報告書の名前。

予約済み

このバイトは、後で使用するために予約済みです。

セグメント・ハンドル

このセグメントへのアクセス・ハンドル。

順序番号

保存されたオブジェクトの順序番号。

バージョン

報告書のバージョン。

AnyStore セグメントの検索 (QrlsRetrieveAnyStoreSegment) API

パラメーター			
必須パラメーター・グループ:			
1	レシーバー変数	出力	Char(*)
2	戻されたデータの長さ	出力	Binary(4)
3	セグメント索引	入力	Char(*)
4	セグメント索引の形式	入力	Char(8)

5	検索情報	入力	Char(*)
6	検索情報の形式	入力	Char(8)
7	エラー・コード	入出力	Char(*)
サービス・プログラム: QRLSAS2			
スレッド・セーフ: 非保証			

AnyStore セグメントの検索 (QrlsRetrieveAnyStoreSegment) API は、指定されたセグメントを検索して、それをレシーバー変数、または検索情報で指定された場所に格納します。

重要: この API は、AnyStore リストの検索 (**QrlsRetrieveAnyStoreList**) API を実行した場合と同じユーザー・プロファイルを使用して実行しなければなりません。そうしないと、セグメント・アクセス・ハンドルが無効となります。

また、**QrlsRetrieveAnyStoreSegment** を使用する代わりに、プログラム **QRLRRASS** を呼び出すこともできます。IBM では、以前の AnyStore のリリースとの互換性を確保するために **QRLRRASS** を用意しました。

権限およびロック

ライブラリー権限

*EXECUTE

ファイル権限

*CHANGE

必須パラメーター・グループ

レシーバー変数

出力、CHAR(*)。出力の格納先フィールド。

戻されたデータの長さ

出力、BINARY(4)。レシーバー変数に格納されたデータの長さ。

セグメント索引

入力、CHAR(*)。検索するセグメントの索引を含む。「セグメント索引の形式」フィールドでは、形式を指定します。

セグメント索引の形式

入力、CHAR(8)。セグメント索引の変数の形式。 **AnyStore リストの検索 (QrlsRetrieveAnyStoreList) API** セグメントから提供された変数は変更しないでください。報告書名、圧縮した長さ、変位、データ、または順序番号を変更すると、予期しない結果が発生します。セグメントのアクセス・ハンドルが正しくない場合は、メッセージ RDR2407 が出されます。

SEGD0100

セグメント索引の形式

この形式の説明については、194 ページの『セグメント検索の形式』を参照してください。

検索情報

入力、CHAR(*)。必須の検索情報を含む文字フィールド。このフィールドの形式は、検索情報の形式フィールドによって判別されます。

検索情報の形式

入力、CHAR(8)。検索情報フィールドの形式。これらの形式の説明については、196 ページの『検索情報の形式』を参照してください。有効な値は以下のとおりです。

RTVS0100

バッファーに取得する

RTVS0200

IFS ファイルに取得する

RTVS0300

物理ファイルに取得する

RTVS0400

スプール・ファイルに取得する

エラー・コード

入出力、CHAR(*)。エラー情報を戻すための構造体。この構造体の形式については、179 ページの『エラー・コード・パラメーター』を参照してください。

QrlsRetrieveAnyStoreSegment API の使用に関する考慮事項

検索情報の形式に **RTVS0400** を指定すると、スプール・ファイルが作成されます。このスプール・ファイルは、2 つのジョブのいずれかでスプールされます。スプール・ファイルは、ユーザー・ジョブの一部になり、以下の条件のいずれかを満たしたときにそのユーザーの所有となります。

- 現行のユーザーが元のスプール・ファイルも所有していた場合。
- プロファイルを所有しているスプール・ファイルで特殊値 ***CURRENT** を指定した場合。

これ以外の場合は、新規のスプール・ファイルは、ユーザーごとに作成された特別なシステム・ジョブ (QPRTJOB) の一部となります。この場合、ユーザーは元のスプール・ファイルの所有者となります。

エラー・メッセージ

CPF24B4

パラメーター・リストのアドレッシング中に重大エラーが発生しました。

CPF3C21

形式名 &1; が無効です。

CPF3CF1

エラー・コード・パラメーターが無効です。

CPF9872

ライブラリー &2; のプログラムまたはサービス・プログラム &1; が終了しました。理由コードは &3; です。

RDR2153

適切なライセンスを獲得することができません。

RDR2401

検索セグメント読み取りエラーです。

RDR2403

ファイルのエラーです。

RDR2404

ファイル存在エラー。理由コードは &1 です。

RDR2406

セグメントのオープンエラーです。

RDR2407

検索権限が不十分です。

RDR2408

報告書データ・タイプが一致しません。

RDR2409

報告書がテープから再呼び出しされました。

RDR2411

検索バッファ長が正しくありません。

RDR2412

検索長エラーです。

RDR2413

作成オプションが正しくありません。

RDR2414

検索セグメント・エラーです。理由コードは &1 です。

RDR2415

検索ファイル・エラーです。

セグメント検索の形式

SEG0100 形式: この形式は、入力セグメントの情報を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	CHAR(10)	報告書名
10	A	CHAR(2)	バージョン
12	C	PACKED(11 0)	圧縮した長さ
18	12	PACKED(11 0)	完全な長さ
24	18	PACKED(11 0)	変位
30	1E	CHAR(25)	キー 1
55	37	CHAR(20)	キー 2
75	4B	CHAR(20)	キー 3
95	5F	CHAR(20)	キー 4
115	73	CHAR(15)	キー 5
130	82	CHAR(8)	日付 YYYYMMDD

オフセット			
10 進	16 進	タイプ	フィールド
138	8A	CHAR(1)	ピリオド
139	8B	CHAR(3)	順序番号
142	8E	CHAR(1)	予約済み
143	8F	CHAR(16)	セグメント・ハンドル

SEGD0100 フィールド記述

圧縮した長さ

圧縮後のセグメントのサイズ。

継続ハンドル

指定された検索と一致するすべてのキーがセグメント・リスト項目に含まれている場合は、このフィールドはブランクです。さらに多くの項目が使用可能な場合には、このフィールドにはハンドルが含まれます。このハンドルを使用することにより、前回終了した箇所から検索を継続することができます。

日付 形式 YYYYMMDD によるセグメントの日付。

変位 オブジェクトの先頭からこのセグメントまでのオフセット。

完全な長さ

このフィールドには、セグメントの圧縮前の長さ、または AFPDS 資源グループ ID (負の数) のいずれかが入ります。

キー 1

キー 1 の値。

キー 2

キー 2 の値。

キー 3

キー 3 の値。

キー 4

キー 4 の値。

キー 5

キー 5 の値。

セグメント・リスト項目の長さ

各セグメント・リスト項目の長さ。

セグメント・リスト項目の数

リスト内の戻された項目の数。

セグメント・リスト情報に対するオフセット

形式の先頭からセグメント・リスト項目までのバイト単位のオフセット。

ピリオド

常にピリオドが含まれます。

報告書名

報告書の名前。

予約済み

このバイトは、後で使用するために予約済みです。

セグメント・ハンドル

このセグメントへのアクセス・ハンドル。

順序番号

保存されたオブジェクトの順序番号。

バージョン

報告書のバージョン。

検索情報の形式

RTVS0100 形式: セグメントをバッファーに取得するための形式を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	BINARY(4)	レシーバー変数の長さ

RTVS0100 フィールド記述

レシーバー変数の長さ。レシーバー変数の長さを含みます。最大長は 16 MB です。特定のセグメントのこのフィールドに対する必須の長さは、SEGF0100 形式からの最大長です。

RTVS0200 形式: セグメントを IFS ファイルに取得するための形式を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	BINARY(4)	パスに対するオフセット
4	4	BINARY(4)	パス長
8	8	CHAR(4)	作成オプション
*	*	CHAR(*)	パス

RTVS0200 フィールド記述

作成オプション

ファイルを作成するかどうかの選択。文字とその意味は以下のとおりです。

このフィールドの桁 1: ファイルが既に存在している場合に行われるアクション。**注:** 桁 2 ~ 4 は使用されません。有効な値は次のとおりです。

0 - ファイルを作成しません。エラーが戻されます。

1 - ファイルが存在している場合は、そのファイルを開き、存在していない場合は、ファイルを作成します。検索されたデータがファイルの末尾に追加されます。

2 - ファイルが存在している場合は、そのファイルを開き、存在していない場合は、ファイルを作成します。検索されたデータが既存のデータを置き換えます。

パスに対するオフセット

この構造体の先頭からパス名までのオフセット。たとえば、この構造体の位置 12 から開始するパス名は、このフィールドが 12 (13 ではない) に設定されることを必要とします。

パス ファイルに対するパス。これにはファイル名も含まれます。パス名の長さは 64K 文字までです。たとえば、OfficeVision 文書を保管する場合、このパスは /QDLS/MYFLR/MYDOC に設定します。

パス長 Path パラメーターで指定されたパスを構成するストリングの全長。この値は (ファイル名を含む) パスの正確な長さでなければならず、パス名の終わりにブランクを含めることはできません。

RTVS0300 形式: セグメントをファイルに取得するための形式を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	CHAR(20)	ファイル
20	14	CHAR(10)	メンバー
30	1E	CHAR(4)	作成オプション

RTVS0300 フィールド記述

作成オプション

ファイルまたはメンバーを作成するかどうかの選択。**注:** 桁 3 および 4 は使用されません。文字とその意味は以下のとおりです。

このフィールドの桁 1: ファイルが既に存在している場合に行われるアクション。有効な値は次のとおりです。

- 0 ファイルを作成しません。エラーが戻されます。
- 1 ファイルが存在している場合は、そのファイルを開き、存在していない場合は、ファイルを作成します。

このフィールドの桁 2: メンバーがすでに存在している場合に行うアクション。有効な値は次のとおりです。

- 0 メンバーを作成しません。エラーが戻されます。
- 1 メンバーを開き、レコードを追加します。
- 2 メンバーを開き、レコードを置き換えます。

ファイル

戻されたセグメントを配置するファイル名。最初の 10 文字にはファイル名が含まれ、2 番目の 10 文字にはライブラリー名が含まれます。ライブラリー名として、以下の特殊値を使用することができます。

- *CURLIB。ジョブの現行ライブラリー。
- *LIBL。ライブラリー・リスト。

メンバー

使用するメンバー名。メンバー名として、以下の特殊値を使用することができます。

- *FIRST - 指定ファイル内の最初のメンバーが使用されます。

RTVS0400 形式: セグメントをスプール・ファイルに取得するための形式を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	CHAR(10)	プロファイルを所有するスプール・ファイル
20	14	CHAR(20)	出力待ち行列

RTVS0400 フィールド記述

出力待ち行列

このセグメントの印刷時に使用する出力待ち行列名。最初の 10 文字には出力待ち行列名が含まれ、2 番目の 10 文字にはライブラリー名が含まれます。出力待ち行列が指定されていない場合は、最初に入っていた出力待ち行列にスプール・ファイルが入れられます。ライブラリー名として、以下の特殊値を使用することができます。

- *CURLIB。ジョブの現行ライブラリー。
- *LIBL。ライブラリー・リスト。

プロファイルを所有するスプール・ファイル

新規に作成されるスプール・ファイルを所有するユーザー・プロファイル名。ユーザー・プロファイルが指定されていない場合は、最初にスプール・ファイルを所有していたスプール・ファイルが新規スプール・ファイルの所有者になります。ユーザー・プロファイルは既に存在していなければなりません。ユーザー・プロファイルとして、以下の特殊値を使用することができます。

- *CURRENT。現行ユーザーのプロファイルが使用されます。

AnyStore セグメントの記憶 (QrlsStoreAnyStoreSegment) API

パラメーター			
必須パラメーター・グループ:			
1	AnyStore ハンドル	入力	Char(16)
2	記憶情報	入力	Char(*)
3	記憶情報の長さ	入力	Binary(4)
4	記憶情報の形式	入力	Char(8)
5	キー	入力	Char(*)
6	キー形式	入力	Char(8)
7	エラー・コード	入出力	Char(*)

サービス・プログラム: QRLSAS1

スレッド・セーフ: 非保証

AnyStore セグメントの記憶 (QrlsStoreAnyStoreSegment) API は、セグメントと、それに関連付けられているキー情報を、OnDemand に記憶します。セグメントは、スプール、データベース・ファイル・メンバー、バッファ、または統合ファイル・システム・ファイルのいずれからのものであっても構いません。

また、**QrlsStoreAnyStoreSegment** を使用する代わりに、プログラム **QRLRSASS** を呼び出すこともできます。IBM では、以前の AnyStore のリリースとの互換性を確保するために **QRLRSASS** を用意しました。

権限およびロック

ライブラリー権限

*CHANGE

ファイル権限

*CHANGE

必須パラメーター・グループ

AnyStore ハンドル

入力、CHAR(16)。 **AnyStore** オブジェクトのオープン

(**QrlsOpenAnyStoreObject**) API でファイルがオープンされたときに戻された AnyStore ハンドル。

記憶情報

入力、CHAR(*)。記憶情報を含む。記憶情報の形式フィールドでこのフィールドの形式を指定します。

記憶情報の長さ

入力、BINARY(4)。記憶パラメーターの長さは、最大 1600 万文字までです。

記憶情報の形式

入力、CHAR(8)。記憶タイプと一致する、必須の構造体を含む文字フィールド。これらの形式の説明については、200 ページの『記憶情報の形式』を参照してください。有効な値は以下のとおりです。

STGI0100

バッファから記憶

STGI0200

IFS ファイルから記憶

STGI0300

物理ファイルから記憶

STGI0400

スプール・ファイルから記憶

キー

入力、CHAR(*)。セグメント・キーを含む。キー形式フィールドでこのフィールドの形式を指定します。

キー形式

入力、CHAR(10)。キー形式の名前。これらの形式の説明については、『キー形式』を参照してください。有効な値は以下のとおりです。

KEYS0100

セグメント・キー

エラー・コード

入出力、CHAR(*)。エラー情報を戻すための構造体。この構造体の形式については、179 ページの『エラー・コード・パラメーター』を参照してください。

キー形式

KEYS0100 形式: セグメント・キーの形式を定義します。

オフセット			
10 進	16 進	タイプ	フィールド
0	0	CHAR(25)	キー 1
25	19	CHAR(20)	キー 2
45	2D	CHAR(20)	キー 3
65	41	CHAR(20)	キー 4
85	55	CHAR(15)	キー 5

KEYS0100 フィールド記述

キー 1. キー 1 の値

キー 2. キー 2 の値

キー 3. キー 3 の値

キー 4. キー 4 の値

キー 5. キー 5 の値

記憶情報の形式

STGI0100 形式: バッファから記憶する場合の形式を定義します。

オフセット			
10 進	16 進	タイプ	フィールド
0	0	CHAR(*)	バッファ

STGI0100 フィールド記述

バッファ 保管するセグメントが入る文字フィールド。これは 1,600 万文字まで可能です。

STGI0200 形式: IFS ファイルから記憶する場合の形式を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	CHAR(*)	パス

STGI0200 フィールド記述

パス ファイルに対するパス。これにはファイル名も含まれます。これは、64K 文字まで可能です。

パス長 Path パラメーターで指定されたパスを構成するストリングの全長。この値は (ファイル名を含む) パスの正確な長さでなければならず、パス名の終わりに空白を含めることはできません。

STGI0300 形式: 物理ファイルから記憶する場合の形式を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	CHAR(20)	ファイル
20	14	CHAR(10)	メンバー

STGI0300 フィールド記述

ファイル

保管するセグメントを含むファイル名です。最初の 10 文字にはファイル名が含まれ、2 番目の 10 文字にはライブラリー名が含まれます。ライブラリー名として、以下の特殊値を使用することができます。

- *CURLIB。ジョブの現行ライブラリー。
- *LIBL。ライブラリー・リスト。

メンバー

使用するメンバー名。メンバー名として、以下の特殊値を使用することができます。

*FIRST 指定されたファイル内の最初のメンバーが使用されます。

STGI0400 形式: スプール・ファイルから記憶する場合の形式を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	CHAR(26)	修飾ジョブ名
26	1A	CHAR(10)	スプール・ファイル名
36	24	BINARY(4)	スプール・ファイル番号

STGI0400 フィールド記述

修飾ジョブ名

スプール・ファイルを作成したジョブ。修飾ジョブ名には、次の 3 つの部分があります。

- ジョブ名 CHAR(10)。特定のジョブ名、または特殊値です。このプログラムが稼働している唯一のジョブです。残りのジョブ名パラメーターは空白でなければなりません。
- ユーザー名 CHAR(10)。特定のユーザー・プロファイル名、またはジョブ名が * の場合は空白です。
- ジョブ番号 CHAR(6)。特定のジョブ番号、またはジョブ名が * の場合は空白です。

スプール・ファイル名

保管するスプール・ファイル名。

スプール・ファイル番号

スプール・ファイルの固有の番号。有効な範囲は 1 から 9999 までです。以下の特殊値がこのパラメーター用にサポートされています。

- 0 ジョブからの 1 つだけのスプール・ファイルが、指定されたファイル名を持っています。したがって、スプール・ファイルの番号は必要ではありません。
- -1 これは、指定されたファイル名のなかで最も番号の高いスプール・ファイルを使用します。

QrlsStoreAnyStoreSegment API の使用に関する考慮事項

- IFS ファイルを記憶する場合は、IFS ファイルの内容だけが記憶されます。ファイルに拡張属性 (EA) がある場合でも、この API を使用しているときは、記憶も保管もされません。
- AnyStore セグメントの記憶中にエラーが発生した場合には、プログラムを終了する前に AnyStore オブジェクトをクローズしてください。AnyStore オブジェクトをクローズしない場合、損傷を受けた状態のままとなる可能性があります。AnyStore オブジェクトをクローズしても、正常に記憶されたセグメントが 1 つもない場合には、その AnyStore オブジェクトは自動的に削除されます。

エラー・メッセージ

CPF24B4

パラメーター・リストのアドレッシング中に重大エラーが発生しました。

CPF3C21

形式名 &1; が無効です。

CPF3CF1

エラー・コード・パラメーターが無効です。

CPF9872

ライブラリー &2; のプログラムまたはサービス・プログラム &1; が終了しました。理由コードは &3; です。

RDR2501

スプール・ファイルが見つかりません。

RDR2502

ファイルのオープン・エラーです。

RDR2505

セグメントが大きすぎます。

RDR2506

報告書データ・タイプが一致していません。

RDR2508

記憶パラメーターの長さエラーです。

RDR2509

ジョブが見つかりません。

RDR2511

スプール・ファイルの処理エラー。

RDR2512

AnyStore ハンドルが正しくありません。

RDR2513

記憶エラーです。

RDR2514

記憶に失敗しました。

RDR2515

SQL 記憶エラーです。

OnDemand クライアントによる検索で使用するユーザー定義データ型の保存

AnyStore を使用すると、iSeries の Integrated File System (IFS) ディレクトリーに記憶されている、ほぼすべての PC ファイルを保存することができます。保存されたファイルは、OnDemand クライアントを使用して検索することができます。保存されたファイルのオブジェクト・タイプが OnDemand に対してユーザー定義として指定されている場合、OnDemand クライアントは、そのファイルのファイル拡張子に関連付けられているアプリケーションを自動的に立ち上げます。この方法を使用すると、ワード・プロセッサ文書、スプレッドシート、およびプレゼンテーションなどのファイルを OnDemand に保存し、Client を使用してこれらを検索および表示することができます。PC ファイルが OnDemand クライアントによって検索されると、適切な PC アプリケーションが起動して、その PC ファイルを表示します。

ユーザー定義のデータの保存や検索を行うためには、報告書タイプを ANYS、データ型を *IFS、またオブジェクト・タイプを 255 (ユーザー定義) と指定して報告書定義を作成しなければなりません。さらに、下記のように、IFS ファイルのファイル拡張子を定義するレコードを QARLRAPP ファイルに追加しなければなりません。PC ファイルが検索されると、そのファイル拡張子が OnDemand クライアントに送られ、そのファイル拡張子により、ファイルを表示するために立ち上げられる PC アプリケーションが決定されます。

PC アプリケーションを立ち上げるための PC ファイル拡張子の設定

ユーザー独自の拡張子の値を設定するための手順は次のとおりです。

1. CRTSRCPF FILE(QGPL/APPSRC) コマンドを発行して、ソース物理ファイルを作成します。**注:** このファイルは QGPL ライブラリーに配置しなければなりません。
2. メンバー名として報告書定義の名前を使用して、このファイルにメンバーを追加します。メンバーの追加および編集には SEU を使用することができます。メンバーのタイプは任意に決めることができますが、構文検査が行われないように、TXT とすることをお勧めします。このメンバーの内容については、後で説明します。
3. メンバーを編集して、設定したいファイル拡張子を指定します。このメンバーで指定できる内容については、下記のサンプルを参照してください。
4. 最初のパラメーターとして報告書定義名をすべて大文字で指定し、2 番目のパラメーターとして報告書定義のバージョン番号を指定して、QRLGBLDA プログラムを実行します。バージョン番号は数値であるため、値をアポストロフィで囲まなければなりません。このプログラムを実行すると、ファイル拡張子を OnDemand に対して定義するためのレコードが QARLRAPP ファイルに追加されます。

たとえば、WORDDOCS 報告書定義のバージョン 01 のファイル拡張子を設定する場合には、WORDDOCS というメンバーを QGPL ライブラリーの中の APPSRC ファイル内に作成します。必要なデータを指定してこのメンバーを編集した後で、次のようにして QRLGBLDA プログラムを呼び出します。

```
CALL QRDARS/QRLGBLDA PARM(WORDDOCS '01')
```

QGPL ライブラリーの中の APPSRC ファイル内のメンバーの内容は、次のようなものになります。

```
[@_FIXED_@]
```

```
* An * in column 1 makes the record a comment record LRECL=133
```

```
RECFM=F
```

```
CC=ANSI
```

```
CDPG=37
```

```
EXTENSION=DOC
```

各パラメーターは、上記のように別個の行で指定しなければなりません。行を変更しては**なりません**。ただし、iSeries のコード・ページが 37 (米国英語) 以外の場合、コード・ページ (CDPG) 値は変更することができます。

[@_FIXED_@] の部分は、ここで示されたとおりに入力しなければなりません。多くの PC では、大括弧を使用するためには、(キーボード自体に大括弧が表示されて

いる場合にも) 端末エミュレーターのキーボード・マッピングを変更する必要があります。画面に大括弧が表示されない場合には、おそらく、入力した文字が正しくありません。

ユーザー定義データを保存するための AnyStore API の使用

PC ファイルを OnDemand に保存するには、本章で述べた AnyStore API を使用してください。そして、204 ページの『PC アプリケーションを立ち上げるための PC ファイル拡張子の設定』のステップに従って、ファイル拡張子を OnDemand に対して定義してください。

AnyStore についてのヒント

このセクションでは、AnyStore を実装するときのヒントについて説明します。

- IBM では、**記憶 API** を呼び出す AnyStore プログラムを、特定の AnyStore 報告書に対して 1 つのオープンを実行するように作成することを強くお勧めします。この報告書名に対して**複数の記憶**を行い、その後その報告書名に対して 1 つのクローズを実行します。これにより、実行時間が短縮されます (複数のオープンを実行すると、1 つのオープンを実行するよりもかなり時間がかかります)。また、スペースも節約できます (複数の物理オブジェクトを作成するのではなく、個別に検索可能な要素で 1 つの物理オブジェクトを作成します)。さらに、入出力時間も短縮されます (OnDemand がデータを光ディスクまたはテープに移行する場合)。ここで推奨する方法を使用している場合でも、個々の要素 (OnDemand では **セグメント**と呼びます) は個別に検索することができます。これは、完全な物理オブジェクト内の小さな要素を OnDemand が見つけることのできる方式が採用されているためです。

第 5 章 OnDemand クライアント/サーバー機能の使用法

注: サーバー機能が導入されている場合は、ライセンスの管理上の注意 に記載された指示を必ず読み、その指示に従ってください。この資料は、ソフトウェア・オーダー・パッケージ・リストに添付されています。ここでは、サーバー機能に対するライセンス・ユーザー数の設定方法が説明されています。

OnDemand サーバーの構成

システム値の検討

OnDemand クライアント/サーバー・ソフトウェアを使用する前に、2 つの OS/400 システム値をチェックしてください。

- クライアントは、**QINACTIV** システム値に基づいてタイムアウトになります (エンド・ユーザーは再びログオンしなければなりません)。この値を変更する場合は、事前にその変更が他のユーザーにどのような影響を与えるかを確認する必要があります。
- システム値 **QUTCOFFSET** は時間帯に合った正しい値と一致していなければなりません。たとえば、米国の東部標準時間帯の場合は、この値を **-5:00** に設定します。(OnDemand サーバー・ジョブを終了し、このシステム値を変更してから、サーバー・ジョブを再開してください。この値を設定する前にサーバー・ジョブを終了しておかないと、クライアントは間違った時間を記憶し表示することになります。)

注: 夏時間を採用している場合は、夏時間が開始または終了するたびに、この値を調整してください。これを実行しない場合、注釈上のタイム・スタンプが 1 時間ずれることとなります。たとえば、東部夏時間の場合は、**-04:00** に設定します。

これらの設定は、ワークステーション上で注釈 (注記) の正しい時間を表示するために必要です。注記に関連する日付/タイム・スタンプは、世界時に基づいてやり取りされます。サーバーは、そのサーバーが設置されている時間帯のオフセットがどのくらいになるかを認識していなければなりません。これを実行しない場合、誤った時間が表示される可能性があります。さらに、各ワークステーションは、そのワークステーションが属する時間帯も認識していなければなりません。Windows 95 では、Windows コントロール・パネルの「時刻と日付」アプレットの「時間帯」タブで指定します。OS/2[®] では、TCP/IP 構成プログラム (TCPFCFG.EXE、通常は %tcpip%bin ディレクトリー内) の「一般」タブで指定します。これにより、注釈について表示する日付および時刻は、そのワークステーションが設置されている地域の日付および時刻となります。たとえば、東部標準時の午前 10 時に注釈を追加した場合、山地標準時でその注釈を読む共同作業者のワークステーションでは、午前 8 時と表示されます。

サーバー・ジョブの実行優先順位の制御

サーバー・ジョブ (QRLGMGR および QRLGSVR) の実行優先順位は、デフォルトでは、サブシステム QSYSWRK 内の *ANY 経路指定項目で設定されます。通常、このデフォルト値は 50 です (これは、サブシステム QSYSWRK 内の *ANY 経路指定項目に指定されているクラスによって異なります)。この値を変更したい場合は、以下のように経路指定項目を QSYSWRK サブシステム記述に追加する必要があります。

```
ADDRTGE SBS(D(QSYS/QSYSWRK) SEQNBR(nnn) CMPVAL('QRLGSVR') +
PGM(QSYS/QCMD) CLS(class)
```

ここで、nnnn は QSYSWRK サブシステム内での未使用の経路指定順序番号であり、class は使用する属性が含まれているクラスの名前です。システムはユーザーによる使用が想定される、以下のクラスが設定された状態で出荷されています。

```
QSYS/QSYSCLS25 実行優先順位 25
```

```
QSYS/QSYSCLS35 実行優先順位 35
```

たとえば、45 などの別の実行優先順位を指定したい場合は、独自のクラスを作成する必要があります。以下に、この変更を行うコマンド例を示します。

```
CRTCLS CLS(QGPL/ONDSVR45) RUNPTY(45) TIMESLICE(2000) +
PURGE(*YES) DFTWAIT(30) CPUTIME(*NOMAX) +
MAXTMPSTG(*NOMAX) +
TEXT('OnDemand Server class to run at priority 45')
```

クラスを作成したら、サブシステム QSYSWRK 内の経路指定項目 QRLGSVR に、作成したクラス名を指定します。

サーバー・ジョブが使用するポートの変更

デフォルトでは、サーバー・ジョブがポート 1445 でクライアント要求を listen します。通常は、これで問題ありません。ただし、別のアプリケーションがこのポートを使用している可能性もあります。この場合には、以下の CL コマンドを実行して、OnDemand サーバーが使用するポートを変更することができます。

```
ADDSRVTBLE SERVICE(ONDEMAND) PORT(nnn) PROTOCOL(TCP)
TEXT('OnDemand Server')
```

ここで nnn はシステムで未使用のポート番号です。

注: サービスの名前は、大文字小文字の区別があるので、すべて大文字にするようにしてください。

割り当て済みのポートは、WRKSRVTBLE コマンドを発行することにより確認できます。サーバーが使用するポートを変更する場合は、同じポートを使用するクライアントも変更しなければなりません。

事前開始されるサーバー・ジョブ数の変更

サーバー・ジョブを開始する際 (209 ページの『サーバー・ジョブの開始』を参照)、OnDemand のデフォルト値では、3 つのジョブを事前開始することになっています。異なるジョブ数で事前開始するには、データ域を作成し、その値を、事前開始する所要のサーバー・ジョブ数に設定します。CRTDTAARA コマンドを使用してください。データ域 QRLGSVRNO に名前を付け、ライブラリー QUSRRDARS 内にデータ域を作成します。データ域のタイプは、2 バイト長で小数点以下の桁数が 0 の *DEC です。必要な事前開始ジョブ数のデータ域の初期値を設定します。

サーバー・ジョブの開始

STRTCPSVR SERVER(*ONDMD) のコマンドを発行してサーバー・ジョブを開始します。ユーザーのワークステーションに iSeries Access が導入されていれば、iSeries ナビゲーターを使用してサーバー・ジョブを開始できます。「ネットワーク」から始め、「サーバー」、「TCP/IP」と進みます。「OnDemand サーバー」を右クリックして、その開始を要求します。

この呼び出しにより、サブシステム **QSYSWRK** で実行される 1 つのマネージャー・ジョブと 3 つのサーバー・ジョブが開始されます。3 つのサーバー・ジョブは、待ち状態となります。これらのジョブは、クライアントがログオンするまで待機します。クライアント・ログオン要求を受けると、マネージャーは、現在クライアントが作業しているサーバーを置き換えて別のサーバー・ジョブを開始します。マネージャー・ジョブは、クライアント・ログオン要求を受信するために 3 つのサーバー・ジョブを作動可能状態にしておくように試行します。サーバー・ジョブの開始には、時間と資源を要します。これらの 3 つの余分なサーバー・ジョブを事前に開始しておけば、クライアントのログオン要求に、より速く応答することができます。

iSeries ナビゲーターを使用すれば、システムの TCP/IP が開始される際、これらのサーバーを自動的に始動できます。iSeries ナビゲーターを実行するには、「ネットワーク」から始めて、「サーバー」、「TCP/IP」と進みます。「OnDemand サーバー」を右クリックして、「プロパティ」を選択します。TCP/IP を始動する際には、「OnDemand プロパティ」ウィンドウの「一般」タブの下にあるプロパティの「開始」をチェックします。

サーバー・ジョブの終了

ENDTCPSVR SERVER(*ONDMD) のコマンドを発行すれば、すべての OnDemand サーバーを停止できます。ユーザーのワークステーションに iSeries Access が導入されていれば、iSeries ナビゲーターを使用してサーバー・ジョブを停止できます。「ネットワーク」から始め、「サーバー」、「TCP/IP」と進みます。「OnDemand サーバー」を右クリックして、停止を要求します。

これによって、作動可能状態のサーバーはすべて終了しますが、既にクライアントにサービスを提供中のサーバーは終了しません。クライアントがログオフすると、そのクライアントに対応するサーバーは終了します。

ホスト印刷の概説

このセクションでは、OnDemand クライアントから OnDemand for iSeries ホスト印刷を構成して使用方法を説明します。ワークステーションには、OnDemand クライアントのレベル 2.2.0.14 以降が必要です。

ホスト印刷とは、iSeries の印刷装置または FAX サポートを使用して OnDemand クライアントから文書を印刷することです。データは、クライアントには転送されませんが、ホスト iSeries 上で稼働している OnDemand サーバーによってすべて処理されます。印刷は、要求と同時に行われます。したがって、クライアントが要求を終えると、文書は指定された出力待ち行列に入れられます。ホスト印刷はすべてスプールされるので、iSeries では、常に出力待ち行列を使用します。スプール出力

の所有者はユーザーであり (したがって、ユーザーは WRKSPLF を使用しています)、スプール・ファイルのユーザー・データ・セットは常に QRLRPSEG に設定されています。

報告書定義で印刷装置ファイルを指定し、印刷装置ファイルの用紙タイプが指定されている場合は、OnDemand は印刷装置ファイルからの用紙タイプで再印刷をスプールします。印刷装置ファイルは、iSeries ナビゲーターを使用している場合は、報告書定義の「検索 (Retrieval)」タブで指定し、グリーン画面を使用している場合は、報告書定義の「環境 (Environment)」セクションで指定します。

ホスト印刷機能は、ユーザーが使用不可にする処置を行っていない限り、活動状態であり、すべての OnDemand クライアント・ユーザーが使用できます。

ホスト印刷の構成

サーバー印刷装置が選択されている場合に、「印刷 (Print)」ウィンドウに表示されているホスト印刷装置名は、ライブラリー QUSRRDARS 内のファイル QARLRPRT の内容に基づいています。ホスト印刷サポートが導入されると、6 つの項目が自動的に QARLRPRT ファイルに追加されます。表 3 では、これらの項目および意味について説明しています。

表 3. ホスト印刷装置名

印刷装置	説明
*ONDEMAND	これは、すべてのユーザー向けのデフォルトの印刷装置です。これにより、サーバーは OnDemand プロファイル・データ域を使用して出力用にどの iSeries 出力待ち行列を使うかを決定します。出力待ち行列は、iSeries 400 の RDARSRPT メニューのオプション 31 を使用していつでも変更できます。印刷装置名と出力待ち行列名が両方共、プロファイルで指定されている場合は、出力待ち行列名が使用されます。印刷装置名だけが指定されている場合は、ライブラリー・リスト内の出力待ち行列名は印刷装置名と同じものが使用されます。両方共が指定されていない場合は、エラーが戻されます。
*USRPRF	ユーザー・プロファイルで指定された出力待ち行列を使用します。
*JOB	OnDemand サーバー・ジョブの出力待ち行列を使用します。
*SYSVAL	システム値 QPRTDEV で指定された装置と同じ名前出力待ち行列を使用します。
*FAX(*NORMAL)	*NORMAL モードの FAX として送信します。通常モードが使用されると、FAX の解像度は、水平方向が 203 ドット/インチ、垂直方向が 98 ドット/インチとなります。通常モードでは、伝送時間が精細モードの場合よりも短くなります。

表 3. ホスト印刷装置名 (続き)

印刷装置	説明
*FAX(*FINE)	*FINE モードの FAX として送信します。精細モードが使用されると、FAX の解像度は、水平方向が 203 ドット/インチ、垂直方向が 196 ドット/インチとなります。精細モードでは、FAX の品質が通常モードの場合よりも良くなります。

DFU または別のデータ入力プログラムを使用して、特定の出力待ち行列をこのファイルに追加することもできます。この方法で追加される項目は、クライアントの「印刷 (Print)」ウィンドウに QUEUELIB/QUEUE の形式で表示されます。表 4 では、このファイルのフィールドについて説明します。

表 4. 出力待ち行列

フィールド	説明
PID	これは印刷装置の内部 ID 番号です。この番号はファイル内で固有でなければならず、既に使用されていない任意の正数です。
NAME	これは権限リスト名 (英大文字) であり、サーバーの印刷装置リストでこの印刷装置を見ることができる人を指定します。このフィールドがブランクであるか、またはこのフィールドの先頭文字がアスタリスク (*) である場合は、この出力待ち行列はすべてのユーザーに対してリストされます。このフィールドに何か他のものが含まれていれば、クライアントのプルダウン・リストでこの項目を見ることができる人をコントロールする権限リストの名前と見なされます。
DESC	これは印刷装置を 50 文字で説明したものです。クライアントがこの説明を表示することはありませんので、ブランクのままでもかまいません。
QUEUE	10 文字で表した出力待ち行列名 (英大文字) です。あるユーザーが、この出力待ち行列名 (名前フィールドで指定された権限リストで定義された) の使用を許可されていない場合は、この出力待ち行列名はそのユーザーのクライアント上の印刷装置リストには表示されません。このフィールドに入力できるすべての有効な特殊値は、ホスト印刷サポートの導入時に自動的に追加されます。ユーザーがこれらのレコードを削除していない限り、このフィールドに特殊値を入力する必要はありません。

表 4. 出力待ち行列 (続き)

フィールド	説明
QUEUELIB	10 文字で表したライブラリー名で、この中に出力待ち行列が配置されます。特殊値の *LIBL または *CURLIB をこのフィールドに指定できます。
TYPE	これは 1 文字のフィールドで、印刷装置の型を示します。値の 'P' は出力待ち行列を示し、'F' は FAX 装置を示します。これらの値が英大文字でなければならないことに注意してください。

以下の DFU 画面の例では、新規印刷装置のホスト印刷リストへの追加を示しています。この例では、権限リスト ONDPRT を使用して、ホスト印刷を介してこの出力待ち行列にアクセスするユーザーを決定しています (図 217 を参照)。

```

ファイル中のデータ処理          モード . . . :   入力
様式 . . . . . :   PRTREC          ファイル . . . :   QARLRPRT
Printer ID:                7
Printer Name:              ONDPRT
Printer Desc:              OnDemand Network Printer
Printer Queue:            OND4312
Printer Queue Library:    *LIBL
Printer Type:              P

F3= 終了          F5= 最新表示          F6= 様式を選択
F9= 挿入          F10= 入力              F11= 変更

```

図 217. ホスト印刷ファイル項目の追加

ホスト印刷の使用

文書の印刷を選択すると、「印刷 (Print)」ウィンドウが表示され、ローカル印刷装置またはサーバー印刷装置のいずれかを選ぶことができます (213 ページの図 218 を参照)。

注: このユーザーに使用可能なサーバー印刷装置がない場合、サーバー印刷装置はグレー化されます。これは、ライブラリー QUSRRDARS 内のファイル QARLRPRT の内容、および権限リストの使用を介してこのファイルで名前を付けられた特定の出力待ち行列に対するユーザーの権限により決定されます。



図 218. OnDemand クライアント印刷ダイアログ

文書の印刷を選択した場合に表示されるのは、このウィンドウのみです。ドロップダウン・リストから選択することにより、印刷装置に対して異なる値を選ぶことができます。

注: 印刷装置リストは、ドロップダウン・リストの中でアルファベット順にソートされています。したがって、FAX 印刷装置を見つけるにはスクロールアップしなければなりません。

表示されている特殊値 (*ONDEMAND など) は、上述の『ホスト印刷の構成』セクションで説明しました。印刷したい部数を指定し、「印刷」ボタンをクリックしてホスト印刷要求を処理します。

(*FAX(*NORMAL) または *FAX(*FINE) のいずれかをサーバー印刷装置として選択して) 文書をファックスで送ることを選択した場合、「印刷」ボタンをクリックすると、「FAX 送信」ウィンドウが開きます (214 ページの図 219 を参照)。

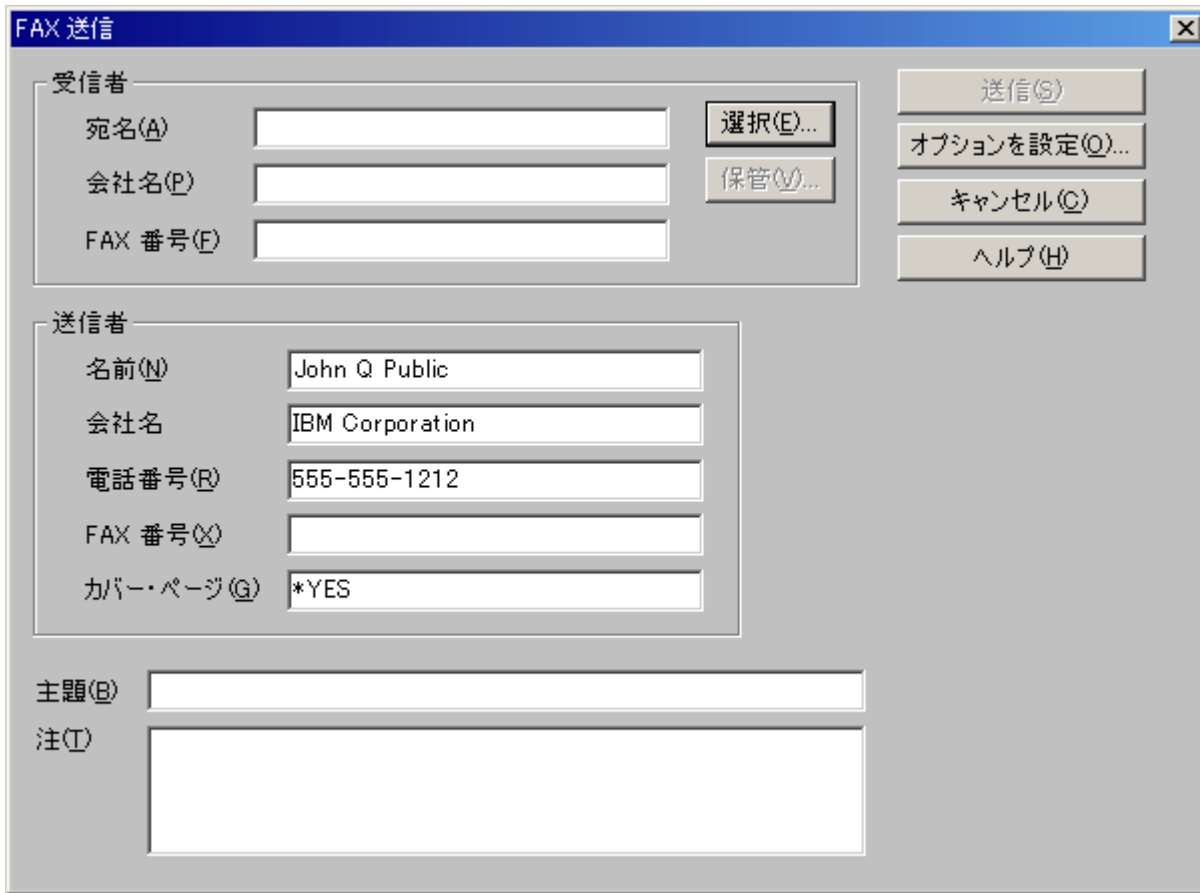


図 219. ホスト印刷 FAX 送信ダイアログ

「FAX 送信」ウィンドウを使用すると、宛先の FAX 番号、およびカバー・ページを送信する場合は、その内容を指定することができます。カバー・ページが *NO に設定されている場合は、宛先の FAX 番号のみが使用されます。カバー・ページが *YES に設定されている場合は、宛先情報または以前に保管された情報から「選択...」のいずれかを入力できます。宛先の FAX 番号を入力すると、「保管」ボタンが活動状態になり、この情報を将来の利用のために保管することができます。「保管」をクリックすると、「受信側情報の保管」ウィンドウが開き、この宛先に名前を付けることができます (215 ページの図 220 を参照)。

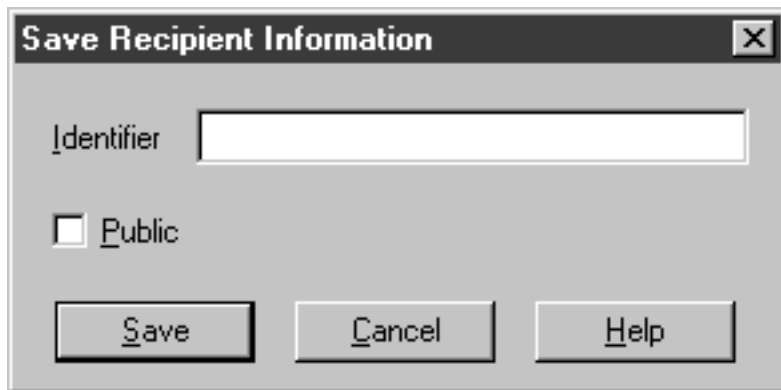


図 220. ホスト印刷宛先保管ダイアログ

将来、この宛先を識別するために使用する名前を ID フィールドに入力します。この識別コードは、ケース・センシティブであり、ブランクを含むこともできます。「パブリック」ボックスをチェックした場合は、すべてのユーザーがこの宛先を見ることができます。このボックスがチェックされていない場合は、「FAX 送信」ウィンドウで「選択」をクリックしたときに、特定のユーザーだけがこの宛先を見ることができます。「保管」をクリックして、実際にこの宛先を将来の利用のために保管します。既に存在している識別コードを選択している場合は、それを置き換えるかどうか尋ねられます (図 221 を参照)。

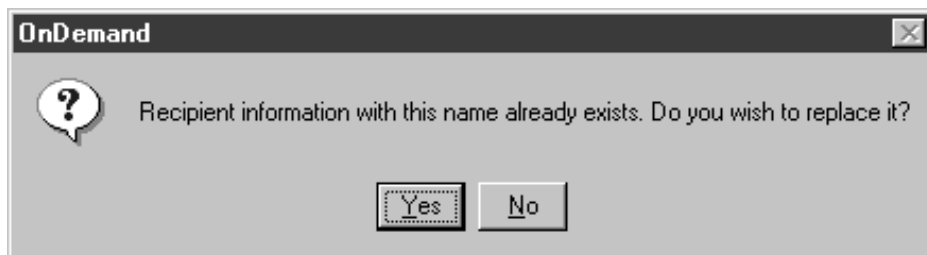


図 221. ホスト印刷宛先保管の確認

宛先情報を毎回「FAX 送信」ウィンドウに入力する代わりに、以前に保管した宛先情報から「選択...」を選ぶことができます。「選択...」をクリックすると、「受信側情報の選択」ウィンドウが開きます (216 ページの図 222 を参照)。

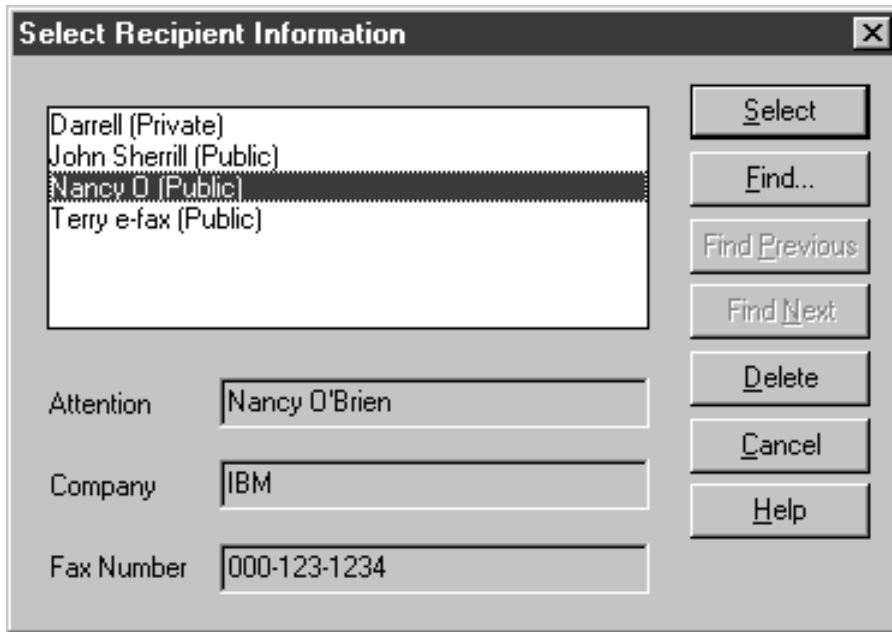


図 222. ホスト印刷宛先選択ダイアログ

このウィンドウは、以前に保管した宛先のリストを表示します。使用したい宛先をクリックし、次に「選択」をクリックしてウィンドウを閉じ、その情報を「FAX 送信」ウィンドウの宛先情報にコピーします。

「FAX 送信」ウィンドウの中の送信者情報は、ユーザーが OnDemand にサインオンするときに、ユーザーの OnDemand プロファイル・データ域 (QUSRRDARS/UserProfileName) 中のデフォルト値に戻ります。送信者情報は、カバー・ページに対して *YES を指定した場合にのみ使用されます。このウィンドウで上書きして、この情報のいずれかを変更した場合、OnDemand プロファイル・データ域中の値が変更されますが、この現行サインオン中は、デフォルト値は変更されません。デフォルトの送信者情報またはカバー・ページ値を即座に更新するには、「オプションを設定...」ボタンをクリックします。これについては、以下で詳しく説明します。

「主題」フィールドおよび「メモ」フィールドには、戻るべきデフォルト値がないため、FAX を送信するたびに、これらのフィールドに入力する必要があります。

「主題」フィールドおよび「メモ」フィールドは両方共、入力された最初の 40 文字のみを使用します (iSeries Fax サポートの制限により)。

「送信」をクリックして、サーバーにこの FAX 要求を処理させます。iSeries FAX サポート (プログラム QRLRSFAX) に対する標準 OnDemand インターフェースが使用されて FAX 要求を処理します。

「FAX 送信」ウィンドウの「オプションを設定...」ボタンをクリックすると、「FAX オプション」ウィンドウが開きます (217 ページの図 223 を参照)。

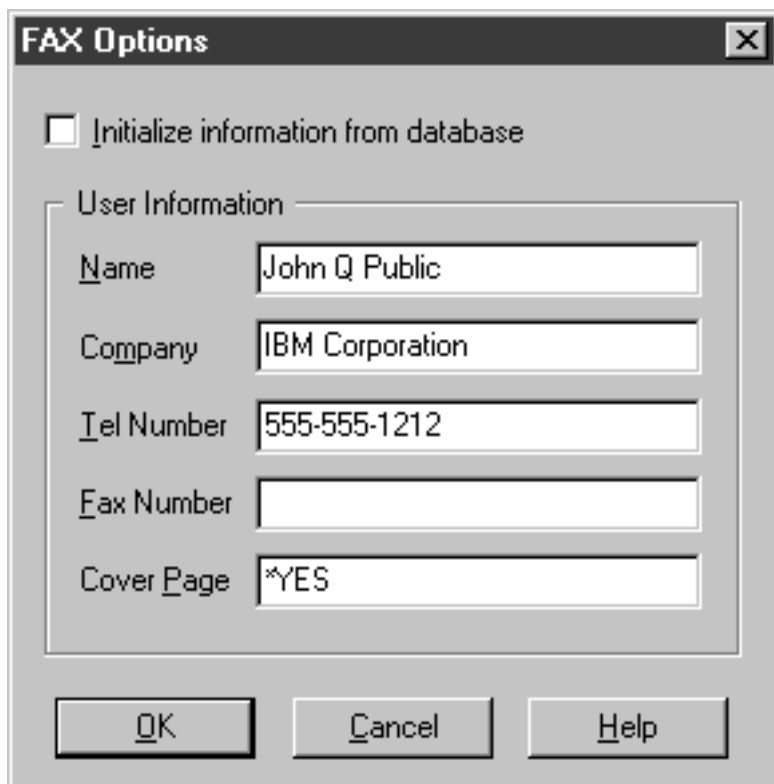


図 223. ホスト印刷 FAX オプション・ダイアログ

「データベースからの情報を初期化」チェック・ボックスは、現在、サポートされておらず、チェックしてはいけません。「ユーザー情報」では、クライアントによって「FAX 送信」ウィンドウのデフォルト値として使用される送信側情報を即座に更新できます。これは、ユーザーの OnDemand プロファイル・データ域の中のユーザー情報も更新します。

FAX のカバー・ページに含まれる 3 行の送信者情報があります。これらの行はそれぞれが 40 文字までの長さで、「名前」フィールド、「会社名」フィールド、および「電話番号」フィールドのデータで構成されます。

カバー・ページ値の *YES または *NO もユーザーの OnDemand プロファイルに保管されます。「FAX 番号」フィールドは、カバー・ページでは使用されず、OnDemand プロファイルにも保存されません。ユーザーの OnDemand プロファイルを更新するには、「OK」をクリックします。

ホスト印刷の使用不可

ホスト印刷機能は、ファイル QUSRRDARS/QARLRPRT の中のすべてのレコードの入力フィールドを 'P' または 'F' 以外の任意の値に設定することによって使用不可にできます。

レコードの「名前 (NAME)」フィールドの中の権限リスト名を特殊値印刷装置名で指定することによって、QUSRRDARS/QARLRPRT の中の 6 つの特殊値印刷装置名を選択的に使用不可にすることができます。たとえば、HOSTFAX と呼ばれる権限リストを作成し、QUSRRDARS/QARLRPRT の中のレコードの「名前 (NAME)」フィールドに値 HOSTFAX を入力し、「QUEUE」フィールドに *FAX を、

「(QUEUELIB)」フィールドに *NORMAL を入力することによって、*FAX(*NORMAL) 選択を見る人をコントロールできます。この FAX 機能を見るユーザーをコントロールするには、権限リストの中で、許可するユーザーに *READ または *USE 権限を与え、許可しないユーザーに *EXCLUDE を与えます。これを行うには、*PUBLIC または特定のユーザー・プロファイルを使用します。

追加技術情報

ここでは、OnDemand クライアント/サーバー機能の追加情報について説明します。

- 報告書データ・タイプが ***OTHER** である報告書の場合はすべて、OnDemand - R/DARS で事前に保存したデータを OnDemand クライアントが利用できます。
- 完全に解決された AFP (Advanced Function Presentation) データを表示するには、コマンド (**STRCDSRDAR**) で AFP 資源を報告書とともに保管しなければなりません。このことは、報告書データ・タイプが ***LINE**、***AFPDS**、または ***AFPDSL** のすべての報告書に当てはまります。これは、OnDemand クライアントは、文書を表示する際に、サーバーによって AFP 資源を送ってもらう必要があるためです。資源が既にワークステーション上に存在するとしても十分ではありません。サーバーは資源を送信する必要があります。以前のリリースでは、OnDemand - R/DARS は、実際の AFP 資源オブジェクトを保管しなかったため、送信される資源はありません。V4R2 (または V3R2 の PTF SF43278 あるいは V3R7 の SF43212) 以降では、**STRCDSRDAR** コマンドにより、報告書と共に、AFP 資源が記憶されます。以前に記憶した報告書の場合は、テキスト・データが表示されます。(ユーザーは、クライアント上で、送られない AFP 資源については無視してよいというメッセージを受け取ります。)
- AFP オーバーレイに関連づけられたデータ型 ***OTHER** の報告書を定義して、オーバーレイが適用された クライアント・ビューアーにデータを表示できます。(次のセットアップ・ステップを完了しなくても、データ部は、オーバーレイを適用せずに表示します。)

この機能を使用可能にするには、次の手順を実行する必要があります。

1. iSeries ナビゲーターの OnDemand 管理インターフェースを使用して、「検索 (Retrieval)」タブの「クライアント・ビューアーを使ってローカルで表示または印刷するときは、保存された AFP オーバーレイを使用する (Use archived AFP overlays when viewing or printing locally using the client viewer)」チェック・ボックスをチェックします。
2. 報告書定義内の印刷装置ファイル (印刷装置ファイルに指定したオーバーレイの名前) を指定します。
3. スプール・ファイルを使用して (CPYSPLF コマンドを使用して作成したデータベース・ファイルではなく) 報告書を記憶します。(これは、**STRCDSRDAR** コマンドの FILE パラメーターで、*SPLF を指定しているか、あるいはユーザーが、報告書を記憶するために出力待ち行列モニターを使用する必要があることを意味します。)

この機能を使用可能にする際、考慮すべき点があります。

- 使用可能になると、OnDemand クライアント・ビューアーは、報告書定義のそのバージョンに対して、もはや論理ビュー (列) をサポートしません。この機能を使用可能にした後は、論理ビューを使用して、この報告書のデータ列を再配置または隠蔽することはできません。

- ユーザーは、OnDemand がオーバーレイ資源の記憶を開始した後に、記憶した報告書のオーバーレイを見ることができるだけです。次の PTF (またはそれに取って代わるもの) が適用された以後は、*OTHER データの資源の記憶が行われるようになります。
 - V3R2 - SF43277
 - V3R7 - SF43211
 - V4R2 およびそれ以降のもの - 基本コード内
- 上記の PTF は、1997 年 9 月に入手可能になりました。オーバーレイを使用して文書を表示するには、次の条件があります。
- 上記の PTF をロードし、適用したとき
 - システムに、バージョン 4 リリース 2 またはそれ以降のバージョンを導入したとき
- 次の項目のいずれかに合致する場合、クライアント・ビューアーは、オーバーレイなしで文書を表示します。
 - OnDemand がオーバーレイ資源の記憶を開始する以前に、システムが報告書を記憶した場合(先の項目を参照してください)
 - 報告書定義が、指定された印刷装置ファイルを持たない場合
 - 報告書定義が印刷装置ファイル内の指定されたオーバーレイを持たない場合
 - システムが、データベース・ファイルをスプール・ファイルとしてではなく入力として使用することによって報告書を記憶した場合。
 - この機能によって、文書は、行データから取り出され、AFPDS へ変換されます。この処理には、長時間はかかりませんが、システム資源を消費します。この機能は、必要なときだけ使用してください。
 - 印刷装置ファイルで指定されたオーバーレイの名前は、記憶されたスプール・ファイルで指定された名前と同じでなければなりません。
 - ユーザーが、クライアントから見る (またはローカルで印刷する) オーバーレイは、本来文書オーバーレイに記憶されます。
 - この機能によって、5250 画面から iSeries 上で作業する方法が変わることはありません。この機能は、5250 画面から iSeries 上の文書を印刷するために、現在、報告書定義の印刷装置ファイルに定義されているオーバーレイを使用します。
 - クライアント・ビューアーからローカルの印刷装置で文書を印刷するには、AFP 印刷装置である必要はありません。
 - 異なるビューアーを指定するために、ビューアー・ユーザー出口を使用するには、指定されたそのビューアーは、この報告書定義に対する AFP データ・ストリームを処理する必要があります。
- 報告書グループ内の報告書に対して、ユーザーは、報告書グループ名およびグループ内の個々の報告書名を表示するクライアント・フォルダー・リストを持つことができます。iSeries ナビゲーターの OnDemand 管理機能を使用して、「**フォルダー・リスト内の報告書の表示**」チェック・ボックスをクリックします。クライアント・フォルダー・リストの報告書グループ名のみを表示したい場合は、チェック・ボックスがチェックされていないことを確認してください。
 - デフォルトの日付範囲を変更するには、iSeries ナビゲーターの OnDemand 管理機能を使用して、**デフォルト日付範囲の検索情報**を指定します。日付範囲として日

数、月数、年数を指定でき、また期間をデフォルト値の前にも後にも適用できます。この方法で日付範囲のデフォルト値を指定しない場合、クライアントはデフォルトの日付範囲を 30 日と見なします。

- 上重ね印刷 (重ね打ち) 文字を持つ ***OTHER** 報告書タイプに対して、サーバーがデータを、それ以前の行に上重ね印刷させるようにできます。(上重ね印刷行は、印刷データの最初の位置に紙送り制御文字 '+' を持っています。) iSeries ナビゲーターの OnDemand 管理を使用して、「上重ね印刷行のマージ」チェックボックスを選択します。これにより、サーバーは、第 1 桁目に '+' を持つ行のいずれをも取得し、その前の行に 1 文字ずつコピーできるようになります。(サーバーは、前の行の文字がブランクまたは下線文字の場合のみ、コピーします。) これによって、クライアントが表示または印刷する際に行った元の文書の行送りが保持されます。また、クライアントが表示または印刷する際、テキストが太字になったり下線が付いたりしません。
- OnDemand クライアントの電子メール機能を使用可能にするには、Windows のメッセージ機能および登録済みの MAPI メール製品が必要です。「メニュー・バー」の「ファイル」オプションで「送信」機能を選択するか、「ツールバー」を「送信」アイコンでカスタマイズするかのいずれかを行います。電子メール・メッセージの本文に、セグメントを付加して送信するか、埋め込んで送信するか、選択できます。ユーザーの登録済みの MAPI メール製品を使用すれば、「メッセージの送信」ウィンドウを開いて宛先を書き、電子メール・メッセージを送信できます。
- ワード・プロセッサの文書やスプレッドシートのようなワークステーション・ファイルは、OnDemand で保存でき、OnDemand クライアントを使用して検索できます。データを OnDemand に、「ユーザー定義」として保存すると、クライアントは検索されるファイルの拡張子に基づき適切なワークステーション・アプリケーションを自動的に起動します。この機能をサポートするには、ワークステーション・ファイルを AnyStore に記憶し、次に iSeries ナビゲーターを使用して AnyStore 報告書定義を作成し、報告書タイプ ANYS、データ型 IFS、およびオブジェクト・クラス「ユーザー定義」を指定します。
- 一般に、サーバーから検索される情報は、クライアントが保持します。この情報は、ログオフしてから再度ログオンするまで、クライアント上では更新されません。ただし、ヒット・リストと実際の文書の 2 つは例外です。これらは、検索を実行したり、ヒット・リストから文書を表示したりすると、更新されます。情報が更新されない例をいくつか紹介します。
 - フォルダーのリストは、ログオンしたときに判別されます。新しい報告書を OnDemand for iSeries に定義した場合は、再度ログオンするまでその報告書を見ることができません。
 - フォルダーの属性は、ログオン・セッション時に最初にフォルダーをオープンしたときに判別されます。フォルダーをクローズしてから、再オープンしても、情報は、ログオフしてから再度ログオンするまで更新されません。iSeries ナビゲーターの OnDemand 保存プラグインを使用し、変更内容をクライアントを用いて検査する場合、これは大変重要です。クライアントでは、iSeries ナビゲーターの OnDemand 保存プラグインで行った変更は、いったんログオフしてから再度ログオンしないと表示されません。

- OnDemand クライアント・ユーザーは、検索するために選択したデータの場所を確認できません。データが光ディスクやテープに入っている場合は、検索時間が少し長くなります。
- OnDemand サーバーは、光ディスクやテープ上の索引を検索しません。これは、検索値を指定する前に特定の報告書日付を選択していないためです。そのため、サーバーは、検索を実行する前に、どの索引レコードのセットを検索するのか分かりません。このため、エンド・ユーザーが OnDemand クライアントを使用している場合は、索引レコードを光ディスクやテープには保存しないでください。(OnDemand 報告書ポリシー定義を見直して、索引レコードを光ディスクやテープに保存していないかどうか確認してください。)
- 論理ビューのサポートは、データ・タイプが ***AFPDS**、***AFPDSL**、または ***SCS** の報告書では利用できません。
- OnDemand の文字ベース報告書オーバーレイは、クライアントではサポートされません。通常、非プログラマブル端末ユーザー向けに作成された文字ベース・オーバーレイ行は、「OnDemand 報告書管理メニュー」の「報告書オーバーレイの処理」を使用して定義されます。
- ワークステーション ID フィールドの先頭の 2 桁を占める文字 **IP** は、クライアント活動を識別します。システムはこの活動を、OnDemand 監査ファイル (ライブラリー **QUSRRDARS** 内の **QARLAUDIT**) に記録します。

問題判別

このセクションを参考にして、OnDemand クライアントまたはサーバー・プログラムの問題分析に役立ててください。

- 重大なエラーが発生すると、ジョブ・ログが生成されます。ジョブ・ログは、ソフトウェア・サービス・プロバイダーがエラーの原因を判別する上で必要になる、不可欠な情報です。問題が生じた場合は、必ずジョブ・ログを保管してください。
- メッセージ "Connection cannot be established for the server (このサーバーに対する接続は確立できません)" は、注意しなければならない多くの状況の 1 つを表しています。

このメッセージがログオン時に表示された場合は、以下の状況のうちの 1 つが発生している可能性があります。

- サーバー・ジョブが活動状態でない。

OS/400 コマンド行から **WRKACTJOB JOB(QRLG*)** を発行してください。標準状況が **DEQW** である **QRLGMGR** という名前の 1 つのジョブがあるはずですが、また、状況が **DEQW** または **SELW** である **QRLGSVR** という名前のジョブが 3 つ以上あるはずですが、**SELW** 状況のジョブ (クライアントがログオンを要求するまで待機しているジョブ) は常に少なくとも 1 つはなければなりません。一度クライアントからログオンすると、そのジョブも次の操作状況のうちの 1 つになります。

- クライアント上で待機している場合は **SELW**。
- クライアントにサービスを提供している場合は **RUN**。

これらのジョブが活動状態でない場合は、コマンド **STRTCPSVR *ONDM** を発行してサーバーを開始しなければなりません。

- 通信回線問題

OS/400 コマンド行またはワークステーションで、**PING** を発行して、他のマシンと通信できるかどうか確かめます。コマンドの形式は **PING n.n.n.n.** です。ここで、**n.n.n.n.** はアクセスを試みているマシン (サーバー上にいる場合はクライアントであり、クライアント上にいる場合はサーバー) の **TCP/IP** アドレスです。

- TCP/IP が、サーバー上で活動状態でない。

OS/400 コマンド行で **WRKTCPSSTS OPTION(*IFC)** を発行します。回線記述がある行 (***LOOPBACK** ではない) を見て、インターフェース状況を確認します。この状況は **ACTIVE** でなければなりません。 **INACTIVE** の場合は、**STRTCP** コマンドを OS/400 コマンド行から発行します。その他の状況の場合は、インターフェース状況フィールドに関するヘルプ・テキストを参照し、指示されているアクションに従ってください。

- サーバーの TCP/IP アドレスが間違っている。

OS/400 コマンド行で **WRKTCPSSTS OPTION(*IFC)** を発行します。回線記述がある行 (***LOOPBACK** ではない) を見て、iSeries の IP アドレスの内容を確認します。このアドレスがクライアント上で指定したアドレスと一致しているかチェックします。

ログオン後にこのメッセージが表示された場合は、以下の条件のうちの 1 つが生じています。

- サーバー・ジョブが終了した。

サーバー・ジョブが終了した場合は、それに対応するジョブ・ログがあるはずです。 OS/400 コマンド行から **WRKSPLF SELECT(QRDARS400)** を発行して、ジョブ・ログを検索できます。 **F18** を押すと、リストの最後に移動し、最新のジョブ・ログを検索できます。 **QRLGSRV** というユーザー・データを持つ、ユーザー **QRDARS400** の **QPJOBLOG** という名前のスプール・ファイルを検索してください。見つからない場合は、印刷されていないことを確認します。印刷されておらず、リスト上に表示されている場合は、オプション 5 を選択して表示します。ジョブ・ログ内のメッセージを確認します。このサーバー・ジョブにサインオンした人を示すメッセージ **RDR2701** が表示されます。この情報を使用して、これが正しいジョブ・ログであることを判別できます。サーバーが終了した理由を示すその他のメッセージがないかどうか、ジョブ・ログを調べます。場合によっては、ソフトウェア・サービス・プロバイダーへの問い合わせが必要になることもあります。

- 通信回線エラー

使用している通信回線についてログに記録されているエラーがあるかどうか、確認します。クライアントからログオフし、再度ログオンできるかどうか確認します。注意: これは、サーバー・ジョブが異常終了した場合にも当てはまりますが、実際に問題を解決することはできません。通信エラーが発生したと考える前に、必ずサーバー・ジョブが終了したかどうかを確認してください。

- メッセージ "User ID or Password is not valid for the server (このサーバーに対するユーザー ID またはパスワードは無効です)" は、以下の状況が発生したことを示しています。

- パスワードが失効している。

ユーザーのパスワードが失効している場合は、ログオンできず、クライアントにこのメッセージが表示されます。iSeries を使用して、サインオン・プロセス時にパスワードを変更するか、機密保護管理者に問い合わせで失効したパスワードを処理してもらいます。パスワードがまだ失効していない場合は、「**ファイル**」、「**ログオン・パスワードの変更 (Change Logon Password)**」の順に選択し、クライアントからパスワードを変更することができます。

- ユーザー ID が無効である。
- パスワードが間違っている。
- 間違ったサーバー、または間違った TCP/IP アドレスにログオンしようとした。
- ログオン時にメッセージ "The server failed while accessing folder data (フォルダーへのアクセス中にサーバーが失敗しました)" が表示された場合は、ログオンを試みたユーザーが OnDemand 保存アクセスの権限を持っていないことを示しています。iSeries の OnDemand 報告書管理メニューにアクセスして、これを訂正します。オプション 10「OnDemand ユーザーの編集/認可」を使用して、ユーザーを追加します。
- 正常にログオンした後にメッセージ "No folders are available on the server (サーバーに使用できるフォルダーがない)" が表示された場合は、以下の条件のうちの 1 つが発生しています。
 - ユーザーが報告書名 (フォルダー) の権限を持っていない。
 - ユーザーは一部の報告書名 (フォルダー) の権限を持っているが、それらの報告書に対応する保存 (記憶) されたスプール・ファイルが存在しない。
- iSeries データが、クライアントでも類似のフォントで表示されるようにするためには、ワークステーション上に表示されるフォントに、そのフォントをマップしなければならないことがあります。特に、以下にリストされているもの以外のフォントを AFP 文書で使用する場合は、マッピングが必要です。
 - IBM Core Interchange (ローマ字のみ)
 - 互換フォント
 - 整合フォント
 - Sonoran
 - データ・フォントフォントのマッピングに関する詳細については、OnDemand クライアントのオンライン・ヘルプを参照してください。
- 特定ユーザーの適正なサーバー・ジョブを検索するには、サーバー・ジョブのジョブ・ログを見ます。各サーバーは、ログオン・ユーザーを識別するメッセージをジョブ・ログに入れます。

第 6 章 OnDemand 媒体管理メニューの使用法

本章で説明する一連の画面の選択項目を使用することで、テープおよび光ディスクを管理することができます。これらの選択項目を使用して、保存項目およびバックアップをどこに、どのように保存するか選択したり、容量限界値およびスペース再利用ポリシーを設定したり、データを 1 つ以上の光ディスク・ボリュームのセットに記憶できるようにする記憶グループの処理を行ったりすることができます。

光ディスクおよびテープ媒体の管理

データの保存に OnDemand を使用する利点の 1 つは、データの保存や検索に際してユーザーが特定の光ディスク・ボリュームまたはテープ・ボリュームを指定する必要がない点です。OnDemand がユーザーに代わってこれを管理します。ユーザーは同じ記憶要件 (保存期間や保存場所) を持つ報告書およびオブジェクトのポリシーを定義します。次に、各ポリシーはそのポリシーに使用できる光ディスクまたはテープ・ボリュームのグループを参照します。光ディスク・ボリュームの場合、このグループは記憶グループと呼ばれます。テープの場合、このグループ分けはテープ媒体自体の物理的な特性である媒体タイプによって行われます。

たとえば、報告書を記憶する場合には、報告書の定義が検査され、どのポリシーを使用するかが判別されます。次に、報告書ポリシーは、そのポリシーが使用すべき光ディスク記憶グループまたはテープ媒体ファミリー (あるいはその両方) を見つけるのに使用されます。記憶グループで使用される実際の光ディスク・ボリュームは、そこで使用可能な最小限のスペースを持ち、しかもまだ**フル (full)** のマークが付いていないボリュームです。このようにするのは、OnDemand は一度ボリュームの使用を開始すると、そのボリュームが満杯になるまで使い続けるからです。実際のテープ・ボリュームは、その媒体タイプの使用可能なボリュームから選択します。最小限の使用可能バイト数を持ち、しかもまだ**フル (full)** のマークのないテープを選択します。

データを記憶する場合に、各 OnDemand 機能が使用する媒体は以下のように決定されます。

スプール・ファイル保存の場合

報告書定義が、使用する光ディスク記憶グループおよびテープ媒体タイプを示す報告書ポリシーを指定します。

オブジェクト保存の場合

オブジェクト制御テーブル項目が、使用する光ディスク記憶グループおよびテープ媒体タイプを示すオブジェクト・ポリシーを指定します。

レコード保存の場合

ファイル作成コマンドが、使用する光ディスク記憶グループの指定を要求します。

AnyStore の場合

報告書定義が、使用する光ディスク記憶グループおよびテープ媒体タイプを示す報告書ポリシーを指定します。

OnDemand 管理者は、OnDemand 目録テーブル内の光ディスク・ボリュームまたはテープ・ボリュームが利用可能なスペースをもっていることを保証しなければなりません。これら、およびその他の媒体関連の機能は、本章で説明するメニュー・オプションを使用して実行することができます。

光ディスクまたはテープにデータが書き込まれると、OnDemand はそのデータが入れられた場所を認識するので、ユーザーはデータが入っているボリュームを指定する必要はありません。

媒体管理メニューにアクセスするには、次のように入力してください。

- OnDemand for iSeries のメイン・メニューのコマンド行で **4** を入力する (図 224)。
- または、**高速パス・コマンド**

GO RDARSM

を OS/400 コマンド行に入力し、 227 ページの図 225 の画面に直接アクセスする。

ONDEMAND	ONDEMAND FOR ISERIES	システム: ONDMD400
次の 1 つを選択してください。		
1. 報告書管理メニュー		
2. オブジェクト管理メニュー		
3. レコード保存メニュー		
4. 媒体管理メニュー		
90. サインオフ		
選択項目またはコマンド ==>4		
F3=終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12=取り消し F13=情報援助 F16=システム・メイン・メニュー		
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1992, 2000. ALL RIGHTS RESERVED.		

図 224. OnDemand for iSeries メイン・メニュー

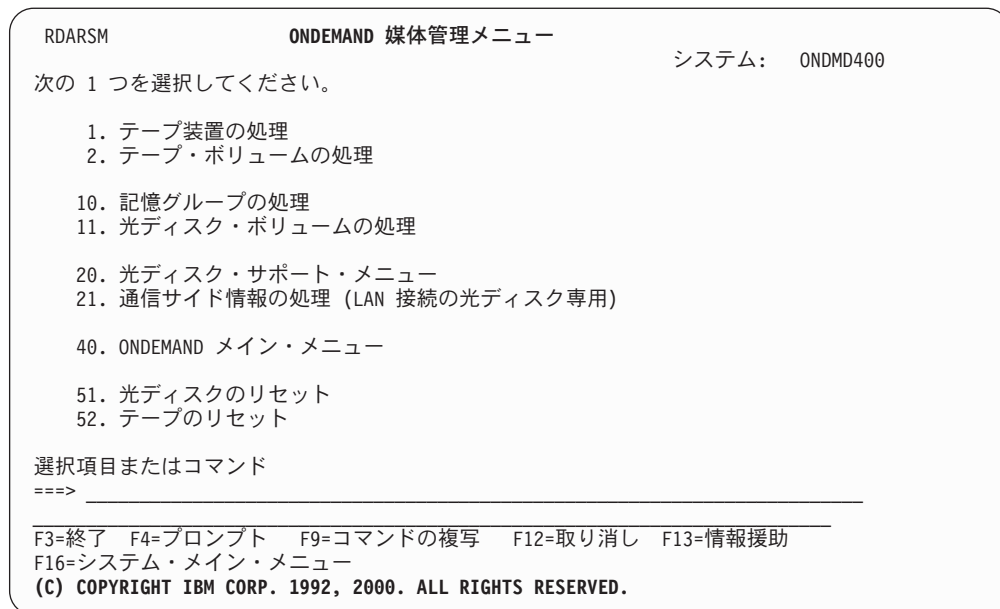


図 225. OnDemand 媒体管理メニュー

オプション 1. テープ装置の処理

テープ装置の追加、変更、除去、または表示を行う場合には、このオプションを使用します。この機能をグラフィカル・ユーザー・インターフェースで実行したい場合は、iSeries ナビゲーターを使用できます。

テープ装置の追加

¹テープ媒体を使用する場合は、OnDemand が使用できるテープ装置を指定しなければなりません。このオプションを選択すると、228 ページの図 226 の画面が最初の画面として表示されます。

1. テープ管理に BRMS を使用する場合は、ここでは何も追加する必要はありません。OnDemand は、ポリシー定義内の情報を使用して、BRMS にリンクします。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*TAPDEV *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
テープ装置 *ALL_____ 名前, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 226. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、「テープ装置の処理」画面 (図 227) に進みます。装置およびその記述のリストが表示されます。

テープ装置の処理

ONDM400
98/01/24 9:24:17

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=追加 2=変更 4=除去 5=表示

OPT	装置	媒体	テキスト
1	TAP05_____		
	TAP01	QIC	
	TAP02	QIC	1/4 インチ・カートリッジ
	TAP06	HIC	この装置はカートリッジ・ローダーを持っている。

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 227. テープ装置の処理

実行キーを押して、229 ページの図 228 の画面に進みます。

テープ装置の追加		ONDM400
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		98/01/24 9:24:26
テープ装置	TAP05	名前
サポートされている媒体	読み取り *REEL____	書き込み *REEL____
	_____	_____
	_____	_____
自動カートリッジ・ ローダーの容量	0	1-99, 0=未導入
媒体ライブラリー		名前
テキスト	標準リール・テープ装置_____	

F3=終了 F12=取り消し		

図 228. テープ装置の追加

該当する iSeries テープ装置について記述します。²

実行キーを押して、テープ装置情報を追加します。図 229 の画面が表示されます。

テープ装置の処理		ONDM400
オプションを入力して、実行キーを押してください。		98/01/24 9:25:26
1=追加 2=変更 4=除去 5=表示		
OPT	装置	媒体 テキスト
	TAP01	QIC
	TAP02	QIC 1/4 インチ・カートリッジ
	TAP06	HIC この装置はカートリッジ・ローダーを持っている。
終わり		
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し テープ装置が追加された - 最新表示には F5。		

図 229. テープ装置の処理

F5 を押すと、追加した内容が表示されます。

「OnDemand 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) に戻る場合には、F3 を押します。

2. テープ管理に BRMS を使用する場合は、この画面で情報の追加を行わないでください。

テープ装置特性の変更

テープ装置ファイルの現在のテープ装置の特性を変更するには、「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面（227 ページの図 225）からオプション 1「テープ装置の処理」を選択します。図 230 の画面が表示されます。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*TAPDEV *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
 テープ装置 *ALL_____ 名前, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
 F24=キーの続き

図 230. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、図 231 の画面に進みます。

テープ装置の処理

ONDM400
98/01/24 9:25:30

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1=追加 2=変更 4=除去 5=表示

OPT	装置	媒体	テキスト
	TAP01	QIC	
2	TAP02	QIC	1/4 インチ・カートリッジ
	TAP05	REEL	標準リール・テープ装置
	TAP06	HIC	この装置はカートリッジ・ローダーを持っている。

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 231. テープ装置の処理

実行キーを押して、231 ページの図 232 の画面に進みます。この画面には、変更したいテープ装置の特性が表示されます。

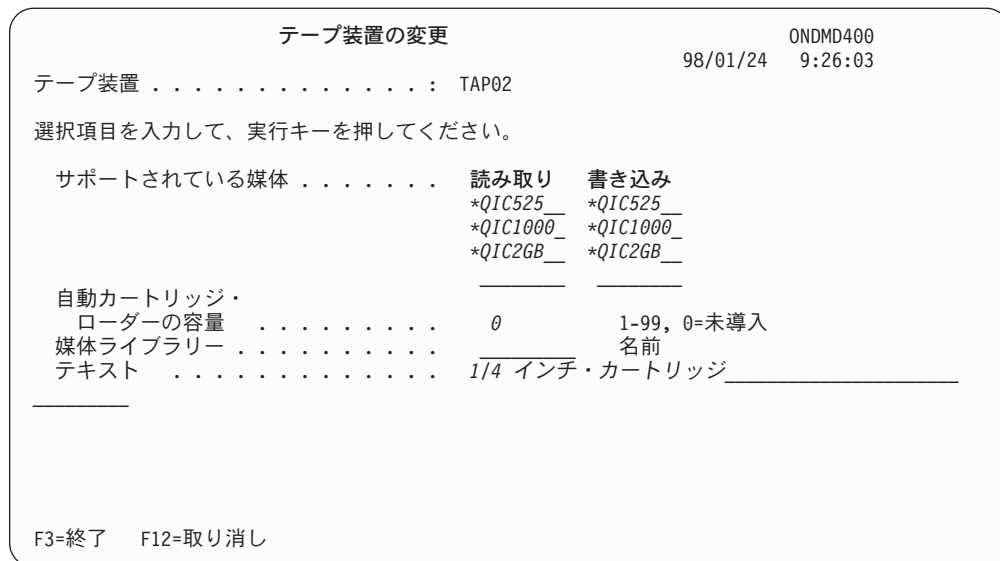


図 232. テープ装置の変更

表示されているデータに重ねて新しい情報を入力することにより、各フィールドを変更することができます。

実行キーを押して、変更内容を保管します。図 233 の画面が表示されます。

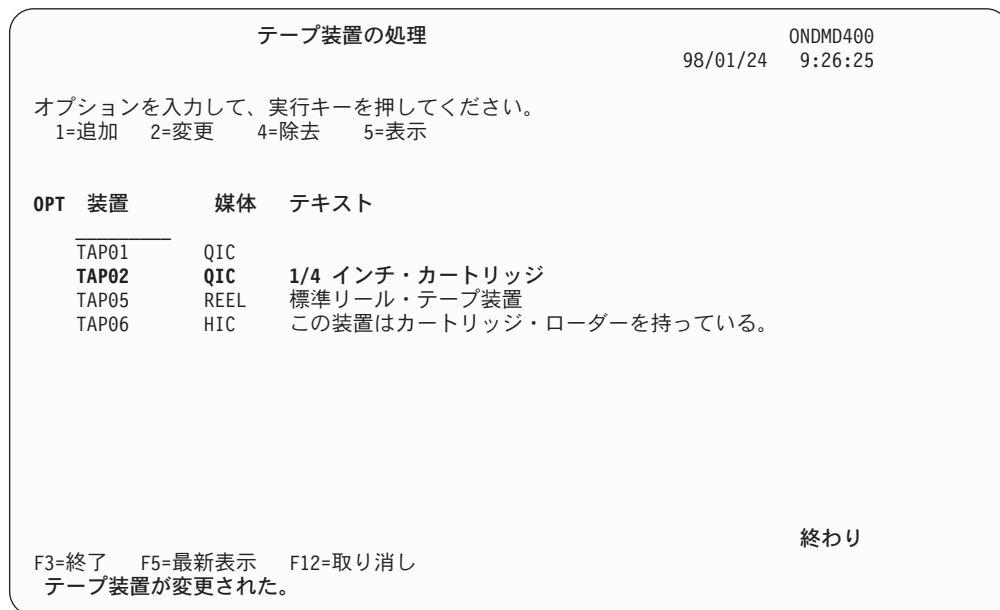


図 233. テープ装置の処理

「OnDemand 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) に戻る場合には、**F3** を押します。

テープ装置の除去

テープ装置ファイルの現在のテープ装置を除去する場合には、「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面（227 ページの図 225）からオプション 1「テープ装置の処理」を選択します。図 234 の画面が表示されます。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*TAPDEV *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
 テープ装置 *ALL_____ 名前, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
 F24=キーの続き

図 234. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、図 235 の画面に進みます。

テープ装置の処理

ONDMD400
98/01/24 9:26:37

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1=追加 2=変更 4=除去 5=表示

OPT	装置	媒体	テキスト
	TAP01	QIC	
	TAP05	REEL	標準リール・テープ装置
	TAP06	HIC	この装置はカートリッジ・ローダーを持っている。
4	TAP99	REEL	テスト

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 235. テープ装置の処理

実行キーを押して、233 ページの図 236 の画面に進みます。

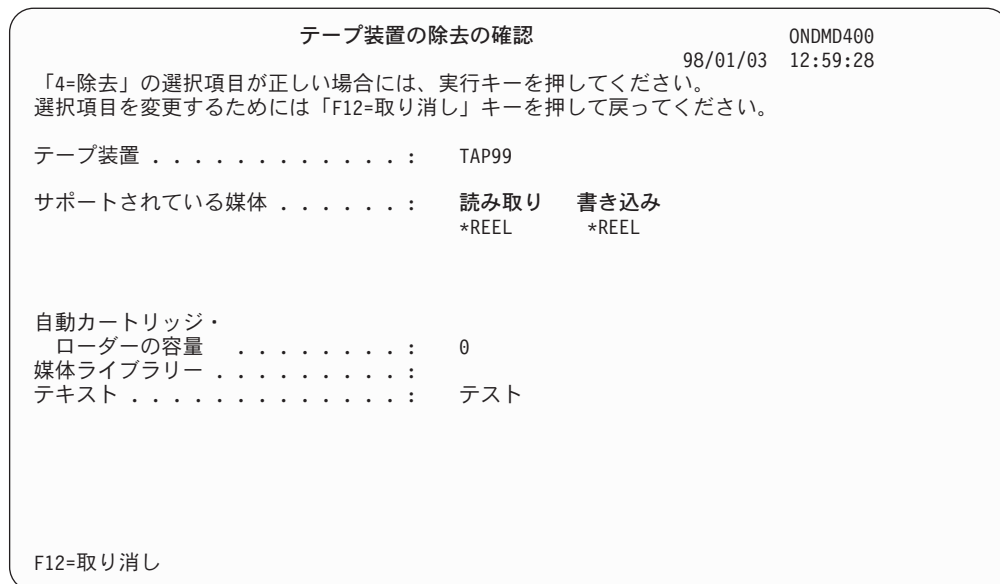


図 236. テープ装置の除去の確認

OnDemand は、除去の選択を行ったテープ装置を表示します。

選択したデータが正しくない場合には、**F12** を押して前の画面に戻り、入力したデータを変更することができます。正しい装置名を選択して、**実行キー**を押します。

選択したデータが正しい場合には、**実行キー**を押します。

図 237 のメッセージにより、テープ装置が除去されたことを確認します。

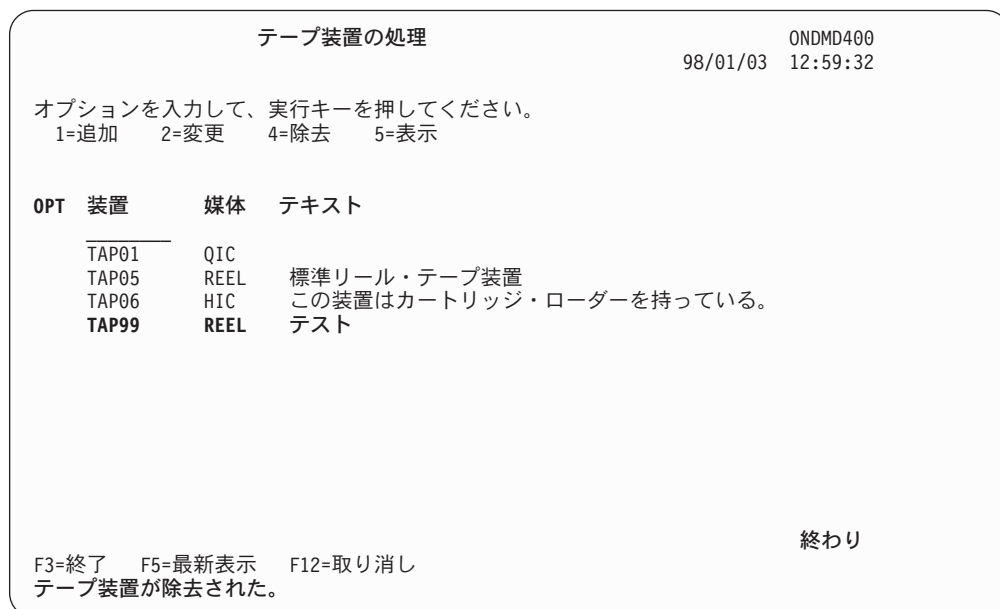


図 237. テープ装置の処理

「OnDemand 媒体管理メニュー」画面（227 ページの図 225）に戻る場合には、**F3** を押します。

テープ装置の表示

テープ装置ファイルの現在のテープ装置を表示するには、「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面（227 ページの図 225）からオプション 1「テープ装置の処理」を選択します。図 238 の画面が表示されます。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*TAPDEV *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
テープ装置 *ALL_____ 名前, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 238. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、図 239 の画面に進みます。

テープ装置の処理

ONDM400
98/01/24 9:26:37

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=追加 2=変更 4=除去 5=表示

OPT	装置	媒体	テキスト
	TAP01	QIC	
5	TAP02	QIC	1/4 インチ・カートリッジ
	TAP05	REEL	標準リール・テープ装置
	TAP06	HIC	この装置はカートリッジ・ローダーを持っている。

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 239. テープ装置の処理

実行キーを押します。235 ページの図 240 の画面が表示され、選択したテープ装置の特性が示されます。

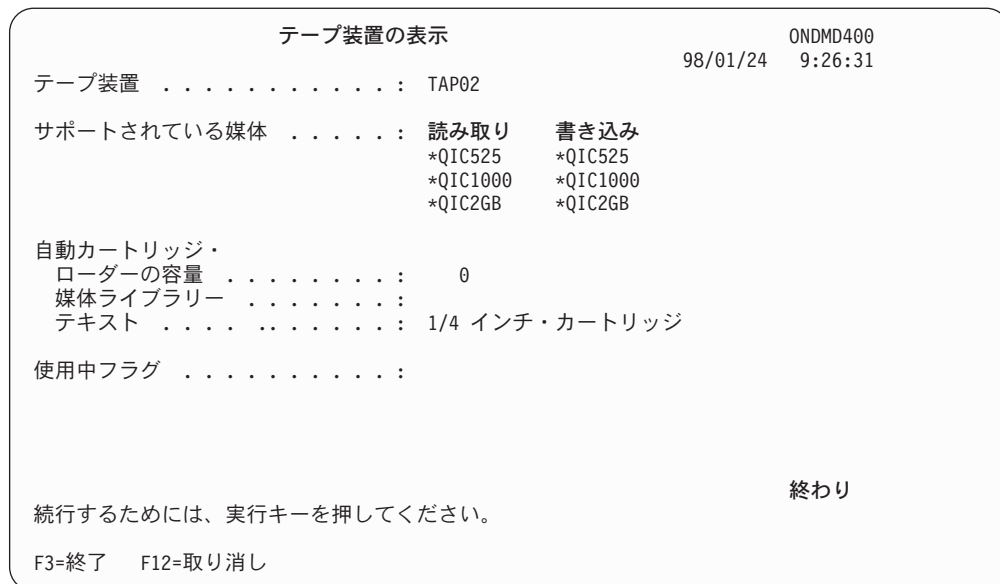


図 240. テープ装置の表示

次のフィールドに注意してください。

使用中フラグ

テープ装置を表示した時点で、このフィールドに値が入っている場合、該当の装置が使用中であることを示します。

テープ・バックアップ、テープ保存、またはテープ・オブジェクト再呼び出しが実行されていない場合、このフィールドの値は通常、テープ・エラーを示します。

このフラグを消去するには、「OnDemand 媒体管理メニュー」画面から、262 ページの『オプション 52. テープのリセット』を選択します。

「OnDemand 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) に戻る場合には、**F3** を押します。

オプション 2. テープ・ボリュームの処理

テープ・ボリュームの追加、変更、削除または表示を行うには、このオプションを使用します。この機能をグラフィカル・ユーザー・インターフェースで実行したい場合は、代わりに iSeries ナビゲーターを使用します。³

このオプションを選択すると、236 ページの図 241 の画面が表示されます。

3. テープ管理に BRMS を使用する場合は、この表に何も追加しないでください。 OnDemand は、ポリシー定義を使用して BRMS デレクトリーへ直接リンクします。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*TAPVOL *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
 テープ・ボリューム *ALL_____ ID, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し
 F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 241. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押すと、図 242 の画面に進みます。ボリュームおよびその記述のリストが表示されます。

テープ・ボリュームの追加

OnDemand で使用したい各テープ・ボリュームを追加する必要があります。

報告書の保存やバックアップに使用する、初期設定された各テープのボリューム IDを入力します。

OnDemand に対して各テープを定義するのに先立って、それらを初期設定します。

テープ・ボリュームの処理

ONDM400
98/01/24 9:35:47

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1=追加 2=変更 4=除去 5=表示

オプション	ボリューム	媒体	容量
1	R00001		
	TA	HIC	330
	TAPE	QIC	1200
	T01010	QIC	525
	012043	REEL	160

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 242. テープ・ボリュームの処理

実行キーを押して、「テープ・ボリュームの追加」画面 (図 243) に進みます。

テープ・ボリュームの追加			ONDMD400
選択項目を入力して、実行キーを押してください。			98/01/24 9:36:02
ボリューム	R00001	ID	
容量	800	メガバイト	
媒体タイプ	*HIC800		
媒体ライブラリー		名前	

F3=終了 F12=取り消し

図 243. テープ・ボリュームの追加

実行キーを押して、テープ・ボリューム情報を記憶し、図 244 の画面に進みます。

テープ・ボリュームの処理				ONDMD400
オプションを入力して、実行キーを押してください。				98/01/24 9:36:18
1=追加 2=変更 4=除去 5=表示				
オプション	ボリューム	媒体	容量	
	TA	HIC	330	
	TAPE	QIC	1200	
	T01010	QIC	525	
	012043	REEL	160	

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し
テープ・ボリュームが追加された - 最新表示には F5。

終わり

図 244. テープ・ボリュームの処理

追加した内容を表示するには、**F5** を押します。

「OnDemand 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) に戻る場合には、**F3** を押します。

テープ・ボリューム特性の変更

テープ・ボリューム・ファイルのテープ・ボリュームの特性を変更するには、「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面（227 ページの図 225）からオプション 2「テープ・ボリュームの処理」を選択します。

このオプションを選択すると、図 245 の画面が表示されます。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*TAPVOL *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
 テープ・ボリューム *ALL_____ ID, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し
 F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 245. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、図 246 の画面に進みます。ボリュームおよびその記述のリストが表示されます。

テープ・ボリュームの処理

ONDM400
98/01/24 9:36:22

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1=追加 2=変更 4=除去 5=表示

オプション	ボリューム	媒体	容量
2	R00001	HIC	800000000
	TA	HIC	330
	TAPE	QIC	1200
	T01010	QIC	525
	012043	REEL	160

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 246. テープ・ボリュームの処理

実行キーを押して、239 ページの図 247 の画面に進みます。

テープ・ボリュームの変更

ONDMD400
98/01/24 9:36:28

ボリューム : R00001

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

容量	400	メガバイト
媒体タイプ	*HIC400	
媒体ライブラリー	_____	名前
テープ満杯	N	Y=YES, N=NO

F3=終了 F12=取り消し

図 247. テープ・ボリュームの変更

表示されているデータに重ねて新しい情報を入力することにより、各フィールドを変更することができます。

実行キーを押して、変更内容を保管し、変更を確認します。図 248 の画面が表示されます。

テープ・ボリュームの処理

ONDMD400
98/01/24 9:36:41

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=追加 2=変更 4=除去 5=表示

オプション	ボリューム	媒体	容量
	R00001	HIC	400
	TA	HIC	330
	TAPE	QIC	1200
	T01010	QIC	525
	012043	REEL	160

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し
テープ・ボリュームが変更された。

図 248. テープ・ボリュームの処理

「ONDemand 媒体管理メニュー」画面（227 ページの図 225）に戻るには、**F3** を押します。

テープ・ボリュームの除去

OnDemand からテープ・ボリュームを除去したい場合には、以下の画面を使用します。このオプションを選択すると、最初の画面として図 249 の画面が表示されます。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*TAPVOL *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
 テープ・ボリューム *ALL _____ ID, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し
 F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 249. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、図 250 の画面に進みます。ボリュームおよびその記述のリストが表示されます。

テープ・ボリュームの処理

ONDM400
98/01/24 9:36:41

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1=追加 2=変更 4=除去 5=表示

オプション	ボリューム	媒体	容量
	R00001	HIC	400
4	TA	HIC	330
	TAPE	QIC	1200
	T01010	QIC	525
	012043	REEL	160

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 250. テープ・ボリュームの処理

実行キーを押して、「テープ・ボリュームの除去の確認」画面（241 ページの図 251）に進みます。

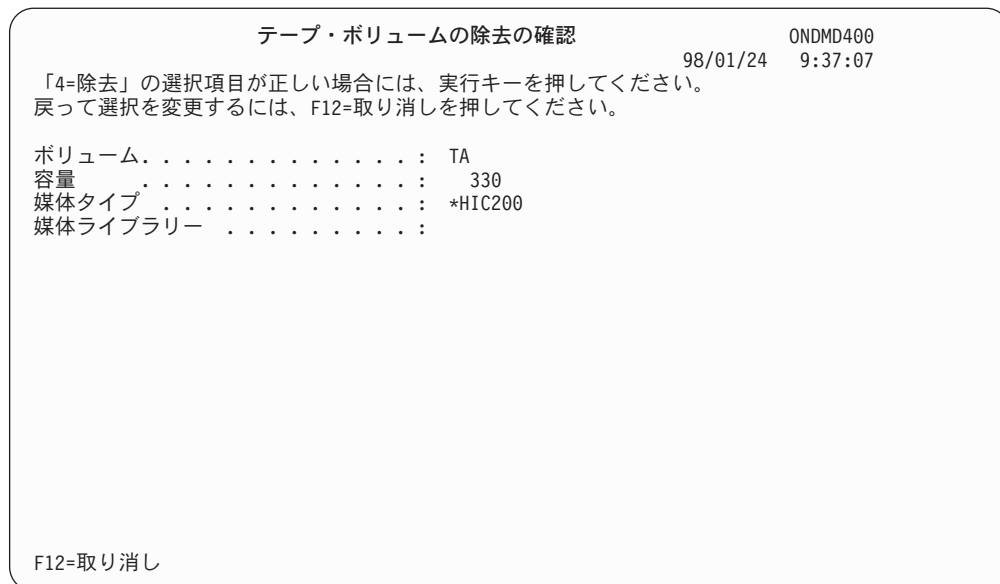


図 251. テープ・ボリュームの除去の確認

OnDemand は、除去の選択を行ったテープ・ボリュームを表示します。

選択したデータが正しくない場合には、**F12** を押して前の画面に戻り、入力したデータを変更することができます。正しいテープ・ボリューム名を選択して、**実行キー**を押します。

選択したデータが正しい場合には、**実行キー**を押します。

図 252 のメッセージにより、テープ・ボリュームが除去されたことを確認します。

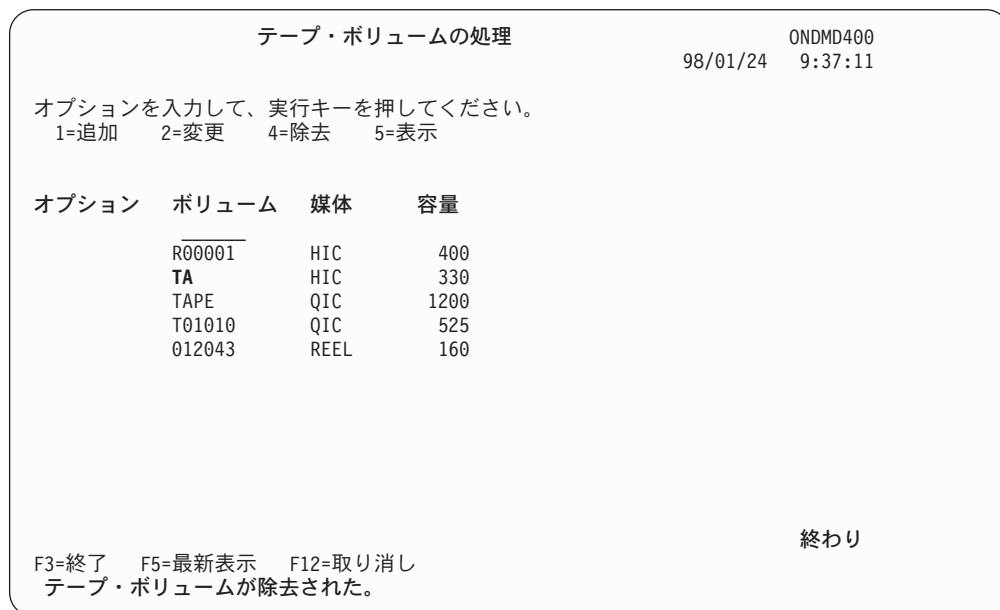


図 252. テープ・ボリュームの処理

「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面（227 ページの図 225）に戻るには、**F3** を押します。

テープ・ボリュームの表示

テープ・ボリューム・ファイルに現在あるテープ・ボリュームを表示する場合には、「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面（227 ページの図 225）からオプション 2「テープ・ボリュームの処理」を選択します。図 253 の画面が表示されます。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*TAPVOL *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
 テープ・ボリューム *ALL _____ ID, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し
 F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 253. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、「テープ・ボリュームの処理」画面（図 254）に進みます。ボリュームおよびその記述のリストが表示されます。

テープ・ボリュームの処理 ONDM400
98/01/24 9:36:41

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1=追加 2=変更 4=除去 5=表示

オプション	ボリューム	媒体	容量
	R00001	HIC	400
5	TA	HIC	330
	TAPE	QIC	1200
	T01010	QIC	5250
	012043	REEL	1600

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 254. テープ・ボリュームの処理

オプション

表示したいテープ・ボリュームの前に **5** (5= 表示) を入力します。

実行キーを押して、図 255 の画面に進みます。

テープ・ボリュームの表示		ONDMD400
		98/01/24 9:37:21
ボリューム : R00001	
容量 : 400	メガバイト
媒体タイプ : *HIC400	
媒体装置ライブラリー :	
現在の順序番号 : 0	
使用済みのテープのバイト数 : 0	
テープの削除されたバイト : 0	
テープ満ばい : N	Y=YES, N=NO
使用中フラグ :	

終わり

続行するためには、実行キーを押してください。

F3=終了 F12=取り消し

図 255. テープ・ボリュームの表示

次のフィールドに注意してください。

使用中フラグ

テープ・ボリュームを表示した時点でこのフィールドに値が入っている場合には、該当のボリュームが使用中であることを示します。

テープ・バックアップ、テープ保存、またはテープ・オブジェクト再呼び出しが実行されていない場合、このフィールドの値は通常、テープ・エラーを示します。

このフラグを消去するには、「ONDemand 媒体管理メニュー」画面から、262 ページの『オプション 52. テープのリセット』を選択します。

「ONDemand 媒体管理メニュー」画面（227 ページの図 225）に戻る場合には、**F3** を押します。

オプション 10. 記憶グループの処理

記憶グループの作成、変更、削除、または表示を行う場合には、このオプションを使用します。この機能をグラフィカル・ユーザー・インターフェースで実行したい場合は、iSeries ナビゲーターを使用できます。

記憶グループを利用すれば、光ディスク・ボリュームをグループ化して、関連データ（たとえば、送り状）を一連の光ディスク・ボリュームにまとめて記憶することができます。ボリュームを記憶グループに追加するには、まず記憶グループを定義する必要があります。

「ONDemand 媒体管理メニュー」画面（227 ページの図 225）からオプション 10 「記憶グループの処理」を選択します。244 ページの図 256 の画面が表示されます。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*STGGRP *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
記憶グループ *ALL_____ 名前, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 256. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、図 257 の画面に進みます。

記憶グループの作成

記憶グループの作成には、図 257 の画面を使用します。

記憶グループの処理

ONDM400
98/01/24 10:34:53

オプションを入力して、実行キーを押してください。

1=作成 2=変更 4=削除 5=表示

OPT	記憶グループ	テキスト
1	INVOICES	
	HFS3995	光ディスク PRPQ を使用した LAN 接続 3995
	LANOPT	LAN 光ディスク
	OBJECTSG	オブジェクト保存記憶グループ
	RDARSOPT	ONDEMAND 省略時の記憶グループ
	SG1	記憶グループ 1

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 257. 記憶グループの処理

実行キーを押して、245 ページの図 258 の画面に進みます。

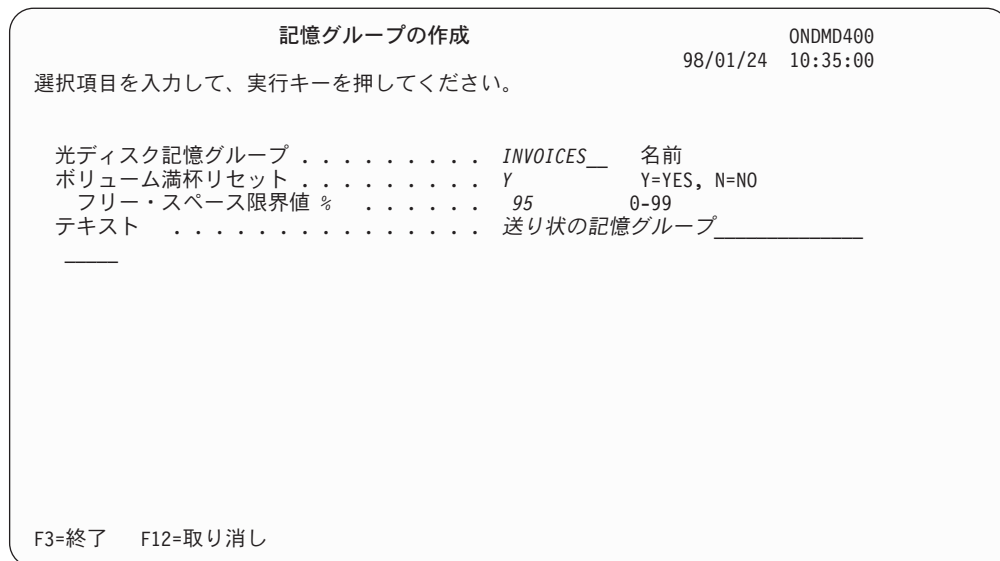


図 258. 記憶グループの作成

実行キーを押して、各項目を保管し、図 259 の画面に戻ります。

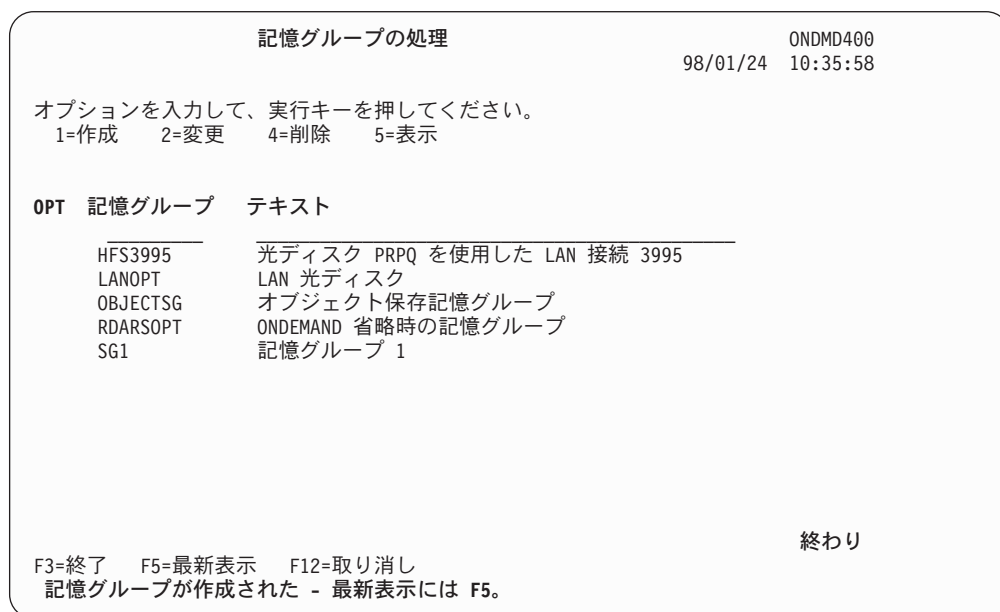


図 259. 記憶グループの処理

F5 を押すと、追加した内容が表示されます。

「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) に戻るには、F3 を押します。

記憶グループの変更

光ディスク記憶グループの特性を変更する場合には、「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) からオプション 10「記憶グループの処理」を選択します。246 ページの図 260 の画面が表示されます。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*STGGRP *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
記憶グループ. *ALL_____ 名前, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 260. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、図 261 の画面に進みます。

記憶グループの処理

ONDM400
98/01/24 10:36:02

オプションを入力して、実行キーを押してください。

1=作成 2=変更 4=削除 5=表示

OPT 記憶グループ テキスト

HFS3995	光ディスク PRPQ を使用した LAN 接続 3995
LANOPT	LAN 光ディスク
OBJECTSG	オブジェクト保存記憶グループ
2 INVOICES	送り状の記憶グループ
RDARSOPT	ONDEMAND 省略時の記憶グループ
SG1	記憶グループ 1

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 261. 記憶グループの処理

実行キーを押して、247 ページの図 262 の画面に進みます。この画面には、選択した記憶グループの特性が表示されます。

記憶グループの変更		ONDM400
		98/01/24 10:36:14
光ディスク記憶グループ	INVOICES	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
ボリューム満杯リセット	Y	Y=YES, N=NO
フリー・スペース限界値 %	80	0-99
テキスト	送り状の記憶グループ _____	

F3=終了 F12=取り消し		

図 262. 記憶グループの変更

表示されているデータに重ねて新しい情報を入力することにより、各フィールドを変更することができます。

実行キーを押して、変更内容を保管します。図 263 の画面が表示されます。

記憶グループの処理		ONDM400
		98/01/24 10:36:39
オプションを入力して、実行キーを押してください。		
1=作成 2=変更 4=削除 5=表示		
OPT	記憶グループ	テキスト
	HFS3995	光ディスク PRPQ を使用した LAN 接続 39955
	LANOPT	LAN 光ディスク
	OBJECTSG	オブジェクト保存記憶グループ
	INVOICES	送り状の記憶グループ
	RDARSOPT	ONDEMAND 省略時の記憶グループ
	SG1	記憶グループ 1
終わり		
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し		
記憶グループが変更された。		

図 263. 記憶グループの処理

「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) に戻る場合には、**F3** を押します。

記憶グループの削除

記憶グループを削除するには、以下の画面を使用します。(該当の記憶グループに光ディスク・ボリュームが定義されている場合には、OnDemand は、その記憶グルー

プの削除を許しません。)このオプションを選択すると、図 264 の画面が表示されます。

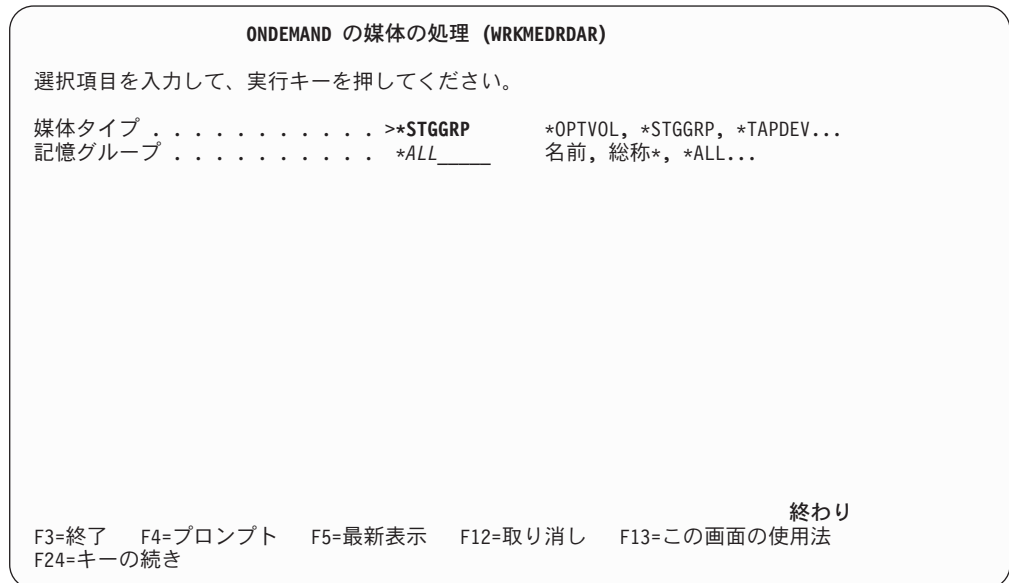


図 264. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、「記憶グループの処理」画面 (図 265) に進みます。記憶グループおよびその記述のリストが表示されます。

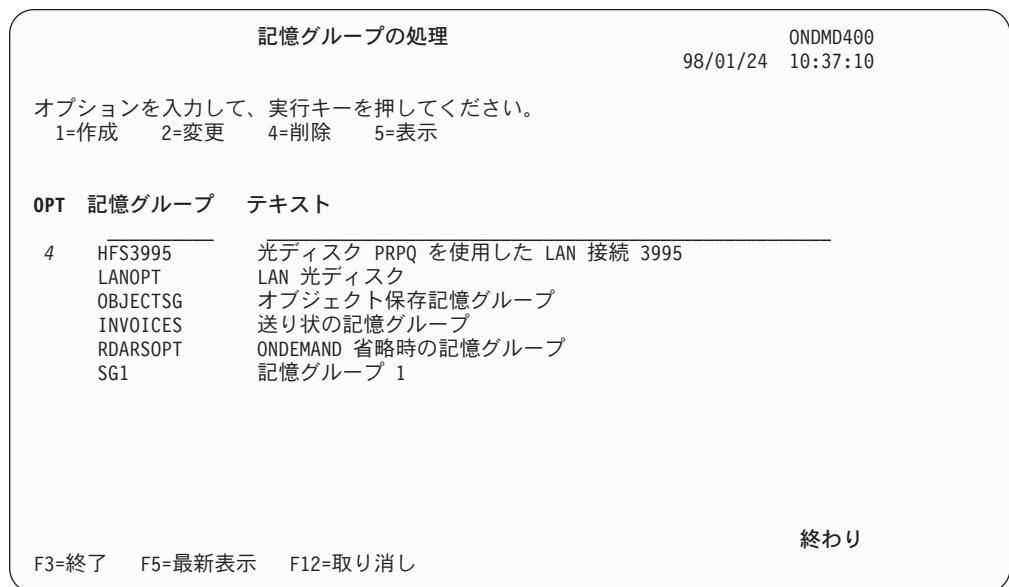


図 265. 記憶グループの処理

実行キーを押して、249 ページの図 266 の画面に進みます。

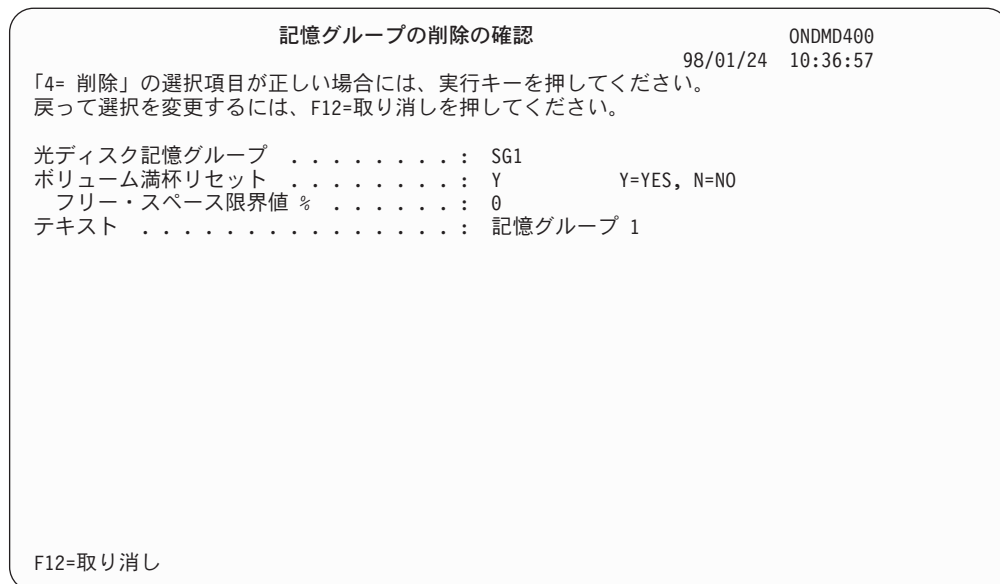


図 266. 記憶グループの削除の確認

OnDemand により、削除するために選択した記憶グループが表示されます。

選択したデータが正しくない場合には、**F12** を押して前の画面に戻り、入力したデータを変更することができます。正しい記憶グループ名を選択して、**実行キー**を押します。

選択が正しい場合には、**実行キー**を押して、その削除要求を確認します。図 267 の画面に示されているメッセージが表示されます。

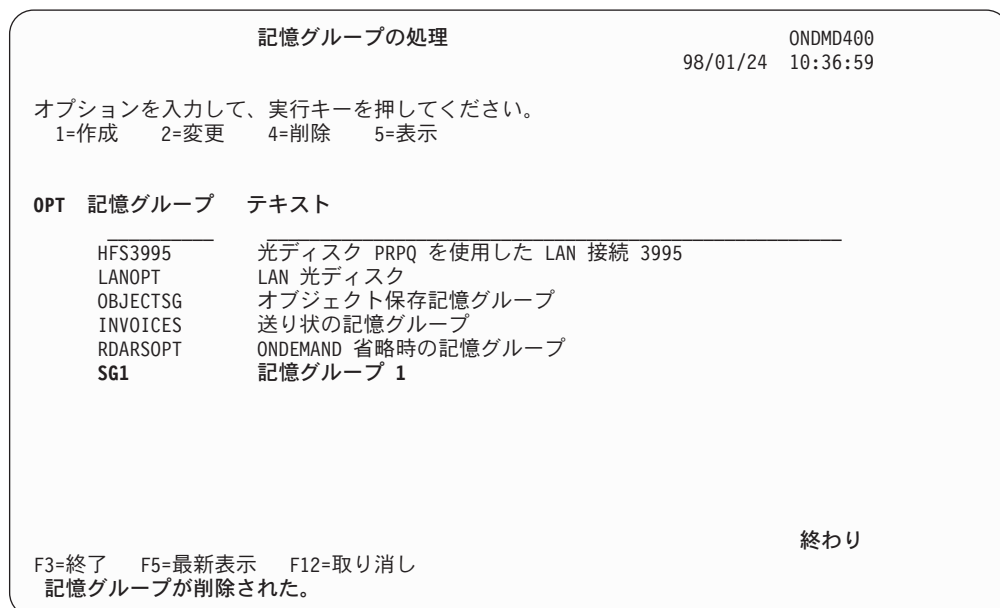


図 267. 記憶グループの処理

「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) に戻るには、**F3** を押します。

記憶グループの表示

記憶グループを表示する場合には、「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面（227 ページの図 225）からオプション 10「記憶グループの処理」を選択します。図 268 の画面が表示されます。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*STGGRP *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
記憶グループ *ALL _____ 名前, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し F13=この画面の使用法
F24=キーの続き

図 268. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、図 269 の画面に進みます。

記憶グループの処理

ONDM400
98/01/24 10:37:10

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=作成 2=変更 4=削除 5=表示

OPT	記憶グループ	テキスト
5	HFS3995	光ディスク PRPQ を使用した LAN 接続 3995
	LANOPT	LAN 光ディスク
	OBJECTSG	オブジェクト保存記憶グループ
	INVOICES	送り状の記憶グループ
	RDARSOPT	ONDEMAND 省略時の記憶グループ
	SG1	記憶グループ 1

終わり

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 269. 記憶グループの処理

実行キーを押します。251 ページの図 270 の画面には、選択した記憶グループの特性が表示されます。

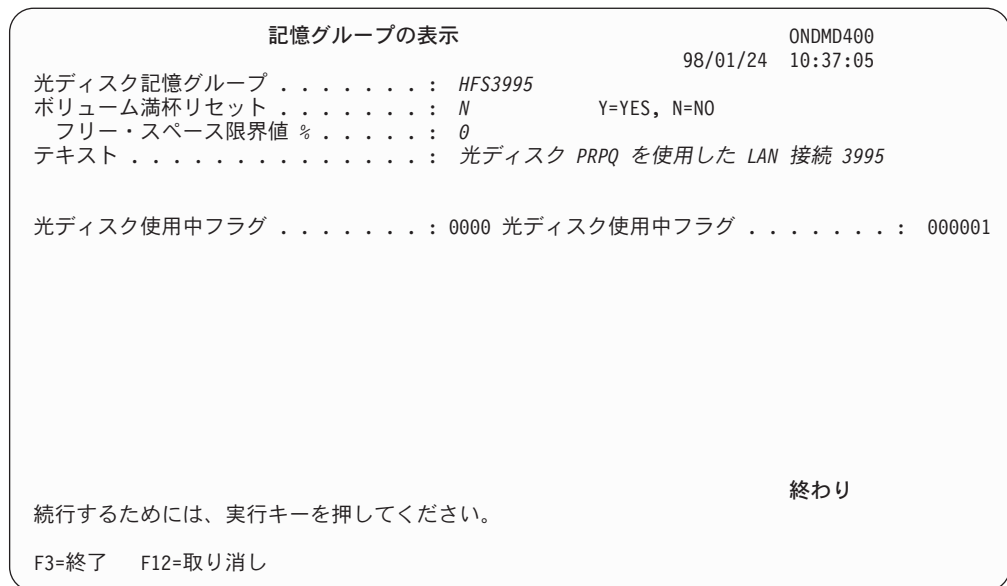


図 270. 記憶グループの表示

次のフィールドに注意してください。

使用中フラグ

記憶グループを表示した時点で、このフィールドに値が入っている場合、該当の記憶グループが使用中であることを示します。

レコード保存以外の機能の場合には、記憶グループの使用に先立って、このフラグはブランクでなければなりません。レコード保存では、記憶グループが他のレコード保存ジョブによって使用され、フラグが設定されている場合でも、その記憶グループを使用することができます。

光ディスクを使用している実行中のジョブ (たとえば、光ディスク・バックアップや移行、光ディスク再呼び出し、あるいはレコード保存) がないと、フラグは、光ディスク・エラーを示す可能性があります。

フラグをリセットするには、「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面から、261 ページの『オプション 51. 光ディスクのリセット』を選択します。

F3 を押すと、227 ページの図 225 の画面に戻ります。

オプション 11. 光ディスク・ボリュームの処理

光ディスク・ボリュームの追加、変更、除去、または表示を行う場合には、以下の画面を使用します。この機能をグラフィカル・ユーザー・インターフェースで実行したい場合は、iSeries ナビゲーターを使用できます。

この作業を開始するには、「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) から、オプション 11 「光ディスク・ボリュームの処理」を選択します。252 ページの図 271 の画面が表示されます。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*OPTVOL *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
光ディスク・ボリューム *ALL_____ ID, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し
F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 271. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、「光ディスク・ボリュームの処理」画面 (253 ページの図 272) に進みます。

光ディスク・ボリュームの追加

OnDemand が使用する各光ディスク・ボリュームごとに、1 つのレコードを光ディスク目録に入力します。 OnDemand による光ディスク・ボリュームの使用に先立って、まず光ディスク・ボリュームを OnDemand に追加する必要があります。

INZOPTVOL コマンドを使用して各光ディスク・ボリュームを初期設定するか (直接接続の光ディスク・ライブラリーの場合)、あるいは LAN 接続の光ディスク・ライブラリー・コンソールの表示画面の画面オプションを使用します。(光ディスク・ボリュームの初期設定やボリューム・フルのしきい値などの初期設定パラメーターに関する推奨事項については、光ディスク・ライブラリーの該当ソフトウェアの資料を参照してください。)

固有のボリューム名を使用してください。光ディスク・ボリュームに関する OnDemand 命名規則を設定して、OnDemand ボリュームを種々のアプリケーションによって使用されるボリュームと区別できるようにすることをお勧めします。

光ディスク・ボリュームの処理

ONDM400
98/01/24 10:37:25

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=追加 2=変更 4=除去 5=表示

OPT	ボリューム	媒体	容量	記憶グループ
1	DIR00001			
	RDLAN001	WORM	300000000	RDLAN
	RDLAN002	WORM	300000000	RDLAN
	RDLAN003	REWT	300000000	INVOICES
	RDLAN004	REWT	300000000	INVOICES
	RDLAN005	REWT	303000000	INVOICES
	RDLAN006	REWT	303000000	INVOICES
	RDROPT0001	WORM	305000000	RDARSOPT
	RDROPT0002	WORM	305000000	RDARSOPT
	T1	REWT	333000000	CHKSSTG
	T2	REWT	333000000	CHKSSTG
	T5	REWT	333000000	CHKSSTG
	T6	REWT	333000000	CHKSSTG

続く...

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し

図 272. 光ディスク・ボリュームの処理

実行キーを押して、図 273 の画面に進みます。

光ディスク・ボリュームの追加

ONDM400
98/01/24 10:37:31

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

ボリューム	DIR00001	名前
反対側のボリューム	DIR00002	名前
光媒体ファミリー	REWT	REWT, WORM...
光ディスク・ボリュームの容量	650	メガバイト
光ディスク記憶グループ	HFS3995	名前
光ディスクライブラリー		名前

F3=終了 F12=取り消し

図 273. 光ディスク・ボリュームの追加

光ディスク・ボリュームの両方のサイド (両面) の特性を追加します。

実行キーを押して、両方のボリュームを OnDemand に追加します (254 ページの図 274)。

光ディスク・ボリュームの処理

ONDM400
98/01/24 10:37:54

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=追加 2=変更 4=除去 5=表示

OPT	ボリューム	媒体	容量	記憶グループ
	RDLAN001	WORM	300000000	RDLAN
	RDLAN002	WORM	300000000	RDLAN
	RDLAN003	REWT	300000000	INVOICES
	RDLAN004	REWT	300000000	INVOICES
	RDLAN005	REWT	303000000	INVOICES
	RDLAN006	REWT	303000000	INVOICES
	RDROPT0001	WORM	305000000	RDARSOPT
	RDROPT0002	WORM	305000000	RDARSOPT
	T1	REWT	333000000	CHKSSTG
	T2	REWT	333000000	CHKSSTG
	T5	REWT	330000000	CHKSSTG
	T6	REWT	330000000	CHKSSTG

続く...

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し
光ディスク・ボリュームが追加された - 最新表示には F5 キー。

図 274. 光ディスク・ボリュームの処理

F5 を押すと、追加した内容が表示されます。

「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) に戻るには、F3 を押します。

光ディスク・ボリュームの特性の変更

「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) からオプション 11 「光ディスク・ボリュームの処理」を選択します。図 275 の画面が表示されます。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*OPTVOL *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
光ディスク・ボリューム *ALL ____ ID, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し
F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 275. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、255 ページの図 276 の画面に進みます。

光ディスク・ボリュームの処理				ONDM400
オプションを入力して、実行キーを押してください。				98/01/24 10:38:04
1=追加 2=変更 4=除去 5=表示				
OPT	ボリューム	媒体	容量	記憶グループ
2	DIR00001	REWT	650000000	HFS3995
	DIR00002	REWT	650000000	HFS3995
	RDLAN001	WORM	300000000	RDLAN
	RDLAN002	WORM	300000000	RDLAN
	RDLAN003	REWT	300000000	INVOICES
	RDLAN004	REWT	300000000	INVOICES
	RDLAN005	REWT	303000000	INVOICES
	RDLAN006	REWT	303000000	INVOICES
	RDROPT0001	WORM	305000000	RDARSOPT
	RDROPT0002	WORM	305000000	RDARSOPT
	T1	REWT	333000000	CHKSSTG
	T2	REWT	333000000	CHKSSTG
				続く...
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し				

図 276. 光ディスク・ボリュームの処理

実行キーを押して、図 277 の画面に進みます。この画面には、変更したい光ディスク・ボリュームの特性が表示されます。

光ディスク・ボリュームの変更		ONDM400
		98/01/24 10:38:24
ボリューム.....	DIR00001	
反対側ボリューム.....	DIR00002	
光媒体ファミリー.....	REWT	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
ボリューム満杯.....	N	Y=YES, N=NO
反対側ボリューム満杯.....	N	Y=YES, N=NO
光ディスク・ボリュームの容量.....	630	メガバイト
光ディスク記憶グループ.....	HFS3995	名前
光ディスクライブラリー.....	_____	名前
F3=終了 F12=取り消し		

図 277. 光ディスク・ボリュームの変更

表示されているデータに重ねて新しい情報を入力することにより、各フィールドを変更することができます。

実行キーを押して、変更内容を保管します。256 ページの図 278 の画面が表示されます。



図 278. 光ディスク・ボリュームの処理

「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面（227 ページの図 225）に戻る場合には、**F3** を押します。

光ディスク・ボリュームの除去

光ディスク・ボリュームを除去するには、「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面からオプション 11「光ディスク・ボリュームの処理」を選択します。図 279 の画面が表示されます。

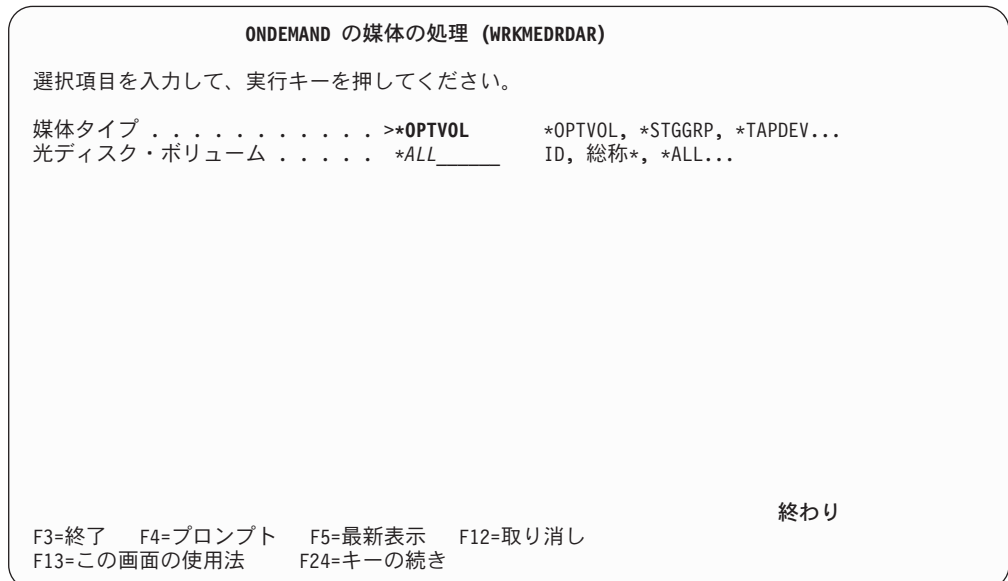


図 279. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、257 ページの図 280 の画面に進みます。

光ディスク・ボリュームの処理				ONDM400
オプションを入力して、実行キーを押してください。				98/01/24 10:39:18
1=追加 2=変更 4=除去 5=表示				
OPT	ボリューム	媒体	容量	記憶グループ
	DIR00001	REWT	630000000	HFS3995
	DIR00002	REWT	650000000	HFS3995
	RDLAN001	WORM	300000000	RDLAN
	RDLAN002	WORM	300000000	RDLAN
	RDLAN003	REWT	300000000	INVOICES
	RDLAN004	REWT	300000000	INVOICES
	RDLAN005	REWT	303000000	INVOICES
	RDLAN006	REWT	303000000	INVOICES
	RDROPT0001	WORM	305000000	RDARSOPT
	RDROPT0002	WORM	305000000	RDARSOPT
4	T1	REWT	333000000	CHKSSTG
	T2	REWT	333000000	CHKSSTG
				続く...
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し				

図 280. 光ディスク・ボリュームの処理

実行キーを押して、図 281 の画面に進みます。

光ディスク・ボリュームの除去の確認				ONDM400
「4=除去」の選択項目が正しい場合には、実行キーを押してください。				98/01/24 10:38:57
選択項目を変更するためには F12=取り消しキーを押して戻ってください。				
ボリューム	:	T1	
反対側ボリューム	:	T2	
光媒体ファミリー	:	REWT	
光ディスク・ボリュームの容量	:	333	メガバイト
光ディスク記憶グループ	:	CHKSSTG	
光ディスク・ライブラリー	:		
F12=取り消し				

図 281. 光ディスク・ボリュームの除去の確認

OnDemand により、除去するために選択した光ディスク・ボリュームが表示されます。(ボリュームは、特定の光ディスクの表と裏の両面のボリュームが 2 つ一組になって除去されます。)

選択したデータが正しくない場合には、**F12** を押して前の画面に戻り、入力したデータを変更することができます。正しい光ディスク・ボリュームを選択して、**実行キー**を押します。

選択したデータが正しい場合には、**実行キー**を押します。258 ページの図 282 の画面にメッセージが表示されます。

光ディスク・ボリュームの処理

ONDM400
98/01/24 10:39:00

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=追加 2=変更 4=除去 5=表示

OPT	ボリューム	媒体	容量	記憶グループ
	DIR00001	REWT	630000000	HFS3995
	DIR00002	REWT	630000000	HFS3995
	RDLAN001	WORM	300000000	RDLAN
	RDLAN002	WORM	300000000	RDLAN
	RDLAN003	REWT	300000000	INVOICES
	RDLAN004	REWT	300000000	INVOICES
	RDLAN005	REWT	303000000	INVOICES
	RDLAN006	REWT	303000000	INVOICES
	RDROPT0001	WORM	305000000	RDARSOPT
	RDROPT0002	WORM	305000000	RDARSOPT

続く...

F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し
光ディスク・ボリュームが除去された。

図 282. 光ディスク・ボリュームの処理

「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) に戻るには、**F3** を押します。

光ディスク・ボリュームの表示

光ディスク・ボリュームの特性を表示するには、「ONDEMAND 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) からオプション 11 「光ディスク・ボリュームの処理」を選択します。図 283 の画面が表示されます。

ONDEMAND の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

媒体タイプ >*OPTVOL *OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV...
光ディスク・ボリューム *ALL_____ ID, 総称*, *ALL...

終わり

F3=終了 F4=プロンプト F5=最新表示 F12=取り消し
F13=この画面の使用法 F24=キーの続き

図 283. OnDemand の媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行キーを押して、259 ページの図 284 の画面に進みます。

光ディスク・ボリュームの処理				ONDM400
オプションを入力して、実行キーを押してください。				98/01/24 10:39:18
1=追加 2=変更 4=除去 5=表示				
OPT	ボリューム	媒体	容量	記憶グループ
	DIR00001	REWT	630000000	HFS3995
	DIR00002	REWT	630000000	HFS3995
5	RDLAN001	WORM	300000000	RDLAN
	RDLAN002	WORM	300000000	RDLAN
	RDLAN003	REWT	300000000	INVOICES
	RDLAN004	REWT	300000000	INVOICES
	RDLAN005	REWT	303000000	INVOICES
	RDLAN006	REWT	303000000	INVOICES
	RDROPT0001	WORM	305000000	RDARSOPT
	RDROPT0002	WORM	305000000	RDARSOPT
	T1	REWT	333000000	CHKSSTG
	T2	REWT	333000000	CHKSSTG
				続く...
F3=終了 F5=最新表示 F12=取り消し				

図 284. 光ディスク・ボリュームの処理

実行キーを押して、図 285 の画面に進みます。

光ディスク・ボリュームの表示				ONDM400
				98/01/24 10:39:10
ボリューム	:	RDLAN001	
ボリューム満杯	:	N	Y=YES, N=NO
使用済みバイト	:	30,056,192	
削除されたバイト	:	0	
反対側ボリューム	:	RDLAN002	
ボリューム満杯	:	N	Y=YES, N=NO
使用済みバイト	:	15,299,328	
削除されたバイト	:	0	
光媒体ファミリー	:	WORM	
光ディスク・ボリュームの容量	:	300	メガバイト
光ディスク記憶グループ	:	RDLAN	
光ディスク・ライブラリー	:	LAN3995	
				終わり
続行するためには、実行キーを押してください。				
F3=終了 F12=取り消し				

図 285. 光ディスク・ボリュームの表示

「OnDemand 媒体管理メニュー」画面 (227 ページの図 225) に戻る場合には、**F3** を押します。

オプション 20. 光ディスク・サポート・メニュー

このオプションを選択すると、「OS/400 光ディスク・サポート・ユーティリティ」メニューに移動します。(このメニューの個々のオプションについての詳細は、OS/400 Optical Support の資料を参照してください。)

オプション 21. 通信サイド情報の処理 (LAN 接続の光ディスク専用)

IBM 3995 光ディスク・ライブラリー・データ・サーバー LAN 接続モデル通信インターフェースは、OS/2 コミュニケーションによって制御されます。したがって、3995 光ディスク・ライブラリー・データ・サーバーを使用可能にするには、ワークステーション・コントローラーをカスタマイズする必要があります。(この手順については、適切な資料を参照してください。)

OS/2 構成を完了した後、OS/400 通信サイド情報を正しく定義したことを確認してください。

227 ページの図 225 からオプション 21 「通信サイド情報の処理 (LAN 接続の光ディスク専用)」を選択し、**実行キー**を押して、表示された画面でデフォルト値を受け入れます。または、OS/400 コマンド行で **WRKCSI** と入力します。こうすると OnDemand と一緒に納入されたデフォルト値が表示されます。

実行キーを押すと、図 286 の画面が表示されます。

通信サイド情報の処理

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1=作成 2=変更 4=削除 5=表示 6=印刷

OPT	サイド情報	ライブラリー	テキスト
5	QRLCOPT	QRDARS	CPI COMMUNICATIONS SIDE INFORMATION FOR 3995

終わり

オプション 1, 2, 5 のパラメーターまたはコマンド
====>

F3=終了	F4=プロンプト	F5=最新表示	F9=コマンドの複写
F11=名前だけの表示	F12=取り消し	F16=位置指定の繰り返し	F17=位置指定

図 286. 通信サイド情報の処理

実行キーを押すと、詳細な情報が 261 ページの図 287 の画面に表示されます。

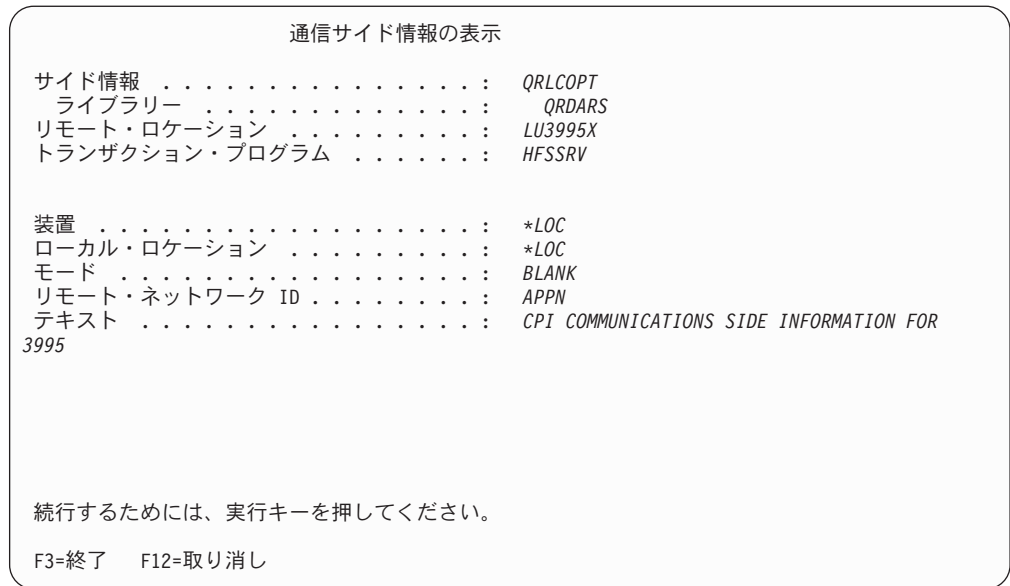


図 287. 通信サイド情報の表示

表示された情報は、OS/2 通信構成値の一部と一致します。これらのフィールドのいずれかを変更するには、260 ページの図 286 の画面のオプション 2 を選択します。

リモート・ネットワーク ID フィールド (**RMTNETID**) は、通常変更されるフィールドです。これは、iSeries のローカル・ネットワーク ID と一致しなければなりません。この値は、ネットワーク属性の表示 (**DSPNETA**) コマンドを使用して調べることができます。

オプション 40. メイン・メニュー

このオプションを使用して、OnDemand メイン・メニュー (226 ページの図 224) に戻ることができます。

オプション 51. 光ディスクのリセット

このオプションは、すべての記憶グループの使用済みフラグを消去し、すべての OnDemand 光ディスク・ボリュームのスペースを検査します。このオプションは、ユーザーが OnDemand アプリケーション・レベルで ***ALL** 権限を持っている場合にのみ表示されます。(この権限の認可については、59 ページの『オプション 10. OnDemand ユーザーの編集/認可』を参照してください。)

報告書管理サイクル (スプール・ファイル保存の場合) またはオブジェクト管理サイクル (オブジェクト保存の場合) が実行されている過程では、リセット・オプションを実行しないでください。このリセット・オプションは、OnDemand が認識する一部、あるいはすべての光ディスク・ボリュームがマウントされ、スペース検査が実行される原因となることがあります。

オプション 52. テープのリセット

このオプションは、テープ・ボリュームおよびテープ装置のすべての使用中フラグを消去します。このオプションは、ユーザーが OnDemand アプリケーション・レベルで ***ALL** 権限を持っている場合にのみ表示されます。(この権限の認可については、59 ページの『オプション 10. OnDemand ユーザーの編集/認可』を参照してください。)

報告書管理サイクル (スプール・ファイル保存の場合) またはオブジェクト管理サイクル (オブジェクト保存の場合) が実行されている過程では、リセット・オプションを実行しないでください。

第 7 章 OnDemand と Content Manager の統合

IBM Content Manager for iSeries (Content Manager) (以前は、IBM ImagePlus[®] VisualInfo[™]、VI/400 と呼ばれていました) は、幅広いワークフロー能力を提供する多機能なイメージ・アプリケーションです。OnDemand で保存された報告書を Content Manager に統合することにより、1 つのワークステーション・アプリケーションから、イメージおよび保存された OnDemand 報告書を 1 つの方式で閲覧できます。この章では、統合の利点、統合の方法および統合ソフトウェア機能の使用法について説明します。

OnDemand と Content Manager の統合の概要

OnDemand と Content Manager を使用する際、関連する情報が両方のアプリケーションにわたって存在することがあります。たとえば、保険金請求書のイメージを、支払いの行われた請求の小切手振出し記録簿と関連付ける必要のある場合があります。このような事例では、ユーザーはイメージと保存スプール・ファイル (COLD 文書) の双方を検索したり閲覧したりする必要があります。Content Manager イメージおよび OnDemand COLD 文書を検索し閲覧するためには、それぞれ独自のインターフェースと異なる能力を持つ別のワークステーションが 2 台必要になります。統合ソフトウェアを使用すれば、イメージおよび保存スプール・ファイルの双方にアクセスするため必要となるのは、Content Manager クライアントのみとなります。また、この統合製品の利点には、以下のものがあります。

- 内部生成報告書と、スキャンされた文書とのルーティングの組み合わせ
- イメージ・ワークフローのフル・サポート
- ワーク・パッケージにおける文書の透過的な処理

Content Manager 外部参照サポート

Content Manager は、外部データ参照を利用して、索引により Content Manager の外部に常駐するデータを指すことができます。これにより、Content Manager は、他の iSeries やワークステーション・アプリケーションに散在するデータ・ソースのキー値を取得できます。Content Manager クライアントが、外部データ・ソースからデータを検索する際には、以下のタスクを実行できます。

- データを検索し、そのデータを閲覧のために Content Manager クライアントに渡す。
- iSeries プログラムを呼び出し、データを検索し、そのデータを Content Manager クライアントに渡す。
- Lotus[®] 1-2-3[®] または Microsoft[®] Word のような PC ベースのアプリケーションを起動する。

OnDemand は、OnDemand によって保存されたスプール・ファイルを、Content Manager が検索できるようにする外部データ参照機能を提供します。つまり、イメージと印刷した文書の双方を、1 つのクライアントで表示することができます。Content Manager データベースを検索する際、システムは、ユーザーに OnDemand

文書のヒット・リストと Content Manager イメージの組み合わせを提供します。ユーザーは、Content Manager クライアントの使用法を知るのみで済みます。

OnDemand が Content Manager 外部データ参照を使用する仕組み

OnDemand には、現在、Content Manager 向けに外部データ参照を作成する 2 つの方式があります。

1. OnDemand を使用して、スプール・ファイルを保存する際、外部データ参照を作成できます。これを行うには、所要の OnDemand 報告書定義に出口プログラムの新しい索引を指定します。報告書が保存される際、新しい出口プログラム が呼び出されます (QRLWEXITV または QRLWEXITVM、キー・フィールドまたは表示フィールドのいずれかがマルチ・キー・フィールドの場合)。いったん呼び出されると、プログラムは、Content Manager 用のインターフェース内に外部データ参照を作成します。システムは、報告書定義拡張レコードを使用して、OnDemand の報告書定義から Content Manager 索引クラスに索引データをマップします。報告書定義拡張レコードを保守するには、WRKADMRDAR TYPE(*RPTEXT) コマンドを使用してください。

報告書データは、ディスク、光ディスクまたはテープの、任意のいずれかに置くことができます。OnDemand 報告書の索引を Content Manager に統合された報告書用の光ディスクまたはテープに移行しないでください。移行ポリシーをチェックして、索引レコードを移行していないことを確認してください。報告書管理サイクルに対して、索引を光ディスクまたはテープに移行させるように指示すると、Content Manager の検索リスト内の項目が表示されます。しかし、項目を表示するように要求しても、システムはセグメント (オブジェクト) を検索できません。いずれかの時点で項目 (索引) が存在していたかどうかを知りたいのみの場合には、これで十分わかります。ただし、このような項目の内容を閲覧する必要がある場合は、報告書の有効期間中にはディスク上に索引を残しておく必要があります。

2. 以前に OnDemand に保存された報告書に対しては、他のコマンド (ADDVIRDAR) が提供されます。このコマンドは、Content Manager のインターフェース・ファイル内の外部データ参照を作成します。OnDemand は、OnDemand 報告書定義から Content Manager 索引クラスへ索引をマップするために、報告書定義拡張レコードを使用します。報告書定義拡張レコードを保守するには、WRKADMRDAR コマンドを使用してください。OnDemand での有効期限が切れた際に、外部参照が Content Manager から自動的に削除されるようにするには、該当の各報告書定義において新しい索引出口プログラム (QRLWEXITV または QRLWEXITVM) のいずれかを指定する必要があります。

いったん、外部データ参照を作成したら、Content Manager プログラム (QVIXRFINX) を呼び出し、外部参照をインターフェース・ファイルから Content Manager へロードする必要があります。このプログラムが終了すれば、Content Manager クライアントを使用して OnDemand スプール・ファイルを検索できます。Content Manager クライアントは、AFP ビューアーを起動して OnDemand の保存スプール・ファイルを表示します。

OnDemand 外部参照を Content Manager から削除する仕組み

IBM は、OnDemand の外部参照を Content Manager から削除するために、3 つの方式を提供します。

1. OnDemand は、報告書移行ポリシーに基づき、時間の経過にともなう保存報告書の期間満了の処理 (削除) を自動的に行います。統合された報告書が期間満了になると、Content Manager インターフェース・ファイルを削除するため、システムは対応する外部参照レコードにマークを付けます。これが行われるのは、その報告書とバージョンの組み合わせに関する OnDemand 報告書定義で、新しい索引出口プログラム (QRLWEXITV または QRLWEXITVM) のうちのいずれかが指定されている場合に限られるので、注意してください。
2. OnDemand の報告書削除コマンドは、該当する、報告書とバージョンの組み合わせに関する報告書定義でその索引出口プログラムが指定されている限り、ユーザーがこのコマンドを使用して保存スプール・ファイルを削除する際に、外部参照レコードに削除のマークを付けます。
3. 新しいコマンド (RMVVIRDAR) は、Content Manager インターフェース・ファイル内で、削除される外部参照にマークを付けます。このコマンドは、OnDemand の保存報告書を削除しません。デフォルトでは、このコマンドは、Content Manager プログラム (QVIXRFDEL) を呼び出して Content Manager から外部参照を除去します。

削除のために外部データ参照にマークを付けた後、ユーザーは、Content Manager プログラム (QVIXRFDEL) を呼び出し、Content Manager およびインターフェース・ファイルから外部参照を削除する必要があります。このプログラムを実行すると、Content Manager からすべての外部参照が削除されます。ユーザーが、再度、外部参照の索引を作成しても、外部参照をワークフロー内に入れても、システムは、外部参照および関連する Content Manager の注釈や注も含めてすべてを削除します。

Content Manager 統合での“報告書オカレンスの結合”機能の使用

スプール・ファイル保存での順序番号の最大値である 999 を超えないようにするために、OnDemand に、複数の報告書オカレンスを自動的に結合させるよう選択することができます。(この機能を有効にするには、iSeries ナビゲーターを使用して OnDemand 管理ツールにアクセスし、これを使用してください。報告書定義の「保存 (Archive)」タブで、オカレンスを結合するかどうかを指定できます。) その報告書を Content Manager とも統合する場合は、統合方法の変更を検討することが必要となる場合があります。

まず最初に、報告書結合機能について簡単に説明します。OnDemand は通常、保存された各スプール・ファイルを個別に保管し、各ファイルを日付と 3 桁の順序番号 (オブジェクト名と呼ばれる) で識別します。このため、特定の報告書定義の保存は、1 日あたり最大 999 に制限されます。そこで、報告書結合機能が作成されました。この機能は、OnDemand が保存するスプール・ファイルを、同じ日にすでに保存されている別のスプール・ファイルの末尾に追加することによって、同一の順序番号を使用できるようにする、というメカニズムを提供します。報告書の結合は、すべてのユーザー出口処理が完了して、報告書が正常に保存された後に行われます。

複数の報告書オカレンスを結合し、標準の CM/400 統合機能を実行すると、CM/400 Client のユーザーは、統合された報告書を CM/400 クライアントから検索することができなくなります。OnDemand から CM/400 (前述の外部参照サポートを使用した) へのリンケージが、元の日付と 3 桁の順序番号とともに追加されます。このため、リンケージ・レコードが作成された後で報告書結合機能が実行されると、CM/400 制御ファイルのオブジェクト名には、誤った日付と順序番号が付けられることとなります。これらの文書を検索しようとする、CM/400 Client では FRN6556A メッセージが発行されます。

報告書結合機能は引き続き使用することができますが、スプール・ファイル保存の報告書定義の中で、CM/400 統合索引出口 (QRLWEXITV または QRLWEXITM) のいずれかの指定なしで使用することになります。結合された報告書がすでに CM/400 に統合されている場合は、除去機能 (RMVVIRDAR コマンド) を使用してこれらの報告書へのリンケージを除去してから、初期化機能 (ADDVIRDAR コマンド) を使用して、手動またはプログラマチックな方法のいずれかで、CM/400 へ再度統合する必要があります。

報告書の結合と CM/400 との統合を自動化するには、ADDVIRDAR コマンドを実行して索引を Content Manager にロードするエントリーを OS/400 ジョブ・スケジューラーに 1 つ以上追加する、という方法をお勧めします。ADDVIRDAR コマンドは、統合されていない報告書の索引のみを追加するため、このコマンドは、索引の重複を懸念することなく何度でも実行することができます。したがって、ジョブ・スケジュールにこのエントリーを数多く作成し、ADDVIRDAR コマンドを毎日、場合によっては毎時レベルで実行することができます。このコマンドの実行回数や頻度は、Content Manager Client を使用しての報告書の検索を可能にする必要性に合わせて、ユーザーが決めることができます。

ジョブ・スケジュールのエントリーを作成するコマンドの例は、図 288 に記載されています。このコマンドの例は、ユーザーの要件に合わせて変更する必要があります。ADDVIRDAR コマンドの詳細、および、その他のパラメーター値のオプションについては、コマンドのヘルプ・テキストを参照してください。

```
ADDJOBSCDE JOB(ODTOCM) CMD(ADDVIRDAR REPORT(INVOICETST) VERSION(*HIGHEST) +
RPTDATE(*CURRENT *CURRENT) CALLVI(*YES) SBMJOB(*NO)) FRQ(*WEEKLY) +
SCDDAY(*MON *TUE *WED *THU *FRI) SCDTIME('08:00:00') +
JOBQ(QRDARS/QRDARS400) USER(QRDARS400) TEXT('Integrate OnDemand rpts into CM')
```

図 288. ジョブ・スケジュールのエントリーを作成するコマンドの例

統合ソフトウェアの導入

OnDemand および Content Manager 統合ソフトウェアを導入するには、次のステップに従ってください。

ステップ 1. 前提ソフトウェアの確認

OnDemand と Content Manager を統合するためには次のソフトウェアが必要となります。

- OnDemand スプール・ファイル保存機能。

- Content Manager クライアント V5R1。
- Microsoft Windows 2000、Windows 95、Windows NT[®] 4.0、または Windows XP。
- Advanced Function Presentation (AFP) ビューアー。このユーティリティーは、OnDemand クライアントの一部として、またはスタンドアロン製品 (AFP ワークベンチ) として、iSeries Access 製品 (5722-XE1) に含まれています。

ステップ 2. Content Manager 外部参照ファイルに対する権限の認可

ファイル内のレコードを追加および変更する権限を、QRDARS400 ユーザー・プロファイルに認可する必要があります。

次のコマンドを使用して、正しいデータ・ライブラリーおよびファイルに適切な権限を認可します。

```
GRTOBJAUT OBJ(QSYS/xxxx) OBJTYPE(*LIB) USER(QRDARS400)
AUT(*CHANGE)
```

```
GRTOBJAUT OBJ(xxxx/EKD0313) OBJTYPE(*FILE) USER(QRDARS400)
AUT(*CHANGE)
```

```
GRTOBJAUT OBJ(xxxx/EKD0314*) OBJTYPE(*FILE) USER(QRDARS400)
AUT(*CHANGE)
```

ここで、**xxxx** は、Content Manager データ・ライブラリーです。

異なる Content Manager データ・ライブラリーを使用し、追加の Content Manager 環境に対して、これらのコマンドを繰り返すことができます。

ステップ 3. Content Manager ジョブ記述の更新

ジョブ記述処理コマンド (WRKJOBDD) を使用して、Content Manager 初期ライブラリー・リスト・パラメーター (INLLIBL) を更新し、QRDARS ライブラリーを入れてください。Content Manager バージョン 5 リリース 1 では、デフォルトのジョブ記述は、ライブラリー QUSRVI の QVIJOBDD です。

複数の Content Manager 環境を使用する場合は、Content Manager 環境ごとに、各ジョブ記述の初期ライブラリー・リストへ QRDARS を追加する必要があります。

2 次言語を使用する OnDemand を導入するには、ライブラリーを、ライブラリー・リスト内の 2 次言語用のライブラリーに入れてください。たとえば、ライブラリー QSYS2924 は、英語の大文字および小文字用です。

注: 更新済みジョブ記述を開始するには、Content Manager のサーバー・ジョブを停止後、再始動する必要があります。

ステップ 4. QRDARS400 ジョブ記述の更新

ジョブ記述処理コマンド (WRKJOBDD) を使用して、OnDemand 初期ライブラリー・リスト・パラメーター (INLLIBL) を更新し、所要の Content Manager データ・ライブラリーを入れてください。デフォルトでは、バッチ処理にサブミットされた OnDemand コマンドが、QRDARS/QRDARS400 ジョブ記述を使用します。外部参照

ファイルを探すには、外部参照ファイルを格納するライブラリーが、QRDARS/QRDARS400 ジョブ記述の初期ライブラリー・リストになければなりません。

注: 更新済みジョブ記述を使用開始するには、OnDemand 報告書モニターを停止後、再始動する必要があります。

ステップ 5. AFP ビューアーを始動するための Content Manager クライアントの構成

Content Manager クライアントは、外部データを表示するために、他の PC をベースとするアプリケーションを始動させる機能をサポートします。この情報は、Content Manager クライアントの「プリファレンス (Preferences)」ウィンドウ内にある「代替ビューアー (Alternate Viewer)」タブで指定します。Content Manager クライアントの使用中に「代替ビューアー (Alternate Viewer)」タブを表示するには、「オプション」プルダウン・メニューを選択してから「プリファレンス (Preferences)」を選択し、さらに「代替ビューアー (Alternate Viewer)」タブをクリックします。OnDemand スプール・ファイル・データの代替ビューアーを追加するには、「追加」ボタンをクリックしてください。「編集/追加 (Edit/Add)」ウィンドウが表示されてから、「ファイル拡張子 (File Extension)」フィールドに 'afp' と入力し (引用符は入力しないでください)、プルダウンから「AFP」を選択してください。(スプール・ファイルが AFP ではない場合にも、すべての OnDemand スプール・ファイルについて 'afp' を指定してください。) インターフェース・タイプは OLE Embedding に設定してください。その後で「OK」をクリックします。「プリファレンス (Preferences)」ウィンドウが表示されてから「OK」をもう一度クリックし、「Content Manager」クライアント・ウィンドウに戻ります。これで、Content Manager クライアントを使用して、統合された OnDemand 保存スプール・ファイルを表示することができます。

注: PC ファイルなどの AnyStore データを統合している場合には、上記の指示の 'afp' に代えて PC ファイル・タイプを使用して、同じ手順に従ってください。

導入検査

統合ソフトウェアが、正常に導入されたかどうか検査するには、次のタスクを実行する必要があります。

ステップ 1. OnDemand 報告書定義の作成

次のステップにしたがって、OnDemand 報告書定義を作成します。

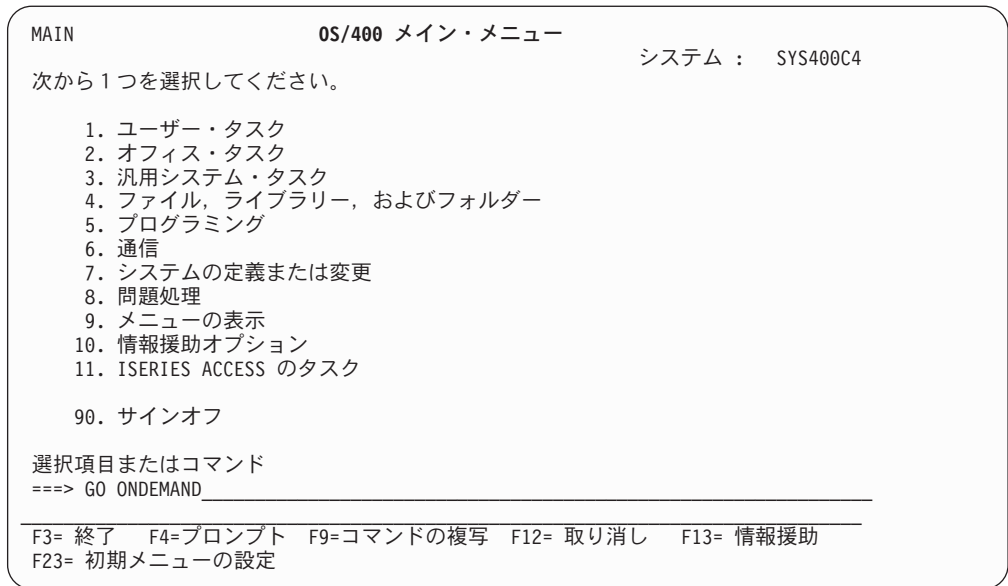


図 289. OS/400 メイン・メニュー

OnDemand で作業を始めるには、OS/400 コマンド行に、「GO ONDEMAND」と入力して**実行キー**を押します。

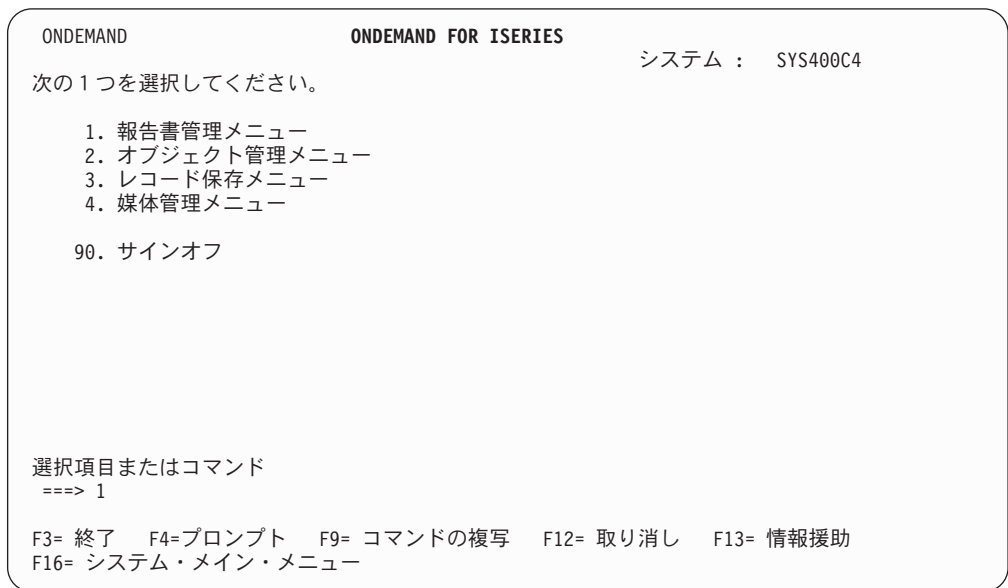


図 290. OnDemand 報告書管理メニュー

導入検査報告書定義を作成するには、「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面からオプション 1 を選択し、**実行キー**を押します。



図 293. OnDemand 報告書定義リスト・パネル 1 の処理

既存の OnDemand 報告書定義のリストが表示されます。

オプション 3 を使用して、サンプル TSTINV 報告書定義をコピーします。

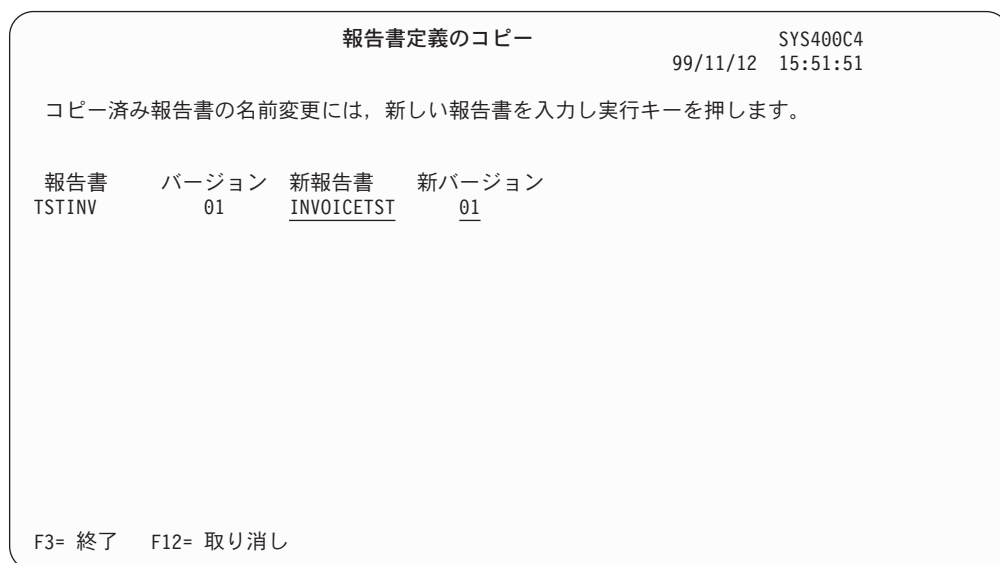


図 294. OnDemand 報告書定義コピー・パネル

新しい報告書定義に、INVOICETST、バージョン 01 と名前を付けて、**実行キー**を押します。

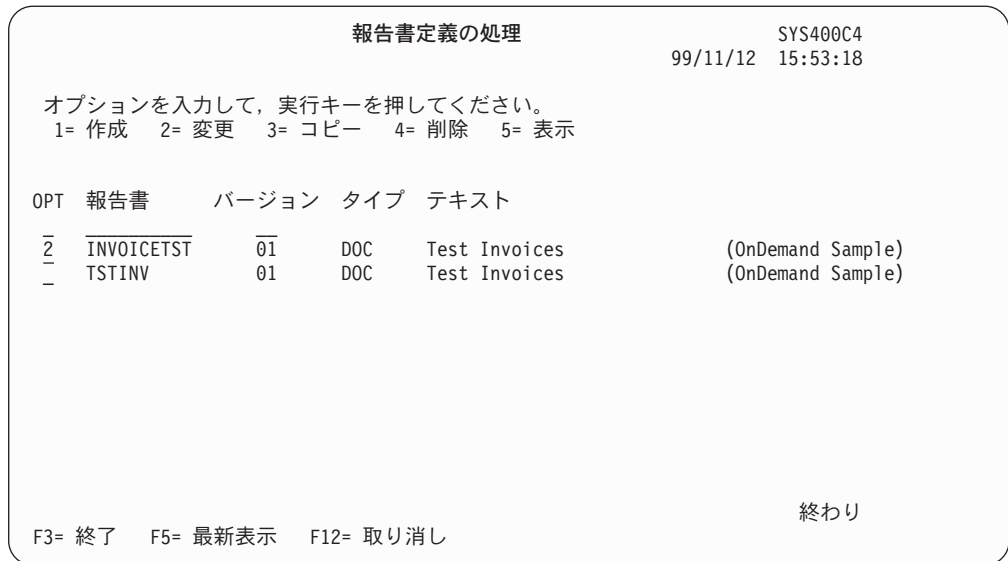


図 295. OnDemand 報告書定義リスト・パネル 2 の処理

F5 を押して、報告書定義リストを最新表示します。INVOICETST 報告書定義が、リストに表示されます。

QRLWEXITV プログラムを使用するには、新しい報告書定義 INVOICETST を変更する必要があります。QRLWEXITV 出口プログラムは、後ほど Content Manager に外部参照としてロードするため、Content Manager インターフェース・ファイルに、OnDemand キー値を追加します。

INVOICETST 報告書定義の前にあるオプション・フィールドに 2 を入力して、実行キーを押します。

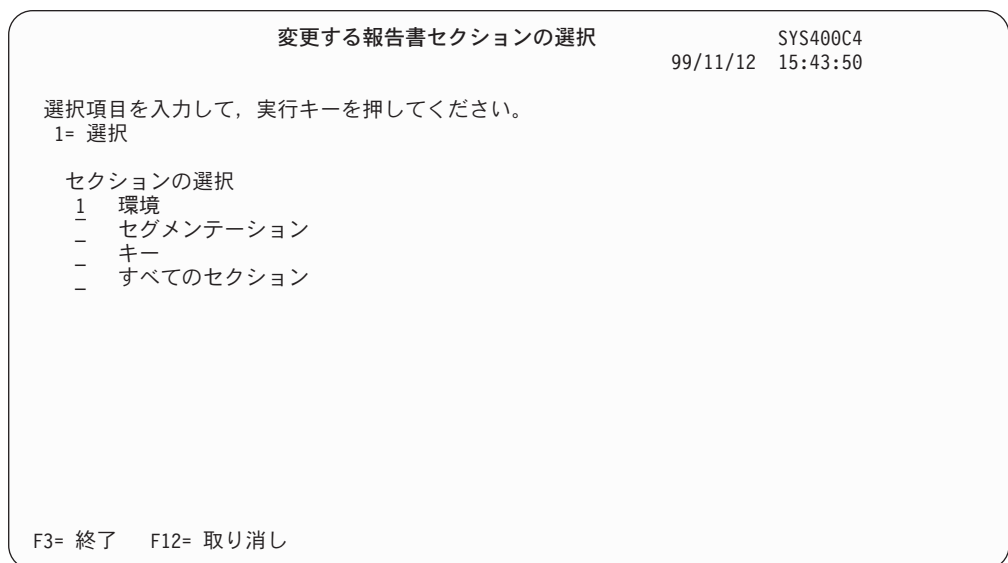


図 296. OnDemand 報告書定義変更パネル 1

オプション 1 を使用して、更新する報告書定義の環境項目を選択し、実行キーを押します。

報告書定義の変更-環境		SYS400C4
報告書/バージョン	99/11/12 15:45:17	INVOICETST / 01
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
報告書タイプ	DOC	DOC, PAGE NODX, UBND
入力レコード長	111	20-256
ポリシー名	RDARSTEST	名前
報告書オーバーレイ		名前
報告書データ・タイプ	*OTHER	*SCS, *AFPDS *OTHER...
報告書グループ		名前
印刷制御の変換	N	Y=YES, N=NO
印刷装置ファイル	TSTINVPRTF	名前
ライブラリー	QRDARS	
テキスト	Test Invoices	
<u>(OnDemand Sample)</u>		
圧縮	Y	Y=YES, N=NO
記入日付タイプ	—	
F3= 終了 F12= 取り消し		続く ...

図 297. OnDemand 報告書定義変更環境パネル 1

最初の画面は、変更する必要はありません。次ページ・キー (Page Down) を押して次の画面に進みます。

注: 記入日付タイプを指定した場合、上記の画面とは別の画面が表示されます。次に、次ページ・キーを再度押して、図 298 の画面に進みます。

報告書定義の変更-環境		SYS400C4
報告書/バージョン	99/11/12 15:55:53	INVOICETST / 01
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
報告書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
文書結果画面のバイパス	N	Y=YES, N=NO
すべての順序番号の検索	N	Y=YES, N=NO
入力出口		名前
ライブラリー		
索引出口	QRLWEXITV	名前
ライブラリー	QRDARS	
ビューアー出口		名前
ライブラリー		
F3= 終了 F12= 取り消し		終わり

図 298. OnDemand 報告書定義変更環境パネル 2

INDEX 出口 プログラム名・フィールドに、プログラム名 QRLWEXITV を入力します。ライブラリー名フィールドに、ライブラリー QRDARS を入力します。

注: プログラム名のつづりを正しく入力したかどうか確かめてから、正しい出口フィールドにこの情報を入力してください。

ステップ 2. Content Manager 索引クラスの設定

OnDemand 報告書を Content Manager に統合するには、対応する Content Manager 索引クラスがすでに存在していなければなりません。導入検査用の Content Manager 索引クラスを作成するには、次のステップを実行してください。

VI	CONTENT MANAGER FOR ISERIES
次の1つを選択してください。	
1. プロファイル保守	
2. ジョブの処理	
3. データベース・ユーティリティー	
90. サインオフ	
選択項目またはコマンド	
==> 1	
F3= 終了 F4= プロンプト F9= コマンドの複写 F12= 取り消し	
F13= ユーザー・サポート F16= 初期メニューのセット	

図 299. Content Manager メイン・メニュー

Content Manager 管理ユーザー・プロファイルを使用してサインオンします。
オプション 1 を選択し、**実行キー**を押してプロファイル保守を実行します。

CMPRF	プロファイル保守
次の1つを選択してください。	
1. 特権セットの処理	
2. ユーザー・プロファイルの処理	
3. グループの処理	
4. アクセス・リストの処理	
5. キー・フィールドの処理	
6. 索引クラスの処理	
7. ワークバスケットの処理	
8. コレクションの処理	
9. サーバーの処理	
10. オブジェクト・ディレクトリーの処理	
11. 記憶クラスの処理	
12. 光ディスク・システムの処理	
13. ワークフロー・プロファイルの削除	
選択項目またはコマンド	
==> 5	
F3= 終了 F4= プロンプト F9= コマンドの複写 F12= 取り消し	
F13= ユーザー・サポート F16= 初期メニューのセット	

図 300. Content Manager プロファイル保守メニュー

オプション 5 を選択して、**実行キー**を押してキー・フィールドの処理を行います。

キー・フィールドの処理

位置指定 _____ キー・フィールド

選択項目を入力して、実行キーを押してください
 1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 5= 表示

オプション	キー・ フィールド	テキスト
<u>1</u>	INVNR03	
	DOCDESC	DOCUMENT DESCRIPTION
	DOCTYPE	DOCUMENT TYPE
	IDENTIFR	FOLDER IDENTIFIER
	SOURCE	SOURCE
	TMESTAMP	TIME STAMP
	USERID	USER ID

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 取り消し

図 301. Content Manager キー・フィールドの処理パネル 1

- 表示された第 1 行目のオプションの桁に 1 を入力します。
- 表示された第 1 行目のキー・フィールド桁に INVNR03 と入力し、**実行キー**を押します。

キー・フィールドの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください

キー・フィールド	<u>INVNR03</u>	名前
テキスト	<u>INVOICE NUMBER</u>	
タイプ	<u>1</u>	1= 文字 2= 数値
長さ	<u>03</u>	1-40

F3= 終了 F12= 取り消し

図 302. Content Manager キー・フィールドの作成パネル

- 上のように、INVNR03 フィールドにキー・フィールドの情報を入力し、**実行キー**を押します。
 - さらに、5 つのキー・フィールドを追加し、図 301 および図 302 から再度ステップを繰り返してください。追加の 5 つのキーを構築するには、次の情報を利用してください。
- フィールド名 "CUSNR04"、記述 "CUSTOMER NUMBER"、タイプ 1、長さ 4。

- フィールド名 "SLSMAN05"、記述 "SALESMAN"、タイプ 1、長さ 5。
- フィールド名 "INVTOT12"、記述 "INVOICE TOTAL"、タイプ 1、長さ 12。
- フィールド名 "ORDNBR07"、記述 "ORDER NUMBER"、タイプ 1、長さ 7。
- フィールド名 "REPTDATE"、記述 "REPORT DATE"、タイプ 1、長さ 8。

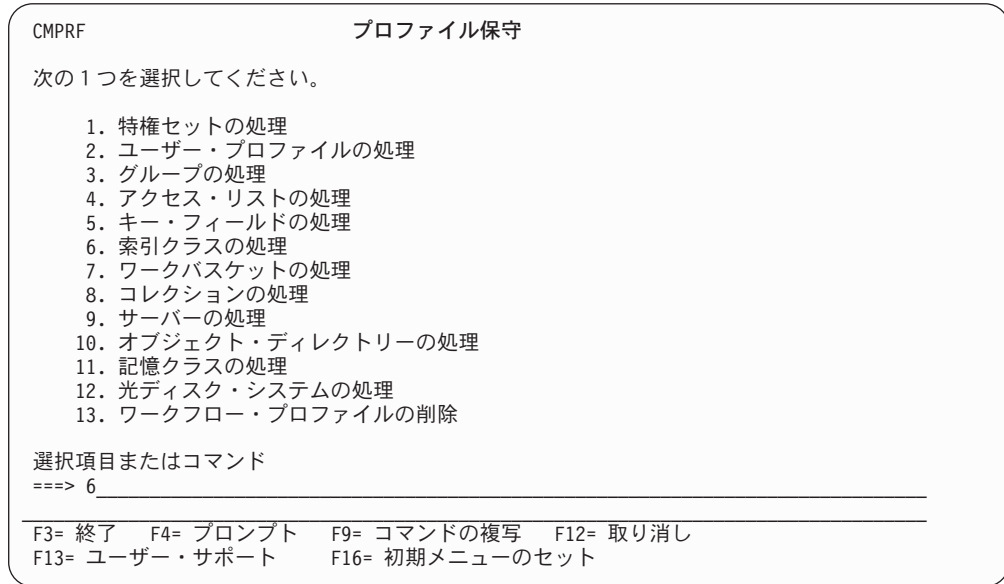


図 303. Content Manager プロファイル保守メニュー

F12 を押して「プロファイル保守」メニューに戻ります。オプション 6 を選択して、**実行キー**を押して「索引クラスの処理」画面に進みます。

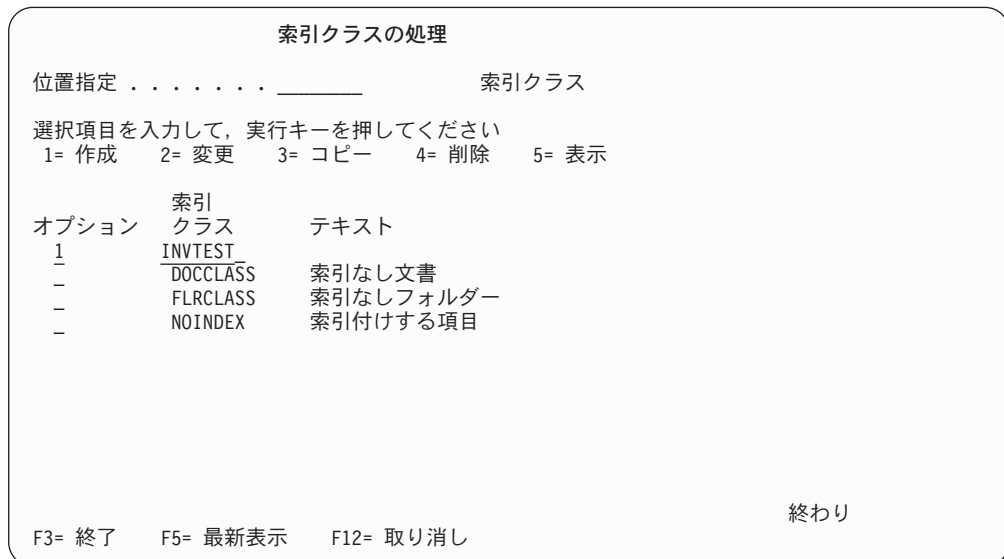


図 304. Content Manager 索引クラスの処理パネル

入力可能な最初の行のオプション桁に 1 を入力します。

入力可能な最初の行の索引クラス桁に INVTEST と入力し、**実行キー**を押します。

索引クラスの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください

索引クラス	INVTEST	名前
テキスト	INVOICE TEST REPORT	
アクセス・リスト	USER	名前, リストは F4 キー
キー・フィールド 1	INVNBR03	名前, リストは F4 キー
必須	N	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 2	CUSNBR04	名前, リストは F4 キー
必須	N	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 3	SLSMAN05	名前, リストは F4 キー
必須	N	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 4	INVTOT12	名前, リストは F4 キー
必須	N	Y=YES, N=NO

続く...

F3= 終了 F4= プロンプト F6= キー・フィールド作成 F12= 取り消し

図 305. Content Manager 索引クラスの作成パネル 1

上記のように「索引クラスの作成」画面に入力して、次ページ・キーを押します。

注: システム上の使用可能なリストから所要のアクセス・リストを選択する必要があります。

索引クラスの作成

選択項目を入力して、実行キーを押してください

キー・フィールド 5	ORDNBR07	名前, リストは F4 キー
必須	N	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 6	REPTDATE	名前, リストは F4 キー
必須	N	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 7	_____	名前, リストは F4 キー
必須	-	Y=YES, N=NO
キー・フィールド 8	_____	名前, リストは F4 キー
必須	-	Y=YES, N=NO
担当者オブジェクトを表す キー・フィールド	_____	

続く...

F3= 終了 F4= プロンプト F6= キー・フィールド作成 F12= 取り消し

図 306. Content Manager 索引クラスの作成パネル 2

上記のように「索引クラス作成」画面に入力して、実行キーを押します。

ステップ 3. OnDemand 報告書定義拡張機能の作成

次のステップおよび画面は、「報告書定義の拡張」例を示しています。拡張機能には OnDemand 報告書セグメントと Content Manager 間の関係に関する情報が含まれます。たとえば、OnDemand キー値に対する Content Manager 索引クラスと索引フィールドの対応性のような関係です。

作業を進める前に、Content Manager データ・ライブラリーとプログラム・ライブラリーをライブラリー・リストに追加する必要があります。データ・ライブラリーは、ライブラリー・リスト内でプログラム・ライブラリーよりも前になければなりません。デフォルトでは、データ・ライブラリーは QUSRVI ですが、ご使用の環境では別のデータ・ライブラリーが使用されている可能性があります。プログラム・ライブラリーは QVI です。ライブラリー・リストにいずれかのライブラリーを追加できなかった場合には、エラー・メッセージが出されます。

```

RDARSRPT                ONDEMAND 報告書管理メニュー                システム :   SYS400C4
次の1つを選択してください。

    1. 報告書の検索
    2. 報告書ポリシーの処理
    3. 報告書オーバーレイの処理
    4. 報告書定義の処理
    5. 報告書グループの処理
    6. 報告書定義拡張部分の処理

    10. ONDEMAND ユーザーの編集/認可
    11. ONDEMAND 報告書ユーザーの編集/認可
    12. ONDEMAND 報告書グループ・ユーザーの編集/認可
    13. キーの機密保護の処理

    20. 報告書定義メニュー

                                                                    続く ...

選択項目またはコマンド
===> 6

-----
F3= 終了   F4= プロンプト   F9= コマンドの複写   F12= 取り消し   F13= 情報援助
F16=システム・メイン・メニュー
  
```

図 307. OnDemand 報告書管理メニュー

「ONDEMAND 報告書管理メニュー」画面から、オプション 6「報告書定義拡張機能の処理」を選択し**実行キー**を押します。

```

                                ONDEMAND の管理の処理 (WRKADMRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

管理担当者機能 . . . . . *RPTXT          *REPORT, *RPTGRP, *RPTOVL...
報告書拡張名 . . . . . *ALL          名前, 総称*, *ALL...

                                                                    終わり

F3= 終了   F4= プロンプト   F5= 最新表示   F12= 取り消し
F13= この画面の使用法   F24= キーの続き
  
```

図 308. OnDemand の管理の処理

実行キーを押します。

また、いずれのコマンド行からでも WRKADMRDAR コマンドを使用して、以下に挙げるようにパラメーター TYPE(*RPTEXT) および RPTEXT(*ALL) を指定できます。

WRKADMRDAR TYPE(*RPTEXT) RPTEXT(*ALL)

次の画面が表示されます。

CM FOR ISERIES 報告書定義拡張機能

オプションを入力して、実行キーを押してください。
1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 5= 表示

OPT	報告書 名	報告書 バージョン	索引クラス
1	INVOICETST	01	

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 戻り

図 309. 報告書定義拡張機能リスト・パネル

新しい報告書定義拡張機能レコードを作成するには、以下のようになります。

1. 表示された最初の Opt (オプション) 桁に 1 (作成する場合) を入力する。
2. 報告書名 フィールドに、INVOICETST と入力する。
3. バージョン・フィールドに、01 と入力する。
4. 実行キーを押して、次のパネルに進む。

各フィールドの詳細については、282 ページの『OnDemand および Content Manager の統合コマンド』の WRKADMRDAR 説明を参照するか、F1 キーを押してヘルプを見てください。

ONDEMAND 報告書定義拡張機能の更新

ONDEMAND 報告書名 : INVOICETST
 ONDEMAND 報告書バージョン : 01
 ONDEMAND 報告書記述 : Test Invoices (OnDemand Sample)
 CM FOR ISERIES 索引クラス : INVTEST
 CM FOR ISERIES コンテンツ・クラス : 0303

F3= 終了 F12= 戻り

図 310. 報告書定義拡張機能の更新パネル 1

この画面は、OnDemand 報告書/バージョンを Content Manager の索引クラスを関連付けるために使用します。

コンテンツ・クラスは OnDemand 報告書タイプおよび報告書データ・タイプ (および AnyStore データの場合にはオブジェクト・クラス) によって決まります。スプール・ファイルおよびほとんどの AnyStore データの場合、OnDemand がこの値を設定します。オブジェクト・クラスが 255 (ユーザー定義データ) の AnyStore データでは、コンテンツ・クラスを判別できないため、この画面で入力しなければなりません。ここで入力することのできる有効な Content Manager のコンテンツ・クラスについては、EKD0318 ファイルを参照してください。

索引クラス・フィールドに INVTEST と入力し、**実行キー**を押します。

ONDEMAND 報告書定義拡張機能の更新

ONDEMAND 報告書名 : INVOICETST
 ONDEMAND 報告書バージョン : 01
 ONDEMAND 報告書記述 : Test Invoices (OnDemand Sample)
 CM FOR ISERIES 索引クラス : INVTEST DESC.:
 CM FOR ISERIES コンテンツ・クラス : 0303
 2ND レベル索引出口 : _____
 2ND レベル出口 LIB : _____

ONDEMAND キー・フィールド	指定 キーの関係	CM FOR ISERIES キー・フィールド
1 Invoice No.	1 = 1	1
2 Customer No.	2 = 2	2
3 Salesman	3 = 3	3
4 Invoice Total	4 = 4	4
5 Order#	5 = 5	5
6 報告書日付	6 = 6	6
	- = 7	7
	- = 8	8

F3= 終了 F12= 戻り

図 311. 報告書定義拡張機能の更新パネル 2

この画面を使用して、OnDemand 報告書キーおよび Content Manager 索引クラス・キーの関連を記述します。

上記の例は、6 つの OnDemand キーすべてを Content Manager にマップします。検査テストでは、これは、キーに対して直接マップされます。これは、このサンプルが、すべての OnDemand キーを持つ Content Manager 索引クラスを作成したためです。ほとんどの場合、Content Manager 索引クラスが既に存在することから、ユーザーは異なる順序の索引クラス・キーへマップすることになります。索引クラスのキーの数は、OnDemand 報告書定義より多くても、少なくともかまいません。1 つの OnDemand キーを複数の Content Manager キーにマップすることもできます。

ステップ 4. 報告書記憶処理の開始

報告書記憶処理を始めるには、次のステップを行います。

1. Content Manager データ・ライブラリーが、ユーザーのライブラリー・リストにあるかどうか確かめます。
2. 以下のコピー・ファイル・コマンド (CPYF) を発行し、保存するためのスプール・ファイルを生成します。

CPYF FROMFILE(QRDARS/TSTINV) TOFILE(QRDARS/TSTINVPRTF)

3. ジョブ・コマンドの処理 (WORKJOB) を発行します。次に、オプション 4 を使用して、次のステップで使用するため、スプール・ファイルのジョブ名、ユーザー、ジョブ番号およびスプール・ファイル番号を取得します。
4. 報告書に対して、以下のように「コード化データ記憶の開始」コマンド (STRCDSRDAR) を発行します。一方、ユーザーは、JOB および SPLNBR パラメーター (上記の WRKJOB を使用して決定される) に正しい値を挿入しなければなりません。

**STRCDSRDAR REPORT(INVOICETST) VERSION(01)
SPLF(TSTINVPRTF) JOB(000001/USERID/JOBNAME) SPLNBR(1)**

ステップ 5. Content Manager 外部参照ロード・プログラム (QVIXRFINX) の実行

Content Manager データ・ライブラリーおよび Content Manager ライブラリーに QVIXRFINX が、ユーザーのライブラリー・リストに格納されているかどうか確かめてください。

Content Manager 外部参照索引ロード・プログラムを実行し、OnDemand 報告書参照を Content Manager データベースに追加します。外部参照ロード・プログラムを実行するには、以下の呼び出しコマンドを使用してください。

CALL PGM(QVIXRFINX)

QVIXRFINX プログラムは、未処理の外部データ参照すべてを Content Manager にロードします。したがって、このプログラムは、OnDemand 報告書索引を統合するためにいつでも実行することができます。ジョブ・スケジューラーを使用するなどして、このプログラムを定期的に行うことをお勧めします。

ステップ 6. Content Manager クライアントからの OnDemand 報告書セグメントの検索

Content Manager クライアント・ワークステーションから、Content Manager クライアントにログオンして、検索用の送り状検査索引クラスを選択します。

検索用のセグメントのいずれかを選択してください。高機能印刷ビューアーが起動し、検査報告書を表示するはずですが、

注: OnDemand および、取り出した OnDemand 報告書を使用するユーザーに権限を与える必要があります。270 ページの図 291 の画面の「OnDemand 報告書管理メニュー」画面からオプション 10 およびオプション 11 を使用して、これを実行します。

OnDemand および Content Manager の統合コマンド

このセクションでは、統合ソフトウェアによって提供されるコマンドの実行方法について説明します。Content Manager は、以前は VisualInfo と呼ばれていたため、現在でもコマンドの中では省略形 VI が使用されています。

OnDemand での CM への追加 (ADDVIRDAR) コマンド

CM FOR ONDEMAND への追加 (ADDVIRDAR)		
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
報告書名	INVOICETST	名前, リストは F4
バージョン	01	01-99, *HIGHEST
報告書日付範囲:		
開始日	19990101	日付 (YYYYMMDD), *AVAIL, ...
終了日	19990930	日付 (YYYYMMDD), *CURRENT
CM FOR ISERIES プログラム呼出し	*YES	*YES, *NO

終り

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F10= 追加のパラメーター
F12= 取り消し F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

図 312. OnDemand での CM への追加パネル

「OnDemand での CM への追加 (ADDVIRDAR)」コマンドを使用すれば、ユーザーは、既存の OnDemand 報告書索引を外部参照として、Content Manager に追加することができます。報告書の日付範囲を指定することによって、統合したい OnDemand 報告書を選択できます。

外部参照を Content Manager へ追加するために、Content Manager プログラム QVIXRFINX を呼び出すかどうかを指定します。QVIXRFINX プログラムを呼び出

し、新規外部参照を Content Manager に追加すれば、Content Manager ワークステーション・クライアントから、OnDemand 報告書を検索し、表示することができます。

将来の OnDemand 報告書の統合と、有効期限切れまたは削除済み報告書の除去を自動化するために、ADDVIRDAR を使用して、統合された報告書の該当 OnDemand 報告書定義に、適切な索引出口を必ず追加してください。

OnDemand での Content Manager からの除去 (RMVVIRDAR) コマンド

CM FOR ONDEMAND からの除去 (RMVVIRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

報告書名	INVOICETST	名前, リストは F4
バージョン	01	01-99
報告書日付	19990615	日付 (YYYYMMDD)
報告書順序番号	001	001-999, AAA-999
CM FOR ISERIES プログラム呼出し	*YES	*YES, *NO

終り

F3= 終了 F4=プロンプト F5= 最新表示 F10= 追加のパラメーター
 F12= 取り消し F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

図 313. OnDemand での Content Manager からの削除パネル

「OnDemand での Content Manager からの削除コマンド (RMVVIRDAR)」を使用すれば、削除したい OnDemand 報告書に対する Content Manager の外部参照にマークを付けることができます。この作業のみでは、OnDemand から報告書を削除できません。

Content Manager から外部参照を削除するために、Content Manager プログラム QVIXRFDEL を呼び出すかどうかを指定します。QVIXRFDEL プログラムを呼び出し、Content Manager から外部参照を削除した後では、Content Manager ワークステーション・クライアントから OnDemand 報告書を検索したり表示したりすることはできません。

OnDemand の管理の処理 (WRKADMRDAR) コマンド

ONDEMAND の管理の処理 (WRKADMRDAR)

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

管理担当者機能	<u>*RPTEXT</u>	*REPORT, *RPTGRP, *RPTOVL...
報告書拡張名	<u>*ALL</u>	名前, 総称*, *ALL...

終わり

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F12= 取り消し
F13= この画面の使用法 F24= キーの続き

図 314. OnDemand の管理の処理

TYPE(*RPTEXT) を持つ「OnDemand の管理の処理 (WRKADMRDAR)」コマンドにより、ユーザーは、OnDemand - Content Manager 報告書定義拡張機能の作成、変更、コピー、削除または表示を行うことができます。拡張機能には、OnDemand キーと Content Manager キーの対応のような、OnDemand 報告書セグメントと Content Manager との関係に関する情報が含まれます。285 ページの図 315 は、*ALL を持つ報告書拡張機能を処理する画面の一例を示しています。

注: TYPE(*RPTEXT) パラメーターを持つ **WRKADMRDAR** コマンドを使用できるユーザーは、以下に限られます。

- 有効な Content Manager ユーザー
- OnDemand 管理者
- 必要なすべての Content Manager 索引クラスに対して権限を付与されたユーザー

CM FOR ISERIES 報告書定義拡張機能

オプションを入力して、実行キーを押してください。

1= 作成 2= 変更 3= コピー 4= 削除 5= 表示

OPT	報告書名	報告書バージョン	索引クラス
1	INVOICETST	01	
-	CHECKSTMTS	01	CHECKSTM
-	SUNSEEDS	01	SUNSEEDS

終わり

F3= 終了 F5= 最新表示 F12= 戻り

図 315. 報告書定義拡張パネル

新たに OnDemand - Content Manager 統合サポートを導入した場合、通常、既存の拡張レコードは存在しません。

新規報告書拡張機能を追加するには、以下のようにします。

1. 入力可能な最初の行の Opt (オプション) 桁に、1 を入力する。
2. 入力可能な最初の行の報告書名の桁に、報告書名を入力する。たとえば、INVOICETST と入力する。
3. 入力可能な最初の行の報告書バージョン桁に、01 のように、有効な報告書のバージョンを入力し、**実行キー**を押す。

ONDEMAND 報告書定義拡張機能の更新

ONDEMAND 報告書名 : INVOICETST
ONDEMAND 報告書バージョン : 01
ONDEMAND 報告書記述 : Test Invoices (OnDemand Sample)
CM FOR ISERIES 索引クラス : INVTEST
CM FOR ISERIES コンテンツ・クラス : 0303

F3= 終了 F12= 戻り

図 316. 報告書定義拡張機能の更新パネル 2

OnDemand 報告書定義が存在すれば、その記述が表示されます。存在しなければ、記述はブランクになります。

この OnDemand 報告書と関連付けたい Content Manager 索引クラスを入力して、**実行キー**を押します。

上記の例では、INVTST 索引クラスを使用しています。

ONDEMAND 報告書定義拡張機能の更新

ONDEMAND 報告書名 : INVOICETST
ONDEMAND 報告書バージョン : 01
ONDEMAND 報告書記述 : Test Invoices (OnDemand Sample)
CM FOR ISERIES 索引クラス : INVTEST DESC.:
CM FOR ISERIES コンテンツ・クラス : 0303
2ND レベル索引出口 : _____
2ND レベル出口 LIB : _____

ONDEMAND キー・フィールド	指定 キーの関係	CM FOR ISERIES キー・フィールド
1 Invoice No.	= 1	1
2 Customer No.	= 2	2
3 Salesman	= 3	3
4 Invoice Total	= 4	4
5 Order#	= 5	5
6 報告書日付	= 6	6
	= 7	7
	= 8	8

F3= 終了 F12= 戻り

図 317. 報告書定義拡張機能の更新パネル 3

OnDemand 報告書定義が存在すれば、OnDemand キー・フィールドの記述が表示されます。

Content Manager の索引クラスが存在すれば、索引クラスの記述およびキー・フィールドの記述が表示されます。

注: TYPE(*RPTEXT) を持つ WRKADMRDAR コマンドを実行するユーザーが、有効でない Content Manager ユーザーであると、索引クラスおよびキーの記述はブランクになります。

フィールドおよびその意味は、次のとおりです。

OnDemand 報告書名

統合される報告書を識別するために使用されます。文字の長さは最大で 10 文字までで、* または # の特殊文字を含んでいてはなりません。個々に入力する名前は、OnDemand 報告書定義の名前と正確に一致する必要があります。この項目は、更新または作成の過程で、入力必須のフィールドです。

OnDemand 報告書バージョン

報告書バージョンによって、OnDemand は、同一の報告書を複数回反復して追跡することができます。ここに入力するバージョンは、OnDemand 報告書定義のバージョンとまったく同じでなければなりません。この値は、01 から 99 でなければなりません。この項目は、更新または作成の過程で、入力必須のフィールドです。

OnDemand 報告書の記述

OnDemand 報告書定義の記述

CM for iSeries 索引クラス

統合された OnDemand 文書 (セグメント) に関連する Content Manager 索引クラスを、このフィールドで定義します。OnDemand バッチ・キャプチャーおよび Content Manager の統合を実行する前に、索引クラスを Content Manager に定義します。この項目は、更新または作成の過程で、入力必須のフィールドです。

CM for iSeries 索引クラスの記述

Content Manager 索引クラスの記述

CM for iSeries コンテンツ・クラス

Content Manager (CM) がこの OnDemand 報告書を検索する際に使用する Content Manager のコンテンツ・クラス。指定することのできる有効なコンテンツ・クラスについては、Content Manager EKD0318 ファイルを参照してください。

2 次レベル出口プログラム

OnDemand - Content Manager 統合プロセスにおいて、追加の機能を実行可能にする、IBM 提供のユーザー出口。詳細は、この後のセクションで説明します。これは、更新または作成の過程での、オプションの入力フィールドです。

2 次レベル出口ライブラリー

このフィールドは、上述したユーザー出口プログラムを格納するライブラリーに付ける名前を入れます。

キー関係フィールド

OnDemand では、5 つの検索可能なキーおよび、報告書日付範囲で検索を行う能力がサポートされています。

Content Manager では、最大 8 つの検索キーをサポートします。

OnDemand キー値を Content Manager にマッピングするには、キー値をマッピングする以下の方式を必要とします。

キー関係フィールドは、OnDemand 報告書キーの値を Content Manager キーにマップします。このフィールドには、1 から 6 の値が入ります。

OnDemand すべての報告書に対する報告書日付は、キー 6 です。キー関係を指定するには、Content Manager キーに対応する行の前の行に、OnDemand キー番号を入力します。

このような値のいずれかを指定すると、OnDemand キーが対応する Content Manager 文書キーに置換されます。更新または作成の過程で、少なくとも 1 つのキーを指定する必要があります。

Content Manager 外部参照索引 (QVIXRFINX) のロード

Content Manager 索引ロード・プログラムは、外部参照情報を Content Manager にロードする高速バッチ・インターフェースです。

QVIXRFINX プログラムは、パラメーターを持たず、ユーザーは、このプログラムを繰り返し実行できます。OnDemand が各外部参照を Content Manager に追加すると、Content Manager はそれぞれの外部参照に項目 ID およびオブジェクト ID

を割り当てます。Content Manager は、外部参照インターフェース・ファイルを、処理された各外部参照ごとに、オブジェクト ID で更新します。QVIXRFINX プログラムを再度呼び出すと、このプログラムは未処理のレコードのみを処理します。

呼び出しステートメントの例を次に挙げます。

CALL PGM(QVI/QVIXRFINX)

QVIXRFINX プログラムは、QVI ライブラリー内にあります。

Content Manager 外部参照索引の削除 (QVIXRFDEL)

Content Manager 索引削除プログラムは、Content Manager から外部参照情報を削除するバッチ処理プログラムです。システムは、ユーザーが、Content Manager で外部参照を再度再索引付けしていても、ワークフロー・プロセスに入れていても、外部参照を削除します。また、Content Manager の外部参照の注釈も注もすべて削除します。

QVIXRFDEL プログラムは、パラメーターを持たず、ユーザーは、これを繰り返し実行できます。Content Manager は、削除マークが付けられている外部参照のみを削除します。

呼び出しステートメントの例を次に挙げます。

CALL PGM(QVI/QVIXRFDEL)

QVIXRFDEL プログラムは、QVI ライブラリー内にあります。

索引出口 (QRLWEXITV)

QRLWEXITV 索引出口プログラムは、OnDemand コマンド STRCDSRDAR または STRMONRDAR のいずれかが発行されたときに呼び出されます (ただし、このプログラムが OnDemand 報告書定義の索引出口フィールドで指定されている場合)。出口プログラムは、OnDemand 報告書定義拡張ファイルを使用して、OnDemand 報告書のキー値を対応する Content Manager の索引クラスにマップする方法を決定します。QRLWEXITV プログラムは、外部データ参照レコードを Content Manager インターフェース・ファイル (EKD0314) に追加します。

索引出口 (QRLWEXITVM) - マルチ・キー

QRLWEXITVM 索引出口プログラムが呼び出されるのは、次の場合です。すなわち、OnDemand コマンド STRCDSRDAR または STRMONRDAR のいずれかが発行されたとき、(ただし、このプログラムが OnDemand 報告書定義内の索引出口フィールドで指定されている場合) および QRLWINZV プログラムが呼び出されたときです。出口プログラムは、OnDemand 報告書定義拡張ファイルを使用して、OnDemand 報告書のキー値を対応する Content Manager の索引クラスにマップする方法を決定します。QRLWEXITV プログラムは、外部データ参照レコードを Content Manager インターフェース・ファイル (EKD0314) に追加します。

OnDemand 報告書キーまたは表示フィールドのいずれかが、マルチ・キー・フィールドの場合は、QRLWEXITVM 索引出口を使用しなければなりません。

このマルチ・キー索引出口を Content Manager 統合に使用すると、マルチ・キーのキー値が報告書のそれぞれの索引付き行で繰り返されていない場合、予期しない結

果が生じる可能性があります。たとえば、キー 3 が部門番号で、キー 4 が従業員名であるとして、部門番号がページ上の**最初の**従業員名の隣りにのみ出力されて、そのページのそれ以降の従業員名の隣りには出力されないとすると、この出口プログラムは、その部門番号を最初の従業員名のみに関連付けません。それ以降の従業員名には、ブランクの部門番号が関連付けられます。このような報告書については、ADDVIRDAR および RMVVIRDAR コマンドを使用して報告書の統合および削除を行うか、あるいは、元の報告書を変更して、出力ページで部門番号の繰り返しを追加することができます。

索引出口 - 追加情報

- 何らかの理由で、ユーザーが Content Manager 統合に加えて別の索引出口を必要とする場合は、独自の索引ユーザー出口プログラムを作成することもできます (307 ページの『付録 A. OnDemand スプール・ファイル保存ユーザー出口プログラムおよび API』を参照)。次に、ユーザー自身のプログラムから、同じパラメーター構造を渡して、QRLWEXITV または QRLWEXITVM プログラムを呼び出します。プログラムに、**QRLWExxxxx** という名前を付けます。ここで、**xxxxx** は、意味を持つ文字であればどのような文字でも構いません。新しいプログラム名は、索引出口 フィールド内の OnDemand 報告書定義で入力する名前になります。
- QRLWExxxxx というユーザー出口命名規則を使用すると、どの OnDemand 報告書が Content Manager と統合されるのかを識別することができます。これにより、報告書が OnDemand から削除されたり有効期限切れになったりしたときに、OnDemand がその報告書を Content Manager から除去するように自動的に指定されます。

2 次レベル索引出口

OnDemand および Content Manager 間のアプリケーション統合レベルを拡張するために、OnDemand 報告書定義拡張ファイルでは、2 次レベルの索引出口の指定をサポートしています。ユーザーは、このユーザー出口プログラムを作成し、標準ソフトウェアで提供される機能以外の追加機能を実行できます。出口プログラムは、顧客データベースの取り込み、Content Manager API の発行などを行うことができるよう、OnDemand キーを含むすべてのパラメーターを受け取ります。

パラメーター			
必須パラメーター・グループ:			
1	OnDemand 報告書名	入力	Char(10)
2	OnDemand 報告書バージョン	入力	Char(2)
3	OnDemand 報告書日付 (YYYYMMDD 形式)	入力	Packed(8,0)
4	OnDemand 報告書順序番号	入力	Char(3)
5	OnDemand 報告書セグメントの変位	入力	Packed(11,0)
6	OnDemand キー 1 の値	入力	Char(25)
7	OnDemand キー 2 の値	入力	Char(20)
8	OnDemand キー 3 の値	入力	Char(20)

9	OnDemand キー 4 の値	入力	Char(20)
10	OnDemand キー 5 の値	入力	Char(15)
11	Content Manager 索引クラス	入力	Char(8)
12	Content Manager コンテンツ・クラス	入力	Char(4)
13	予約済み	入力	Char(50)

原則として、ユーザーは、異なる出口を必要とする OnDemand 報告書に対し、特定環境での知識を利用して、異なる 2 次レベルの出口を書くことができます。索引出口を報告書定義拡張機能に名前を付けることによって、各報告書は、固有の 2 次レベルの索引出口 (必要な場合) を持つことができます。

プログラマーは、対話的に使用される特定のものを除き、すべての Content Manager API を 2 次レベルの出口で自由に使用できます。2 次レベルの出口が呼び出される時点では、その文書に関するすべての Content Manager インターフェース・ファイルの更新が完了しています。プログラマーは、適切にカスタマー・ファイルなどを管理できるよう、2 次レベルの出口をコードする必要があります。STRCDSRDAR および STRMONRDAR コマンドによって開始される索引出口プログラム (QRLWEXITV および QRLWEXITVM) は、2 次レベルの出口を呼び出します。

2 次レベルの出口の統合では、プログラマーに代わって 2 次レベルの索引ファイルを自動的に閉じることはありません。

ILE プログラムの場合には、活動化グループを *CALLER に設定して 2 次レベルの出口プログラムをコンパイルしてください。

問題判別

Content Manager クライアント・メッセージ

FRN6556A: システムは、このオブジェクトを取得できません。

これは、やや一般的なメッセージであり、Content Manager クライアントが OnDemand セグメントを表示できないときに表示されます。このメッセージが表示される原因は次のとおりです。

1. このユーザーには、OnDemand ユーザーの権限がない。
2. このユーザーには、OnDemand 報告書の権限がない。
3. このユーザーには、特定の報告書セグメント (キーの機密保護) に対する権限がない。
4. 報告書の有効期限が満了し、該当する報告書が削除されたので、OnDemand 報告書セグメントが存在しない。
5. この報告書の OnDemand 報告書索引は、テープまたは光ディスクに移行された。
6. この報告書セグメントは光ディスク・ストレージにあるが、該当する光ディスクが光ディスク・ライブラリーに存在しない。

7. 報告書セグメントは、テープ上に存在する。システムは、報告書を再度呼び出すために、自動的にバッチに要求をサブミットするが、システムが報告書を再度呼び出すまでの間に、ユーザーはこのメッセージを受け取る。

OS/400 メッセージ

MCH0802: 渡されたパラメーターの合計と、要求された数とが一致しない。プログラム **QRLRCDS** が、多すぎるパラメーターを使ってプログラム **QRLWEXITV** を呼び出そうとしました。

最低 1 つのキー値を持ち、マルチ・キーが「Yes」に設定されている報告書 **QRLWEXITV** を使用して報告書を保存する際に、このメッセージが表示されます。(この場合は、代わりに、**QRLWEXITVM** を使用してください。) ユーザーの報告書定義が **QRLWEXITVM** を使用しているのに、報告書にマルチ・キーのキーがない場合にも、類似のメッセージが表示されます。また、ユーザーが正しい索引出口を使用したか、誤って報告書定義内に **INPUT EXIT** フィールドに置いた場合にも、同様のメッセージが表示されます。

回復: マルチ・キー報告書を保存する際には、**QRLWEXITV** の代わりに **QRLWEXITVM** 索引出口を使用してください。

LNR7200: ライブラリー '**QRDARS**' (**C D F G**) 内のプログラム・オブジェクト '**QRLWADMV**' でメッセージ '**MCH3402**' が出ています。

このメッセージは、該当ジョブのライブラリー・リストに **Content Manager** のデータ・ライブラリーまたはプログラム・ライブラリーのいずれかが追加されていない場合に、**OnDemand** 報告書定義拡張子を処理しようとしたときに表示されます。

回復: ライブラリー・リスト項目追加 (**ADDLIBLE**) コマンドを使用して、欠落している **Content Manager** のデータ・ライブラリーまたはプログラム・ライブラリーをライブラリー・リストに追加してください。 **Content Manager** データ・ライブラリーは、ライブラリー・リスト内でプログラム・ライブラリーよりも前になければなりません。

LNR7204: 呼び出し先プログラム '**QVIAP1**' (**C D F G**) でメッセージ '**CEE9901**' が出ています。

このメッセージは、該当ジョブのライブラリー・リストに **Content Manager** のデータ・ライブラリーもプログラム・ライブラリーも追加されていない場合に、**OnDemand** 報告書定義拡張子を処理しようとしたときに表示されます。

回復: ライブラリー・リスト項目追加 (**ADDLIBLE**) コマンドを使用して、**Content Manager** のデータ・ライブラリーおよびプログラム・ライブラリーをライブラリー・リストに追加してください。 **Content Manager** データ・ライブラリーは、ライブラリー・リスト内でプログラム・ライブラリーよりも前になければなりません。

第 8 章 OnDemand スプール・ファイル保存エンド・ユーザーとしての作業

OnDemand の使用を開始する前に、「IBM Content Manager OnDemand for iSeries 導入の手引き」の第 3 章を一読することをお勧めします。そこには、以下の情報が記載されています。

- 表示される画面
- 必要に応じて (画面またはフィールドに関する) ヘルプを取得する方法
- 新しい用語の定義

保存された報告書を検索して、表示、印刷、ファクシミリの送信、または注釈付けを行う作業を担当する場合には、この章でその方法を説明しています。まず、見つけた報告書または報告書グループの名前を入力します。次に、その報告書または報告書グループ内での詳細情報を検索し、最後に、情報の印刷またはファクシミリ送信を行うことができます。

はじめに

システム管理者は、OnDemand への機密保護アクセスをユーザーに認可しているはずですが、通常、「報告書の検索の指定」画面から作業を始めることになります。294 ページの図 318 の画面を表示するには、次の 3 つの方法があります。

1. 既存のアプリケーション・メニューのいずれかからメニュー・オプションを選択する (適切なメニュー・オプションがプログラマーによって追加されている場合)。実行キーを押します。
2. OS/400 コマンド行から**高速パス (fast-path)** コマンドを使用して、直接表示する。OS/400 コマンド行で、**FNDRPTRDAR** と入力します。実行キーを押します。(ユーザーによっては、コマンド行にコマンドを入力することができない場合があります。)
3. OnDemand メイン・メニューからオプション **1** を選択します。実行キーを押します。(通常、エンド・ユーザーが、この方法で OnDemand 報告書にアクセスすることはありません。)

294 ページの図 318 の画面が表示されます。

報告書の検索

次の画面を使用して、報告書または報告書グループの検索を開始します。（詳細情報が必要な場合には、**F1** を押してヘルプ を表示します。）

報告書検索の指定 ONDMD400
98/01/04 14:27:53

```

000      DDDD      D
0 0      D  D      D
0 0 NNNN D  D EEE  MMM MM  AAAA NNNN  DDDD
0 0 N  ND  DE  E M  M  A  AN  ND  D
0 0 N  ND  DEEEE M  M  A  AN  ND  D
0 0 N  ND  DE  M  M  A  AN  ND  D
000 N  N DDDD  EEE  M  M  M  AAAA N  N  DDDD
    
```

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

報告書 CHECKSTMTS 名前, 総称*, リストは F4 キー
 -または-
 報告書グループ _____ 名前, 総称*, リストは F4 キー

日付の範囲
 始め _____ YYYYMMDD
 終わり _____ YYYYMMDD

F3=終了 F4=プロンプト F12=取り消し

図 318. 報告書検索の指定

特定の報告書名または報告書グループ名を入力した場合は、**実行キー**を押して、295 ページの図 321 に進んでください。

報告書の選択 ONDMD400
98/01/04 14:31:11

オプションを入力して、実行キーを押してください。
 1=選択

オプション	報告書	テキスト
	AGEDOC	経過日数 DOC
	AGEOPN	経過売掛金報告書
	AIC250	倉庫報告書
	ANNOUNCE	製品リスト
	APCHK	A/P 検査
	AP437	A/P 会計リスト
	BEL3549	銀行編集
	BRMS50	テープ処理 RPT
	BUDGET	予算報告書
	CHECKSTMTS	Check Statements (OnDemand Sample)
	GLDAILY	会計による G/L 日次
	GLTRANS	G/L トランザクション報告書

続く...

F3=終了 F12=取り消し

図 319. 報告書の選択

この画面には、報告書およびその記述のリストが表示されます。報告書名は、その名前で作成され、検索が可能な報告書が少なくとも 1 つある場合にのみ、この画面に表示されます。

実行キーを押すと、図 321 の画面が表示されます。

報告書グループの選択			ONDMD400
オプションを入力して、実行キーを押してください。			98/01/04 14:32:05
1=選択			
オプション	報告書グループ	テキスト	
	ACCTG	会計報告書	
	INVENT	在庫報告書	
	INVINFO	送り状-関連報告書	
	IS	情報システム報告書	
F3=終了 F12=取り消し			続く...

図 320. 報告書グループの選択

この画面には、報告書グループおよびその記述のリストが表示されます。報告書グループは、その名前で保存され、検索が可能な報告書が少なくとも 1 つある場合にのみ、この画面に表示されます。

実行キーを押すと、図 321 の画面が表示されます。

報告書結果の選択						ONDMD400
オプションを入力して、実行キーを押してください。						98/01/04 14:29:08
1=選択						
OPT	報告書	報告書日付	順序 番号	位置	テキスト	
1	CHECKSTMTS	1995/06/01	001	DISK	Check Statements	
	CHECKSTMTS	1995/05/01	001	DISK	Check Statements	
	CHECKSTMTS	1995/04/01	001	OPTICAL	Check Statements	
	CHECKSTMTS	1995/03/01	001	OPTICAL	Check Statements	
	CHECKSTMTS	1995/02/01	001	OPTICAL	Check Statements	
	CHECKSTMTS	1995/01/01	001	OPTICAL	Check Statements	
	CHECKSTMTS	1994/12/01	001	OPTICAL	Check Statements	
	CHECKSTMTS	1994/11/01	001	OPTICAL	Check Statements	
	CHECKSTMTS	1994/10/01	001	OPTICAL	Check Statements	
F3=終了 F12=取り消し						続く...

図 321. 報告書結果の選択

この画面には、名前が **CHECKSTMTS** のすべての報告書に関する検索結果が表示されます。(この例では、特定の日付の **CHECKSTMTS** 報告書は要求していません。)

実行キーを押して、296 ページの図 322 の画面に進みます。

検索の特定化

この画面には、**CHECKSTMTS** に関する詳細情報が表示されます。

文書検索の指定		ONDMD400
報告書	: CHECKSTMTS	98/01/04 14:40:45
報告書タイプ	: DOC	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キーの値:		必須のキー長
1. Account Number	_____	1 - 9.
2. SSN / Tax-ID	_____	1 - 11.
3. Cust Name	_____	1 - 12.
すべての報告書順序番号の検索	Y	Y=YES, N=NO 1-999
報告書順序番号	001	
日付の範囲:		
始め	19950217	YYYYMMDD
終わり	19950217	YYYYMMDD
F3=終了 F12=取り消し		

図 322. 文書検索の指定

該当の報告書が報告書グループの一部である場合には、この画面ではなく、図 323 の画面が表示されます。

文書検索の指定		ONDMD400
報告書/グループ	: CKSTM / CUSTSERV	98/01/04 14:46:55
報告書タイプ	: DOC	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キーの値:		必須のキー長
1. Account Number	_____	1 - 9.
2. SSN / Tax-ID	_____	1 - 11.
3. Cust Name	_____	1 - 12.
すべての報告書順序番号の検索	Y	Y=YES, N=NO 1-999
報告書順序番号	001	
日付の範囲:		
始め	19950217	YYYYMMDD
終わり	19950217	YYYYMMDD
F3=終了 F6=グループの検索 F12=取り消し		

図 323. 文書検索の指定

キーの値のフィールドにより、キー (索引) を使用して検索を限定することができます。たとえば、会計番号全体を入力したり (完全修飾検索キーの場合)、会計番号の一部を入力したり (部分修飾検索の場合) することができます。システム管理者は、報告書を定義するときにこれらのキーを作成し、そのリストをユーザーに示します。キーは、例で使用しているものとは異なるものになります。

以下のフィールドの少なくとも 1 つを使用する必要があります。(5 つのフィールドが画面に表示される場合があります。)

この例では、表示されるフィールドは次のとおりです。

報告書名/グループ名

これは、選択された報告書名 (および存在する場合は、報告書グループ名) です。

報告書タイプ

この例では、文書 (**DOC**) タイプの報告書です。

他のタイプとして、**PAGE** あるいは **NODX** (索引なし) があります。

この例では、使用されるフィールドは次のとおりです。

1. Account Number

最初の全体または部分キーを入力します。部分キーは、アスタリスク (*) が後に続く 1 つ以上の英数字から構成されます。索引を検索する場合、OnDemand は、アスタリスクの左側の文字のみを考慮します。(キー構造の特殊な性質により、部分キーは、**PAGE** タイプの報告書ではサポートされません。)

例: **251*** などの部分キー検索では、**251** から始まる会計番号を持つすべての小切手報告書が検索されます。

***ALL** を入力して、報告書のすべてのセグメントを表示することができます。

2. SSN/Tax-ID

2 番目の全体または部分キーを入力します。

3. Cust Name

3 番目の全体または部分キーを入力します。

すべての報告書順序番号の検索

次のいずれかを入力します。

- **Y** (該当の日付のすべての報告書作成の実行 (順序番号) を検索する場合)。
- **N** (「報告書結果の選択」画面から選択した順序番号の報告書のみを検索する場合)。

このフィールドを変更することによって、より多くの、またはより少ない報告書を検索することができます。

報告書順序番号

表示したい日付の報告書の順序番号 (001 から始まる) を入力します。

このフィールドを変更して、該当の日付の別の順序番号の報告書を表示することができます。

報告書日付範囲

始め と 終わり のフィールド値は、文書検索メニューからの値です。

これらの日付を変更して、検索の範囲を広げ、複数日の実行順序番号の報告書を組み込むことができます。

• **F6 = グループの検索**

機能キーは、選択した報告書が報告書グループに属する場合のみ表示します。そのグループのすべての報告書を検索するには、このキーを押します。

無効なデータを入力した場合には、通知メッセージが画面の下部に表示されます。

次のいずれかのキーを押します。

- **実行キー**を押して、図 324 の画面に進みます。
- 報告書グループ内のすべての報告書を検索するには、**F6** を押します (該当の報告書が報告書グループに属する場合)。

グループ検索を選択した場合には、図 324 の画面の最後の欄は、報告書グループの特定の報告書名によって置き換えられます。

文書の処理						ONDMD400
グループ :						98/01/04 15:03:19
報告書 :	CHECKSTMTS	Check Statements	(OnDemand Sample)			
選択項目を入力して、実行キーを押してください。						
5=表示 6=印刷 7=ファクシミリ A=注釈						
OPT	日付	Account Number	SSN / Tax-ID	Cust Name	Ending Balance	
*	19950217	251000022	255-77-4993	KATIE ALLEN \$	0.48	
	19950217	251000055	236-55-3387	DIANNE WIEST \$	5,671.46	
	19950217	251000261	253-26-8119	JESSICA LANG \$	1,186.05	
	19950217	251000287	230-88-4523	FORREST GUMP \$	1,416.33	
	19950217	251000352	225-88-9441	GRETA GARBO \$	3,777.69	
	19950217	251000394	421-33-1886	MARK MIKEAL \$	1,344.67	
	19950217	251000469	409-33-2298	JIM WHITMIRE \$	21,016.47	
	19950217	251888888	888-88-8888	ALICE WONDER \$	56.84	
						続く...
F3=終了 F12=取り消し						

図 324. 文書の処理

この画面には、検索値に合致する報告書文書のリストが、各文書に関する追加情報を伴って表示されます。(この例の欄の見出しは、ユーザーの画面と一致しない場合があります。) 文書の横にあるアスタリスク (*) は、その文書に注釈 (注) が存在することを示します。報告書の幅が画面に収まらなると、OnDemand は列見出しの 2 行目を表示します。見出しが最初の行の下に表示され、追加の機能キー (**F11=表示の変更**) が画面の下部に表示されます。これによって画面を切り替えることができるので、すべてのデータを参照することができます。使用している表示装置が 132 桁の広い表示をサポートする場合には、OnDemand は自動的に広い画面で情報を表示します。そのため、**F11** を押す必要はありません。

報告書タイプによっては、ページ番号またはセグメント番号の列見出しが表示されます。これらの値の有効数字をすべて表示することのできる十分な列幅がない場合は、データの代わりに正符号 (++++++) が表示されます。この場合は、OnDemand システム管理者に依頼して、報告書定義を変更して長いキー名の指定を受けてください。これによって、値を表示するのに十分な幅まで列が広がります。

OPT 文書を表示するには、**5** を入力します。複数の文書を表示したい場合に、それぞれの文書の前に **5** を入力すると、順々に該当する文書が表示されます

(次の文書の表示に進むには、**実行キー**、**F3**、または **F12** を押します)。画面に **5= 表示** ではなく、**5= 結合表示** が表示されている場合、ユーザーのプロファイルは、複数の文書を一度に表示できるように設定されています。この場合、複数の文書の前に **5** を入力すると、OnDemand はそれらの文書を 1 つの文書に結合して表示します。

実行キーを押して、300 ページの図 325 の画面に進みます。

OPT 文書を印刷するには、印刷したい文書の前の **OPT** 欄に **6** を入力します。複数の文書を順々に印刷したい場合には、それぞれの文書の前に **6** を入力します (次の文書の印刷に進むには**実行キー**を押します)。画面に **6=印刷** ではなく、**6=結合印刷** が表示されている場合、ユーザーのプロファイルは、複数の文書を一度に印刷できるように設定されています。この場合、複数の文書の前に **6** を入力すると、OnDemand はそれらの文書を 1 つの文書に結合して印刷します。

実行キーを押して、301 ページの図 326 の画面に進みます。

OPT 文書のファクシミリ送信を行いたい場合には、該当の文書の前の **OPT** 欄に **7** を入力します。複数の文書を順々にファクシミリ送信するには、それぞれの文書の前に **7** を入力します (次の文書のファクシミリ送信に進むには**実行キー**を押します)。画面に **7=ファクシミリ** ではなく、**7=結合ファクシミリ** が表示されている場合、ユーザーのプロファイルは、複数の文書を一度にファクシミリ送信できるように設定されています。この場合、複数の文書の前に **7** を入力すると、OnDemand はそれらの文書を 1 つの文書に結合してファクシミリ送信します。

実行キーを押して、301 ページの図 326 の画面に進みます。

OPT 文書の注釈を表示または追加する場合は、**A** を入力します。複数の文書について連続して注釈を処理する場合は、複数の文書の前に **A** を入力します。

実行キーを押して、301 ページの図 326 の画面に進みます。

文書の表示

この画面を使用して、報告書を見ることができます。

スプール・ファイルの表示

ファイル :	CHECKSTMT	ページ/行	1/2
制御 :	_____	桁	1 - 78
検索 :	_____		

*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...+...

P. O. BOX 980
MARION, S.C. 29571

ACCOUNT NAME: KATIE ALLEN

25 LABRADOR AVENUE
MARION S C 29571

PAGE 1 OF 4 NOVEMBER 20 - DECEMBER 19, 1990

ACCOUNT
CHECKS EN

CONTENTS SCN CHECKING SOC.SEC.N
OF THIS WITH INSTANT CASH RESERVE
STATEMENT

FOR INFORMATION ABOUT ACCOUNT ACTIVITY, CALL 423-6722.

続く...

F3=終了 F12=取消し F19=左 F20=右 F24=キーの続き
重ね印刷は表示されない。

図 325. スプール・ファイルの表示

- 文書内を画面移動 (スクロール) するには、次のキーを使用します。
前ページ、次ページ、**F19** (左)、または **F20** (右)。
- 文書の先頭に戻る場合には、以下を行います。
制御 フィールド (画面の上部) に **T** を入力して、**実行キー**を押します。
- 文書の終わりに移動する場合には、以下を行います。
制御 フィールド (画面の上部) に **B** を入力して、**実行キー**を押します。
- 文書中のある語を検索する場合には、以下を行います。
検索 フィールド (画面の上部) に検索したい語を入力して、**F16** を押します。
(システムのセットアップの方法によっては、検索時に検索文字を大文字と小文字で入力する必要が生じる場合があります。)

「報告書検索の指定」画面 (294 ページの図 318) に戻る場合には、**F3** を押します。

301 ページの図 326 の画面を使用して文書の印刷、ファクシミリ送信、または注釈の処理を行う場合には、**ATTN** キーを押します。

F12 を押して、文書検索メニューに戻り、検索基準を変更することもできます。

印刷、ファクシミリの送信、または注釈の処理

この画面は、「スプール・ファイルの表示」画面 (図 325) で **ATTN** キーを押すと表示されます。オプション 6=印刷 (または 6=結合印刷) を直接選択すると、302 ページの図 327 の画面が表示されます。オプション 7=ファクシミリ (または 7=結合ファクシミリ) を直接選択すると、302 ページの図 328 の画面が表示されます。オ

プシヨン A=注積を直接選択すると、文書に注積が存在する場合は、303 ページの図 330 の画面が表示されます。文書に注積が存在しない場合は、304 ページの図 331 の画面が表示されます。

文書の印刷/ファクシミリ送信				ONDMD400	
				98/01/04 15:05:45	
文書のページ数 :				1	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。					
6=印刷 7=ファクシミリ A=注積					
OPT	日付	Account Number	SSN / Tax ID	Cust Name	Ending Balance
6 *	19960627	251000022	255-77-4993	KATIE ALLEN	\$ 0.48
					終わり
F3=終了 F12=取り消し					

図 326. 文書の印刷/ファクシミリ送信/注積

使用するフィールドは、次のとおりです。

文書のページ数

このフィールドは、該当のセグメント（この例では、小切手報告書）のページ数を示します。このフィールドは変更できません。

OPT 次のいずれかを入力します。

- **6** (302 ページの図 327 の画面に進む場合)。
- **7** (302 ページの図 328 の画面に進む場合)。
- **A** (注積が存在すれば 303 ページの図 330 の画面に、注積が存在しなければ 304 ページの図 331 の画面に進む場合)。

実行キーを押します。

文書の印刷

この画面には、印刷オプションの選択項目が表示されます。

文書の印刷		ONDMD400
文書のページ数	1	98/01/04 15:09:05
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
印刷装置名	PRT01 _____	名前
-または-		
出力待ち行列	_____	名前
ライブラリー	*LIBL _____	名前, *LIBL
コピー部数	1__	1-999
ページ範囲:		
開始ページ	1_____	1-9999999999
終了ページ	*END _____	1-9999999999, *END
報告書オーバーレイの使用 . . .	*NO_	*YES, *NO
F3=終了 F12=取り消し		

図 327. 文書の印刷

実行キーを押すと、印刷が行われます。

この画面で入力する情報 (たとえば、印刷装置名や出力待ち行列名) は、保管されます。したがって、次回の印刷要求の時点では、その情報を再入力する必要はありません。

文書のファクシミリ送信

次の画面 (図 328) を使用して、ファクシミリのアドレッシングおよび送信を行います。

文書のファクシミリ送信		ONDMD400
文書のページ数	1	98/01/04 15:13:12
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
発信ファクシミリ番号	_____	
カバー・ページ	*YES	*YES, *NO
タイトル	_____	
送り先	_____	

送信元	_____	

注記行	_____	
ファクシミリ・モード	*NORMAL	*NORMAL, *FINE
コピー部数	1__	1-999
続く...		
F3=終了 F12=取り消し		

図 328. 文書のファクシミリ送信 (2 の 1)

実行キーを押すと、303 ページの図 329 の画面が表示されます。

文書のファクシミリ送信		ONDMD400
		98/01/04 15:13:12
文書のページ数	1	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
ページ範囲:		
開始ページ	1	1-9999999999
終了ページ	*END	1-9999999999, *END
報告書オーバーレイの使用 . . .	*NO	*YES, *NO
終わり		
F3=終了 F12=取り消し		

図 329. 文書のファクシミリ送信 (2 の 2)

実行キーを押すと、ファクシミリの送信が行われます。

注釈の処理

文書に注釈が存在する場合は、図 330 に示す画面が表示されます。

報告書注釈		ONDMD400
		98/01/04 15:13:12
報告書	CHECKSTMTS/01/19960627.001	
	Check Statements (OnDemand Sample)	
Account Number	SSN / Tax ID	Cust Name Ending Balance
251000022	255-77-4993	KATIE ALLEN \$ 0.48
注釈	1997-11-04 12:00:37	NOBRIEN
Katie called to say she figured out her earlier questions...		
注釈	1997-11-03 14:47:40	NOBRIEN
Katie called today with general questions about account.		
F3=終了 F6=注釈の追加 F12=取り消し		

図 330. 報告書注釈 (注釈が存在する場合)

注釈の画面を終了するには、**F3** を押します。

注釈が存在しない場合、あるいは **F6** を押して図 330 から注釈を追加する場合は、304 ページの図 331 に示す画面が表示されます。

報告書注釈		ONDMD400
		98/01/04 15:13:12
報告書	CHECKSTMTS/01/19960627.001	
	Check Statements (OnDemand Sample)	
Account Number	SSN / Tax ID	Cust Name
251000022	255-77-4993	KATIE ALLEN
		Ending Balance
		\$ 0.48
共通で使用可能な注釈 Y Y=YES, N=NO		
注釈テキストを入力してから、実行キーを押して追加してください。		

続く...		
F3=終了 F12=取り消し		

図 331. 報告書注釈 (注釈を追加する場合)

実行キーを押して注釈を追加した後、**F6** を押し、注釈の追加を確認します。注釈の画面を終了するには、**F3** を押します。

検索基準の変更

次の画面 (図 332) を使用して、検索基準の一部を変更することができます。

文書検索の指定		ONDMD400
		98/01/04 14:40:45
報告書	CHECKSTMTS	
報告書タイプ	DOC	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
キーの値:		必須のキー長
1. Account Number . .	161079652_____	1 - 9.
2. SSN / Tax-ID . . .	_____	1 - 11.
3. Cust Name	_____	1 - 12.
すべての報告書順序番号の検索 Y Y=YES, N=NO		
報告書順序番号	001	1-999
日付の範囲:		
始め	19900101	YYYYMMDD
終わり	_____	YYYYMMDD
F3=終了 F6=グループの検索 F12=取り消し		

図 332. 文書検索の指定

この画面の情報を変更して、特定の日付範囲内で、別の会計番号を持つ文書を検索することができます。

上記の例では、

1. Account Number

161079652

始め 19900101

終わり 当日の日付を入力するか、またはこのフィールドをブランクのままにすることができます。

実行キーを押すと、検索基準に合致する文書が 1 つのみの場合、図 333 の画面がただちに表示されます。(複数の報告書が見つかった場合には、中間の画面にそれらの報告書が表示されます。)

スプール・ファイルの表示		ページ/行	1/2
ファイル :	CHECKSTMTS	桁	1 - 78
制御 :			
検索 :			
*...+...1...+...2...+...3...+...4...+...5...+...6...+...7...+...			
P. O. BOX 980			
MARION, S.C. 29571			
JOHN DOE			
SPECIAL ACCOUNT			
15 OAK STREET			
MARION S C 29571			
PAGE 1	OF 1	NOVEMBER 20 - DECEMBER 19, 1990	ACCOUNT CHECKS E
CONTENTS OF THIS STATEMENT		SCN CHECKING	SOC.SEC.
F3=終了 F12=取り消し F19=左 F20=右 F24=キーの続き			続く...

図 333. スプール・ファイルの表示

F3 を 3 回押すと、「OnDemand 報告書検索の指定」画面 (294 ページの図 318) に戻り、報告書の検索を続けることができます。

OnDemand の終了

「報告書の選択」画面で **F3** を押します。また、OS/400 コマンド行で **SIGNOFF** と入力しても OS/400 を完全に終了することができます。

付録 A. OnDemand スプール・ファイル保存ユーザー出口プログラムおよび API

この付録では、OnDemand により提供され、ユーザー環境のカスタマイズに役立つスプール・ファイル保存ユーザー出口プログラムおよびアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) について説明しています。

OnDemand には、幅広い各種機能に対するサンプル・プログラムのソース・コードが組み込まれています。これらの機能の中には、入力、索引、出力待ち行列モニター、およびアンバンドル・ユーザー出口プログラムなどがあります。サンプル・ソース・ファイルの名前は **QSAMPLES** です。このソース・ファイルのコピーはライブラリー **QRDARS**、および **QUSRRDARS** に含まれて出荷されます。**QRDARS** 内のファイルは、新規または修正されたソース・コードがあると PTF により更新されることがありますが、**QUSRRDARS** 内のファイルは変更されません。これは、設計によるものです。IBM は、**QRDARS** メンバーをコピーして、サンプルとして使用することをお勧めします。カスタマイズしたプログラムは、ライブラリー **QUSRRDARS**、またはユーザー自身のアプリケーション・ライブラリーに入れることができます。こうしておけば、設計どおりに機能する、修正されていない一連のサンプルを常備しておくことができます。

基本ユーザー出口

以下に説明するように、多くのユーザー出口が提供されます。

入力出口

***OTHER** の報告書データ・タイプ (報告書定義で指定されている) に対してのみ有効なオプション入力出口により、スプール・ファイル・データ (非 AFP) を報告書収集プログラムが調べる前に、そのスプール・ファイル・データをユーザー自身のプログラムで制御することができます。報告書定義の入力出口 フィールドにプログラム名を指定すると、報告書収集の処理機能は、入力ファイルを読み取るために該当の出口プログラムを呼び出します。

入力出口でスプール・データを使用して、たとえば、値の変更や他の基幹業務ファイルとの相互検査を実行することができます。この出口は、1 回に 1 ページ分のデータを処理します。すなわち、この出口プログラムは、ページ・バッファの 1 ページを形式設定するのに十分な印刷行を読み取って、そのバッファを報告書収集プログラムに渡します。

報告書収集プログラムが入力出口を呼び出す際に交換されるフィールドは、次のとおりです。

- ページ・バッファ - 256 バイト x 256 行

出口プログラムは、1 ページの印刷行をこのページ・バッファに入れます。このバッファには、1 印刷行あたり最大 256 文字を含む最大 256 行を入れるこ

とができます。印刷行は、1 列あたり、255 文字のデータと、紙送り制御文字からなっています。このページ・バッファ内のデータは、一般にユーザー出口プログラムが変更します。

- **行カウント** - 4 バイト (2 進数)

このフィールドには、出口プログラムがバッファを報告書収集プログラムに戻す際に、ページ・バッファにある印刷行の実際の数が入れます。このフィールドの値は可変です。このフィールドは、通常は変更されません。

- **レコード状況** - 3 バイト

この状況は次のいずれかになります。

EOF (最後のページが検出された場合)。

ERR (通常処理でエラーが生じた場合)。

このフィールドは変更してはなりません。

入力出口がページ・バッファにページを作成し、そのページを報告書収集プログラムに戻した後で、その収集プログラムはそのページをそれ自身のページ・バッファに移します。その後、収集プログラムは、セグメンテーション、索引抽出、圧縮、および OnDemand によるファイル更新の制御などの通常の処理を続けます。

ライブラリー **QRDARS** のソース・ファイル **QSAMPLES** にサンプルの入力ユーザー出口プログラムが入っています。

索引出口 (複数キー・フィールドを持たない報告書の場合)

報告書収集プログラムが報告書のセグメントに関するキー (索引) 値を取り出した後で、収集プログラムは、報告書定義で指定されたオプションの索引出口 プログラムを呼び出し、キー のキー値および表示フィールド を渡します。その後で索引出口は、キー値を業務のマスター・ファイルからの情報で置き換えたり、値からブランクや他の特殊文字を除去したりすることができます。

索引出口は、**DOC** の報告書タイプ (報告書定義で指定されている) に対してのみ有効です。

キーまたは表示フィールドが、複数キー として定義されていない場合には、報告書収集プログラムとこのオプションの索引出口との間で交換されるデータ (サンプル・プログラムにあるように 1 つのデータ構造にフォーマットされている) は次のとおりです。

- **予約済み** - 8 バイト

このデータは変更してはなりません。

通常、次のキー (報告書定義に実際に表示フィールドとして定義されている) のいずれか 1 つ以上が、このユーザー出口プログラムによって変更されます。

- **キー 1** - 25 バイト

- **キー 2** - 20 バイト

- **キー 3** - 20 バイト

- **キー 4** - 20 バイト

- **キー 5** - 15 バイト

- **予約済み** - 27 バイト

このデータは変更してはなりません。

索引出口が制御を報告書収集プログラムに戻すと、報告書収集プログラムは、出口プログラムから受け取った値を使用して OnDemand 索引ファイルを更新します。

ライブラリー **QRDARS** のソース・ファイル **QSAMPLES** に複数キーのキーまたは表示フィールドを持たない報告書に関する索引ユーザー出口のサンプル・プログラムが入っています。

索引出口 (複数キー・フィールドを持つ報告書の場合)

この出口プログラムは、複数キーのキーまたは表示フィールドを持たない報告書の使用に関して説明した機能と同様の機能を提供していますが、出口との間で受け渡しされるフィールドは異なります。(複数キーの環境を扱うので。) プログラム間で受け渡しされるデータ・フィールドに関しては、308 ページの『索引出口 (複数キー・フィールドを持たない報告書の場合)』のセクションの説明を再確認して、このセクションに進んでください。

いずれか **1 つ**または**複数の**キーまたは表示フィールドが、複数キーとして定義されている場合、報告書収集プログラムとこのオプションの索引出口との間で交換されるデータ (サンプルに示されているように、4 つの個別のデータ構造にフォーマット設定されています) は、次のとおりです。

- 予約済み - 29 バイト

このデータは変更してはなりません。

通常、次のキー (実際には表示フィールドとして定義されていることがある) のいずれか **1 つ以上**がこのユーザー出口プログラムによって変更されます。複数キーの索引レコードの配列に渡されるこれらのキー・フィールドのオカレンスは **999** あります。

- キー **1** - 25 バイト
- キー **2** - 20 バイト
- キー **3** - 20 バイト
- キー **4** - 20 バイト
- キー **5** - 15 バイト

索引出口が制御を報告書収集プログラムに戻すと、報告書収集プログラムは、出口プログラムから受け取った値を使用して OnDemand 索引ファイルを更新します。

ライブラリー **QRDARS** のソース・ファイル **QSAMPLES** に、複数キーのキーまたは表示フィールドを持つ報告書に関する索引ユーザー出口のサンプル・プログラムが入っています。

アンバンドル出口

報告書収集処理を使用してスプール・ファイルをアンバンドル (分割) する場合には、**UBND** 報告書定義でオプションのアンバンドル出口を指定することができます。報告書収集プログラムは、スプール・ファイルに新しい報告書を検出すると、アンバンドル出口を呼び出し、以下のフィールドを交換します。

- 報告書名 - 10 バイト

これは、報告書収集プログラムが **UBND** 報告書セグメンテーション基準に基づいてスプール・ファイルで検出した新しい報告書の報告書名です。

このフィールドは、ユーザー出口プログラムで変更することができます。

- **報告書バージョン** - 2 バイト

これは、この報告書収集に使用されている報告書定義のバージョン番号です。有効な値は 01 ~ 99 です。

このフィールドは、通常は変更されませんが、変更しても構いません。

- **印刷行** - 256 バイト

これは、報告書名を含む印刷行です。印刷行は、1 列あたり、255 文字のデータと、紙送り制御文字からなっています。

このフィールドは通常、ユーザー出口プログラムによって変更されません。

アンバンドル出口は、スプール・データで見つかった報告書名または報告書バージョン (あるいはその両方) を、OnDemand に対して定義されている有効な報告書名または報告書バージョンのいずれかに変更することができます。

ライブラリー **QRDARS** のソース・ファイル **QSAMPLES** に、サンプルのアンバンドル・ユーザー出口プログラムが入っています。

出力待ち行列モニター出口

出力待ち行列モニター機能は、選択された出力待ち行列からのスプール・ファイルを自動的に処理します (詳細および画面については、87 ページの『オプション 5. 出力待ち行列モニターの開始』を参照してください)。処理される出力待ち行列からスプール・ファイルが選択された時点で、最初に、OnDemand はジョブのライブラリー・リストに、モニターでの使用が定義されたスプール・ファイル属性 (***SPLFNAME**、***FORMTYPE**、***USERDATA**) に一致する名前を持つユーザー出口プログラムが存在するか否かをチェックします。ユーザー出口プログラムが見つからない場合は、OnDemand は、スプール・ファイル属性に一致する報告書定義を探します。プログラムが見つかった場合は、そのプログラムが呼び出され、必要に応じてそのプログラムによって報告書名またはバージョンが変更されます。その後、OnDemand は、新しい名前やバージョンに一致する報告書定義を探します。

OnDemand はユーザー出口を見つけると、そのユーザー出口を呼び出し、いくつかのフィールドを渡します。それらのフィールドの以下の 2 つだけの変更を必要とします。2 つの変更可能なフィールドは、次のとおりです。

- **報告書名** - 10 バイト

- **バージョン** - 2 バイト

出力待ち行列モニターが出力待ち行列の特定のスプール・ファイルを処理する時点で、モニターによって検出される報告書名を更新する出力待ち行列モニター・ユーザー出口を設計することができます。たとえば、モニターがスプール・ファイルの「ユーザー・データ」のスプール・ファイル属性に **PGM123** を検出した場合に、OnDemand に **INVOICES** という報告書名を使用させたい場合には、以下に示すユーザー出口プログラムを作成することができます。

```
IF RPTNAME = 'PGM123' THEN CHANGE RPTNAME TO 'INVOICES'
```

ライブラリー **QRDARS** のソース・ファイル **QSAMPLES** に、サンプルの出力待ち行列モニター・ユーザー出口プログラムが入っています。

出力待ち行列日付モニター出口

出力待ち行列モニター機能は、選択された出力待ち行列からのスプール・ファイルを自動的に処理します (詳細および画面については、87 ページの『オプション 5. 出力待ち行列モニターの開始』を参照してください)。**QRLRMEXIT** の名前を持つユーザー出口プログラムを作成して、報告書の実行日付を変更したり (移行処理および満了処理に影響します)、OnDemand 報告書定義に報告書の**記入日付**が定義されていない場合に (エンド・ユーザーが参照する) 報告書の記入日付を任意指定で変更したりすることができます。

この **QRLRMEXIT** プログラムは、モニター・ジョブのライブラリー・リストに存在する場合に呼び出されます。OnDemand はこのユーザー出口を見つけると、そのユーザー出口を呼び出し、2 つのフィールドを渡します。それらのフィールドのうちの 1 つだけが変更可能です。モニターとユーザー出口との間で渡される 2 つのフィールドは、次のとおりです。

- **報告書名** - 10 バイト

これは、モニターによって選択された報告書の名前で、スプール・ファイル名、用紙タイプ、またはユーザー・データに基づいています。このフィールドは、このプログラムで変更することはできません。

- **システム日付** - 6 バイト

このプログラムに渡される値は現行のシステムの日付で、その形式 (システムのセットアップによって異なる) は **YYMMDD**、**MMDDYY**、**DDMMYY**、または **YYJUL** のいずれかです。この値は、モニターが該当の報告書を記憶する際のジョブ日付として使用されます。この日付は、有効な他の日付に変更することができます。新しい日付は、システム値 **QDATFMT** によって指定された形式でなければなりません。(ジョブ属性 **DATFMT** は、システム日付の形式と同一であると想定されます。) このプログラムから戻される日付が有効でない場合、現行のシステム日付が、その報告書の記憶の際のジョブ日付として使用されます。

次の例を考えてみてください。前年度のデータの年度要約報告書を新年度の最初の週に作成すると想定します。エンド・ユーザーがこの報告書の日付に、この報告書が作成された年度を反映させたいとします。このユーザー出口を使用して特定の報告書名をテストすることができます。出口プログラムに渡された報告書名が年度要約報告書の名前である場合は、出口プログラムの日付を前年度の最後の日付になるように変更します。

ライブラリー **QRDARS** のソース・ファイル **QSAMPLES** に、出力待ち行列日付モニター・ユーザー出口のサンプル・プログラム (ソース・メンバー名 **QRLRMEXIT**) が入っています。

ファクシミリ出口

ファクシミリ出口は、OnDemand が、IBM 提供の Facsimile Support for iSeries 以外のファクシミリ (FAX) ソフトウェアを処理できるよう設計されています。

これを実現するには、**QRLRSFAX** プログラムのソース・コードを修正し再コンパイルして、エンド・ユーザーが報告書検索時にファクシミリ送信を要求する際に出

されるコマンドを変更します。これは、**SNDFAX** コマンドを出すプログラムの行をシステムに導入されている FAX ソフトウェアに対応するコマンドを使用するように変更するだけです。(コマンドが使用可能でない場合は、プログラムを呼び出すことも可能です。)

QRLRSFAX プログラムは、ファクシミリを要求するエンド・ユーザーが呼び出します。このプログラムを変更したり再コンパイルしたりしていない場合は、標準のプログラム (Facsimile Support/400 コマンドを発行する) が実行されます。このプログラムを変更して再コンパイルした場合は、その変更後のプログラム (ユーザーのファクシミリ・コマンドを発行する) が実行されます。(**QRLRSFAX** という名前はそのまま使用し、コンパイル後のプログラムを **QRDARS** ライブラリーに戻して、IBM 提供のプログラムと置き換えてください)。

このプログラムの CL ソース (メンバー名 **QRLRSFAX**) は、ライブラリー **QRDARS** のソース・ファイル **QSAMPLES** に入っています。IBM は、IBM 提供の当初の機能に戻す必要がある場合に備えて、このソース・コードをバックアップ・メンバーにコピーしておくことをお勧めします。プログラムを再コンパイルする場合に、名前 **QRLRSFAX** をそのまま使用し、OnDemand が必要な時点でそれを検出し呼び出すことができるようにする必要があります。

拡張ユーザー出口

OnDemand ビューアー出口

このセクションでは、OnDemand ビューアー出口について説明します。このビューアー出口を使用すると、OnDemand 5250 表示プログラムの代わりにユーザー独自の表示プログラムを使用することができます。

この出口には、一定の数のパラメーターを渡す必要があります。戻りコードのパラメーターによってエラーが制御されます。

ビューアー出口

パラメーター			
必須パラメーター・グループ:			
1	出口形式名	入力	Char(8)
2	表示アクション	入力	Char(10)
3	スプール・レコードの最大長	入力	Binary(4)
4	スプール・レコード長	入力	Binary(4)
5	報告書データ・タイプ	入力	Char(10)
6	印刷装置ファイル	入力	Char(20)
7	行う処理	入力	Char(1)
8	オブジェクト・クラス	入力	Binary(4)
9	バッファー内のデータの長さ	入力	Binary(4)
10	データ・バッファー	入力	Char(*)

11	報告書 ID	入力	Binary(4)
12	SEGD0100	入力	Char(159)
13	戻りコード	出力	Char(10)
スレッド・セーフ: 非保証			

ビューアー出口は、代替ビューアーで OnDemand 記憶データを見られるようにします。この出口が使用可能になっていると、ユーザーが「文書の処理」5250 画面からの表示、印刷、またはファクシミリ送信を行うためにセグメントを選択したときに、この出口が呼び出されます。

報告書にビューアー出口を使用する必要があるかどうかを判別するためには、以下の手順を使用して、出口を呼び出すかどうか、またどの出口を呼び出す必要があるのかを判別してください。

1. 報告書定義を検査します。ここで出口名が指定されている場合には、その出口を使用します。
2. OnDemand のユーザー・デフォルト設定を検査します。出口名が含まれている場合には、それを出口として使用します。*NONE が設定されている場合には、出口は使用されません。上のいずれにも該当しない場合には、OnDemand のグローバル・デフォルト設定を検査します。
3. OnDemand のグローバル・デフォルト設定を検査します。出口名が含まれている場合には、その出口を使用します。出口名が含まれていない場合には、出口名を使用しないでください。

報告書定義で出口を指定すると、その出口が特定報告書出口、つまりその特定の報告書だけを扱う出口になります。この出口がユーザーまたはグローバル・デフォルト設定で指定されたものである場合、この出口は一般報告書出口と呼ばれます。この出口は、多くの異なる報告書から得られるデータを扱える必要があります。

この出口は、呼び出される可能性のある多くの異なる報告書から得られるデータを扱える必要があります。現在このようなデータとしては、*OTHER 行データ、*AFPDS データ、*AFPDSLNE データ、*SCS データ、または任意の AnyStore データ・タイプのデータがあります。たとえば、データ・バッファーに入っているデータが *OTHER 行データである場合には、そのデータの最初の桁は ANSI 先頭文字形式制御文字になっています。印刷データは、その残りの桁に、スプール・レコード長を上限として入っています。これらのレコードは、バッファー内に順番に収められます。データが *AFPDS の場合、データ・バッファー内のデータは AFP 構造化フィールドになります。これらのフィールドは、自己定義のレコード長を持ち、バッファー内で順番に配置されます。ある出口が提供されたタイプのデータを扱えない場合、戻りコードによって OnDemand に対して要求の処理を指示することができます。これは、*NOACTION という特別な戻りコード値を使用して行ってください。

この出口を使用すると、OnDemand の通常の要求処理が指定変更されるため、この出口は、許されるすべてのアクションを扱えるものでなければなりません。これらのアクションは、表示、印刷、およびファクシミリ送信です。結合ビューを使用

きるようにするためには、出口が許されているあらゆるビューを扱えることができません。結合ビューを許可しない場合、表示されるビュー・アクションは ***ONLY** のみになります。

注

1. 一般出口 (ユーザーまたはグローバル・レベルで指定された出口) は、すべてのタイプのデータを扱える必要はありません。これらの出口では、***NOACTION** 戻りコードを使用することにより、通常のビュー・パスがとられるようにすることができます。
2. 結合表示または多重表示を行う場合、出口を必要とする部分は、その出口が任意の結合可能データを扱うことを要求します。
3. AnyStore 項目を 5250 報告書選択ヒット・リストに表示させる場合には、この項目に報告書出口を組み込む必要があります。
4. 5250 インターフェースから AnyStore セグメントを検索したい場合には、AnyStore 項目に報告書出口を組み込む必要があります。

権限およびロック

ユーザー・プロファイル QRDARS400 には、出口プログラムに対する以下の権限がなければなりません。

ライブラリー権限

*EXECUTE

プログラム権限

*EXECUTE

データ域権限

*USE

必須パラメーター・グループ

出口形式名

入力; CHAR(8)

VEXT0100

ビューアー出口形式 100

表示アクション

入力; CHAR(10)

有効なフィールドは以下のとおりです。

***ADD** 多重セグメント・ビューの後続セグメント。

***CLEAR**

多重セグメント・ビューに累積したデータをクリアします。

***NEW** 多重セグメント・ビューの最初のセグメント。

***ONLY**

これが、そのデータを処理および表示する唯一のセグメントとなります。

***VIEW** 多重セグメント・ビューからデータを表示します。

スプール・レコードの最大長

入力; BINARY(4)

多重セグメント・ビューでは、これが受け入れ可能な最大レコード長です。セグメントに AFPDS データが含まれている場合には、この値は 0 になります。

スプール・レコード長

入力; BINARY(4)

このセグメント内のスプール・データのレコード長。データ・バッファーには、これらのレコードが "n" 個入ります。

報告書データ・タイプ

入力; CHAR(10)

データ・バッファー内のデータのタイプ。このフィールドの有効な値は、次のとおりです。

*AFPDS

AFPDS データ

*AFPDSLIN

行データと AFPDS データの混合

*BUFFER

AnyStore *BUFFER データ

*FILE

AnyStore *FILE データ

*IFS

AnyStore *IFS データ

*LINE

*FCFC が含まれる行データ

*OTHER

*FCFC が含まれる行データ

*SCS

SCS データ

*SPLF

AnyStore *SPLF データ

注: このリストに含まれている AnyStore 値については、バッファーにデータが提供されません。適切な AnyStore API を使用して検索する必要があります。

印刷装置ファイル

入力; CHAR(20)

使用したい印刷装置ファイルの名前。最初の 10 文字にはファイル名が含まれ、2 番目の 10 文字にはライブラリー名が含まれます。ライブラリー名には、以下の特殊値を含めることができます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリー

*LIBL ライブラリー・リスト

行う処理

入力; CHAR(1)

ユーザーが要求した以下のアクションの実行。

- 5 表示
- 6 印刷
- 7 ファクシミリ送信

オブジェクト・クラス

入力; BINARY(4)

AnyStore オブジェクトの場合、これはオブジェクトのオブジェクト・クラスです。

- 0 オブジェクト・クラスが指定されていない
- 1 ビットマップ・タイプのオブジェクト
- 2 GIF タイプのオブジェクト
- 3 PCX タイプのオブジェクト
- 4 PDF タイプのオブジェクト
- 5 PostScript タイプのオブジェクト
- 6 TIFF タイプのオブジェクト
- 7 JPEG タイプのオブジェクト

バッファー内のデータの長さ

入力; BINARY(4)

データ・バッファーに戻されるデータのタイプ。

データ・バッファー

入力; CHAR(*)

セグメント・データを収めるバッファー。このバッファーは、最大 200 万バイトにすることができます。データの形式は報告書データ・タイプで定義されます。スプール・レコード長には、既存のレコード長を指定します。AFPDS の場合、バッファーには、長さが組み込まれた "5A" の構造化フィールドのストリームが入っています。AnyStore 項目については、バッファーにはデータが含まれません。適切な AnyStore API を使用してセグメントを検索してください。

報告書 ID

入力; BINARY(4)

システムが処理している報告書の数字 ID。複数のセグメントを結合する場合、この値は有効でないことがあります。

SEGD0100

入力; CHAR(159)

セグメントに関する情報。このデータの説明については、194 ページの『セグメント検索の形式』を参照してください。

戻りコード

出力; CHAR(10)

出口で起こったことを示すために出口プログラムから戻される値。この戻りコードには、2つの特別な値があります。

***GOOD**

出口プログラムによって、エラーなしでデータが処理されました。

***NOACTION**

出口プログラムは何のアクションも行いませんでした。この場合、OnDemand は、可能であれば通常の表示経路をとります。

それ以外の値は、出口でエラーが発生し、戻された値がそのエラーに関して何らかの情報を反映しているものと解釈されます。システムはこの値をユーザーに示し、さらにジョブ・ログに記録します。出口で、検出したエラーをジョブ・ログに記録させることをお勧めします。

SEGD0100 形式

この形式は、入力セグメントの情報を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	CHAR(10)	報告書名
10	A	CHAR(2)	バージョン
12	C	PACKED (11 0)	圧縮した長さ
18	12	PACKED (11 0)	完全な長さ
24	18	PACKED (11 0)	変位
30	1E	CHAR(25)	キー 1
55	37	CHAR(20)	キー 2
75	4B	CHAR(20)	キー 3
95	5F	CHAR(20)	キー 4
115	73	CHAR(15)	キー 5
130	82	CHAR(8)	日付
138	8A	CHAR(1)	ピリオド
139	8B	CHAR(3)	順序番号
142	8E	CHAR(1)	注釈フラグ
143	8F	CHAR(16)	セグメント・ハンドル

フィールド記述:

注釈フラグ

このパラメーターの有効な値は、次のとおりです。

Y このセグメントに関する注釈があります。

N このセグメントに関する注釈はありません。

圧縮した長さ

圧縮後のセグメントのサイズ。

日付

形式 YYYYMMDD によるセグメントの日付。

変位

オブジェクトの先頭からこのセグメントまでのオフセット。

完全な長さ

このフィールドには、セグメントの圧縮前の長さ、または資源グループ ID (負の数) のいずれかが入ります。

キー 1

キー 1 の値。

キー 2

キー 2 の値。

キー 3

キー 3 の値。

キー 4

キー 4 の値。

キー 5

キー 5 の値。

ピリオド

常にピリオドが含まれます。

報告書名

報告書の名前。

セグメント・ハンドル

このセグメントへのアクセス・ハンドル。

順序番号

保存されたオブジェクトの順序番号。

バージョン

報告書のバージョン。

基本 API

ユーザー自身のアプリケーションに簡単に追加するには、このセクションの API を参照してください。

FNDRPTRDAR アプリケーション・プログラミング・インターフェース

OnDemand 報告書検索をオプションとしてユーザー・メニューに追加したい場合には、**FNDRPTRDAR** アプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用することができます。

注: 索引レコードを光ディスクまたはテープに保存することを (報告書ポリシー定義で) 選択する際には、注意してください。**FNDRPTRDAR** の使用時に、それらの索引レコードに関連する報告書データを表示できなくなる可能性があります。

- 「文書検索の指定」画面の日付範囲が (検索キー値の入力後に) 拡大された場合は、**FNDRPTRDAR** API の使用に注意してください。これらのパラメーターを指定した場合、OnDemand は、ディスク上では元の報告書日付と異なる

日付の報告書の索引レコードしか検索しません。これは仕様によるものです。これ以外の場合、OnDemand が索引レコードを保管しているすべてのボリュームについて、光ディスクまたはテープがマウントされてしまう可能性があります。

「報告書検索の指定」(OnDemand ログ) 画面を制御言語 (CL) プログラムに追加する場合、または 画面設計機能 (SDA) メニュー 上にメニュー・オプションとして追加する場合は、パラメーターなしで **FNDRPTRDAR** コマンドを使用します。

検索要求をより特定化する場合のために任意指定のパラメーターが用意されています。これらのパラメーターは以下のとおりです。

- **報告書名** - 10 バイト

完全な報告書名、アスタリスク (*) が後に続く部分 (総称) 名、または ***SELECT** を入力して、該当の報告書が報告書検索画面から選択されるようにします。

- **報告書の日付範囲 - 始めの日付** - 8 バイト、デフォルト値は ***AVAIL** です。

- **報告書の日付範囲 - 終わりの日付** - 8 バイト、デフォルト値は ***CURRENT** です。

- **報告書選択表示** - 4 バイト、デフォルト値は ***YES** です。

***YES** を入力すると、「報告書検索の指定」(OnDemand ログ) 画面が表示され、任意の OnDemand 報告書名の入力が可能になります。 ***NO** を入力すると、「報告書検索の指定」画面をバイパスして、直接「文書検索の指定」画面が表示され、特定の報告書に対して特定の検索基準 (キー) の入力が可能になります。

このバイパス・オプションでは、報告書名 パラメーターに有効な報告書名を入力することが必須です。複数の報告書バージョン (たとえば、バージョン **01** と **02**) が報告書に定義されている場合、OnDemand は ***HIGHEST** を使用して OnDemand 画面のキー・フィールド名および列見出しを決定します。

この API の各フィールドの形式を調べたい場合には、

FNDRPTRDAR を入力して、**F4** を押します。

75 ページの『オプション 1. 報告書の検索』で、該当の画面およびフィールドについて説明しています。

このオプションを使用するには、ユーザーに OnDemand 機密保護権限が与えられていなければなりません。(1 ページの『第 1 章 OnDemand スプール・ファイル保存機能の使用法』を参照してください。)

FNDKEYRDAR アプリケーション・プログラミング・インターフェース

既存の対話式 アプリケーションに OnDemand 報告書検索機能を追加したい場合には、**FNDKEYRDAR** を使用します。

既存のアプリケーションに OnDemand 報告書検索機能を追加するには、アプリケーション・プログラムで、**FNDKEYRDAR** を使用する新規の機能キーを定義します。たとえば、エンド・ユーザーが顧客のデータを表示するのに顧客番号を入力しなければならない顧客照会アプリケーションがあるとします。この場合は、アプリケーションの照会画面上に新規の機能キーを定義して、OnDemand 内に格納されたその

顧客のすべての送り状を検索することができます。特定の顧客に関する情報を画面上に表示しているときに、エンド・ユーザーは新規の機能キーを押すことができます。これにより、OnDemand は、その顧客の送り状を表示、印刷、またはファクシミリ送信するための選択リストを表示します。エンド・ユーザーが、所要の送り状の表示、印刷、ファクシミリ送信を終えると、OnDemand は、顧客照会アプリケーションに制御を戻します。この間、ユーザーは照会画面を離れていたことを意識しないで済みます。

注: 索引レコードを光ディスクまたはテープに保存することを (報告書ポリシー定義で) 選択する際には、注意してください。 **FNDKEYRDAR** の使用時に、それらの索引レコードに関連する報告書データを表示できなくなる可能性があります。

- **FNDKEYRDAR** API を使用する場合、この API は、ディスク上の索引レコードのみを検索します。これは仕様によるものです。これ以外の場合、OnDemand が索引レコードを保管しているすべてのボリュームについて、光ディスクまたはテープがマウントされてしまう可能性があります。

FNDKEYRDAR API を使用する簡単な方法に、その API を制御言語 (CL) プログラムに入れる方法があります。そして (必要に応じてパラメーターを渡すことにより) 既存のアプリケーション・プログラムからその CL プログラムを呼び出します。これを行う CL プログラムのサンプルが、ライブラリー **QRDARS** のソース・ファイル **QSAMPLES** に入っています。

FNDKEYRDAR API を使用して OnDemand クライアント・ビューアーを呼び出すためのセットアップ手順については、**QRDARS** ライブラリー内の **QSAMPLES** ソース・ファイルに入っているソース・メンバー **PROFILE** を参照してください。

ユーザーの呼び出し側プログラムと API との間で交換されるフィールドは、次のとおりです。

- 報告書名 - 10 バイト
- キー 1 - 25 バイト
- キー 2 - 20 バイト
- キー 3 - 20 バイト
- キー 4 - 20 バイト
- キー 5 - 15 バイト
- グループ検索 - 4 バイト、デフォルト値は ***NO** です。
- 報告書の日付範囲 - 始めの日付 - 8 バイト、デフォルト値は ***AVAIL** です。
- 報告書の日付範囲 - 終わりの日付 - 8 バイト、デフォルト値は ***CURRENT** です。
- 出力 - 6 バイト、デフォルト値は * (表示) です。また、***PRINT** または ***FAX** に設定することもできます。

注: 複数の報告書バージョン (たとえば、バージョン **01** と **02**) が報告書に定義されている場合は、OnDemand は ***HIGHEST** を使用して OnDemand 画面上のキー・フィールド名および列見出しを決定します。

この API の各フィールドの形式を調べたい場合には、

FNDKEYRDAR を入力して、**F4** を押します。

以下は、この API を使用する CL プログラムでモニター可能なエスケープ・メッセージのリストです。

- *CPF0001* コマンドにエラーがあります。
- *RDR0001* 報告書定義が見つかりません。
- *RDR0006* このキーでは文書が見つかりません。
- *RDR0007* 開始日と終了日を入力する必要があります。
- *RDR0010* ページ番号は 999999 以下でなければなりません。
- *RDR0011* ページ番号は数字でなければなりません。
- *RDR0013* セグメント番号は 999999 以下でなければなりません。
- *RDR0053* アクセスが拒絶されました。この報告書へのアクセスは認可されていません。
- *RDR0054* 重大なディレクトリー問題です。
- *RDR0105* 終了日が正しくありません。
- *RDR0136* キー 2 およびキー 3 を使用して探索することはできません。
- *RDR0137* キー 1 およびキー 3 を使用して探索することはできません。
- *RDR0183* このキー値を持つ文書は認可されていません。
- *RDR0252* RPTTYPE(*PAGE) の場合には、RPTKEY1 しか指定できません。
- *RDR0253* RPTTYPE(*NODX) の場合には、RPTKEY4 または RPTKEY5 を指定することはできません。
- *RDR2882* クライアント立ち上げ API プログラム QRLRLCV がエラー・コード &1 で終了しました。(これは AnyStore 文書専用のメッセージです。)
- *RDR9999* 使用可能な OnDemand のライセンスがもうありません。

拡張 API

さらに拡張機能をアプリケーションに追加するには、このセクションの詳細を参照してください。これらの拡張スプール・ファイル保存 API では、以下を行うことができます。

- スプール・ファイル保存セグメントのリストの検索
- 特定のスプール・ファイル保存セグメントの検索
- 保存索引のグループの検索
- 特定のセットの保存資源の検索

各 API には、渡さなければならない一定の数のパラメーターがあります。エラーはエラー・コード・パラメーターによって制御されますが、以下のいずれかが原因でエスケープ・メッセージが送信されて呼び出しが終了した場合は制御されません。

- エラー・コードを戻すスペースがない。
- エラーが明確で、プログラムの再コンパイルが必要である。
- エラーが API の結果に依存していない。

一般には、表示用の API はバッチ・ジョブには適していませんが、これらの拡張 API は、バッチで実行することも対話式ジョブで実行することもできます。

エラー・コード・パラメーター

すべての API には、エラー・コードと例外データを呼び出し側のアプリケーションに戻すエラー・コード・パラメーターが含まれています。エラー・コード・パラメーターは、エラー状態に関連する情報を含む可変長の構造体です。エラー・コード・パラメーターの構造体の形式は、**ERRC0100** または **ERRC0200** 可変長構造体のいずれでも構いません。

形式 **ERRC0100** の場合、その構造体のフィールドの 1 つは入力フィールドです。この入力フィールドでは、例外をアプリケーションに戻すか、またはエラー・コード構造体に例外情報を格納するかを制御します。「提供されるバイト数」フィールドが 8 以上の場合は、残りのエラー・コード構造体に、エラーに関連する出力例外情報が格納されます。「提供されるバイト数」入力フィールドがゼロの場合は、その他のフィールドは無視され、例外が戻されます。

API の呼び出し元が変換可能文字 (CCHAR) サポートを必要とする場合には、形式 **ERRC0200** を使用します。形式 **ERRC0200** には、2 つの入力フィールドがあります。1 つ目のフィールドはキー・フィールドといい、CCHAR サポートを使用するには **-1** が入っていないなければなりません。「提供されるバイト数」フィールドが 12 以上の場合は、残りのエラー・コード構造体に、エラーに関連する出力例外情報が格納されます。「提供されるバイト数」入力フィールドがゼロの場合は、その他のフィールドは無視され、例外が戻されます。

注: エラーが発生したかどうかを判別するには、「使用可能なバイト数」が 0 より大きいかどうかを調べる必要があります。例外 ID が非ブランク値かどうかを検査することは、有効な方法ではありません。

エラー・コード・パラメーターの構造は、次のとおりです。

ERRC0100 形式

オフセット		使用	タイプ	フィールド
10 進	16 進			
0	0	入力	Binary(4)	提供されるバイト数
4	4	出力	Binary(4)	使用可能なバイト数
8	8	出力	Char(7)	例外 ID
15	F	出力	Char(1)	予約済み
16	10	出力	Char(*)	例外データ

ERRC0200 形式

オフセット		使用	タイプ	フィールド
10 進	16 進			
0	0	入力	Binary(4)	キー
4	4	入力	Binary(4)	提供されるバイト数
8	8	出力	Binary(4)	使用可能なバイト数

オフセット		使用	タイプ	フィールド
10 進	16 進			
12	C	出力	Char(7)	例外 ID
19	13	出力	Char(1)	予約済み
20	14	出力	Binary(4)	CCHAR データの CCSID
24	18	出力	Binary(4)	例外データに対するオフセット
28	1C	出力	Binary(4)	例外データの長さ
		出力	Char(*)	例外データ

フィールド記述

使用可能なバイト数

API が使用できるエラー情報の長さ (バイト単位)。この値が 0 の場合、エラーは検出されていません。

提供されるバイト数

呼び出し側アプリケーションがエラー・コード用に用意する区域の長さ。API 呼び出し元が形式 ERRCO100 を使用している場合は、提供されるバイトは 0、8、または 8 より大きくなければなりません。API 呼び出し元が形式 ERRCO200 を使用している場合は、バイトで提供されるキーは 0、12、または 12 より大きくなければなりません。

- 0 エラーが発生した場合は、例外がアプリケーションに戻され、要求された機能が失敗したことが示されます。
- 8 エラーが発生した場合は、スペースに例外情報が格納されます。例外は戻されません。この状態は、形式 ERRCO100 が使用されている場合にのみ起こります。
- 12 エラーが発生した場合は、スペースに例外情報が格納されます。例外は戻されません。この状態は、形式 ERRCO200 が使用されている場合にのみ起こります。

CCHAR データの CCSID

例外データの変換可能文字 (CCHAR) 部分のコード化文字セット ID (CCSID)。デフォルトは 0 です。

- 0 デフォルトのジョブは CCSID です。CCSID A は有効な CCSID 番号です。有効な CCSID 範囲は、1 から 65535 までですが、65534 は除きます。

例外データ

例外用の置換テキストを含む可変長文字フィールド。SNDPGMMSG または SNDUSRMSG CL コマンドで MSGID パラメーターの値に例外 ID を指定し、MSGDATA パラメーターの値に例外データを指定することにより、これらのコマンドを使用して、任意のユーザーにメッセージを送ることができます。メッセージは、メッセージ・ハンドラー API を使用して送信することもできます。

例外 ID

エラー状態に関するメッセージの識別コード。RDR で始まる ID は、ライブラリー QRDARS 内のメッセージ・ファイル QRLCMMSGF の中で見つけることができます。

キー CCHAR サポートが使用されている場合に、メッセージ・ハンドラー誤差関数を使用可能にするキー値。CCHAR のサポートが予定されている場合は、この値は -1 にする必要があります。

例外データの長さ

例外データの長さ。エラー・コードで戻される例外データのバイト単位の長さです。

例外データに対するオフセット

例外データに対するオフセット。エラー・コード構造体の中の例外データに対するエラー・コード構造体の先頭からのオフセットです。

予約済み

1 バイトの予約フィールド。

キー・リストの検索 (QrIrrRetrieveReportKeyList) API

パラメーター			
必須パラメーター・グループ:			
1	レシーバー変数	出力	Char(*)
2	レシーバー変数の長さ	入力	Binary(4)
3	レシーバー変数の形式	入力	Char(8)
4	先頭セグメント・キー	入力	Char(*)
5	終了セグメント・キー	入力	Char(*)
6	セグメント・キーの形式	入力	Char(8)
7	検索するセグメントの最大数	入力	Binary(4)
8	継続ハンドル	入力	Char(16)
パラメーター			
省略可能パラメーター・グループ:			
9	索引状況の要求	入力	Char(10)
10	索引状況	出力	Char(1)
11	エラー・コード	入出力	Char(*)
サービス・プログラム: QRLRRAPI			
スレッド・セーフ: 非保証			

キー・リストの検索 (QrIrrRetrieveReportKeyList) API は、指定されたキーと一致するすべてのセグメントが含まれたリストを検索します。総称検索と範囲指定検索を行うことができます。キー値の後ろにアスタリスク (*) が付いている場合は総称検索を表します。複数のキーを指定した場合、検索は、セグメント・キー・パラメーター内にリストされているキーの順序で実行されます。少なくとも 1 つのキーを指定してください。キー・フィールドがブランクの場合は、指定されていないもの

と見なされます。総称検索は、**先頭セグメント・キー**変数に指定されたキーにしか指定できません。キーが**終了セグメント・キー**変数に指定された場合は、この検索要求は無効となります。検索されたセグメントのリストは、レシーバー変数に格納されます。セグメントのリストには、そのユーザーが権限を持つキー値しか含まれません。

重要: 機密保護検査は、現行ユーザーに基づいて行われます。ユーザーの権限のもとで実行されていないサーバー・ジョブでこの API が使用されている場合は、サーバー・ジョブのユーザー・プロファイルが使用されます。この API を呼び出す前に実際のユーザーのプロファイルに切り替えれば、これを防ぐことができます。

権限およびロック

ライブラリー権限

*EXECUTE

ファイル権限

*USE

データ域権限

*USE

必須パラメーター・グループ

レシーバー変数

出力、CHAR(*)。検索されたセグメントのキーを含む。レシーバー変数の形式フィールドでこの変数の形式を指定します。

レシーバー変数の長さ

入力、BINARY(4)。レシーバー変数の長さ。これは、セグメントの最大数にこの形式の非繰り返し部分の長さを加えたものを入れることのできる十分な大きさでなければなりません。形式が **SEGF0100** の場合、非繰り返し部分は 36 バイトです。

レシーバー変数の形式

入力、CHAR(8)。レシーバー変数の形式。

- **SEGF0100**: RetrieveReportKeyList 形式

これらの形式の説明については、328 ページの『RetrieveReportKeyList の形式』を参照してください。

先頭セグメント・キー

入力、CHAR(*)。開始キー、または検索するために使用する唯一のキー。セグメント・キー形式フィールドで形式を指定します。

終了セグメント・キー

入力、CHAR(*)。検索を終了するセグメント・キー。範囲検索を実行している場合しか使用されません。セグメント・キー形式フィールドで形式を指定します。

セグメント・キーの形式

入力、CHAR(8)。セグメント・キーの形式。

- **KEYA0100**: キー形式

これらの形式の説明については、327 ページの『セグメント・キーの形式』を参照してください。

検索するセグメントの最大数

入力、BINARY(4)。セグメント・リストに入れるセグメントの最大数を指定する。この値は 1 から 9999 でなければなりません。

継続ハンドル

入力、CHAR(16)。このフィールドは、ブランクまたは有効な継続ハンドルのいずれかでなければなりません。ブランクの場合は、指定されたキー値で新たに検索が実行されます。直前の呼び出しからの有効な継続ハンドルを指定した場合は、中断された箇所から引き続き検索が行われます。

省略可能パラメーター・グループ

索引状況の要求

入力、CHAR(10)。特定の報告書について索引状況の情報を要求する。報告書名を指定します。指定しないと、索引状況は戻りません。**先頭セグメント・キーと終了セグメント・キー**の形式で日付範囲を指定します。日付範囲を指定しないと、索引状況を要求しても、意味のある情報はほとんど得られません。これは、OnDemand はこの報告書について保存されたすべての索引を検索するためです。これは、日付範囲を指定しないことにより、OnDemand の導入以降に保存されたこの報告書の索引すべてがチェックされるためです。検索データを特定の日付範囲に制限することにより、**索引状況の要求**で、その範囲内に保存された索引を示すことができます。このようにすれば、より意味のある検索結果を取得することができます。このパラメーターのデフォルト値は ***NO** です。このフィールドの有効な値は、次のとおりです。

- ***YES**: 索引状況フィールドに索引状況を戻す。
- ***NO**: 索引状況を戻さない。

索引状況

出力、CHAR(1)。この索引が指定された報告書と日付の組み合わせに関するものかどうかを示す。このパラメーターの値は以下のとおりです。

- **0**: 指定された日付範囲内の索引がすべてディスク上にある。
- **1**: 索引の少なくとも 1 つがテープまたは光ディスクに保存される。

エラー・コード

入出力、CHAR(*)。エラー情報を戻すための構造体。この構造体の形式については、322 ページの『エラー・コード・パラメーター』を参照してください。

エラー・メッセージ

CPF24B4

パラメーター・リストのアドレッシング中に重大エラーが発生しました。

CPF3C21

形式名 &1; が無効です。

CPF3CF1

エラー・コード・パラメーターが無効です。

CPF9872

ライブラリー &2; のプログラムまたはサービス・プログラム &1; が終了しました。理由コードは &3 です。

RDR2153

適切なライセンスを獲得することができません。

RDR2205

権限が不十分です。

RDR2301

検索要求が正しくありません。

RDR2302

検索日が正しくありません。

RDR2303

セグメントの最大数が正しくありません。

RDR2304

検索リスト・エラーです。

セグメント・キーの形式

KEYA0100 形式: この形式は、検索に使用する開始キー値と終了キー値を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	CHAR(10)	報告書名/グループ名
10	A	CHAR(2)	バージョン
12	C	CHAR(25)	キー 1
37	25	CHAR(20)	キー 2
57	39	CHAR(20)	キー 3
77	4D	CHAR(20)	キー 4
97	61	CHAR(15)	キー 5
112	70	CHAR(8)	日付 YYYYMMDD

フィールド記述 少なくとも、フィールド・キー 1 から 5 までのいずれか 1 つが指定されている必要があります。指定されていないと、メッセージ RDR2301 が発行されます。

日付 検索される日付を YYYYMMDD の形式で入力するか、または空白。検索基準の一部として空白・フィールドが使用されない場合です。

キー 1

検索される値、または空白。検索基準の一部として空白・フィールドが使用されない場合です。

キー 2

検索される値、または空白。検索基準の一部として空白・フィールドが使用されない場合です。

キー 3

検索される値、またはブランク。検索基準の一部としてブランク・フィールドが使用されない場合です。

キー 4

検索される値、またはブランク。検索基準の一部としてブランク・フィールドが使用されない場合です。

キー 5

検索される値、またはブランク。検索基準の一部としてブランク・フィールドが使用されない場合です。

報告書/グループ名

使用する報告書またはグループ名。報告書名が提供されている場合は、その報告書に対するキーのみが検索されます。グループ名が使用されている場合は、グループ内のすべての報告書に対するキーが検索されます。特別の形式 *GRPABVnnn を用いて、グループ省略形を使用することもできます。この場合、nnn は 3 文字のグループ省略形です。この値に対しては、検査が行われません。このフィールドがセグメントおよびセグメント・キー変数の両方共に指定されている場合、それぞれが同じ値でなければなりません。総称検索を意味する '*' の使用は、このフィールドでは許可されていません。

バージョン

報告書バージョン 01 ~ 99 またはブランク。検索基準の一部としてブランク・フィールドが使用されない場合です。

RetrieveReportKeyList の形式

このキー・リストは、必要に応じて最大 **9999** 回まで繰り返すことができます。

SEGF0100 形式: この形式は、戻されるセグメントの情報を定義します。

オフセット			
10 進	16 進	タイプ	フィールド
0	0	BINARY(4)	戻されたバイト数
4	4	BINARY(4)	使用可能なバイト数
8	8	CHAR(16)	継続ハンドル
24	18	BINARY(4)	セグメント情報リストに対するオフセット
28	1C	BINARY(4)	セグメント・リスト項目の数
32	20	BINARY(4)	セグメント・リスト項目の長さ
注: セグメント・リスト内の項目の形式。以下のフィールドは、各セグメント・リスト項目ごとに繰り返されます。10 進オフセットおよび 16 進オフセットは、セグメント・リスト項目の数に応じて異なります。最初のセグメント・リスト項目を見つけるには、セグメント情報リストに対するオフセット・リスト項目を使用します。			
		CHAR(10)	報告書名
		CHAR(2)	バージョン
		PACKED(11 0)	圧縮した長さ
		PACKED(11 0)	完全な長さ

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
		PACKED(11 0)	変位
		CHAR(25)	キー 1
		CHAR(20)	キー 2
		CHAR(20)	キー 3
		CHAR(20)	キー 4
		CHAR(15)	キー 5
		CHAR(8)	日付
		CHAR(1)	ピリオド
		CHAR(3)	順序番号
		CHAR(1)	予約済み
		CHAR(16)	セグメント・ハンドル

フィールド記述

使用可能なバイト数

RetrieveReportKeylist のバイト単位の長さ。

戻されたバイト数

RetrieveReportKeylist に戻されたデータの、バイト単位の長さ。

圧縮した長さ

圧縮後のセグメントのサイズ。

継続ハンドル

指定された検索と一致するすべてのキーがセグメント・リスト項目に含まれている場合は、このフィールドはブランクです。さらに多くの項目が使用可能な場合には、このフィールドにはハンドルが含まれ、そのハンドルを使用して、前回終了した箇所から検索を継続することができます。

日付 形式 YYYYMMDD によるセグメントの日付。

変位 オブジェクトの先頭からこのセグメントまでのオフセット。

完全な長さ

このフィールドには、セグメントの圧縮前の長さ、または資源グループ ID (負の数) のいずれかが入ります。

キー 1

キー 1 の値

キー 2

キー 2 の値

キー 3

キー 3 の値

キー 4

キー 4 の値

キー 5

キー 5 の値

セグメント・リスト項目の長さ

各セグメント・リスト項目の長さ。

セグメント・リスト項目の数

リスト内の戻された項目の数。

セグメント・リスト情報に対するオフセット

形式の先頭からセグメント・リスト項目までのバイト単位のオフセット。

ピリオド

常にピリオドが含まれます。

報告書名

報告書の名前。

予約済み

このバイトは、後で使用するために予約済みです。

セグメント・ハンドル

このセグメントへのアクセス・ハンドル。

順序番号

保存されたオブジェクトの順序番号。

バージョン

報告書のバージョン。

セグメントの検索 (QrlrRetrieveReportSegment) API

パラメーター			
必須パラメーター・グループ:			
1	レシーバー変数	出力	Char(*)
2	戻されたデータの長さ	出力	Binary(4)
3	戻されたデータのレコード長	出力	Binary(4)
4	セグメント索引	入力	Char(*)
5	セグメント索引の形式	入力	Char(8)
6	検索情報	入力	Char(*)
7	検索情報の形式	入力	Char(8)
8	出力データ・タイプ	出力	Char(10)
9	報告書 ID	出力	Binary(4)
10	エラー・コード	入出力	Char(*)
サービス・プログラム: QRLRRAPI			
スレッド・セーフ: 非保証			

セグメントの検索 (QrlrRetrieveReportSegment) API は、指定されたセグメントを検索し、それをレシーバー変数、または検索情報で指定された場所に格納します。

重要:

- この API は、キー・リストの検索 (**QrlrRetrieveReportKeyList**) API を実行したときと同じユーザー・プロファイルを使用して実行されます。これ以外の場合には、セグメントのアクセス・ハンドルは有効にはなりません。
- 報告書の表示、印刷、および FAX オプションを組み合わせて使用可能にした場合、これらのオプションはこの API の使用時には無視されます。
- CA/400 ビューアー (AFP ビューアーとも呼ばれます) を立ち上げるビューアー・オプションは、使用可能になっている場合には、この API によってサポートされます。ただし、OnDemand クライアント・ビューアーを立ち上げるビューアー・オプションは無視されます。アプリケーションで OnDemand クライアント・ビューアーを立ち上げる必要がある場合には、339 ページの『OnDemand クライアント・ドライバー API』を参照してください。

権限およびロック

ライブラリー権限

*EXECUTE

ファイル権限

*CHANGE

必須パラメーター・グループ

レシーバー変数

出力、CHAR(*)。出力の格納先フィールド。

戻されたデータの長さ

出力、BINARY(4)。レシーバー変数に格納されたデータの長さ。

戻されたデータのレコード長

出力、BINARY(4)。レシーバー変数に格納されたデータのレコード長。これが 0 の場合は、データは自己定義形式です。

セグメント索引

入力、CHAR(*)。検索するセグメントの索引を含む。形式は、セグメント索引の形式で指定します。

セグメント索引の形式

入力、CHAR(8)。セグメント索引の変数の形式。キー・リストの検索 (**QrlrRetrieveReportKeyList**) API セグメントから提供された変数を変更しないでください。報告書名、圧縮した長さ、変位、データ、または順序番号を変更すると、予期しない結果が発生します。セグメント・ハンドルが間違っていると、メッセージ RDR2407 が発行されます。

SEGD0100

セグメント索引の形式

これらの形式の説明については、333 ページの『セグメント検索の形式』を参照してください。

検索情報

入力、CHAR(*)。必須の検索情報を含む文字フィールド。このフィールドの形式は、検索情報の形式フィールドによって判別されます。

検索情報の形式

入力、CHAR(8)。検索情報フィールドの形式。これらの形式の説明については、334 ページの『検索情報の形式』を参照してください。有効な値は以下のとおりです。

RTVS0100

セグメント・スプール・データをバッファーに取得する

RTVS0200

OnDemand ビューアーを使用してセグメント・スプール・データを表示する。

出力データ・タイプ

出力、CHAR(10)。スプール・データが入れられたデータ・ストリームのタイプ。有効な値は以下のとおりです。

*AFPDS

高機能印刷データ・ストリーム

*AFPDSLIN

行データが混在する AFPDS データ

*LINE *FCFC が含まれる行データ

*OTHER

*FCFC が含まれる行データ

*SCS SCS データ

報告書 ID

出力、BINARY(4)。検索する報告書セグメントの報告書 ID。

エラー・コード

入出力、CHAR(*)。エラー情報を戻すための構造体。この構造体の形式については、322 ページの『エラー・コード・パラメーター』を参照してください。

エラー・メッセージ

CPF24B4

パラメーター・リストのアドレッシング中に重大エラーが発生しました。

CPF3C21

形式名 &1; が無効です。

CPF3CF1

エラー・コード・パラメーターが無効です。

CPF9872

ライブラリー &2; のプログラムまたはサービス・プログラム &1; が終了しました。理由コードは &3; です。

RDR2153

適切なライセンスを獲得することができません。

RDR2401

検索セグメント読み取りエラーです。

RDR2406

セグメントのオープンのエラーです。

RDR2407

検索権限が不十分です。

RDR2409

報告書がテープから再呼び出しされました。

RDR2411

検索バッファ長が正しくありません。

RDR2414

検索セグメント・エラーです。

セグメント検索の形式

SEG0100 形式: この形式は、入力セグメントの情報を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	CHAR(10)	報告書名
10	A	CHAR(2)	バージョン
12	C	PACKED(11 0)	圧縮した長さ
18	12	PACKED(11 0)	完全な長さ
24	18	PACKED(11 0)	変位
30	1E	CHAR(25)	キー 1
55	37	CHAR(20)	キー 2
75	4B	CHAR(20)	キー 3
95	5F	CHAR(20)	キー 4
115	73	CHAR(15)	キー 5
130	82	CHAR(8)	日付
138	8A	CHAR(1)	ピリオド
139	8B	CHAR(3)	順序番号
142	8E	CHAR(1)	予約済み
143	8F	CHAR(16)	セグメント・ハンドル

フィールド記述**圧縮した長さ**

圧縮後のセグメントのサイズ。

継続ハンドル

指定された検索と一致するすべてのキーがセグメント・リスト項目に含まれている場合は、このフィールドはブランクです。さらに多くの項目が使用可能な場合には、このフィールドにはハンドルが含まれ、そのハンドルを使用して、前回終了した箇所から検索を継続することができます。

日付 形式 YYYYMMDD によるセグメントの日付。

変位 オブジェクトの先頭からこのセグメントまでのオフセット。

完全な長さ

このフィールドには、セグメントの圧縮前の長さ、または資源グループ ID (負の数) のいずれかが入ります。

キー 1

キー 1 の値

キー 2

キー 2 の値

キー 3

キー 3 の値

キー 4

キー 4 の値

キー 5

キー 5 の値

セグメント・リスト項目の長さ

各セグメント・リスト項目の長さ。

セグメント・リスト項目の数

リスト内の戻された項目の数。

セグメント・リスト情報に対するオフセット

形式の先頭からセグメント・リスト項目までのバイト単位のオフセット。

ピリオド

常にピリオドが含まれます。

報告書名

報告書の名前。

予約済み

このバイトは、後で使用するために予約済みです。

セグメント・ハンドル

このセグメントへのアクセス・ハンドル。

順序番号

保存されたオブジェクトの順序番号。

バージョン

報告書のバージョン。

検索情報の形式

RTVS0100 形式: セグメント・スプール・データをバッファーに取得するための形式を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	BINARY(4)	レシーバー変数の長さ

RTVS0100 フィールド記述

レシーバー変数の長さ

レシーバー変数の長さを含みます。最大長は 2 MB です。特定のセグメントのこのフィールドに対する必須の長さは、セグメント・リスト項目の全長のフィールドによって決まります。全長のフィールドが正の場合は、必要な長さが含まれており、負の場合は、資源 ID を表します。これが資源 ID である場合は、サイズとして 2 MB か、またはセグメント・リスト項目の圧縮された長さを 10 倍して見積もったサイズのいずれかを使用できます。

RTVS0200 形式: OnDemand ビューアーを使用してセグメント・スプール・データを表示するための形式を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	BINARY(4)	行う処理

RTVS0200 フィールド記述

行う処理

有効な値は以下のとおりです。

- 1 セグメント・データを表示します。
- 2 セグメント・データを印刷します。
- 3 セグメント・データを FAX します。

保存索引の検索 (QrlrRetrieveArchivedIndexes) API

パラメーター			
必須パラメーター・グループ:			
1	報告書名	入力	Char(10)
2	開始日	入力	Char(8)
3	終了日	入力	Char(8)
4	再呼び出しの開始	入力	Char(10)
5	報告書の数	出力	Binary(4)
6	索引項目の数	出力	Binary(4)
7	エラー・コード	入出力	Char(*)
サービス・プログラム: QRLRRAPI			
スレッド・セーフ: 非保証			

保存索引の検索 (QrlrRetrieveArchivedIndexes) API は、指定された日付範囲内の保存索引とともに、報告書の数に関する情報を戻します。また、必要に応じて、索引を再呼び出しして、ディスクに戻します。

重要: 索引の数が多い場合には、索引を再呼び出しするのに長時間を要する場合があります。

権限およびロック

ライブラリー権限

*EXECUTE

ファイル権限

*USE

必須パラメーター・グループ

報告書名

入力、CHAR(10)。報告書の名前。

開始日

入力、CHAR(8)。索引を検索する開始日 (形式は YYYYMMDD)。このフィールドは必ず指定しなければなりません。

終了日

入力、CHAR(8)。索引の検索を停止する日付 (形式は YYYYMMDD)。このフィールドがブランクの場合は、デフォルト値として開始日を使用されます。

索引再呼び出しの開始

入力、CHAR(10)。報告書日付範囲の組み合わせによって指定された索引の再呼び出しの実行を要求する。その報告書日付の組み合わせについての索引がすべてディスク上にある場合は、OnDemand はメッセージ RDR2305 を発行します。このフィールドの有効な値は、次のとおりです。

***YES** 索引再呼び出しを開始する。

***NO** 索引再呼び出しを開始しない。

報告書の数

出力、BINARY(4)。指定された日付範囲の間に索引が保存された報告書の総数。再呼び出しの開始が *YES の場合、これは索引が再呼び出しされた報告書の数です。

索引項目の数

出力、BINARY(4)。保存報告書内の索引項目の最小数。複数キー報告書はセグメントごとに複数の索引を持つことができるので、この値は最小数です。

エラー・コード

入出力、CHAR(*)。エラー情報を戻すための構造体。この構造体の形式については、322 ページの『エラー・コード・パラメーター』を参照してください。

エラー・メッセージ

CPF24B4

パラメーター・リストのアドレッシング中に重大エラーが発生しました。

CPF3CF1

エラー・コード・パラメーターが無効です。

CPF9872

ライブラリー &2; のプログラムまたはサービス・プログラム &1; が終了しました。理由コードは &3 です。

RDR2153

適切なライセンスを獲得することができません。

RDR2305

検索する索引がありません。

保存資源の検索 (QrIrRetrieveArchivedResource) API

パラメーター			
必須パラメーター・グループ:			
1	レシーバー変数	出力	Char(*)
2	レシーバー変数の長さ	入力	Binary(4)
3	戻されたデータの長さ	出力	Binary(4)
4	レシーバー変数の形式	入力	Char(8)
5	報告書グループ ID	入力	Binary(4)
6	資源 ID	入力	Binary(4)
7	エラー・コード	入出力	Char(*)
サービス・プログラム: QQLRRAPI			
スレッド・セーフ: 非保証			

保存資源の検索 (QrIrRetrieveArchivedResource) API は、指定された資源 ID に関する情報、または指定された資源をレシーバー変数に戻します。

権限およびロック

ライブラリー権限

*EXECUTE

ファイル権限

*CHANGE

必須パラメーター・グループ

レシーバー変数

出力、CHAR(*)。出力の格納先フィールド。

レシーバー変数の長さ

入力、BINARY(4)。レシーバー変数の長さ。

戻されたデータの長さ

出力、BINARY(4)。戻されたデータの長さ。

レシーバー変数の形式

入力、CHAR(8)。レシーバー変数の形式。これらの形式の説明については、338 ページの『レシーバー変数の形式』を参照してください。有効な値は以下のとおりです。

- **RSCF0100**: 検索資源情報
- **RSCF0200**: 資源の検索

報告書グループ ID

入力、BINARY(4)。報告書グループ ID。この値は、報告書 ID を 100 で割り、その結果の小数部を切り捨てて整数にしてから、100 倍することで求めます。たとえば、報告書 ID が 531 の場合は、 $531/100 = 5.31$ の結果であ

る 5.31 を切り捨てると 5 になるので、 $5 * 100 = 500$ と計算されます。
このため、グループ ID は 500 です。

資源 ID

入力、BINARY(4)。資源の ID。この ID は、セグメント・リスト項目フィールドの完全な長さで指定します。完全な長さが負の場合は、その絶対値が資源 ID になります。

エラー・コード

入出力、CHAR(*)。エラー情報を戻すための構造体。この構造体の形式については、322 ページの『エラー・コード・パラメーター』を参照してください。

エラー・メッセージ

CPF24B4

パラメーター・リストのアドレッシング中に重大エラーが発生しました。

CPF3CF1

エラー・コード・パラメーターが正しくありません。

CPF9872

ライブラリー &2; のプログラムまたはサービス・プログラム &1; が終了しました。理由コードは &3 です。

RDR2153

適切なライセンスを獲得することができません。

レシーバー変数の形式

RSCF0100 形式: 資源情報を検索するための形式を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	BINARY(4)	グループ内の資源の数
4	4	BINARY(4)	資源すべての合計の長

RSCF0100 フィールド記述

グループ内の資源の数

グループ内の資源の数を含みます。

資源すべての合計の長さ

資源すべての長さを含みます。

RSCF0200 形式: 資源を検索する形式を定義します。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	CHAR(*)	資源グループを保持するバッファー

RSCF0200 フィールド記述

資源グループを保持するバッファ

このバッファは、少なくとも RSCF0100 形式で受信した完全長と同じ大きさでなければなりません。資源グループが戻されると、このバッファには、資源を定義する AFPDS データ・ストリームが含まれます。

OnDemand クライアント・ドライバー API

このセクションでは、クライアント・ドライバー API について説明します。この API を使用すると、iSeries アプリケーションが OnDemand クライアント・ワークステーションのビューアー・プログラムに情報を送信できるようになります。この API の意図は、OnDemand データベースから得られた文書を表示するためにビューアー・プログラムを使用できるようにするメカニズムを提供することにあります。理想的な場合には、ユーザーとビューアー・プログラムの間の対話をほとんど、あるいはまったく行わずに、この目的を達することができます。

この機能は、次の 2 つの部分からなります。

- iSeries 上の API。アプリケーション・プログラムはこの API と対話します。
- ワークステーションに置かれているコンパニオン・プログラム。これは、iSeries API とビューアーの間のインターフェースです。

この機能が正しく働くためには、操作および環境に関するいくつかの注意事項を考慮しなければなりません。このセクションでは、これらの考慮事項について説明します。

クライアント・ビューアーを立ち上げる制御言語 (CL) プログラムのサンプルが、ライブラリー **QRDARS** のソース・ファイル **QSAMPLES** に入っています。

FNDKEYRDAR API を使用して OnDemand クライアント・ビューアーを呼び出すこともできます。この方法のほうが高速で、しかも容易ですが、使用可能なオプションは少なくなっています。拡張クライアント・ドライバー API で提供されているフルセットのオプションを必要とするのでない場合には、この付録の 319 ページの『**FNDKEYRDAR** アプリケーション・プログラミング・インターフェース』のセクションに詳細が記載されていますので、参照してください。

クライアント・ビューアー立ち上げ (QRLRLCV) API

この API には、一定の数のパラメーターを渡す必要があります。エラーはエラー・コード・パラメーターを介して戻されます。ただし、次のいずれかの条件が原因で送られた、呼び出しを終了させるためのエスケープ・メッセージをシステムが受け取る場合は、エラー・コード・パラメーターでエラーが戻されることはありません。

- エラー・コードを戻すスペースがない。
- エラーが明確で、プログラムの再コンパイルが必要である。
- エラーが API の結果に依存していない。

パラメーター			
必須パラメーター・グループ:			
1	ビューアー・プログラムに渡すデータ構造	入力	Char(300)
2	形式名	入力	Char(8)
3	エラー・コード	入出力	Char(*)

ビューアー・プログラムに渡すデータ構造

入力、CHAR(300)

この構造には、ビューアー・プログラムに送られる検索要求が含まれます。

ODCL0100 構造の形式とそのフィールドの説明は、下に示してあります。

形式名

入力、CHAR(8)

送られるデータの形式。ODCL0100 を指定してください。

エラー・コード

入出力、CHAR(*)

エラー条件と関連した情報を含む可変長構造。

構造の定義:

ODCL0100 形式

この形式は、検索要求を定義するためのものです。すべてのフィールドは入力フィールドです。

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
0	0	Char(10)	報告書名
10	0A	CHAR(6)	順序番号
16	10	CHAR(3)	日付コンパレーター
19	13	CHAR(8)	日付値 1
27	1B	CHAR(8)	日付値 2
35	23	CHAR(3)	キー 1 のコンパレーター
38	26	CHAR(25)	キー 1 の値 1
63	3F	CHAR(25)	キー 1 の値 2
88	58	CHAR(3)	キー 2 のコンパレーター
91	5B	CHAR(25)	キー 2 の値 1
116	74	CHAR(25)	キー 2 の値 2
141	8D	CHAR(3)	キー 3 のコンパレーター
144	90	CHAR(25)	キー 3 の値 1
169	A9	CHAR(25)	キー 3 の値 2

オフセット		タイプ	フィールド
10 進	16 進		
194	C2	CHAR(3)	キー 4 のコンパレーター
197	C5	CHAR(25)	キー 4 の値 1
222	DE	CHAR(25)	キー 4 の値 2
247	F7	CHAR(3)	キー 5 のコンパレーター
250	FA	CHAR(25)	キー 5 の値 1
275	113	CHAR(25)	キー 5 の値 2

報告書名の値を指定する必要があります。また、検索引き数を少なくとも 1 つ指定してください。この要件は、日付検索値またはキー検索値を指定することによって満たすことができます。

フィールド記述:

報告書名

検索を行う報告書またはグループの名前。

順序番号

希望する文書の順序番号。指定できる値は次のとおりです。

*FIRST

クライアント・ビューアーによって検索された文書リスト内の、最初の文書を開きます。

***LAST** クライアント・ビューアーによって検索された文書リスト内の、最後の文書を開きます。

***ANY** (デフォルト) クライアントによって検索された文書のリストに文書が 1 つしか示されていない場合には、その文書が開かれます。それ以外の場合には、システムはリストを表示します。

nnn クライアント・ビューアーによって検索された文書リスト内の文書のうち、nnn で指定された番号と同じ順序番号になっている最初の文書を開きます。この 3 桁の数は、フィールド内で左寄せしてください。

ブランク

このフィールドがブランクの場合は、*ANY が指定されたものと想定されます。

日付コンパレーター

システムに行わせたい日付比較のタイプ。指定できる値は次のとおりです。

***EQ** 指定された日付の文書だけを検索します。

***BW** 指定された範囲内の日付の文書を検索します。

ブランク

デフォルトの日付範囲内の文書を検索します。このデフォルトの日付範囲は、報告書定義で別のデフォルト日付範囲を定義している場合をのぞき、30 日です。

日付値 1

YYYYMMDD 形式の日付。このフィールドは、日付コンパレーターの値に応じて、次の意味になります。

日付コンパレーターが *EQ の場合、この値は、検索の対象となる文書の単一日付を表します。*CURRENT を指定して、今日の日付の文書を検索することもできます。

日付コンパレーターが *BW の場合、この値は、検索の対象となる文書の最も古い日付を表します。*AVAIL を指定して、使用可能な最も古い日付から文書検索を開始することもできます。

日付値 2

日付コンパレーターが *BW の場合にだけ使用される、YYYYMMDD 形式の日付。これは、検索対象となる報告書の、最高日付を表します。

*CURRENT を指定して、今日までを含む日付の文書を検索することもできます。

(次の 3 つのフィールドのセットは、検索可能な 5 つのキーのそれぞれについて繰り返されます。キーは、報告書定義内のそのキーの「最小検索文字」値がゼロ以外の場合に検索可能です。PAGE および NODX 報告書の場合、検索可能なキーは 1 と 3 のみです。)

キー・コンパレーター

実施するキー比較のタイプ。指定できる値は次のとおりです。

- 範囲コンパレーター -

***BW** 下限値と上限値によって指定された範囲内のキー値を検索します。

***NB** 下限値と上限値によって指定された範囲内に含まれないキー値を検索します。

- リスト・コンパレーター -

***IN** 指定された値のリストに含まれるキー値を検索します。

***NI** 指定された値のリストに含まれていないキー値を検索します。

- 単一値コンパレーター -

***EQ** 指定された値に一致するキーを検索します。

***NE** 指定された値に一致しないキーを検索します。

***LT** 指定された値よりも小さいキーを検索します。

***GT** 指定された値よりも大きいキーを検索します。

***LK** 指定された文字パターンに一致するキーを検索します。

***NL** 指定された文字パターンに一致しないキーを検索します。

***LE** 指定された値以下のキーを検索します。

***GE** 指定された値以上のキーを検索します。

キー値 1 とキー値 2

これらのフィールドは、キー値に基づく検索のための値の指定に使用されます。キー・コンパレーターに応じて、次のようにキー値 1 とキー値 2 を指定してください。

*BW および *NB の場合、キー値 1 には範囲の下限値を指定し、キー値 2 には範囲の上限値を指定します。

*IN および *NI の場合、両方のフィールドを連結するされた 1 つの 50 バイト・フィールドとして使用し、少なくとも 1 つの空白文字で区切られた 2 つ以上の値のリストを指定してください。

それ以外のすべての値 (単一値検索) の場合、キー値 1 にキー検索引き数を指定し、キー値 2 には何も指定しないでください。

注: PAGE および NODX 報告書の場合、コンパレーターの値は *EQ だけに制限されています。

エラー構造の形式: エラー・コード・パラメーターの構造は、次のとおりです。

オフセット		使用	タイプ	フィールド
10 進	16 進			
0	0	入力	Binary(4)	提供されるバイト数
4	4	出力	Binary(4)	使用可能なバイト数
8	8	出力	Char(7)	例外 ID
15	F	出力	Char(1)	予約済み
16	10	出力	Char(*)	例外データ

この構造体の 1 つのフィールドは入力フィールドです。このフィールドは、例外をアプリケーションに戻すか、またはエラー・コード構造体に例外情報を格納するかを制御します。「提供されるバイト数」フィールドが 8 以上の場合は、残りのエラー・コード構造体に、エラーに関連する出力例外情報が格納されます。「提供されるバイト数」入力フィールドがゼロの場合は、その他のすべてのフィールドは無視され、エラーが検出されると例外が戻されます。

注: エラーが発生したかどうかを判別するには、「使用可能なバイト数」が 0 より大きいかどうかを調べる必要があります。例外 ID に非空白値が含まれているかどうかを検査しても、判別はできません。

フィールド記述 - エラー構造:

提供されるバイト数

呼び出し側アプリケーションがエラー構造用に用意する区域の長さ。提供されるバイト数は、0、8、または 8 よりも大きい値でなければなりません。IBM は、19 以上の値を使用することをお勧めします。

- 0** エラーが発生した場合は、例外がアプリケーションに戻され、要求された機能が失敗したことが示されます。
- 8** エラーが発生した場合は、「使用可能なバイト数」フィールドに非ゼロ値が入ります。これは、API が提供した例外データのバイト数を表します。エラー構造に例外データ用のスペースが用意されていないため、呼び出し側プログラムはエラーの性質を判別できませんでした。例外は戻されません。

- >8 エラーが発生した場合は、スペースにエラー情報が格納されます。例外は戻されません。

使用可能なバイト数

呼び出し側プログラムが使用できるエラー情報の長さ (バイト単位)。この値が 0 の場合、システムはエラーを検出していません。

例外 ID

エラー状態に関するメッセージの識別コード。ライブラリー QRDARS 内のメッセージ・ファイル QRLCMMSGF から、RDR で始まるメッセージ ID を探すことができます。

予約済み

1 バイトの予約フィールド。

例外データ

例外用の置換テキストを含む可変長文字フィールド。SNDPGMMMSG または SNDUSRMSG CL コマンドを使用して、任意のユーザーにメッセージを送ることができます。これは、これらのコマンドの MSGID パラメーターの値に例外 ID を指定し、MSGDATA パラメーターの値に例外データを指定することによって行います。メッセージ・ハンドラー API を使用してメッセージを送ることもできます。

この API は、ほとんどのエラーの場合に例外 ID RDRxxxx を戻します。このフィールドにスペースが用意されている場合には、特定のエラーはフィールド内の 3 桁の戻りコードに反映されます。したがって、IBM は、エラー構造のこの部分には、少なくとも 3 バイトのスペースを含めることをお勧めします。これらの戻りコードのリストについては、345 ページの『メッセージ RDR2694 の戻りコード』を参照してください。

操作の考慮事項

すでに述べたように、この機能を正しく操作するには、環境に関するいくつかの注意点を考慮する必要があります。

- OnDemand クライアント・ビューアー・プログラムが、ワークステーションに導入されている必要があり、ワークステーションから iSeries サーバーへの TCP/IP 接続が確立されていなければなりません。
- API コンパニオン・プログラムが、ワークステーションですでに起動していなければなりません。このプログラムは、OnDemand クライアント・ビューアー・プログラムを呼び出します。ユーザーは、始動プロセスの間に、または API を使用する前に、このビューアー・プログラムを介して OnDemand サーバー・システムにログオンしなければなりません。プログラムは、**QRLROCD.EXE** です。
- この API は、ワークステーションの IP アドレスを判別できなければなりません。TCP/IP を通じて接続されているワークステーション・エミュレーション・セッションで、API を呼び出すプログラムを実行してください。これによって、API は IP アドレスを判別することが可能になるため、これ以上のことを行う必要はありません。TCP/IP を使用しないエミュレーション・セッションでは、API が、エミュレーション・セッション装置名と同じ名前のデータ域があるかどうかを探します。API は、エミュレーション・ジョブのライブラリー・リストで指定されているライブラリーを探します。データ域が存在する場合、API はバイト 1 から 15 までの非ブランク値を探し、この値をワークステーションの IP アドレスとして使用します。ユーザーは、このデータ域が存在し、IP アドレスを含んで

いることを確認する必要があります。これを行うには、**CRTDTAARA** コマンドおよび **CHGDTAARA** コマンドを使用します。

メッセージ RDR2694 の戻りコード

API は、パラメーター 1 で指定された入力構造で妥当性検査を行います。また、ワークステーション・コンパニオン・プログラムに検索要求を送るときに、エラーの検出も行います。API は、エラーを検出すると、3桁の戻りコードを割り当てます。API はさらに、パラメーター 3 で指定されたエラー構造の例外データ部分でこのコードを使用できるようにします。

例外 ID が RDR2694 ではない場合、例外データにはその例外 ID に特有の情報が含まれます。

例外 RDR2694 に関するエラー・コードとその意味を以下にリストします。桁 1 がゼロでない場合、そのエラーはキー検索仕様に関するものです。また、その場合の値は 1 から 5 までであり、エラーのあるキー仕様を示しています。

桁 1	桁 2 ~ 3	エラー記述
0	01	データベース・エラー
0	02	環境エラーです。ワークステーション・コンパニオン・プログラムとの接続を確立できませんでした。
0	03	報告書定義が見つかりませんでした。
0	04	この報告書タイプは、クライアント・ビューアー・プログラムには無効です。有効なタイプは、DOC、PAGE、および NODX です。データ・タイプが *BUFFER または *IFS であって、しかもオブジェクト・クラスが非ゼロである場合には、ANYS も有効です。
0	05	報告書定義が見つかりませんでした。
0	06	日付コンパレーターが無効です。
0	07	日付またはキー値が指定されていません。
0	08	順序番号が無効です。
1 ~ 5	20	キー・コンパレーターが無効です。
1 ~ 5	21	指定されたキーが検索不能です。このキーの最小検索値はゼロです。

桁 1	桁 2 ~ 3	エラー記述
1 ~ 5	22	キー・コンパレーターが指定されていますが、キー値が指定されていません。
1 ~ 5	23	キー検索値が指定されていますが、この値は、報告書定義で指定されたキー長よりも長くなっています。
0	91	TCP/IP ソケットを作成できませんでした。
0	92	TCP/IP ソケットの接続が失敗しました。
0	93	ソケットのクローズ操作が失敗しました。

付録 B. OnDemand コマンド

コマンド構文図の削除に関する注意事項

以下の表にリストしたコマンドを探すには、オンライン・ヘルプを参照してください。

コマンド	対応する名前
スプール・ファイル保存コマンド	
ADDVIRDAR	OnDemand から CM への追加
CPYDFNRDAR	報告書定義をコピー
DLTRPTRDAR	OnDemand の報告書の削除
ENDMONRDAR	OnDemand のモニターの終了
FNDKEYRDAR	OnDemand を使用するキー検索
FNDRPTRDAR	OnDemand を使用する報告書の検索
PRTRPTRDAR	OnDemand の報告書の印刷
PRTTXTRDAR	OnDemand を使用する AFP スプール・ファイル・テキストの印刷
RCLRPTRDAR	OnDemand の報告書の再利用
RMVVIRDAR	OnDemand から CM を削除
STRCDSRDAR	OnDemand を使用するコード化データ・ストアの開始
STRMONRDAR	OnDemand のモニターの開始
STRMCRDAR	OnDemand を使用する報告書管理サイクルの開始
WRKADMRDAR	OnDemand の管理の処理
WRKMEDRDAR	OnDemand の媒体の処理
WRKSECRDAR	OnDemand の機密保護の処理
オブジェクト保存コマンド	
STRARCRDAR	OnDemand を使用する保存の開始
STROMCRDAR	OnDemand を使用するオブジェクト管理サイクルの開始
STRRTVRDAR	OnDemand を使用する検索の開始

OnDemand コマンドに関する記述の印刷

OS/400 を使用して、コマンドのパラメーターおよび値に関する説明を印刷するには、以下の手順に従ってください。

コマンド全体を印刷するには、以下のいずれかを行います。

1. コマンド行から
 - a. コマンド名 (たとえば STRMCRDAR) を入力し、**F1** を押す。そのコマンドに関する一般ヘルプ、および各コマンド・パラメーターに関するヘルプが画面に表示されます。
 - b. **F14** を押してコマンド・ヘルプを印刷する。

2. 任意のコマンドのプロンプト表示において
 - a. カーソルを最上行に移動させて **F1** を押す。
 - b. **F14** を押す。

「コマンド・キーワード」パラメーターに関するヘルプを印刷するには、以下を行います。

1. コマンド行から、コマンド名を入力して **F4** を押し、コマンド・プロンプト表示を表示させる。
2. ヘルプを探しているキーワード・パラメーターがある行の任意の位置にカーソルを置き、**F1** を押してキーワード・パラメーターのヘルプを表示させる。
3. **F14** を押してヘルプを印刷する。

付録 C. OnDemand のバックアップと回復

規模の大小を問わず、災害が起きた場合に、データ保存を保護するための具体的なバックアップ計画を立てることは重要です。計画を立案し、回復できる準備をしておく必要があります。

バックアップの考慮事項

以下は、定期的なバックアップを計画する場合に考慮する必要のある項目です。

- 光ディスクまたはテープ媒体自体の回復方法
記憶した媒体のコピーを離れた場所に保持しておくことを考慮すべきです。
- ディスクのデータの回復方法
光ディスクまたはテープに移行されていない記憶データと同様、通常ディスクにある OnDemand データをすべてバックアップする手順を持つべきです。

注意: ディスクのバックアップには、バックアップ時点での実際の保存データの位置および状況を反映するデータベース・ファイルが含まれます。1週間前のバックアップから復元してはなりません。保存したデータは、光ディスクまたはテープに移行済みの場合にも、データベース制御ファイルは、データの保存先はディスクであると見なす可能性があります。このような状況を最小限に抑えるため、**QUSRRDARS** ライブラリーを保管し、同じスケジュールの OnDemand 統合ファイル・システム・ディレクトリーを保管して、同期させる必要があります。少なくとも報告書管理サイクル (RMC) またはオブジェクト管理サイクル (OMC) ごとにバックアップを行ってください。(OnDemand に記憶された報告書を頻繁に手作業で削除する場合には、より頻繁にバックアップをとってください。)

どのようなバックアップを計画するかは、使用する OnDemand の機能によります。すべての OnDemand インストール・システムは、基本機能に関する項目のバックアップをとる必要があります。さらに、使用する OnDemand の各オプション機能ごとに、以下にリストしている項目のバックアップもとらなければなりません。

基本機能

以下のオブジェクトは、適切な OS/400 コマンドを使用して保管する必要があります。

- OnDemand ライセンス・プログラム (5722-RD1)
- ユーザー・プロファイル **QRDARS400**、**QRDARS4001**、**QRDARS4002**、**QRDARS4003**、**QRDARS4004**、および **QRDARS4005**
- 権限リスト **QRDARS400**
この権限リストには、OnDemand の使用が許可されたユーザー・プロファイルが入ります。
- **QUSRRDARS** ライブラリー内のデータベース・ファイル

スプール・ファイル保存機能

以下のオブジェクトは、適切な OS/400 コマンドを使用して保管する必要があります。

- **QUSRRDARS** ライブラリー内のデータベース・ファイル
- **QUSRRDARS** ライブラリー内の出力待ち行列

これらの出力待ち行列には、OnDemand によって処理されるスプール・ファイルを入れることができます。出力待ち行列を保管しても、その中のデータを保管することにはなりません。スプール・ファイルを保管するコマンドはありません。

- **統合ファイル・システム・ディレクトリー**

OnDemand で作成されたそれぞれの報告書定義は、報告書定義と同じ名前の**統合ファイル・システム・ディレクトリー**を持ちます。ディスクに常駐する

OnDemand スプール・ファイル・データのみをバックアップするには、**統合ファイル・システム・ディレクトリー /QIBM/UserData/RDARS/SpoolFile**にある項目をすべてバックアップします。

- **権限リスト**

報告書定義を作成すると、その報告書定義と同じ名前の**権限リスト**も作成されます。

- **QUSRRDARS** ライブラリー内のデータ域

これらの**データ域**には、各 OnDemand ユーザーのデフォルト値が入ります。

オブジェクト保存機能

以下のオブジェクトは、適切な OS/400 コマンドを使用して保管する必要があります。

- **QUSRRDARS** ライブラリー内のデータベース・ファイル
- **/QIBM/UserData/RDARS/Object** という名前の IFS ディレクトリー

このディレクトリーは、オブジェクト管理サイクル (OMC) が実行され、保存項目が光ディスクやテープに移行されるまで、一時的に保存オブジェクトを保管するのに使用されます。

レコード保存機能

以下のオブジェクトは、適切な OS/400 コマンドを使用して保管する必要があります。

- **QUSRRDARS** ライブラリー内のデータベース・ファイル
- 光ディスク・ファイルが置かれているライブラリー内の**ユーザー・スペース・オブジェクト**
- 光ディスク・ファイルが置かれているライブラリー内の**ユーザー索引オブジェクト**
- 光ディスク・ファイルが置かれているライブラリー内の**ディスク上のモデル・データベース・ファイル**

AnyStore の機能

前述のスプール・ファイル保存機能のリストを参照してください。AnyStore のデータは、スプール・ファイル保存データと同じオブジェクトおよび同じ位置に記憶されます。

クライアント/サーバー機能

クライアント/サーバー関連のデータはすべて、スプール・ファイル保存データと同じオブジェクトおよび同じ場所に記憶されます。

回復の考慮事項

災害時に、OnDemand 保存項目を回復する手順については、OnDemand サポート担当者に連絡してください。バックアップの可能な頻度と範囲により、多くの要素が回復計画に影響します。

OnDemand スプール・ファイル保存には、制御ファイルの障害により「消失」したスプール・ファイル用の**再利用**コマンドが用意されています。コマンド名は **RCLRPTRDAR** です。このコマンドは、出力待ち行列内にスプール・ファイルを再作成して、必要に応じてそれを OnDemand 内に再度記憶します。

OnDemand レコード保存の光ディスク・ファイルの**ユーザー・スペース**または**ユーザー索引オブジェクト**を復元しなければならない場合は、必ず**セットにして一緒に復元**してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラムまたはサービスの操作性の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator
3605 Highway 52 N

Rochester, MN 55901-7829
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書は、IBM Content Manager OnDemand for iSeries (OnDemand) ライセンス・プログラムの使用および管理を援助することを目的としています。本書は、IBM Content Manager OnDemand for iSeries ライセンス・プログラムで提供される一般使用プログラミング・インターフェースおよび関連ガイダンス情報を文書化したものです。

一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様は IBM Content Manager OnDemand for iSeries ライセンス・プログラムのサービスを含むプログラムを作成することができます。

商標

IBM、Advanced Function Presentation、Advanced Function Printing[™]、AFP、AS/400、ImagePlus、OfficeVision、Operating System/400、OS/2、OS/400、および VisulInfo は、IBM Corporation の商標です。

Lotus は、Lotus IBM Corporation の商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

新しいバージョン 151
圧縮 1
集まり, 保存されたオブジェクトの 169
アプリケーション・プログラミング・インターフェース
 FNDKEYRDAR 319
 FNDRPTRDAR 318
アンバンドル (分割) 報告書 (UBND)
 スプール・ファイルでの 21
アンバンドル出口 309
 定義 309
 報告書定義における 309
オーバーレイ
 文字ベースの 13
 AFP 13
オーバーレイ, AFP の 218
オブジェクト管理サイクル
 STROMCRDAR コマンド 169
オブジェクト保存
 QARLOAUDIT 172, 173

[カ行]

回復の考慮事項 351
画面設計機能 (SDA) メニュー 319
監査ファイルのアクション・コード 148
キー
 キー 1 の索引 20
 キー 2 の索引 20
 キー 3 の索引 20
 組み合わせ 26
 部分 26, 297
 変更 51
 報告書定義キー 27
 文字数 26
 PAGE 111
記憶グループ 243
機密保護
 アプリケーション・レベル 59
 キー・レベル 68, 132
 システム管理者レベル 59
 報告書グループ・レベル 64, 132
 報告書レベル 61, 132

機密保護 (続き)
 ユーザーの認可 59
行番号の計算 144
クライアント・ドライバ API 339
クライアント・ビューアー立ち上げ
 (QRLRLCV) API 339
グラフィカル・アクセス 148
グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) 148
グループ, 記憶の 243
グループ化, 報告書の 21, 47
結合, 小さなスプール・ファイルの 151
結合印刷 299
結合表示 298
結合表示/印刷/ファクシミリ送信 146
結合ファクシミリ 299
高速パス・コマンド
 GO RDARSM 225
 GO RDARSOBJ 153
 GO RDARSRPT 4
コマンド
 CPYSPLF 78, 80
 CRTPF 77
 DLTRPTRDAR 76
 DSPNETA 261
 ENDMONRDAR 90
 FNDKEYRDAR 319
 FNDRPTRDAR 293, 318, 319
 INZOPTVOL 252
 PRTRPTRDAR 85
 PRTTXTRDAR 83
 STRARCRDAR 166
 STRCDSRDAR 75
 STRMONRDAR 87, 310
 STROMCRDAR 169
 STRMCRDAR 86
 STRRTVRDAR 168
 WRKADMRDAR 6, 21, 47, 154, 160
 WRKCSI 260
 WRKMEDRDAR 227, 230, 232, 234, 235, 236, 238, 240, 242, 243, 245, 247, 250, 251, 254, 256, 258
 WRKOUTQ 79
 WRKSECRDAR 59, 64, 68

[サ行]

サーバーの開始 209
サーバーの終了 209
サイド情報 260
索引出口 (複数キーではない) 308

索引出口 (複数キーではない) (続き)
 定義 308
 報告書定義における 308
索引出口 (複数キー) 309
 定義 309
 報告書定義における 309
索引保存上の注意 318, 320
サンプル・ソース・ファイル 307
出力待ち行列日付モニター出口 311
 定義 311
出力待ち行列モニター 87
出力待ち行列モニター出口 310
 定義 310
順序番号 152
使用統計報告書 147
スプール・ファイル保存
 QARLRAUDIT 148
 QPRLRCDSD 151
スプール・ファイル保存監査ファイル 151
絶対処理
 使用法 20
選択, OCT レコードの 169

[タ行]

注 (注釈) 298
注釈 (注) 298, 303
追加技術情報 218
通信サイド情報 260
テープ媒体
 装置特性 229
 テープ装置 227
テープ媒体の管理 225
出口
 アンバンドル 309
 索引 (複数キーではない) 308
 索引 (複数キー) 309
 出力待ち行列日付モニター 311
 出力待ち行列モニター 310
 入力出口 307
 ファクシミリ 311
統計報告書 147
統合, OnDemand と iSeries の概要 263
統合, OnDemand と OS/400 の統合ソフトウェアの導入 266

[ナ行]

入力出口 307
定義 307
報告書定義における 307

[ハ行]

バックアップの考慮事項 349
バックアップ・回復・媒体管理サービス /400 227
光ディスク媒体
初期設定 252
光ディスク媒体の管理 225
ビポット値
処理 20
ビューアー 148
ビューアー出口 312
ファクシミリ出口 311
定義 311
フィールド
印刷行 310
終わり 305
環境 31
キー 31, 51
キー 2 の名前 27
キー 3 の名前 27
キー 4 の名前 27
キー 5 の名前 27
グループ 50
終了時刻 90
使用中フラグ 235, 243
初期レコード数 78
すべてのセクション 31, 52
すべての報告書順序番号の検索 297
セグメンテーション 31
説明 51
テープ装置 229, 230, 232, 234
テープ・ボリューム 240
媒体タイプ 230, 232, 234, 236, 238, 240, 242
始め 305
光ディスク記憶グループ 245
光ディスクの使用フラグ 251
プロファイル名 70
文書のページ数 301
報告書順序番号 297
報告書タイプ 297
報告書バージョン 310
報告書日付範囲 297
報告書名 309
報告書名/グループ名 297
ユーザー 64
容量 237
OPT 301
部分キー 26, 27, 297

部分修飾検索 296
文書報告書 (DOC)
セグメンテーション 20
ページ報告書
セグメンテーション 111
ページ報告書 (PAGE)
キー 111
セグメンテーション 20
ページ・バッファ 307
報告書
グループの作成 21, 47
分割 21
文書 20
ページ 20, 111
無索引 20
1 段組 110
2 段組 110
AnyStore 21
報告書オーバーレイ
作成 14
報告書オーバーレイの行番号 144
報告書管理サイクル
QPRLRRMC 151
STRRMCRDAR コマンド 86
報告書定義の行番号 144

[マ行]

無索引報告書 (NODX)
セグメンテーション 20
モニター、出力待ち行列 87, 150
問題判別 221

A

AFP ビューアー 148
AFP ワークベンチ・ビューアー 148
AFPDS 13, 77, 83, 218
AnyStore 177
AnyStore オブジェクト 179
AnyStore セグメント 179
API, クライアント・ドライバ 339
API, クライアント・ビューアー立ち上げ (QRLRLCV) 339
ATTN キー 300

C

CL プログラム 319
CPYSPLF コマンド 78, 80
CRTPF コマンド 77

D

DLTRPTRDAR コマンド 76
DSPNETA コマンド 261

E

ENDMONRDAR コマンド 90

F

FNDKEYRDAR コマンド
アプリケーション・プログラミング・
インターフェース 319
FNDRPTRDAR コマンド 293, 318

G

GO RDARSM 225
GO RDARSOBJ 153
GO RDARSRPT 4
GUI 148

I

INZOPTVOL コマンド 252
iSeries Access 148

L

LAN 3995 コミュニケーション 260

O

OCT レコード選択 169
OnDemand と AS/400 の統合
ソフトウェア導入の検査 268
問題判別 290
OnDemand と VisualInfo, AS/400 の
統合
ソフトウェアの導入 266
Content Manager 外部データ参照 264
削除 265
OnDemand と VisualInfo, iSeries の
統合 263
Content Manager 外部参照サポート
263
OS/2 構成 260
OS/400 通信サイド情報 260

P

PRTRPTRDAR コマンド 85

PRTTXTRDAR コマンド
 報告書、QPRLRTXT 83
PS/2 制御装置 260

Q

QPRLCERR 77
QRDARSADM グループ・プロファイル
 59
QRLRSETP 144
QRLRSTAT コマンド
 報告書、QPQUPRFILE 148
QSAMPLES ソース・ファイル 307

R

RCLRPTRDAR コマンド 351

S

SCS 83
STRARCRDAR コマンド 166
STRCDSDAR コマンド 75
STRMONRDAR コマンド 87
STROMCRDAR コマンド 169
STRMCRDAR コマンド 86
STRRTVRDAR コマンド 168

W

WRKADMRDAR コマンド 6, 21, 47,
 154, 160
WRKCSI コマンド 260
WRKMEDRDAR コマンド 227, 230,
 232, 234, 235, 236, 238, 240, 242, 243,
 245, 247, 250, 251, 254, 256, 258
WRKOUTQ コマンド 79
WRKSECRDAR コマンド 59, 64, 68

[特殊文字]

"ユーザー定義" のデータ 220
+++++++ 298



プログラム番号: 5722-RD1

Printed in Japan

SD88-5029-07



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12